				現行	f[R6.4]		単位:mm				改定【	R7.4]		単位:mm
編章	節条	支番 工 種	測定項目	規 格 値	測定基準	測定簡所	摘 要	編革節条	技番 工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
3 2	3 4	矢板工(指定仮設・任意 仮設は除く)	基準高 ▽	±50	基準高は施工延長40m(測点間隔25mの場合 は50m)につき1ヶ所、延長40m(または50m)以 下のものは1施工箇所につき2箇所。	2		3 2 3 4	矢板工(指定仮設・任意 仮設は除く)	基準高 ▽	±50	基準高は施工延長40m(測点開隔25mの場合 は50m)につき1ヶ所、延長40m(または50m)以 下のものは1施工箇所につき2箇所。	2	
土 一 般 工 施	共通的		根入長	設計值以上	変位は、施工延長20m(測点間隔25mの場合 は25m)につき1箇所、延長20m(または25m) 以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。			土 一 共 通 が が が が が が が が が が が が が が が が が が		根入長	設計値以上	変位は、施工延長20m(測点開隔25mの場合 は25m)につき1箇所、延長20m(または25m) 以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。		
事 工	工種	(鋼矢板) (軽量鋼矢板) (コンクリート矢板)	変位 0	100	「3次元計測技術を用いた出来形管理要領	2000		事 工 工 種	(鋼矢板) (軽量鋼矢板) (コンクリート矢板)	変位 @	100	「3次元計測技術を用いた出来形管理要領	76960	
通編		(広幅網矢板) (可とう網矢板)	延長 L	-200	(業)」に基づき出来形管理を実施する場合は、 同要領に規定する計測精度・計測密度を満た す計測方法により出来形管理を実施することが	4 1-		編	(広幅鋼矢板) (可とう鋼矢板)	延長 L	-200	(業)」に基づき出来形管理を実施する場合は、 同要額に規定する計測精度・計測密度を満た す計測方法により出来形管理を実施することが	# I*	
					できる。							できる。		
	5	緑石工	延長 L	-200	1ヶ所/1施工箇所 ただし、3次元計測技術を用いた出来形管理要 領(案)」の規定により測点による管理を行う場			5	緑石工	延長 L	-200	1ヶ所/1施工箇所 ただし、3次元計測技術を用いた出来形管理要 領(案)」の規定により測点による管理を行う場		
		(縁石・アスカーブ)			頭(楽力の規定により耐点による管理を行う場合は、延長の変化点で測定。				(縁石・アスカープ)			頭(染力の規定により間点による管理を行う場合は、延長の変化点で測定。		
	6	小型標識工	設置高さ H	設計值以上	1ヶ所/1基	-(D)		6	小型標識工	設置高さ H	設計值以上	1ヶ所/1基	w(D)	
			₩w(D)	-30	基礎1基毎					₩w(D)	-30	基礎1基毎 「3次元計測技術を用いた出来形管理		
			基礎高さh	-30		н				基礎 高さh	-30	要領(業)」の規定による測点の管理 高さh -30 方法を用いることができる。	H	
			根入長	設計值以上		20000				根入長	設計值以上			
編 章 3 2	節 条 相 3 7	安器 工 種 防止横工	測定項目編w	規 格 値 -30	測 定 基 準 単級基礎に高に合きま、10基以下のものは2 基測定、商定部内は基につき10所制定。	測定箇所	単位:mm 摘 要	編 章 節 条 3 2 3 7	技番 工 種 防止栅工	測定項目	規格値 -30	測 定 基 準 単級基値10系につき1系、10系以下のものは2 基制定、測定節用は1系につき1ヶ所制定。	測定箇所	単位:mm 摘 要
土 一 般 开 施	共通的	(立入防止柵) (転落(横断)防止柵) (車止めポスト)	基礎 高さh	-30		h		土 一 共 般 通 的	(立入防止柵) (転落(横断)防止柵) (車止めポスト)	基礎 高さh	-30	「3次元計測技術を用いた出来形管理 要領(紫)」の規定による測点の管理 高さh - 30 方法を用いることができる。	h	
事工	工種	(#110/4/47)	パイプ取付高さ H	+30	1ヶ所/1施工箇所			事工工程	(*E0/4//r)	パイプ取付高さ H	+30	1ヶ所/1施工箇所	dadada -	
編				-20				編			-20	「3次元計測技術を用いた出来形管理要額(案)」の規定による測点の管理 高さh -30 方法を用いることができる。		
	8	1 路側防護柵工	福w	-30	1ヶ所/施工延長40m 40m以下のものは、2ヶ所/1施工箇所。	ı w		8	1 路側防護柵工	福w	-30	1ヶ所/施工延長40m 40m以下のものは、2ヶ所/1施工箇所。	w	
		(ガードレール)	高さh	-30		h mm			(ガードレール)	高さh	-30	「3次元計測技術を用いた出来形管理 要領(業)」の規定による測点の管理 高さh -30 方法を用いることができる。	mm h	
			ビーム取付高さ H	+30 -20	1ヶ所/1施工箇所	F)				ピーム取付高さ H	+30 -20	1ヶ所/1施工箇所 「3次元計測技術を用いた出来形管理	FR.——	
						H H						13(大元町間以後で用いた口木形管理 要額(集))の規定による副点の管理 高さh -30 方法を用いることができる。	THE STATE OF THE S	
	8	2 路側防護柵工	₩w	-30	1ヶ所/1基礎毎		※ワイヤローブ 式防護柵にも適 用する	8	2 路側防護柵工	幅w	-30	1ヶ所/1基礎毎		※ワイヤローブ 式防護栅にも適 用する
		(ガードケーブル)	基礎 高さh	-30					(ガードケーブル)	基礎高さh	-30	「3次元計測技術を用いた出来形管理 要領(業)」の規定による測点の管理 高さh -30 方法を用いることができる。		
			延長L	-100		h				延長L	-100		h	
			ケーブル取付高さ H	+30 -20	1ヶ所/1施工箇所					ケーブル取付高さ H	+30 -20	1ヶ所/1施工簡所		
						I H		$ \ \ \ $				「3次元計測技術を用いた出来形管理 要領(案)」の規定による測点の管理 高さh -30 方法を用いることができる。	T H	
						reusurtis		$ \ \ \ $					nementalis:	

編 音 4	m 3	枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	痼 要	編章	節 多 8	番 工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
3 9 5	3 0	10.00	区面線工	厚さ t	設計值以上	各線種毎に、1ヶ所テストピースにより測定。	274 Pin 1004 2/1		3 2	3 9	区面線工	厚さ t	設計値以上	各線種毎に、1ヶ所テストピースにより測定。	1992 Pho MM 3/1	
土 一 非	÷ .		pool-prosp project in the project in	(溶融式のみ)		-			± - =	共	pool-pool-fifty-da-	(溶融式のみ)				
工施的	動句			₩ w	設計值以上				木 般 主 施 É	éti l		₩ w	設計値以上			
事 工 コ 共 通	E.								事工	種						
編									通編							
	-					1ヶ所/10本					-			1ヶ所/10本		
	10)	道路付属物工	高さ h	±30	10本以下の場合は、2ヶ所測定。				10	道路付属物工	高さ h	±30	10本以下の場合は、2ヶ所測定。 「3次元計測技術を用いた出来形管理		
			(視線誘導標) (距離標)				_				(視線誘導標) (距離標)			要領(案)」の規定による測点の管理 高さh -30 方法を用いることができる。	_	
							ĥТ.							INCH SOMEON SECOND	ŊŢ,	
							I^*									
							11								::	
	11	1	コンクリート面塗装工	塗料使用量	鋼道路橋防食便覧Ⅱ- 82 「表-Ⅱ.5.5各涂料	- 塗装系ごとの塗装面積を算出・照査して、各塗 ・料の必要量を求め、塗付作業の開始前に搬入				11	コンクリート面塗装工	塗料使用量	82 「表-Ⅱ.5.5各涂料	塗装系ごとの塗装面積を算出・照査して、各塗 料の必要量を求め、塗付作業の開始前に搬入		
					の標準使用量と標準制厚」の標準使用量以上	金表示この金表面積を専用・無重して、行金 料の必要量を求め、塗付作業の開始前に搬入 関量(充価数)と、塗付作業終了時に使用量(空 価数)を確認し、各々必要量以上であることを							の標準使用量と標準膜	量(充缶数)と、塗付作業終了時に使用量(空 缶数)を確認し、各々必要量以上であることを		
						確認する。 1ロットの大きさは500㎡とする。								確認する。 1ロットの大きさは500㎡とする。		
								班/ヴ·mm								
編章角	ñ .*	技番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	単位:mm 摘 要	編章	新 冬 b	番 工 種	測定項目	規 格 値	測定基準	測定簡所	単位:mm 摘 要
3 9	2 10	2 1	プレテンション桁製作工 (購入工)	術長 L(m)	±L/1000	桁全数について測定。 橋桁のそりは中央の値とする。	- M 271		3 0	3 12	# エ ¹⁸ プレテンション桁製作工 1 (購入工)	析長 L(m)	±L/1000	桁全数について測定。 橋桁のそりは中央の値とする。	₩ 1/1	
± - #	ŧ	1				橋桁のそりは中央の値とする。 なお、JISマーク表示品を使用する場合は、製造 工場の発行するJISに基づく試験成績表に替え	断面团		± - 3	共				橋桁のそりは中央の値とする。 なお、JISマーク表示品を使用する場合は、製造 工場の発行するJISに基づく試験成績表に替え	断面図	
工施的	前句		(けた橋)	断面の外形寸法	±5	ることができる。			木般立	é5	(けた橋)	断面の外形寸法	±5	ることができる。	,	
事 工 コ 共 和	E.			橋桁のそり δ ₁	±8		側面図		事 工 : 共 : 4	種		橋桁のそり δ ₁	±8		側面図	
福				横方向の 曲がりδ ₂	±10		お1 上		細編			横 方 向 の 曲 がり δ ₂	±10		δ1 平面図	
						1	→ und USN					2			8 2	
	F	-	プレテンション桁製作工 (購入工)		±10···L≦10m	桁全数について測定。				+	プレデンション桁製作工 2 (購入工)		±10…L≤10m	桁全数について測定。		
	12	2 2	(購入工)	桁長 L(m)	±L/1,000···L>10m	橋桁のそりは中央の値とする。 なお、JISマーク表示品を使用する場合は、製造 エロの発行するUSC まっくが除りませます。	断面図			12	2 (購入工)	桁長 L(m)	±L/1,000···L>10m	橋桁のそりは中央の値とする。 なお、JISマーク表示品を使用する場合は、製造	断面図	
			(スラブ桁)	断面の外形寸法	±5	工場の発行するJISに基づく試験成績表に替え ることができる。					(スラブ桁)	断面の外形寸法	±5	工場の発行するJISに基づく試験成績表に替え ることができる。		
				橋桁のそり δ ₁	±8		例面図					橋桁のそり δ ₁	±8		側面図	
				横方向の	±10	-	で					横方向の	±10		81	
				曲 がり δ ₂		-	平面図					曲 がり δ ₂	-10		平面図	
	L		1201 250 110 110 110			おくまい こいて楽け	ð 2				12 m 1 m 2 m 1 m 2 m 2 m 2 m 2 m 2 m 2 m			Kr A Halva and a Wilder	82	
	13	3 1	ポストテンション桁製作工	幅 (上) w ₁	+10 -5	桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に 測定。	w			13	ポストテンション桁製作工 1	幅 (上) w ₁	+10 -5	桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に 測定。	w.	
				幅 (下) w ₂	±5	桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3ヶ 所とする。	w1					幅 (下) w ₂	±5	桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3ヶ 所とする。	, m	
				高さ h	+10	なお、JISマーク表示品を使用する場合は、製造 工場の発行するIISに基づく試験成績表に替え	Γ					高さ h	+10	なお、JISマーク表示品を使用する場合は、製造 工場の発行するIISに基づく試験成績表に替え		
					-5 ℓ<15···±10	ることができる。	h						-5 0<15⋯±10	ることができる。 Ø:支間長(m)	h	
				桁長 @ 支間長	0<15···±10 0≥15···±(0−5) かつ−30mm以内	E: 大同食(M)						桁長 ℓ 支間長	0<15···±10 0≥15···±(0−5) かつ−30mm以内	8: 天间食(m)		
					2- > SOURCESTA	-	$\sqcup \sqcup$						77- > JUHILIPAPY			
				横方向最大タワミ	0.80		W2					横方向最大タワミ	0.88		W ₂	
	- 1	1	-			1		1	1 1 1		1			1		

編章	節条枝	野 工 種	測定項目	規 格 値	測定基準	測定箇所	摘 要	編章節	条 枝	番 工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定簡所	摘 要
3 2	3 13 2	プレキャストセグメント製作 エ	桁長 0	-	桁全数について測定。桁断面寸法測定箇所 は、図面の寸法表示箇所で測定。			3 2 3	13 2	プレキャストセグメント製作 エ	桁長 0	-	析全数について測定。桁断面寸法測定箇所 は、図面の寸法表示箇所で測定。		
土 一 般 工 施	共 通 的	(購入工)	断面の外形寸法(mm)	-				土 一 共 般 通 的		(購入工)	断面の外形寸法(mm)	-			
事工	工種							事 工 租							
	14	プレキャストセグメント 主桁組立工	桁長息	<pre>@<15···±10 @≥15···±(e-5)</pre>	桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に				14	プレキャストセグメント 主桁組立工	析長0	0<15···±10 0≥15···±(0-5)	桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に		
	14	土和 和 7	支間 長	かつ-30mm以内	測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3ヶ				1-1	土川麻丘工	支間長	かつ-30mm以内	測定。 析断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3ヶ		
		-	横方向最大タワミ	0.80	所とする。 - &: 支間長(m)						横方向最大タワミ	0.82	所とする。 0:支間長(m)		
	15	PCホロースラブ製作工	基準高 ▽	±20	桁全数について測定。 基準高は、1径間当たり2ヶ所(支点付近)で1 箇所当たり両端と中央部の3点、幅及び厚さは				15	PCホロースラブ製作工	基準高 ▽	± 20	桁全数について測定。 基準高は、1径間当たり2ヶ所(支点付近)で1 箇所当たり両端と中央部の3点、幅及び厚さは		
			幅 w ₁ ,w ₂	-5~+30	1径間当たり両端と中央部の3ヶ所。 ※鉄筋の出来形管理基準については、第3編3	_ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \					幅 W ₁ ,W ₂	-5~+30	1径間当たり両端と中央部の3ヶ所。 ※鉄筋の出来形管理基準については、第3編3	_ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	
			厚さ t	-10~+20	-2-18-2床版工に準ずる。 -0:桁長(m)	1 2000					厚さ t	-10~+20	-2-18-2床版工に準ずる。 0:桁長(m)	- 一個個個	
			桁長 ℓ	<pre>&<15…±10 @≥15…±(@-5) かつ-30mm以内</pre>	E- 桁f (m)	W2					桁長 ℓ	&<15…±10 &≥15…±(&−5) カンつ−30mm以内	ε: ((βς (m)	w2	

編章	節	条 枝色	F 工 種	測	定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要	編章	5 条 枝番 工 種	測	定項目	規 格 値	測定基準	測 定 箇 所	摘 要
3 2	3	16 1	PC箱桁製作工		基準高 ▽	±20	桁全数について測定。			3 2	3 16 1 PC箱桁製作工		基準高 ▽	±20	桁全数について測定。		
± -	共				幅(上) w ₁	$-5\sim +30$	基準高は、1径間当たり2ヶ所(支点付近)で1 箇所当たり両端と中央部の3点、幅及び高さは			土 一 ;			屬(上) w ₁	$-5\sim +30$	基準高は、1径間当たり2ヶ所(支点付近)で1 箇所当たり両端と中央部の3点、幅及び高さは		
木般工施					幅(下) w ₂	-5~+30	1径間当たり両端と中央部の3ヶ所。	W1		木般		- 1	屬(下) w ₂	-5~+30	1径間当たり両端と中央部の3ヶ所。	W1	
事工	I				内空幅 W ₃	±5	※鉄筋の出来形管理基準については、第3編3	+ <u>₹ ₹</u>		事 I :	Ė		内空幅 W ₃	±5	※鉄筋の出来形管理基準については、第3編3	+ 2 2 3	
共	稚				高さ h,	+10	- 2-18-2床版工に準ずる。	h: wi		共活	R		高さ h	+10	- 欠炊助の日米形官理基準については、第3編3 - 2-18-2床版工に準ずる。	h ₁	
編					1010 111	-5				編			Inj C 11	-5			
					内空高さ h ₂	+10 -5	0:桁長(m)	W2				P	内空高さ h ₂	+10 -5	0:桁長(m)	W^2	
					桁長 Q	$\varrho < 15 \cdots \pm 10$ $\varrho \ge 15 \cdots \pm (\varrho - 5)$							桁長 0	$\ell < 15 \cdots \pm 10$ $\ell \ge 15 \cdots \pm (\ell - 5)$			
					HITC R	かつ-30mm以内							WINTER	かつ-30mm以内			
		16 2	PC押出し箱桁製作工		幅(上) w ₁	$-5\sim +30$	桁全数について測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3ヶ				16 2 PC押出し箱桁製作工	-	幅(上) w ₁	-5~+30	桁全数について測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3ヶ		
					幅(下) w ₂	$-5\sim +30$	所とする。	W.				-	屬(下) w ₂	-5~+30	所とする。	w.	
					内空幅 W ₃	±5	※鉄筋の出来形管理基準については、第3編3 -2-18-2床版工に準ずる。	-				-	为空幅 W₃	±5	※鉄筋の出来形管理基準については、第3編3 -2-18-2床版工に準ずる。		
					高さ h ₁	+10 -5	@:桁長(m)	h, w,					高さ h ₁	+10 -5	0:桁長(m)	h ₁ w ₂	
					内空高さ h。	+10	- 111 J.C. (1117)					p	内空高さ h。	+10	5-111 JC (1117)		
						-5 ∅<15···±10		W_2						-5 ℓ<15···±10	-	W2	
					桁長 0	@≧15···±(@-5) かつ-30mm以内							桁長 0	@≧15…±(@-5) かつ-30mm以内			
		_				D- 2 Sommer 1	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)に			1				n- > Sommer 1	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)に		
		17	根固めブロックエ		基準高▽	±100	つき1箇所。延長40m(または50m)以下のもの は1第工箇所につき2ヶ所。	L :			17 根固めブロックエ		基準高▽	±100	つき1箇所。延長40m(または50m)以下のもの は1施工箇所につき2ヶ所。	L ₁	
				施			幅、厚さは40個につき1ヶ所測定。					厢			幅、厚さは40個につき1ヶ所測定。		
					厚さ t	-20	幅、序では40回にフさ1ケ月側足。	H_H_H_H_					厚さ t	-20	物、序では10回にフセエケ方面に。		
				FAT	₩ w.w.	-20	7					糖	₩ w₁w₂	-20			
				桓	TIS 1112	20	1版工簡所毎					桓	788 W1W2	20	1施工簡所毎		
					延長 L ₁ L ₂	-200	1.0E. 1. E0 (7) (sp						延長 L ₁ L ₂	-200	1 NE. 1. 100 771 HF	_ <u> </u>	
							施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)に								施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)に		
					基準高▽	±t / 2	つき1ヶ所、延長40m(または50m)以下のものは 1施工箇所につき2ヶ所。	پ <u>س</u> ــ					基準高▽	±t / 2	つき1ヶ所、延長40m(または50m)以下のものは 1施工箇所につき2ヶ所。	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
				£ l.				1.//.								L.//.	
				稍			1施工簡所毎	L 2				稍			1施工簡所毎		
				價	W			/** * ***//				相				[;**:*;*]/	
					延長 L ₁ L ₂	- t / 2		・ご要用のブロックの高さ					延長 L ₁ L ₂	- t / 2		t に悪風めブロックの卒主	

	節	条 枝	(番 工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要	86 X	節	条 枝	新工 種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測定箇所	摘 要
3 2	3 1	18	沈床工	基準高 ▽	±150	1組毎			3 2	2 3	18	沈床工	基準高 ▽	±150	1組毎	y	
土 一 般	共通			## w	±300		¥		土 一	一 共 党 通			# w	±300		¥ w	
事工	的 工 種			延長 L	-200		<u> </u>		事工	色 的 C 工 種			延長 L	-200			
通編							///		通編							"" [
	1	19	捨石工	基準高 ▽	-100	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)に つき1ヶ所、延長40m(または50m)以下のもの					19	捨石工	基準高 ▽	-100	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)に つき1ヶ所、延長40m(または50m)以下のもの		
				₩ w	-100	は1施工箇所につき2ヶ所。	B						₩ w	-100	は1施工箇所につき2ヶ所。	N W	
				延長 L	-200		1 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3						延長 L	-200	_	1 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3	
							K ESS								_	888 \	
	2	22	階段工	₩ w	-30	1回/1施工箇所	<u> </u>				22	階段工	₩ w	-30	1回/1施工箇所	<u> </u>	
				高さ h	-30		, [[高さ h	-30	_	,	
				長さ L	-30		<u> </u>						長さ L	-30	_		
				段数	±0段	-	1 1111						段数	±0段	-	1111	
	9	24 1	1 仲縮装置工	据付け高さ	±3	高さについては、車道端部及び中央部付近の 3点を測定。					24 1	伸縮装置工	据付け高さ	±3	高さについては、車道端部及び中央部付近の 3点を測定。		
			(ゴムジョイント)	表面の凹凸	3	表面の凹凸は長手方向(橋軸直角方向)に3m の直線定規で測って凹凸が3mm以下	Dept. 14 State of the Art of the				-	(ゴムジョイント)	表面の凹凸	3	表面の凹凸は長手方向(橋軸直角方向)に3m の直線定規で測って凹凸が3mm以下	Department (Head-Head-	
			(仕上げ高さ	舗装面に対し		OMBOTIME ATOM A THE ATOM					(仕上げ高さ	舗装面に対し 0~-2	_	MANAGEMENT AND	
				ELLO INC	0~-2								ELEVINOC	0~-2	_		
							様性な多す名は、各に多り減少に多り はより高い気料でエンジ者を集合者は、利用、可能性、 素材をエングという様ともはどは、の能性									提供対象であると言い数が過去に基金 はより高で対象でいる有名表のである。 ますセコンの例の場合であるである。 ますセコンの例の場合であるであったが、	
								単位:mm									単位:mm
編章	節彡	条 枝	番 工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	福力	能節	条 枝	番 工 種	測定項目	規 格 値	測定基準	測定箇所	摘 要
0 0																	
3 2	3 2	24 2	2 伸縮装置工	据付け高さ	±3	高さについては車道端部、中央部において橋 軸方向各3点計9点。			3 2	2 3	24 2	伸縮装置工	据付け高さ	±3	高さについては車道端部、中央部において橋 軸方向各3点計9点。		
土木大工	3 2 共通的	24 2	 (鋼製フィンガージョイント) 	据付け高さ 高さ 橘軸方向各点 誤差の相対差	±3	高さについては車道端部、中央部において橋 軸方向各3点計9点。 表面の凹凸は長手方向(橋軸直角方向)に3m の直線定規で削って凹凸が3mm以下	橋軸方向		3 2 土 十 桁 折 折	2 3 共通的	24 2	伸縮装置工 (鋼製フィンガージョイント	高さ 探軸士向久占	±3	高さについては車道端部、中央部において橋 軸方向各3点計9点。 表面の凹凸は長手方向(緩軸直角方向)に3m の直線定規で測って凹凸が3mm以下	橋軸方向 マ	
3 土木工事共通	3 共通的工種	24 2		高さ 橋軸方向各点		軸方向各3点計9点。 表面の凹凸は長手方向(橋軸直角方向)に3m	極軸方向		3 土木工事共通	2 3 共通的工種	24 2		高さ橋軸方向各点		軸方向各3点計9点。 表面の凹凸は長手方向(接軸直角方向)に3m	極軸方向	
3 土木工事共通編	I.	24 2		高さ 橘軸方向各点 誤差の相対差	3	軸方向各3点計9点。 表面の凹凸は長手方向(橋軸底角方向)に3m の直線定規で測って凹凸が3mm以下	マーマーマーマーマーマーマーマーマーマーマーマーマーマーマーマーマーマーマー		3 土木工事共通編	E I	24 2		高さ 橋軸方向各点 誤差の相対差	3	軸方向各3点計9点。 表面の凹凸は長手方向(縞軸直角方向)に3m の直線定規で測って凹凸が3mm以下	極勢方向	
3 土木工事共通編	I.	24 2		高さ 橋軸方向各点 誤差の相対差 表面の凹凸 歯型板面の歯咬み合い部	3	軸方向各3点計9点。 表面の凹凸は長手方向(橋軸底角方向)に3m の直線定規で測って凹凸が3mm以下			3 土木工事共通編	E I	24 2		高さ 橋軸方向各点 誤差の相対差 表面の凹凸 歯型板面の歯咬み合い部	3	軸方向各3点計9点。 表面の凹凸は長手方向(縞軸直角方向)に3m の直線定規で測って凹凸が3mm以下	極軸方向 V L L L L L L L L L L L L	
3 土木工事共通編 2 一般施工	I.	24 2		高さ 緑軸方向各点 誤差の相対差 表面の凹凸 歯型板面の歯咬み合い部 の高低差 歯咬み合い部の	3 3	軸方向各3点計9点。 表面の凹凸は長手方向(橋軸底角方向)に3m の直線定規で測って凹凸が3mm以下	マーマーマーマーマーマーマーマーマーマーマーマーマーマーマーマーマーマーマー		3 土木工事共通編	E I	24 2		高さ	3 3 2	軸方向各3点計9点。 表面の凹凸は長手方向(縞軸直角方向)に3m の直線定規で測って凹凸が3mm以下	標帖方向 文 文 文 文 文 文 文 文 文 文 文 文 文	
2 一般施工 2 一般施工	I.	24 2		高さ 霧軸方向各点 誤差の相対差 表面の凹凸 歯型板面の歯咬み合い部 の高低差 歯咬み合い部の 歯吹み合い部の 歯吹み合い部の	3 3 2 ±2	輸力的各3点計9点。 表面の凹凸は長手力向(核軸度角方向)に3m の直線定規で削へ凹凸が3mm以下 歯咬み合い部は車道端部、中央部の計3点	マーマーマーマーマーマーマーマーマーマーマーマーマーマーマーマーマーマーマー		3 土木工事共通編	E I	24 2		高さ 編軸方向各点 調差の相対差 表面の間凸 歯型板面の歯咬み合い部 の高低差 歯咬み合い部の 嵌切的開降W。 歯咬み合い部の	3 3 2 ±2	軸方向各互素計点。 表面の担合は長手方向(集軸底角方向)に3m の高線定規で削って関凸が3mm以下 値吸み合い部は車道端部、中央部の計3点	機能方向 マープー To Separate And	
2 一般施工	I.	224 224 2		高さ 振軸力向各点 議会の相対差 表面の凹凸 歯型板面の歯咬み合い部 の高低差 歯咬み合い部の 板方向間隔似。 歯咬み合い部の 横方向間隔似。	3 3 2 ±2 ±5 舗装面に対し	輸力的各3点計9点。 表面の凹凸は長手力向(核軸度角方向)に3m の直線定規で削へ凹凸が3mm以下 歯咬み合い部は車道端部、中央部の計3点 高点については車道端部及び中央部付近の3 点を測定。	・		3 土木工事共通編	E I			高さ 福輸力向各点	3 3 2 ±2 ±5 舗装面に対し	輸力向各点計点点。 表面の担合は長手方向(緩軸度角方向)に3m の高線定規で関って関凸が3mm以下 値吸み合い部は車道端部、中央部の計3点	The strength of the strength o	
2 一般施工 土木工事共通編	I.	224 224 2	(鋼製フィンガージョイント)	高さ 振軸方向各点 誤差の相対差 表面の凹凸 衛型板面の薄皮み合い部 の高低差 歯皮み合い部の 被方向関隔W、 歯皮み合い部の 模方向関隔W。	3 3 2 ±2 ±5 66 競而に対し 0~-2	輸力的容3点計9点。 表語の凹凸は長手力的(係軸度角方向)に3m の直線定規を削って凹凸が3mm以下 歯咬み合い部は車道端部、中央部の計3点 高さについては車道端部及び中央部付近の3	・		3 土木工事共通編	E I		(頻製フィンガージョイント	高さ 橋軸方向名点 調差の相対差 表面の組合 電型板面の確咬み合い部 の高低差 建攻み合い部の 嵌方向関隔W。 歯吹み合い部の 横方向関隔W。 仕上げ高さ	3 3 2 ±2 ±5 舗装版に対し 0~-2	輸力的名成計点点。 表語の凹凸は長手方向(複軸底角方向)に2m の直線定便で削って凹凸が3mm以下 歯交み合い部は車道機能、中央部の計3点 感点については車道機能及び中央部付近の3	To see and a see a	
2 一般施工 - 一般施工	I.	224 224 2	(鋼製フィンガージョイント) 3 棒縮装置工	高さ 振動力向各点 顕著の相対差 表面の組改み合い部 の高低差 値交み合い部の 能力向関隔似。 値交み合い部の 様力向関隔似。 仕上げ高さ 表面の組凸	3 3 2 ±2 ±5 舗装版に対し 0~2 3	輸力的各3点計9点。 去語の凹凸は其手力的(積軸度負力的)に3m の直線定規を削って凹凸が3mm以下 菌咬み合い部は車道端部、中央部の計3点 直吹み合い部は車道端部、中央部の計3点 高さについては車道端部及び中央部付近の3 を高か凹凸は基手力的(積軸医角方的)に3m の直線定程で削って凹凸が3mm以下	・		3 土木工事共通編	E I		(頻製フィンガージョイント 伸縮装置工	高さ 極軸方向各点 調差の相対差 表面の即凸	3 3 2 ±2 ±5 締装面に対し 0~~2 3 3	軸方向各名素計点点。 表面の凹凸は長手方向(議軸底角方向)に3m の直線定度で動って凹凸凸が3m以下 確安み合い部は車道端部、中央部の計3点 を対しては車道端部及び中央部付近の3 金を割定した長手方向(議軸底角方向)に3m の直線定程で動って凹凸が3mm以下	The strength of the strength o	
2 一般施工	I.	224 224 224 224 224 224 224 224 226 11	(鋼製フィンガージョイント) 3 棒縮装置工	高さ 振動力向各点 顕著の相対差 表面の組改み合い部 の高低差 値交み合い部の 能力向関隔似。 値交み合い部の 様力向関隔似。 仕上げ高さ 表面の組凸	3 3 2 ±2 ±5 舗装版に対し 0~2 3	輸力的各3点計9点。 去面の凹凸は長手力向(機軸度負力向)に3m の直線定規を削って凹凸が3mm以下 面収み合い部は車道端部、中央部の計3点 直を割削 表記を割削 表記の凹凸は長手力向(機軸度角方向)に3m の電線定規で関かて凹凸が3mm以下 電工委長40m(無点阻隔25mの場合は50m)に 空1ヶ所、要集40m(または50m)以下の4の。	・		3 土木工事共通綱	E I		(頻製フィンガージョイント 伸縮装置工	高さ 極軸方向各点 調差の相対差 表面の即凸	3 3 2 ±2 ±5 締装面に対し 0~~2 3 3	動力向各名素計点点。 表語の凹凸は長手力向(議軸底角力向)に3m の直線定便で動って凹凸凸が3mm以下 歯収み合い部は車道端部、中央部の計3点 感さについては車道端部及び中央部付近の3 点を割た。 表の凹凸は長手力向(議軸底角力向)に3m の直線定便で割って凹凸が3mm以下 地工総長40m(前点間隔25mの場合は30m)に 地工総長40m(前点間隔25mの場合は30m)に 地工総長40m(前点間隔25mの場合は50m)に を14所、接長40m(または50m)以下の45の	To standard (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)	
2 一般施工 2 一般施工	I.	224 224 224 224 224 226 11	(鋼製フィンガージョイント) 3 神秘装置工 (埋設型ジョイント)	高さ 構動方向各点 選差の相対差 表面の即凸 都型板面を収み合い部 の高板型 歯収み合い部の 裁方向関係が、 はとげ高さ 表面の凹凸 仕上げ高さ	3 3 2 ±2 ±5 舗装届に対し 0~2 3 舗装届に対し 0~4	輸力的名法計分点。 去面の凹凸は長手力的(核軸度角方的)に3m の直幕定規で削って凹凸が2mm以下 歯交み合い部は車道端部、中央部の計3点 高さ初か。 高さ初か。 高さいては車道端部及び中央部行近の3 点を制定。 の直線定規で削って凹凸が2mm以下 の直線定規で削って凹凸が2mm以下	・		3 2 一般原工	E I		(鋼製フィンガージョイント 仲縮装置工 (埋設型ジョイント)	高さ 編輯方向各点 調差の相対差 表面の即凸 書型を振の変み合い部 最次か合い部の 最少的開催い。 世が内間隔い。 仕上げ高さ 表面の即凸 仕上げ高さ	3 2 ±2 ±5 舗技師に対し 0~2 3 舗技師に対し 0~43	輸力向各名点計点点。 表語の担合は長手力向(複軸底角力向)に3m の高線定便で削って関凸が3mm以下 歯咬み合い部は車連端部、中央部の計3点	To standard (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)	
9 土木工事共通編	I.	224 224 224 224 224 224 226 11	(鋼製フィンガージョイント) 3	高さ 振動方向各点 顕著の相対差 表面の即凸 衛型板面の書収み合い部 の高低差 衛収み合い部の 能力向関隔い。 位上げ高さ 表面の即凸 仕上げ高さ 表面の即凸	3 3 2 ±2 ±5 締装版に対し 0~2 3 6 6 6 6 7 7 8 8 8 8 8 9 8 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9	輸力的各3点計9点。 去語の凹凸は長手力向(極軸度負力向)に3mの直接定数で削って凹凸が3mm以下 歯収み合い部は車道端部、中央部の計3点 数なみ合い部は車道端部、中央部の計3点 高さについては車道端部及び中央部付近の3 点を割定。 表面の凹凸は長手力向(極軸度角力向)に3m の面線定数で削って凹凸が3mm以下 電工を長4mの(原点阻隔25mの場合は50m)につき1ヶ所、影社40m(法と150m)以下のもの は1 施工場所につき2ヶ所。	・		3 土木工事共通欄	E I		(鋼製フィンガージョイント) 作縮装置工 (埋設型ジョイント) 多自然型護岸工	高さ 極軸方向各点 調差の相対差 表面の凹凸	3 2 ±2 ±5 締装面に対し 0~2 3 締装面に対し 0~43	輸力向各点計算点。 表語の出土及手力向係輸産角力向)に2m の直線定度で削って関凸が3mm以下 歯収み合い部は車道端部、中央部の計3点 感えについては車道端部、中央部付近の3 点を制定。 表の別点は長手力向(係輸産角力向)に3m の直線定度で削って関凸が3mm以下 施工延長40m(側点間隔2mmの場合は30m)に つき1ヶ所、接長40m(または20m)以下のもの は単正極長40m(または20m)以下のもの は1能工態所につきなり病。	The strength of the strength o	
2 一般施工 - 土木工事共通編	I.	224 224 224 226 226 226 226 226 226	(鋼製フィンガージョイント) 3	高さ 振動方向各点 誤差の相対差 表面の即凸 都型板面の裏吹み合い部の 能が入り間関係い。 他でみ合い部の 候方向関係い。 性上げ高さ 大面の凹凸 仕上げ高さ 基準高 ▽ 法長 0	3 3 2 ±2 ±5 舗装面に対し 0~2 3 舗装面に対し 0~43	輸力的容易計算点。 表面の凹凸は長手力的(移軸度角方的)に3mの直接定数で削って凹凸が3mm以下 歯交み合い部は車道端部、中央部の計3点	・		3 土木工事共通編	E I		(鋼製フィンガージョイント) 作縮装置工 (埋設型ジョイント) 多自然型護岸工	高さ 極軸方向各点 超差の相対差 表面の即凸 書型板画の建攻み合い部の 酸プルク合い部の 酸プルク自い部の 使プル同間隔い。 電文ス・台・部の 使プル同間隔い。 仕上げ高さ 表面の即凸 仕上げ高さ 基準高 マ 法長 a	3 3 2 ±2 ±5 締装版に対し 3 締装版に対し 0~+3	動力向各点計点点。 表語の凹凸は具手力向低軸直角力向)に2m の直線定便で動って凹凸め2mm以下 歯改み合い部は車道端部、中央部の計3点 感とについては車道端部、中央部の計3点 表を制定 表で加回点は長手力向低軸直角力向)に3m の直線定便で耐って凹凸が2mm以下の4の 地工経長40m(側点間隔25mの場合は50m)に つき11所、延長40m(はたは30m)以下の6の 1地工網所各 地工経長40m(側点間隔25mの場合は50m)に で211所、延長40m(はたは50m)以下の6の	To standard (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)	
3 土木工事共通編	I.	224 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	(鋼製フィンガージョイント) 3 仲縮装置工 (埋設型ジョイント) 1 多自然型選単工 (巨石張り、巨石積み)	高さ 構能力向各点 譲途の相対差 表面の即凸 健型板面の破収み合い部の 能びみ合い部の 能びみ合い部の 能びみらい部の 能がの間隔似。 仕上げ高さ 表面の即凸 仕上げ高さ	3 3 2 ±2 ±5 舗装面に対し 0~2 3 舗装面に対し 0~4 1 1	輸力的を3点計9点。 表語の凹凸は其手力向(緩軸度角方向)に3m の直線定規で耐って凹凸が3mm以下 歯咬み合い部は車道端部、中央部の計3点 高さについては車道端部及び中央部行近の3 点を制定。 表面の凹凸は長手力向(緩軸底角方向)に3m の直線定規で削って凹凸が3mm以下 施工延長40m(側点凹隔25mの場合は50m)に 1第工備所を 車工を手40m(表点凹隔25mの場合は50m)に 1第工備所修	・		3 土木工事共通編	E I		(頻製フィンガージョイント 仲縮装置工 (埋設型ジョイント) 多自然型護岸工 (巨石張り、巨石積み)	高さ 福輸力両各点 商差の相対差 表面の間凸 審整板面の環境ス合い部 電板の高度ストの部の 成分の間隔い。 電次からい部の 成かの間隔い。 はカル間隔い。 セ上げ高さ 表面の即凸 仕上げ高さ 基準高 ▽ 法長 c	3 2 ±2 ±5 舗装面に対し 0~2 3 舗装面に対し 0~43 ±500 -200	動力向各名点計点点。 表面の固合は長手方向(議軸直角方向)に3m の直線定度で削って関凸が3mm以下	To standard (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)	
3 土木工事共通編 2 一般施工	I.	224 224 224 224 224 224 226 226 2	(鋼製フィンガージョイント) 3 神能装置工 (埋設型ジョイント) 1 多自然型選岸工 (医石張り、巨石積み) 2 多自然型選岸工	高さ 編集方向各点 源差の相対差 表面の即凸 静型板面 歯咬み合い部 の高低差 歯咬み合い部の 被方向関隔が、 は大子の部の 様方向関隔が、 仕上げ高さ 大面の即凸 仕上げ高さ	3 3 2 ±2 ±5 舗装領に対し 0~2 3 舗装前に対し 0~43 ±500 -200 -200	輸力的を3点計り点。 表語の凹凸は2表 力的(係軸度角方的)に3mの直接定規で削って凹凸が3mm以下	・		3 土木工事共通欄	E I		(鋼製フィンガーショイント) 作縮装置工 (埋設型ジョイント) 多自然型護岸工 (巨石張り、巨石積み) 多自然型護岸工	高さ 編輯方向各点 調差の相対差 表面の即合 書型板面の確反み合い部 で表面の即の まが内間開発、 は次み合い部の 様力が同間解い。 仕上げ高さ 表面の即合 仕上げ高さ 表面の即合 生上げ高さ 基準高 ▽ 法長 &	3 2 ±2 ±5 舗技師に対し 0~2 3 舗技師に対し 0~43 ±500 -200 -200	動力向各点計点点。 表語の固凸は長手力向(集軸底角力向)に3m の直線定便で削って関凸が3mm以下 歯改み合い部は車道端部、中央部の計3点 高さについては車道端部及(F中央部行近の3 点を制定。 表面の凹凸は長手力向(集軸底角力向)に3m の直線定便で削って凹凸が3mm以下 施工経長40m(側点開隔25mの場合は50m)に つき1ヶ所、接長40m(または50m)以下のもの に1地工場所を 施工経長40m(側点開隔25mの場合は50m)に つき1ヶ所、接長40m(または50m)以下のもの に1地工場所を	To standard (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)	
3 土木工事共適編	I.	24 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	(鋼製フィンガージョイント) 3 神能装置工 (埋設型ジョイント) 1 多自然型選岸工 (医石張り、巨石積み) 2 多自然型選岸工	高さ 振動方向各点 顕差の相対差 表面の相凸 御型板面の剪切み合い部 の高低差 の高低差 を交み合い部の 様方向同隔が。 仕上げ高さ 表面の相凸 仕上げ高さ 表面の相凸 仕上げ高さ 表面の相凸 としば高さ 表面の相凸 としば高さ 表面の相凸 としば高さ としば高さ としば高さ としば高さ を表面の相凸 としば高さ としばる としな としばる としな としばる としばる としばる としばる としばる としばる としばる としばる としばる としばる と としな としばる としな としな としな としな としな としな としな としな	3 3 2 ±2 ±5 舗装版に対し 0~-2 3 舗装版に対し 0~-3 -200 -100 -0.2t	輸力的を3点計り点。 表語の凹凸は2表 力的(係軸度角方的)に3mの直接定規で削って凹凸が3mm以下	・		3 土木工事共通欄	E I		(鋼製フィンガーショイント) 作縮装置工 (埋設型ジョイント) 多自然型護岸工 (巨石張り、巨石積み) 多自然型護岸工	高さ 極軸方向各点 報差の相対差 表面の即凸 書型板画の建攻み合い部の 銀力の間隔い。 建攻み合い部の 銀力の間隔い。 他上げ高さ 表面の即凸 仕上げ高さ 基準高 ▽ 法長 ε 延長 ε 延長 ε 延長 ε 延長 ε 延長 ε 延長 ε 近次 ε を を を を を を を を を を を を を を を を を を を	3 3 2 ±2 ±5 締装而に対し 0~2 3 縁装面に対し 0~43 ±500 -200 -100 -0.2t	動力向各点計点点。 表語の固凸は長手力向(集軸底角力向)に3m の直線定便で削って関凸が3mm以下 歯改み合い部は車道端部、中央部の計3点 高さについては車道端部及(F中央部行近の3 点を制定。 表面の凹凸は長手力向(集軸底角力向)に3m の直線定便で削って凹凸が3mm以下 施工経長40m(側点開隔25mの場合は50m)に つき1ヶ所、接長40m(または50m)以下のもの に1地工場所を 施工経長40m(側点開隔25mの場合は50m)に つき1ヶ所、接長40m(または50m)以下のもの に1地工場所を	To standard (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)	

編 有	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値	測定基準	測定箇所	摘 要	福章	節条	枝番 工 種	測定	項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
3 2	3	27	1 3	HOI	ℓ<3m	-50	施工延長40m(測点開隔25mの場合は50m)に つき1ヶ所、延長40m(または50m)以下のもの は1施工箇所につき2ヶ所。			3 2	3 27	1 羽口工		0<3m	-50	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)に つき1ヶ所、延長40m(または50m)以下のもの は1施工箇所につき2ヶ所。		
土 一	共通的		((じゃかご)	法長ℓ ℓ≧3m	-100	- は1度工間がに フミングの。	9999BT		土 一般 紅	共通	(じゃかご)	法長ū	0≧3m	-100	1410年1月1日 フラングバル。	PROPERTY.	
事工	工種				厚さ t	-50				事工共	工種		厚	iż t	-50	-		
通編										緬						_		
		27	1 3	別口工	高さ h	-100	施工延長40m(測点開隔25mの場合は50m)に つき1ヶ所、延長40m(または50m)以下のもの	L.			27	1 羽口工	高	ð h	-100	施工延長40m(測点開隔25mの場合は50m)に つき1ヶ所、延長40m(または50m)以下のもの	L	
				ふとんかご、かご枠)	延長 L ₁ L ₂	-200	は1施工箇所につき2ヶ所。					(ふとんかご、かご枠)		L ₁ , L ₂	-200	は1施工箇所につき2ヶ所。		
																_		
		28		en de colden et 1 m	17 May 17	1.00	施工延長40m(測点開隔25mの場合は50m)に	Lz		=	28	di bi alba di IT	4F 08		1.00	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)に	Lz	
		28	(*	プレキャストカルバートエ (プレキャストボックスエ)	基準高 ▽	±30	つき1ヶ所、施工延長40m(または50m)以下の ものは1施工箇所につき2ヶ所。 ※印は、現場打部分のある場合。	L			28	プレキャストカルバートエ (プレキャストボックスエ)		高 ▽	±30 -50	つき1ヶ所、施工延長40m(または50m)以下の ものは1施工箇所につき2ヶ所。 ※印は、現場打部分のある場合。	, L	
			Ċ	(プレキャストバイプエ)	%=== w							(プレキャストパイプエ)	※幅			-		
					※高さ h	-30	1施工箇所毎							Kë h	-30	1施工筋所毎		
					延長 L	-200		h w I h					延長	ŧ L	-200	_	h l h	
								w									w	
福力	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値	測定基準	測定箇所	単位:mm 摘 要	編章	節条	枝番 工 種	測定	項目	規格値	測定基準	測 定 箇 所	単位:mm 摘 要
3 2	3	29	1 #	到溝工	基準高 ▽	±30	施工延長40m(測点開隔25mの場合は50m)に つき1ヶ所、施工延長40m(または50m)以下の ものは1施工箇所につき2ヶ所。			3 2	3 29	1 側溝工	基準	高▽	±30	施工延長40m(測点開隔25mの場合は50m)に つき1ヶ所、施工延長40m(または50m)以下の		
土 州			(*	(プレキャストU型側溝)			「3次元計測技術を用いた出来形管理要領 (案)」の規定による測点の管理方法を用いるこ			土 一般	共通	(プレキャストU型側溝)				ものは1施工箇所につき2ヶ所。 厚さ以外の測定項目については、「3次元計測 技術を用いた出来形管理要領(業)」の規定に よる測点の管理方法を用いることができる。		
事工	的 工 種		C	(L型側溝工)			とができる。			工 施 工 共	的 工 種	(L型側溝工)				よる測点の管理方法を用いることができる。		
通編			((自由勾配側溝)	延長 L	-200	1ヶ所/1施工箇所 ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理			緬		(自由勾配側溝)	延長	ŧ L	-200	1ヶ所/1施工箇所 ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理		
			((管渠)			要領(案)」の規定により管理を行う場合は、延 長の変化点で測定。	<u>********</u>				(管渠)				要領(業)」の規定により管理を行う場合は、延 長の変化点で測定。	<u>*****</u>	
								, mai										
		29	2 個	則溝工	基準高 ▽	±30	施工延長40m(測点開隔25mの場合は50m)に つき1ヶ所、施工延長40m(または50m)以下の			1	29	2 側溝工	基準	場 ▽	±30	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)に つき1ヶ所、施工延長40m(または50m)以下の		
				(現場打水路工)	厚さ t 1 t2	-20	ものは1施工箇所につき2ヶ所。	t, w t ₂				(現場打水路工)		t ₁ , t ₂	-20	ものは1施工箇所につき2ヶ所。 厚さ以外の測定項目については、「3次元計測	t ₁ W t ₂	
					₩ w	-30		h ₁ h ₂				4 100 2 2 - 2 - 2 100		w	-30	技術を用いた出来形管理要領(案)」の規定に よる測点の管理方法を用いることができる。	h, h ₂	
					高さ h ₁ h ₂	-30								h ₁ , h ₂	-30	-		
				-			1施工筋所毎	BBB								1施工箇所毎 ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理		
				No. C. Control Control	延長 L	-200	施工延長40m(測点開隔25mの場合は50m)に			$\mid \mid \mid \mid$		- 04/10-4		Ł L	-200	要領(数)」の規定により管理を行う場合は、延 施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)に		
		29		則溝工	基準高 ▽	±30	つき1ヶ所。 _ 延長40m(または50m)以下のものは1施工につ き2ヶ所。	wı ,			29	3 側溝工		高 ▽	±30	つき1ヶ所。 延長40m(または50m)以下のものは1施工につ き2ヶ所。	w ₁	
			((暗渠工)	₩ w ₁ , w ₂	-50	「3次元計測技術を用いた出来形管理要領 (案)の規定による測点の管理方法を用いることができる。					(暗集工)		w ₁ , w ₂	-50	「3次元計測技術を用いた出来形管理要額 (業)」の規定による測点の管理方法を用いることができる。		
					深さ h	-30	(なお、製品使用の場合は、製品寸法は、規	\O\					深	ð h	-30	とかできる。 - (なお、製品使用の場合は、製品寸法は、規 格証明書等による。)	\O\frac{h}{h}	
							格証明書等による。) 1 施工筋所毎	W ₂								格証明書等による。) 1施工施所毎	W2	
					延長 L	-200	ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理 要領(案)」の規定により管理を行う場合は、延						延長	₹ L	-200	ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理 要領(案)」の規定により管理を行う場合は、延		
							長の変化点で測定。									長の変化点で測定。		
福力	飾	2	枝番	工種	測定項目	規 格 値	測定基準	測定箇所	単位:mm 摘 要	編 章	節条	枝番 工 種	測定	項目	規格値	測定基準	測定箇所	単位:mm 摘 要
100 /4	tela	*	人世	130	190 AC 74 El	AR TET IEL	913 AC 25 49*	90 AC 100 171	300 300	See No.	741 134¢	1人四 上 恒	(10) Æ	- ж	AR TET IEL	90 AC 26 4P	VG AC III 17	361 360

3 2 3 30 紫水桝工 土 一	b. 測定値の最小値	計 1コットの大きさは500㎡とする。 1コット当たり削定数は23点とし、各点の測定 1コット当たり削定数は23点とし、名点の測定値とす る。ただし、1コットの面積が200m2に満たない場 値 合は10m2ごとに1点とする。 厚厚 3 5			3 土木工事共通編 2 一般施工	30 集水桝工 31 規辯塗装工	基準高 ▽	±30 -20 -30 -30 -30 -30 -30 -30 -30 -30 -30 -3	1ヶ所確 東は、現場打部分のある場合 確立以外の測定項目については、「3次元計測 技術を用いた出生形管理要類(家)」の規定に 上も測点の管理力法を用いることができる。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・		
編章節条枝番工種	測 定 項 目 規格値	測定基準	测定箇所	単位:mm 摘 要 ;	編 章 節	条 枝番 工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定簡所	単位:mm 摘 要
3 2 4 1 一般事項 土 一 基 確 工 (切込砂利) 木 較 正 第 工 (家(りも基礎工) 井 五 編	 編 w 設計値以上 厚さ t₁, t₂ -30 延長 L 各構造物の 規格値による 	施工延長40m(高点開催2mの場合は50m)につきょう所、延長40m(または50m)以下のものは1地正箇所につき2ヶ所。 箇所単位の勢については直立構造圏の寸法 標示園所を測定する。	10 To		3 2 4 基礎工 一般施工 工事共通編	1 一般等項 (切込砂利) (等石基礎工) (第代号石基礎工) (第代号石基礎工)	幅 w 厚さ t ₁ , t ₂ 延長 L	設計値以上 -30 各構造物の 規格値による	第工延長40m(測点開端25mの場合は36m)に つき1ヶ所、延長40m(または36m)以下のもの は1単正箇所につき2ヶ所。 個所単位の勢については重主構造図の寸数 様不備所を例定する。		
3 1 基礎工(護学) (規格打)	基準高 ▽ ±30 幅 w −30 高さ h −30 延長 L −200	施工延長40m(商点開催25mの場合は50m)につきょう所、延長40m(または30m)以下のめのは12地面工動所にのきる方面。 12地面工動所にのきる方面。 13次元計制技術を用いた出来将要領(策)に基分2出来が管理を実施する場合は、同要領に規定する計制技術を用いた出来将要領に乗りたる。 最近日出来形管理を実施することができる。	w h	单位:mm		3 1 基礎工(護学) (現場打)	基準高 ▽ 幅 w 高さ h 延長 L	±30 -30 -30 -200	第工延長40m(側点側隔25mの場合は30m)に つき1ヶ所、延長40m(左は1250m)以下のたの こは第三箇所にから22ヶ所。 「32年元計削技術を用いた出来野霧(策)に 「32年元計削技術を用いた出来野霧(策)に 以定する計測情報・計測需度を施たす計削 方法により出来影響理を実施する場合は、同要額 に規定する計測情報・計測需度を施たす計削 方法により出来影響理を実施することができる。	w	##Q: mm
				T-122							7-122

3 2 土 一 般 工 施	4 基礎工	3 2	基礎工(護岸)(ブレキャスト)	基準高 ▽ 延長 L	±30	施工延長40m(側点間隔25mの場合は50m)に つき1箇所、延長40m(または50m)以下のもの は11施工箇所につき2ヶ所。 「3次元計制収拾6円いた出来形管理要領 (第)」の規定による側点の管理方法を用いるこ とができる。	▼		3 2 土 木 光 施	4 3 2 基礎工(護岸) 基 健 エ	基準高 ▽ 延長 L	±30	施工延長40m(側点開隔25mの場合は50m)に つき1箇所、延長40m(または50m)以下のもの は11施工箇所につき2ヶ所。 「3次元計削収修を用いた出来形管理要額 (案)」の規定による測点の管理方法を用いるこ とができる。	▼	
事工共				EK L	200				事工共		建 民 L	200		11	
編		4 1	既製杭工	基準高 ▽	±50	全数について杭中心で測定。 「3次元計測技術を用いた出来形要領(案)」に	, 4 <u>2</u>		編	4 1 既製杭工	基準高 ▽	±50	全数について杭中心で測定。 傾斜は、縦断方向(道路線形方向、橋軸方向	, ½	
			(既製コンクリート杭) (鋼管杭) (H鋼杭)	根人長	設計值以上	基づき出来形管理を実施する場合は、同要領 に規定する計測精度・計測密度を満たす計測 方法により出来形管理を実施することができる。				(既製コンクリート杭) (鋼管杭) (H鋼杭)	根入長	設計值以上	傾斜は、縦断方向(道路線形方向、橋軸方向等)とそれに直交する横断方向の2方向で測定。 に3次元計測技術を用いた出来形面端(第)は		
				偏心量d	D/4以内 かつ100以内	WAREN PARTIES AND TO SEE SEE	1 (C) (C) (1)				偏心量d	D/4以内 かつ100以内	3次元計測技術を用いた出来形要額(案)」に 基づき出来形管理を実施する場合は、同要額 に規定する計測精度・計測密度を満たす計測 方法により出来形管理を実施することができる。	+	
				傾斜	1/100以内						傾斜	1/100以内	力法により四米形官理を美麗することかできる。	. 0000	
		4 2	2. 既製杭工	基準高▽	±50	全数について杭中心で測定。	d			4 2 既製杭工	基準高▽	±50	全数について杭中心で測定。		
			(鋼管ソイルセメント杭)	根入長	設計值以上		1			(鋼管ソイルセメント杭)	根入長	設計值以上	「3次元計測技術を用いた出来形要領(案)」に 基づき出来形管理を実施する場合は、同要領 に規定する計測精度・計測密度を満たす計測		
				偏心量d	D/4以内 かつ100以内						偏心量d	D/4以内 かつ100以内	方法により出来形管理を実施することができる。		
				傾斜	1/100以内		F				傾斜	1/100以内		F	
				杭径 D	設計值以上		25.4.6.				杭径 D	設計值以上		0.0.000	
	Ī	5	場所打杭工	基準高 ▽	±50	全数について杭中心で測定。 「3次元計測技術を用いた出来形要領(業)」に	d 4/x			5 楊所打杭工	基準高 ▽	±50	全数について杭中心で測定。 (仮斜は、縦断方向(道路線形方向、橋軸方向)	6 Jan	
				根人長	設計值以上	基づき出来形管理を実施する場合は、同要領 に規定する計測特度・計測密度を満たす計測 方法により出来形管理を実施することができる。					根入長	設計值以上	等)とそれに直交する横断方向の2方向で測定。 「3次元計測技術を用いた出来形要額(案)」に		
				偏心量d	100以内	力法により口米形官理を美能することかできる。					偏心量d	100以内	基づき出来形管理を実施する場合は、同要領 に規定する計測精度・計測密度を満たす計測		
				傾斜	1/100以内		F				傾斜	1/100以内	方法により出来形管理を実施することができる。	⊢ }	
				杭径 D	{設計径(公称径) -30}以上						杭径 D	(設計径(公称径) -30)以上	=		
福章	44	~ 14	a - 9	30 A VE D	10 10 00	200 Fe who half	AND the ANY TOT	単位:mm		節 条 枝番 工 種	20 07 05 0	AD also bet	204 etc 48 000	State of AW ST	単位:mm
3 2	#P 4	条 枝	番 工 種 深礁工	測 定 項 目 基準高 ▽	規 格 値 ±50	測 定 基 準 全数について杭中心で測定。	測定箇所	摘 要	編 章 3 2	節 条 枝番 工 種 4 6 深礎工	測 定 項 目 基準高 ▽	規 格 値 ±50	測 定 基 準 全数について杭中心で測定。	測定簡所	摘要
土 一 般	基礎			根入長	設計値以上	※ライナープレートの場合はその内径、 練強リングを必要とする場合は結論リングの内径	, /г		土一般	基础	根入長	設計値以上	傾斜は、縦断方向(道路線形方向、橋軸方向等)とそれに直交する横断方向の2方向で測	, <u>′2-`-</u>	
工施事工	I			偏心量d	150以内	補強リングを必要とする場合は補強リングの内径 とし、モルタルライニングの場合はモルタル等の土留め 構造の内径にて測定。			工施工工	Ĭ	偏心量d	150以内	定。 ※ライナーブレートの場合はその内径、 補強リングを必要とする場合は補強リングの内径 とし、モルタルライニングの場合はモルタル等の土留め		
通編				傾斜	1/50以内		F F F		通編		傾斜	1/50以内	個面がクラを必要とする場合は相関のクリの行程 とし、モルタルライニングの場合はモルタル等の土留め 構造の内径にて測定。	10.2	
				基礎径 D	設計径(公称径)以上						基礎径 D	設計径(公称径)以上	*	. 0000	
	L	7	オープンケーソン基礎工	基準高▽	±100	壁厚、幅、高さ、長さ、偏心量については各打 設ロットごとに測定。	$d=\sqrt{x^2+y^2}$			オープンケーソン基礎工	基準高▽	±100	壁厚、幅、高さ、長さ、偏心量については各打 設ロットごとに測定。	d=√x²+ y²	
				ケーソンの長さ 0	-50	ax->1-citonzo	₩				ケーソンの長さ 0	-50	NA - 71 1 - 100/L3	₩	
				ケーソンの幅 w	-50		t h t t t				ケーソンの幅 w	-50	_	t h t t t	
				ケーソンの高さ h	-100		4				ケーソンの高さ h	-100	-	4	
				ケーソンの壁厚 t	-20		П Э)т,				ケーソンの壁厚 t	-20	_	П (2) Т,	
				偏心量d	300以内		x				偏心量d	300以内	-	r i x	
	ŀ	0	ニューマチックケーソン基 礎工	基準高 ▽	±100	壁厚、幅、高さ、長さ、偏心量については各打 設ロットごとに測定。	$d=\sqrt{\chi^2+y^2}$			ニューマチックケーソン基 選工		±100	壁厚、幅、高さ、長さ、偏心量については各打 設ロットごとに測定。	d=\sqrt{x^2+ y^2}	
			36.7-	ケーソンの長さ 0	-50		- VX + y			MET.	ケーソンの長さ 0	-50	100 PT C C C (100) PC (100)	▼	
				ケーソンの幅 w	-50		t h t t t				ケーソンの幅 w	-50	-	t h t t t	
				ケーソンの高さ h	-100	-	4 1 1 1 1 1 1 1 1				ケーソンの高さ h	-100	-	4 × · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
				ケーソンの暗写 t	-20		(5) ±,				ケーソンの暗さ t	-20	-	(j) II ,	
					300以内		H x					300以内	-	H x	
				偏心量d	2008/14			単位:mm			偏心量d	2008/14			単位:mm
編章	飾	条 枝	番 工 種	測定項目	規 格 値	測定基準	測定箇所	摘 要	編章	節 条 枝番 工 種	測定項目	規 格 値	測定基準	測定箇所	摘 要

3 土木工事共通編 土木工事共通編	4 基礎工 5 石・ブロック積(張)工	3	網管矢板基礎工 1 コンクリートブロックエ (コンクリートブロック項) (コンクリートブロック項の) (コンクリートブロック項の)	基準高 ▽ 根入長	±100 設計値以上 300以内 ±50 -50 -100 -50 -50	基準高は、全数を測定。 個心量は、1第二とに測定。 単工延長40m(積点開際25mの場合は20m)に つき15m、毎長40m(なたは25m)以下の4の 1は第二第6m:0を29元 厚さは上端節及び 下電能の2億所を創定。 (家)の規定による拠点の管理が法を用いることができる。 米創鍵に減する場合の規準高は土30とする。 施工延長40m(備点開際25mの場合は50m)に	$\frac{d = \sqrt{x^2 + y^2}}{d = \sqrt{x^2 + y^2}} = \frac{\sqrt{x^2 + y^2}}{\sqrt{x^2 + y^2}} = \sqrt{x^2 + y^2}$		3 2 一般施工 2 一般施工 2 一般施工 5 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	5 3 1 コンクリートプロック工 (コンクリートプロック領) (コンクリートプロック領) (コンクリートプロック領) (コンクリートプロック領)	基準高 ▽ 根入長 偏心量d 基準高 ▽ 総長8 (0 < 3m) (0 ≥ 3m) 厚さ(ブロック種・張) t ₁ 厚さ(裏込) t ₂ 延長 L	±100 設計値以上 300以内 ±50 -50 -100 -50 -50	基準高は、全数を商定。 個心量は、1条二とに測定。 単工延長40m (側点開降25mの場合は50m)に つき19所、延長40m(または50m)以下の4,0 つき19所、延長40m(または50m)以下の4,0 11施工資所に62を3所、受注上端部及び 73系元計制財金用以出上米管理要類 (第)の規定による測点の管理力法を用いるこ とかできる。 米値襲に接する場合の規準高はよ30とする。 施工延長40m(側点開降25mの場合は50m)に	$\frac{d\sqrt{x^{2}+y^{2}}}{d\sqrt{x^{2}+y^{2}}} = \frac{\sqrt{x^{2}+y^{2}}}{\sqrt{x^{2}+y^{2}}}$ $\frac{t_{1}}{t_{2}}$ t_{2} t_{3} t_{4} t_{5} t_{5} t_{7} t_{1} t_{2}	
			2 コンクリートブロックエ (連節プロック張り)	基準高 ▽	±50 -100 -200	つき1ヶ所、終長40m(金大は250m)以下のもの は第三箇所に0.529万所。 「3次元計削技術を用いた出来等管理察領 (第)の規定による側点の管理力法を用いるこ とができる。		単位:mm		2 コンクリートプロック工 (連節プロック張り)	基準高 ▽ 法長 @ 延長 L ₁ L ₂	±50 -100 -200	った1ヶ所、延長40m(または50m)以下の4の は1施工箇所につき2ヶ所。 「3次元計劃技術を用いた出来形管理要類 (第)1の規定による側点の管理方法を用いることができる。		単位:nm
編章2一般施工 ***	節 5 石・ブロック積(張)工	条 村	支書 工 種 3 コンクリートプロックエ (天端保護プロック)	測 定 項 目 基準高 ▽ 幅 w 延長 L	規格値 ±50 -100 -200	測 定 基準 第工級長時の(高知際Samの場合は20m)に つき1・所、級長40m(姓とは20m)以下のもの は1第二第第下にの20上所。 (3次次計劃技術を用いた出来等質理要類 (数)の規定による側点の管理が法を用いるこ とができる。	測定 第 所	摘要	第 2 一般施工 2 一般施工 2 一般施工 2 一般施工 3 土木工事共通編		測 定 項 目 基準高 ▽ 幅 w 延長 L	規格値 ±50 -100 -200	測 定 基 準 単工延長5回(高期間25mの場合は50m)に つき1の形。延長4回(はたは50m)以下のもの は1前工御所につき2分所。 「3次元計測技術を用いた出生界管理要類 (数)の規定による測点の管理方法を用いるこ とができる。	割 定 蘭 所 開出かご 単端プロッタ	摘要
		5	緑化プロックエ 石鹸(張)エ	基 準 高 ▽	±50 -50 -100 -50 -50 -50 -50 -50 -100	整工業長40m(総点開際窓面の場合は26m)につきます。 できます。美学和の(または26m)以下ウモク・ は第二第所につき、日本とした場面及び 下電節の20年金融度。 (3次方計劃技術を用いた出来管理要額 (3)の規定による調点の管理方法を用いることができる。 米舗値に執する場合の規準高は±30とする。 地工業長40m(他点間隔25mの場合は50m)につきます。 をは、15mを表す。 地工業長40m(性点は26m)以下ウモク・ 下電節の20年後割定。 (第)の規定による調点の管理方法を用いることができる。 米舗値に対する場合と、 (第)の規定による調点の管理方法を用いることができる。 米舗値に執する場合を用いることができる。 米舗値に執する場合を用いることができる。 米舗値に執する場合の規準高は±30とする。			_	4 緑化プロックエ 5 石積(張)エ	基 準 高 ▽ 注長	±50 -50 -100 -50 -50 -50 -50 -200 ±50 -50 -100	第三延長40m(側点開展高のの場合は50m)に 力き19所。美元9m(または20m)以下のもの 力は16m(を通常。 中に15m(と) では10m(と) では20m(と) では20m(と) では20m(と) では20m(と) を) ができる。 単位数とができる。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		
編章	節	条市	交番 工 種	厚さ(石積・張) t ₁ 厚さ(裏込) t ₂ 延長 L 測 定 項 目	-50 -50 -200 -200	割 定 基 準	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	単位:mm 摘 要	編章	· 条校器 工 種	厚さ(石額・張) t ₁ 厚さ(裏込) t ₂ 延長 L 測 定 項 目	-50 -50 -200 規格値	測定基準	北京 第 所	単位:mm 摘 要

3	6	5 4	橋面防水工(シート系 床 版防水層)	シートの重ね幅	-20~+50	標準重ね幅100mmに対し、1施工箇所毎に目視 と測定により全面を確認		3 2	6	橋面防水工(シート系 床 6 4 版防水層)	シートの重ね幅	-20~+50	標準重ね幅100mmに対し、1施工箇所毎に目視 と測定により全面を確認	
土	一般							土 一般						
I 1	舗装							工施事工	舗					
共通	I							共通	I					
844								196						

単位:nm

編	章 節	条枝	: 工 種	測定項目	規 個々の測定値 (X) 中規模 小規模 以上 以下	※面管理の は測定値の は 中規模 小	(ia) 場合 測定基準 平均	測定簡所	摘 要	福巾) 節	条 枝番 工 種	測定項目		定値、規模	10個の測定値 の平均(X ₁₀) ※面管理の場合 は測定値の平5 中規模 小規模 以上 以下	測 定 基 準 50 8	测定箇所	摘 要
土木工	2 6 一般施工工		アスファルト舗装工 (下層路盤工)	基準高 ▽ 厚さ 幅 延長 L	±40 ±50 -45 -45 -50 -50	-15	基準高は、延長40m毎に1ヶ所の割むし、道路中心線及び路で満定。 厚さは、各事線(40m 信に右、中、左、を交互 だ1)・所を制むこし制定。 15 幅は、延長40m年に1ヶ所の割に測定。 (家)の規定による割点の管理方法を用いることができる。	中規模以上の工事とは、1層当たりの施工面 積が1,000m以上とする。 小規模工事とは、 施工面積が1,000m未満 とする。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の		土 一	一般質輔		基準高 ▽ 厚さ 幅 延長 L	-45	±50 -45 -50		平心解及び場前で何定。 厚さは、各事線 (40m 毎に右、中、左、を交互 に)1ヶ所を掘り起こし測定。	中規模以上の工事とは、1層当たりの施工面 積が1,000m(以上とする。 小規模工事とは、 施工面積が1,000m未満 とする。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の	
		7 2	アスファルト舗装工 (下層路盤工) (面管理の場合)	基準高 ▽ 厚さかるいは 標高較差	±90 ±90 ±90 ±90	-15 +40	50 1. 3次元データによる出来形容理において13 次元計測技術を用いた出来形容理要額(案) 1-15 に基づき出来形容理を実施する場合、その他を本基率に製定する計画が表では、計画物方により出来形容理を実施する場合に適用する場合は、は、15 計画が直接により出来形容理を実施する場合に適用する。計画では、15 計画が直接に対しては、15 によってのなって標高値を集出する。1 計画に対しては、15 によってのよう。 4 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との以上する。5 厚さら標高板を集出する。15 に丁醇の样高値と当該層の構高値とからまでは、15 厚さら標高板を手がり低する。5 厚さら標高板を示して下層で高板をデンツ版する。5 厚さら標高板を下の影響である。5 原さら標高板を下の影響である。5 原さら標高板を表すり低する。5 原さら標高板を下り場合。5 定年高の評価は名略する。6 本年高の評価は名略する。	中規模以上の工事とは、1層当たりの施工面 額が1,000㎡以上とする。 小規模工事とは、施工面積が1,000㎡未満 とする。				7 2 アスファルト舗装工 (下層路盤工) (面管理の場合)	基準高 ▽ 厚さからいは 標高収差		±90 ±90	+40 +50 -15 -15 +40 +50 -15 -15	次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」 に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満た	中規模以上の工事とは、開当たりの施工面 報が、1,000は人と守る。 小規模工事とは、施工面積が1,000は未費 とする。	

							規	格	値																							規	. 1	格	値												
褔	能節	条枝	支番	工 種	測定項目	())測定値 X)	0 ※ は	の個の測 の平均(面管理(則定値((X ₁₀) の場合 の平均		測	定	基	291		測	定	芒 簡	i Pf		摘要	編	章 節	市条	₹ 枝番		I	稚	測定項	具日	個々のii (X	1	の平 ※面管 は測定	の測定値 均(X ₁₀) 理の場合 値の平均	ð	則 定	基	29%			測	定	箇所	:	摘	要
Ш						中規模 以上		英 中井	規模 / L上	以下																							小規模 以下		小規模 以下												
3	2 6	7	3 7	アスファルト舗装工	厚さ	-25	-30	-	-8		車線(40		中、左			ヶ所中	事規模の 申規模以上 責が1.000m	の工事と	とは、1月	層当たりの施	工面		3	2 6	3 7	3	アスフ	アルト舗	装工	厚さ		-25	-30	-8	-10	幅は、延長4 車線(40m年 を掘り起こし	に右、中	1ヶ所の た、左、	割とし、E 交互に	厚さは、各) に1ヶ所	斤 中規村	見模の考え 糞以上のコ 1.000㎡ 以	C事とは		の施工面		
	一 一 段 般 新			(上層路盤工) 粒度調整路盤工	幅	-50	-50		-	-	「3次元」	十測技術を	用いた		管理要領 法を用いる	力と				##1,000m²	夫湖			一 一般 般 解				路盤工) 調整路勢		46		-50	-50	-	-	「3次元計測:	支術を用				小規札	真工事とは		面積が1,0	00点未满		
事共					延長 L		-	-200			とができ		側点の	官理力	佐を用いる	學書	合で規格	直を満足	足しなけ)個に9個以上 ければならない	いとと			工装工						延長	L		-2	200		とができる。	による側	息の官	生力はを	川いるニ	厚さに 割合・	で規格値を	満足し	が10個に9f なければな	らないとと		
編																てテ	満足しなけ	tればな 0個未記	ならない。 満の場合	値(X10)にへ。 。ただし、厚さ 合は測定値の	800		編																		て満足	足しなけれ	ばなられ	平均値(X1) ない。ただし 場合は測り	、厚さの		
		7	4 7	アスファルト舗装工	厚さあるいは 標高較差	-54	-63	-	-8		次元計劃	則技術を用	いた出	来形管:	理要領(案	‡) 」	事規模の 申規模以上 責が1,000m	の工事と	とは、1月	層当たりの施	工面				7	4	アスフ	アルト舗	装工	厚さある 標高値		-54	-63	-8	-10	 3次元デー 次元計測技術 に基づき出来 	所を用い	た出来が	/管理要	領(案)」	中規模	莫以上のコ	L事とは		の施工面		
				(上層路盤工) 粒度調整路盤工			•		•		本基準は	に規定する が法により出	計測精	度・計測		たり	、規模工事			1,000m/3	大浦							路盤工) 調整路勢				•			•	本基準に規2 す計測方法(に適用する。	とする計	測精度:	計測密度	度を満た	小規模	英工事とは			00㎡未満		
			((面管理の場合)							2. 個々の ±10mm	の計測値の が含まれて	いる。		測精度とし												(面管理	星の場合	r)							 個々の計 ±10mmが含 	まれてい	る。									
											で標高値 面投影ii	を算出す 前積当たり)	る。計測 以上と	密度はする。	し、全ての t1点/m2	(平																				3. 計測は設 で標高値を算 面投影面積:	〔出する。 当たり〕以	計測密	度は1点	i/m2(平	F						
											との差で	算出する。			装層の標高 場合は、ii																					 厚さは、直 との差で算出 厚さを標準 	する。										
												標高さ+i から求まる			改差平均値 ・る。	直+																				下層の目標で 設計厚さから				平均値+	+						

													単位:mm										単位:mm
					L	規	格	値										規	格	值			
編	t 節	条枝	番 工 種	測定項目		(X) 模 小規	値 の ※面は混 中邦	個の測定 の平均(X ₁₆ 管理の場別定値の平 現模 小規 に	。) 測定基準 場合 以 現模	301	定 箇 所		摘 要	編	章 節	条 枝番 工 種	測定項目	個々の測 (X) 中規模 小	定値 ※は	0個の測定値 の平均(X ₁₀) 面管理の場合 測定値の平均 規模 小規模 以下	測定基準	測定簡所	摘 要
3 2 土木工事共通編		7	5 アスファルト舗装工 (上層路整工) セメント(石灰) 安定処理工	厚さ幅	-2			8 -1	朝江、接長40m 部にり所の附上し、厚さは、 したの前には他の前でコアーを採取もしくは他の 起上して測定。 「3次元計削技術を用いた出来形管理繁領 (第)の規定による側点の管理方法を用いることができる。	積が1,000㎡以上 小規模工事とは、 とする。 厚さは、個々の測 割合で規格値を消 もに、10個の測定 て満足しなければ	事とは、1層当たりの動 とする。 施工面積が 1,000 ml)定値が10個に9個以 歯足しなければならな 値の平均値(X10)に でならない。ただし、厚 未満の場合は測定値	未満 上の いとと つい ほの			2 6 一般施工工	7 5 アスファルト舗装工 (上層粉整工) セメント(石沢) 安定処理工	原さ		-30 -50	-8 -10 	1,000㎡に1個の割でコアーを採取もしくは掘り起こして測定。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領	工事規能の考え方 中規模は上の工事性は、開当たりの施工面 構め5,000㎡以上とする。 小規模工事とは、施工面積が1,000㎡域 とする。 原字は、最中の測定値が10個に3個以上の 割合で現体値を満足しなければならないとと に、10個の測定値の平野値(X10)につい て満足しなければならない、ただし、厚さの アータ電が10個域来。の場合は直定値の平 対値は適用しない。	
		7 4	6 アスファルト舗装工 (上層路盤工) セルト(石灰) 安定処理工 (面管理の場合)	厚さめるいは 標高較差	-5	4 -6	33 -	8 -1	1. 3次元データによる出来形容理(まおいて) 0 次元計制技術を用いた出来形容理を領(象) に基づ台出来形容理を集合も場合、その他 本基準に提定する計制機を計画物産と通か、 2 機への計画能の規格能には計画構度として 2 機への計画能の規格能には計画構度として 2 機会の計画能が現格能には計画構度として 2 時間を発展してい物を過程し、全ての点で で標高値を集出する。計画能度は1点/m2(3 施設新価値を集出する。計画能度は1点/m2(3 他設新価値を集出する。計画能度は1点/m2(3 4 厚さは、直下層の構像と当場層の構想と の意で集出する。 5 厚さと情高がとして評価する場合にあ 設計厚なから来まる高さとの差とする。	中規模以上の工 積が1,000m以上 小規模工事とは、 とする。	事とは、1層当たりの別 ととする。					7 6 アスファルト舗装工 (上層路盤工) セント(石灰) 安定処理工 (価管理の場合)	厚さかるいは標本較差	-54	-63	-8 -10	1. 3次元データによる出来形容側において13 次元計劃技術を用いた出来形容理要額(案)」 に基づき出来形容理を実施する場合、その他 主義率に設定する計劃特度・計画液を金滴た す計画方法により出来形容理を実施する場合 2. 個本の計画社で3。 2. 個本の計画社で3。 3. 間本の対画社で4。 3. 計画は設準組合の特別を面比、全での点 立場高級を集出する。計画施度は1点/m2(平 電光製新個性5つり以上とする。 企業事出り以上とする。 の差で第出する。計画を当該毎一標高値 企業を実出する。計画に対象である。 で整高板を選出する。計画を改計を開始である。 に関係のを実出する。 下野の世籍高度と当該毎一標高値 との差で第出する。 下野の世籍高度と当該毎一種高板 設計厚さからままる高さとの差とする。	中規模以上の工事とは、1層当たりの施工面 積が1,000㎡以上とする。 小規模工事とは、施工面積が1,000㎡未満	
Ц												j	単位:mm										単位:mm
						規	格	値										規					
編が	t m	条枝	番 工 種	測定項目	個 / 中規 以	の測定 (X) 模 小規 上 以	値 の ※面は混 中邦	個の測定)平均(Xid)管理の場 別定値の引 見模 小歩 以	-) -) -) -) -) -) -) -) -) -) -) -) -) -	測	定 箇 所		摘 要	編	章 節	条 枝番 工 種	測定項目	個々の測 (X) 中規模 小 以上	定値 ※は ・規模 中	0個の測定値 の平均(X ₁₀) 面管理の場合 測定値の平均 規模 小規模 以上	測定基準	測定箇所	摘 要
3 生木工事共通編	6 一般舗装工	7	7 アスファルト舗装工 (加熱アスファルト 安定処理工)	厚さ幅	-1			5 -	「3次元計測技術を用いた出来形管理要領	積が1,000㎡以」 小規模工事とは、 とする。 厚さは、個々の測 割合で規格値を もに、10個の測定 て満足しなければ	事とは、1層当たりの意 とする。 施工面積が 1,000 対 定値が10個に9個以 高足しなければならな 値の平均値(X10)に ならない。ただし、厚 大濃の場合は測定値	大調 上の いとと つい ほめの		土木	2 6 一般競工工	7 7 アスファルト舗装工 (加熱アスファルト 安定処理工)	厚さ		-20 -50	-5 -7	幅は、接54 6m 新に1ヶ所の割とし、厚さは、 1,000㎡には製成でます。全様では、 「3次元計劃技術を用いた出来形管理要領 (業)」の規定による潮点の管理力法を用いることができる。	工事提展の考え方・ 中規模以上のよとする。 中規模以上のは、正正面接が1,000㎡以上とする。 小規模工事とは、施工面接が1,000㎡次額 とする。 第2は、線々の測定値が10個に9個以上の 第合で規格機を構造しなければならないとと いる。 「通過しなけるがないないと、」、原名の データをが10機米減の場合は測定値の平 均値は適用しない。	
		7 :	8 アスファルト舗装工 (加熱アスファルト 安定処理工) (面管理の場合)	厚さあるいは標高較差	-3	6 -4	55 ∹	5 -	1. 3次元データによる出来所管理において「2 次元計削技術を用いた出来所管理機関(変)。 に基づき出来所管理を集まった出来所管理機関(変)。 に基づき出来所要を集まった場合と、その他 本基準に規定する計削額度・計断密度を指示 二、個々の計削額の規格値には計削精度として、 三、個々の計削額の規格値には計削精度として、 1、前側は設備では、対策を振り相全能しし、全つの。 は、一般では、成下の一般である。 は、一般では、成下の一般である。 一般では、近下の一般である。 に、東立を構成と当場際の情報を との変で算出する。 こ、厚立を情報を送して評価する場合は、度 下層の目標高さった下層の標高較差平均値。 設計算なから来する高さとの差とする。	中規模以上の工: 積が 1,000㎡ 以上 小規模工事とは、 とする。	事とは、1層当たりの別 上とする。					7 8 アスファルト舗装工 (加熱アスファルト 安定処理工) (価管理の場合)	厚さあるいは 標高較差	-36	-45	-5 -7	1. 3次元データによる出来形容側において「3 水元計算技術を用いた出来形容側要類(窓)」 は基づ自地系が関係を表策でも基金を表する場合、その他 本基準に規定する計劃情度・計測態度を満た に適用する。 2. 値々の計画値の規格値には計劃構度として、 2. 値々の計画値の規格値には計劃構度として、 3. 計劃は設備制度、外間を流し、全での。 4. 写主は、電子の場合機とは基金の差で第日で、 4. 写主は、電子の場合機と出版である。 定等出する。 原文信義を使えた。 原文信義を使えた。 原文信義を使えた。 原文信義を変更との差を手が施士 設計算さからままる高さとの差を手が施士 設計算さからままる高さとの差とする。	中規模以上の工事とは、1層当たりの施工面 積が1,000m以上とする。 小規模工事とは、施工面積が1,000m未満	

編章	節	条 枝番	: 工 穣	測定項目	規 個々の測定 (X) 中規模 以上	※面管理の場 は測定値の平 提模 中規模 小規		测定箇所编要	編章節	条柱	支番 工 種	測定項目	規 個々の測定値 (X) 中規模 小規 以上 以下	※面管理 は測定値 関 中規模	定値 X ₁₀) の場合 の平均	測定基準	測定簡所	摘 要
3 2 一般施工	一般舗		アスファルト舗装工 (基層工)	原さ		2 -3 -4	「3次元計測技術を用いた出来形管理要領	工事規模の考え方・中規模以上の工事とは、1層当上9の施工面 相約1,000㎡以上とする。 小規模工事とは、施工面積が1,000㎡末減 とする。 原之は、個々の測定値約10個に9個以上の 割合で現積を経過になければならないとと には、10個の創建処の手列値(X10につい で満足しなければならない。ただし、原定の データ数が10個形で、かただし、原定の データ数が10個形で、かただし、原定の データ数が10個形で、かただし、原定の 「機能量素をで、デード最近により床裏等に損 機能を与える変更のある結晶にない。 に 個能量素をで、デード最近により床裏等に損 機を与える変更のある場合は、他の方法によ ることが出来る。	3 2 6 一般施工工事共通編		9 アスファルト舗装工 (基帯工)	原さ	-9 -12 -25 -28		-4		工事機能の考え方 中規模以上の工事とは、1層当たりの第工面 様が1,000m以上とする。 小規模工事とは、単正面積が1,000mは未積 とする。 実はは、個々の測定値が10間に9個以上の 割合ご規格値を満足しなければからないとと に、10個の測定値が平均低に10にでは で、10個の測定機等の平均値に10にで で、10回に10にで、10に、原立の 一一度似しつで、10に、原立の 1つに一度似しつで、10に、原立の 1つに一度似しつで、10に、原立の 1つに一度似しつで、10に、原立の 1つに一度似しつで、10に、原立の 1のに、10にの一位には 10にのから場合は、他の方法によ るとが必然がある。他の方法によ るとが出来る。	
			アスファルト舗装工 (基層工) (画管理の場合)	厚さあるいは 標高較差	-20 -	5 -3 -4	1. 3成元デールに入出来将管理においては、 水工計劃技術化川・北川米等で異域(窓)」 に基った出来作管理を集集する場合、その他 本基準に規定する計劃情度・計画形度・消කを実施する場合 に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には計測情度として、 4. 相談に表すている。 3. 計劃に設計帳間の内側を面とし、全での点、 で構画後を製出する、計画像は1点/加2(平 情高後を製出する。計画をは1点/加2(平 情高度を製出する。計画をは1点/加2(平 は一度と1点/加2(平)の場面と13款層の標底値 との充で集出する。 5. 厚な毛精験を送して評価する場合は、底 下層の日標態を上して評価する場合は、底 下層の日標態を上して評価する場合は、底 下層の日標態を上して評価する場合は、底 下層の日標態を上して評価する場合は、底	中規模以上の工事とは、開当と9の第工面 網が ,1,000組入 上とする。 小規模工事とは、施工面積が 1,000組未満 とする。		7	10 アスファルト舗装工 (基層工) (画管理の場合)	厚さかるいは様高較差	-20 -28	-3		1.3次元デー外にも出来形響無において「3 水戸滑越格体型中心・出来将電車製質(常)」 に基づ生出来将電機を乗車で場合、その他 に属力等力が開発・計画構造を場合、 に適用する。 に適用する。 2. 個本の計画値の規格低には計画構度とは、 生和加加合生まれている。 3. 計測は設計幅長の内側を通じ、全での点で構造を導出でいる。 4. 単立は、直下部の構造性と対象が との差で裏出する。 は、厚立は、原子の構造を単位は、 を対象が表現して評価する場合は、 直に関いる。 で開始の場合性とは原の構造性と を対象が表現して評価する場合は、 直にしている。 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	中規模以上の工事とは、1層当たりの施工面 積が1,000m以上とする。 小規模工事とは、施工面積が1,000m未満	

3 2 6 7 11 アスファルト舗装工 土 一	潮定項目 厚さ 幅 平坦性 雅 長 L	規 格 値 個々の測定値 (X) 中規模 小規権 リル 以下 リスト 以下 リスト 以下 リスト 以下 リスト リスト フー25 ー25 ー ー ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	測 定 基 準 分 [工事限度の考え方 中規模以上の工事とは、「陽当たりの施工面 様が1,000ml以上とする。 小規模工事とは、施工面積が1,000mlが サイス。 原さは、操への測定値が10個に19個以上の 割合つ規格値が20kmlのに20以上の 可能とは対しまたなかな、ただし、降名の デーク度が10個米減の場合は削速値の平 均値は適用したが、 に、10個の前度値の平均値(10回)につい で両とながましたなかな、ただし、降名の デーク度が10個米減の場合は削速値の平 均値は適用したが に、10単位に適用した。 総略を与える恐れのる場合は、他の方法に ることが出来る。 基本費10mx末線の機能、または地中工	職章章章6一般施工2一般施工3土木工事共通編	技事 エ 種 11 アスファルト舗装工 (表層工)	測定項目 厚さ 幅 平组性	規 格 値 (X) 10個の測定値 の平均(X) (X) 最新管理の場面 (は調定値の平均 (は調定値の平均 (以下 以上 以下 以上 以下 -7 -9 -2 -3 (3mプロフィルメーター (2.2.4mm以下 直跳式/足付会) (4.2.4mm以下 直跳式/足付会) (4.7.7mm以下 -200	測 定 基 準 幅は、採長40m 時に1ヶ所の割とし、厚さは、 1,000㎡に1線の割でコアーを採取して測定。 「3次元計削技術を用いた出来形管理要領 (業)」の規定による測点の管理方法を用いることができる。	悪魔傷の考え方 中規模の考え方 中規模以上の工事とは、1層当たりの施工 部が1,000m以上とする。 小規模工事とは、施工面積が1,000m未満 が1,000m以上とする。 の規模工事とは、施工面積が1,000m未満 場合で規格配金減配しなければからないとと もに、10個の側定盤の平均値(Xi10)につい で減足しなければからない。ただ、原名の が回ばっ値目しているかない。 に、原名の の間は適目しているが、 に、原名の の間は適目している。 に、原名の の間にないます。 に、原名の の間にないます。 に、原名の の間にないます。 に、原名の の間にないます。 に、原名の のでは、原名の に、原名の のでは、原名の に、原名の のでは、原名の に、原名の のでは、原名の に、原名の のでは、原名の に、のでは、 に、原名の のでは、 に、原名の のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは	捕 聚
	要さわるいは 標高較差 平坦性	-17 -20 -2 -3 3mプロフィル メーター - (p.2.4mm以下 厳族式を行き) (p)1.75mm以 1	に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満た す計測方法により出来形管理を実施する場合 に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には計測精度として	等においては、平组性の項目を省略することが出来る。 工事限度の考え方 中規模以上の工事とは、1層当たりの施工面 情が3,000m/以上とする。 小規模工事とは、施工面積が1,000m/未費 とする。 延長が100m・規模の輸集、また法律打工事 においては、単規性の項目を信事することが		12 アスファルト舗装工 (表層工) (面管理の場合)	厚さあるいは 様高較差 平坦性	-17 -20 -2 -3 3mプロフィル メーター - 6以2.4mm以下 高度状況を持ち (σ)1.75mm以下	1. 3次元データによる出来形管理において13 次元計画技術を用いた出来形管理要額(第1) に基づき出来形管理を実施する場合、その他 に基づき出来形管理を実施する場合、その他 連鎖件が必要が表現します。 に適用するが設備を関係を実施する場合、との他 に適用するが表現します。 生場のがまれている。 ・ 計画は設準によります。計画を変はまたの2 で標高度を算出する。計画を度は1点/の2 で標高度を算出する。計画を度は1点/の2 ・ 「標高度を算出する。計画を度は1点/の2 ・ 「標高度を算出する。計画を度は1点/の2 ・ 「標高度を算出する。計画を度は1点/の2 ・ 「理るを算している。」 ・ 「理るを算している。」 ・ 「理るを構造を算している。」 ・ 「理るとしている。」 ・ 「理るといる。」 ・ 「理るといる。 「理ると、 「理ると、 「理ると、 「理ると、 「是。 「是。 「是。 「是。 「是。 「是。 「是。 「是。	等においては、平根性の項目を省略することが出来る。 工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、1層当たりの施工画 情報が1,000㎡以上とする。 が現象工事とは、施工面積が1,000㎡未満 とする。 第長が100m未満の輸業、また注紙行工事 においては、平規化の項目を名略することが	

							ш .	de.	bir								40	100					
						,	規 材		値	1							規	-	値				
縅	章 笛	条	枝番	工 種	測定項目		測定値 X)	の平 ※面管	の測定値 均(X ₁₀) 理の場合 値の平均	測定基準	测定箇所	摘 要	編章	節	条 枝番 工 種	測定項目	個々の測: (X)	定値	10個の の平均 ※面管理 は測定値	(X ₁₀) の場合	測 定 基 準	測定簡所	摘 要
						中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下								中規模 小以上 」			小規模 以下			
3	2 6	8	1	半たわみ性舗装工	基準高 ▽	±40	±50	-	-	基準高は、延長40m年に1ヶ所の割とし、道路 中心線及び端部で測定。 厚さは、各車線(40m年に右、中、左、を交互	中規模以上の工事とは、1層当たりの施工面		3 2	6	8 1 半たわみ性舗装工	基準高 ▽	±40	±50	-	-	基準高は、延長40m年に1ヶ所の割とし、道路 中心線及び端部で測定。 厚さは、各車線(40m年に右、中、左、を交互	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、1層当たりの施工面 線が1,000㎡以上とする。	
	一 一般 解解 解			(下層路盤工)	厚さ	-45	-45	-15	-15	に)1ヶ所を掘り起こし測定。 幅は、延長40m毎に1ヶ所の割に測定。	小規模工事とは、 着工面積が1,000㎡未満 とする。		土 一 般 工 施	一般舗	(下層路盤工)	厚さ	-45	-45	-15	-15	(C) 1ヶ所を掘り起こし測定。 幅は、延長40m毎に1ヶ所の割に測定。	小規模工事とは、 着工面積が1,000㎡未満 とする。	
	工装工				幅	-50	-50	-	-	「3次元計測技術を用いた出来形管理要領 (業)」の規定による測点の管理方法を用いることができる。	厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の 割合で規格値を満足しなければならないとと もに、10個の測定値の平均値(X10)につい		事 工			幅	-50	-50	-	-	(案)」の規定による測点の管理方法を用いるこ	厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の 割合で規格値を満足しなければならないとと もに、10個の測定値の平均値(X10)につい	
編											6に、10個の側を他の平均値(X10)につい て満足しなければならない。ただし、厚さの データ数が10個未満の場合は測定値の平 均値は適用しない。		編						·			らに、10個の制定値の平均値(X10)につい て満足しなければならない。ただし、厚さの データ数が10個未満の場合は測定値の平 均値は適用しない。	
		8	2	半たわみ性舗装工	基準高 ▽	±90	±90	+40 -15	+50 -15	1. 3次元データによる出来形管理において「3 次元計測技術を用いた出来形管理要領(業)」 に基づき出来形管理を実施する場合、その他	中規模以上の工事とは、1層当たりの施工面				8 2 半たわみ性舗装工	基準高 ▽	±90	±90	+40 -15	+50 -15	1. 3次元データによる出来形管理において「3 次元計測技術を用いた出来形管理要領(業)」 に基づき出来形管理を実施する場合、その他	中規模以上の工事とは、1層当たりの施工面	
				(下層路盤工)	厚さあるいは 標高較差	±90	±90	+40 -15	+50 -15	本基準に規定する計測精度・計測密度を満た す計測方法により出来形管理を実施する場合 に適用する。	小規模工事とは、施工面積が1,000㎡未満				(下層路盤工)	厚さあるいは 標高較差	±90	±90	+40 -15	+50 -15	本基準に規定する計測精度・計測密度を満た す計測方法により出来形管理を実施する場合 に適用する。	小規模工事とは、施工面積が1,000㎡未満	
				(面管理の場合)						2. 個々の計画機の規格能に計計期構度として 上的mmが含まれている。 3. 計画は設計幅局の内側を面比し、全ての点。 4. 可能は設計幅局の内側を面比し、全ての点。 研修表面値当たり以上とする。 4. 写さは、底下海の標高値とは接近の概高値 との弦で算出する。 で変で算出する。 で変で算出する。 で変で算出する。 で変で算出する。 で変が異なる。 で変がまる。 で変がななる。 で変がなななななななななななななななななななななななななななななななななななな					(施管理の場合)						2. 個本の計劃艦の規格値には計劃構度として 注的面部的含土化であ。 3. 計測は設計幅員の内側を面とし、全での点。 2. 計測は設計幅員の内側を面とし、全での点。 確構態能を単加さ、計劃密度は1点を加ると は、一型は、直が開始当たり以上とする。 4. 厚さは、底下の機高板を出る場合と との差で裏出する。 に見る機高さ、底下の機高板差形均値十 下層の目標高さ・底下層の標高板差形均値十 表示の評価は名輪やる。 2. の場合 を表示の評価は名輪やる。		

_																																						
						規	格	値																		規	格	値										
86 A	t 飾	条 枝番	工 種	測定項目	(:)測定値 X)	の平 ※面管 は測定	の測定値 :均(X ₁₀) :理の場合 :値の平均		測 3	主基	绑	測	定	簡	所	摘要	編	章 節	条 枝	審	I (極	測定項目	(測定値 X)	の平 ※面管 は測定	測定値 均(X ₁₀) 理の場合 値の平均		定	基	鄉		測	定	箇所		摘 要
					中規模 以上	小規模 以下	中規模以上																		中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下										
3 2	6	8 3	半たわみ性舗装工	厚さ	-25	-30	-8	-10	幅は、延長 車線 (402 を掘り起こ	毎に右、	中、左、右	削とし、厚さは ・交互に) に1-	各 工事規模の 新 中規模以上の 種が1,000ml	り工事と	とは、1層当	当たりの施工面		3	2 6	8 3	3 半たね	わみ性舗装工	-	厚さ	-25	-30	-8	-10	幅は、延長40 車線(4022年) を掘り起こして	右、中、	所の割る 左、を交	とし、厚さは、 E互に) に1ヶ	-所 中規		事とは、	1層当たりの施	- iái	
土 一			(上層路盤工) 粒度調整路盤工	幅	-50	-50	-	-	「3次元計	測技術を	用いた出	来形管理要領	小規模工事と			F1,000血未満		土木	一 一般 般 編			育路盤工) 変調整路盤工		幅	-50	-50	-	-	「3次元計測技	術を用い			小規とす	現其事とは		樹が1,000㎡オ	.	
	舗装工								(楽)」の規とができる。		側点の管	理方法を用いる	厚さは、個々 割合で規格信 もに、10個の で満足しなけ	道を満足 削定値の ればない 個未満	としなけれ の平均値 らない。た 觜の場合は	は9個以上の はばならないとと ((X10)につい ただし、厚さの は測定値の平			施 舗工 装工工							I			(紫)」の規定に とができる。	よる測点	の管理力	方法を用いる	厚さ 割合 もに デー	で規格値を 、10個の測 足しなけれ	満足した を値の平 ばならな 未満のな	10個に9個以上 ければならない 肉値(X10)につ い。ただし、厚さ 合は測定値の	とと い の	
			半たわみ性舗装工 (上層別整工) 粒皮調整路盤工 (面管理の場合)	厚さあるいは 標高較差	-54	-63	-8		次元基基計画 に本すに2.個のmが 3.計画の 2.個のmが 3.計画の 3.計画の 4.との 5.厚さを 4.との 5.厚さを 4.との 5.厚さを 4.との 5.厚さを 4.との 5.原さを 4.との 5.原さを 6.のの 6.0の 6.0 6.0 6.0 6.0 6.0 6.0 6.0 6.0	技術来デオリス 技出規法の計会と対して のでしまいまでは、 のでしまいまでは、 のでしまいまでは、 のでしまが、 のでしまいまでは、 のでしまでは、 のでは、 のでは、 のではなななななななななななななななななななななななななななななななななななな	いた出来記 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ に を に の の ・ の の ・ の ・ の ・ の ・ の ・ の ・ の ・ の ・ の ・ の ・ に し に の の に の に の に の に の に の に の に の に の に に の に の に の に に の に の に に の に に の に に に に に に に に に に に に に	修管理要領(集 でる場合、その演 を実施する場合度を場 にを実施する場 にを実施する場 にを実施する場 にを実施する場 にを実施する場 をでの では1点/m2 5。 当該層の標 は する場差平均 は 対 が 表 が 表 が 表 が の 、 、 、 、 当 は 、 、 、 、 当 は 、 、 、 、 当 は 、 、 、 当 は 、 は 、	で 点 平 値	D工事と 以上と	とは、1層≅ する。					8 4	(上層 粒度	わみ性舗装工 質路盤工) 皮調整路盤工 理の場合)	-	厚さあるいは 標高較差	-54	-63	-8	-10	次元計測技術に基づき出来	を用いたとう を修すより値れていたとう 値の切りのでいた。 値がは、 値がは、 がは、 がは、 がは、 がは、 がは、 がは、 がは、	出来精学 6値。明測する 2 年の標準の 1 年の 1	場合、その他 場密度を満た 計測に 計測に 計測に とし、全ての点 は1点、全ての点 は1点、一般である。 直面の標高に る場合平均値 る場合平均値)) 中機が規 ・大会で 点(平 値 重	見模以上のコ 5 1,000㎡ 以 見模工事とは	事とは、 上とする	1層当たりの能・ 積が 1,000㎡ 東		

編章	節	条 枝番	工程	測定項目	個々の? (X 中規模	測定値 ()	10個の測定値 の平均(X _{1a}) ※面管理の場合 は測定値の平均 中規模 小規模 以上 以下	測定基準	测定筒所摘要	福水	節 绵	条 枝番	香 工 種	測定項目	規 個々の測定値 (X) 中規模 小規 以上 以	直 の ※面 は測: 模 中規	の測定値 平均(X ₁₀) 管理の場合 を値の平均	測定基準	测定箇所	摘 要
3 2 一般施工	一般舗	8 5	半たわみ性舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰) 安定処理工	厚さ	-25 -50	-30 -50	-8 -10	報注、銭長40m 除に1ヶ所の帯化し、原会は、 1,000m代に制御の割でコアーを採取もしくは織り 起こして測定。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要額 (款)」の規定による側点の管理力法を用いることができる。	積が1,000㎡以上とする。 小規模工事とは、施工面積が1,000㎡未満 とする。	3 土木工事共通編	一般舗	3 5	半たわみ性舗装工 (上層解整工) セメント(石灰) 安定処理工	厚さ	-25 -3i		-10	幅は、接長40m 第21ヶ所の割とし、厚さは、 1,000㎡に計算の割でコアーを採取らしくは頼り 起こして測定。 「3次元計削技術を用いた出来形管理要領 (後)1の規定による側点の管理方法を用いることができる。	積が1,000m以上とする。 小規模工事とは、施工面積が1,000m未満 とする。	
		8 6	半たわみ性舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰) 安定処理工 (面管理の場合)	厚さかるいは 標高較差	-54	-63	-8 -10	1. 3次元データによる出来形管理において「3 次元計測技術を用いた出来形容理要(出 以下は高さ出来形容理要(出 対する) 大工能のでは、1000円 大工能のでは、1000円 大工能のでは、1000円 大工能のが、1000円 大工能のが、1000円 大工能のでは、1	中規模以上の工事とは、1階当と9の施工面 権が 1,000㎡以上 とする。 小規模工事とは、施工面積が 1,000㎡未練 とする。		8	3 6	平たわみ性舗装工 (上層路盤工) セパト(石灰) 安定処理工 (面管理の場合)	原さかろいは標高較差	-54 -6	3 -8	-10	1. 3次元データによる出来形管理において「3 次元計解技術を用いた出来形管理要額(案)」 に基づき出来が簡単を変象策で3条6 その他 本基準は態定する計画情度・計画態度を流た では、100mが高半が100mをである。 に適用する計画館の規格能は計画構度として 2.0mmが含まれている。 3. 計画は設計帳筒の特格能は計画構度として 2.0mmが含まれている。 3. 計画は設計帳筒の特格能は計画構成として で掲書値を集出する。計画を出版一級である。 中間を影響を開発した。全のある 中間を影響を開発します。 中間を影響を開発した。 一定を 第二回標の標準を 2.0元で 第出する。 一定で 第出する。 一定で 第出する。 一定で 第二回標を 2.0元で 第出する。 2.0元で 第出する。 2.0元で 第出する。 2.0元で 第出する。 2.0元で 第出する。 2.0元で 第出する。 2.0元で 第出する。 2.0元で 第出する。 2.0元で 第出する。 2.0元で 第出する。 2.0元で 第出する。 2.0元で 第出する。 2.0元で 第出する。 2.0元で 第出する。 2.0元で	中規模以上の工事とは、1層当たりの施工面 積が1,000m以上とする。 小規模工事とは、施工面積が1,000m未満	

							規	格	值																						規	格	値													
846	能節	条本	枝番	工 種	測定項目)測定値 X)	の平 ※面管 は測定	の測定値 P均(X ₁₀) 管理の場 E値の平	合均		測定	25	: 2ps			測元	定値	箇 所		摘 要	編	章 質	ő A	た 枝番		I	種	測定項	E .	■々の測定((X)	直 ※ は	10個の測 の平均(面管理の 測定値の	X ₁₀) D場合 D平均	測	定	基	201			測 :	定(i Pr		摘 要	Į.
Ш						中規模以上	小規模 以下	中規相 以上	英 小規 以7	<																					規模 小規 人上 以			以下												
3	2 6	8	7	半たわみ性舗装工	厚さ	-15	-20	-5	-7	1,00						工事規模の 中規模以 積が1,000	上の工事	事とは、1	層当たりの施	工調		3	2 6	6 8	3 7	半たね)み性舗	装工	厚	<u>.</u>	-15 -2	0	-5		幅は、延長 40± 1,000㎡に1個の 起こして測定。				は掘り	工事規模 中規模以 積が1.000	上の工事	Fとは、1	層当たりの別	江面		
	一 一 般 額			(加熱アスファルト 安定処理工)	46	-50	-50	-	-	138	大元計測	 技術を用				小規模工具とする。	手とは、月	施工面和	iiが1,000㎡				一 一般 新施 新				アスファ 5理工)		46	-	-50 -5	0	-	-	「3次元計測技				要領	小規模工	事とは、	施工面	直が 1,000 mi			
上事共通編									1) 」の規類 できる。	Eによる側	点の管	理方法を	かるこ	割合で規 もに、10個 で満足した データ数か 均信は選取 場面舗装	各値を満 の測定信 ければ 10個未 見しない まについ 夢でコア 恐れの	満足しない 値の平式 ばならない 未満の場 いて アー採取	10個に9個以 ければならな 均値(X10)に っ。ただし、厚 合は測定値。 により床版等 合は、他の方	いとと つい さの p平			ME #												(楽)」の規定に とができる。	よる測点	の管理力	方法を用		割合で規模 もに、10個 て満足した データ数点 コアー機両舗装	格値を選 はければ が10個未 所しない 毎でコア 5恐れの	高足しない 値の平りならない で満の場 いて 採取	0個に9個以 ければならな 好値(X10)に っ。ただし、厚 合は測定値 により床版等 により床版等	いとと つい さの の平		
		8	1	半たわみ性舗装工 (加熱アメファルト 安定処理工) (面管理の場合)	厚さあるいは標高較差	-36	-45	-5	-7	次元差計道 本計道 2.11 3.7 (表表記 4.5 (表表記 5.5 (表記 5.5 (表記 (表記 5.5 (表記 (表記 (表記 (表記 (表記 (表記 (表記 (表記	后計測技 に計測技 に対き に対き に対き に対します。 に対しまする にもしまる にもる にもる にもる にもる にもる にもる にもる にも	術を用い 来形ではより出す により出す はまればしの はまればしてい が算出たり のが が算出たり のが のが のが のが のが のが のが のが のが のが	たと明常 格る内計上高 下層の計上高 下層の	形管場測実・計画とは 主に を を を を に に に に に に に に に に に に に	領(案)」 (その) (その) (まを) (まを) (まを) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本	積が 1,000 小規模工 とする。	上の工事 加以上	事とは、1 ととする。	層当たりの競 (綾が 1,000㎡					8	8	(加熱安定)	のみ性舗 デスファ 心理工) 理の場合	ルト	厚さかるの様		-36 -4	5	-5		1. 3次元デデ が元計画技術形成 北基づき出現定に 本基準則方法と。 連貫中の計 大きな 大きな 大きな 大きな 大きな 大きな 大きな 大きな	と用いたと 管理理測制 直の規格る。 もいの。 はているの。 はいの。 というの。 といる。 というの。 といる。 とい。 といる。 といる。 といる。 といる。 といる。 といる。 といる。 といる。 といる。 といる。 。 といる。 とい。 といる。 とい。 といる。 といる。 とい。 とい。 といる。 といる。 とい。 とい。 とい。 とい。 とい。 とい。	出来施度・理 ・ 本施度・理 ・ 信 ・ 信 ・ 信 ・ 信 ・ 信 ・ 信 ・ 信 ・ 信	所理要の の の で 場別実 計 とは 該 場を 観えた。の の の の の の の の の の の の の の	『(案)」 『そを満場をという。 『その満場をという。 『で、本ので、本ので、本ので、本ので、本ので、本ので、本ので、本ので、本ので、本の	中規模以 積が1,000 小規模工	上の工事 0㎡ 以上	事とは、! :とする。	層 当たりのが 責が 1,000 zd			

編章	節	条 枝番	工種	測定項目	規 個々の測定 (X) 中規模 小規 以上 以	※面管理の場合 は測定値の平均 棟 中規模 小規模		測 定 箇 所 捕 要	編章節			測定項目	規 個々の測定値 (X) 中規模 小規模 以上 以下	※面管理は は測定値 専 中規模 /	X10) 砂場合 砂平均 以模 以下	測 定 基 準 概は、延長 40m 師に1ヶ所の割とし、厚さは、	測 定 箇 所	摘要
3 2 一般施工	一般舗	8 9	半たわみ性舗装工 (基層工)	厚さ	-9 -1 -25 -2		1,000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領	中規模以上の工事には、1周報とかの施工面 様がよりの面が以上とする。 小規模工事とは、施工機能がよりのの加木糖 とする。 様々の商産を値が10個に3個以上の 別分で規格値を構成しなければからないとい で満足しなければからない、ただし、厚さの デーク者が10個素物の場合は消定値の平 均値は適用しない。 援助機能等でコアー採取にりま成等に損 援助を与える後につから場合は、他の方法によ るこか出来る。	2 6 一般施工 2 一般施工 工事共通編		9 半たわみ性舗装工 (基層工)	原 さ	-9 -12 -25 -25			1,000㎡に1個の新でコアーを採取して衝定。 「3次元計劃技術を用いた出来形管理要額 (等)の規定による副点の管理が法を用いることができる。	中機度以上の工事には、国書上のの属工商 がよりのの配別と上する。 小規模工事は、施工商館が、1,000 個大事 とする。 なの書館がい時間に可解した。 では、企業の書館がい時間に可解した。 で満足しな行ればならない。 で、一度をはいればならない。 で、一度としな行ればならない。 が、日本に、原さの ・一度にしないて、 福価経験等でコアード展形に力に関係では、 権価機能等でコアード展形に力を係る。 企とが出来る。	
			半たわみ性緒装工 (基層工) (画管理の場合)	厚さあるいは 標高較差	-20 -2	5 -3 -4	1. 3次末データに占出来軽管理において18 充元計劃技体形 いた出来等等要を顕立。 な元計制技体形態 中心 七黒米等要を顕立。 に基づき出来形容形を水施する場合、その他 に適用する。 に適用する。 2. 個本の計劃値の規格低には計割構度とは、 4 4mmが含まれている。 3. 計劃は設計幅員の判断を置と、全での点で構高値を算出する。計劃は設計を開入の2年 4 原文は、直下の場面を当まり以上とする。 4. 原文は、直下の場面を当まり以上をなる。 年間の場面を出る時間を対している。 を記されている。 第一間の場面を出る時間をは、直で を記されている。 まで、自然では、自然では、自然では、自然では、自然では、自然では、自然では、自然で	中規模以上の工事とは、1層当たりの施工面 積が 1,000m 以上とする。 小規模工事とは、施工面積が 1,000m未満		8	10 半たわみ性舗装工 (基曜工) (馬曜工) (面管理の場合)	厚さかろいは様高較差	-20 -28	-3		1. 3次天デー外にと出来形容無において「3 太子清積技体を開いた出来形容無なは、) に基う会出来形容理を実施する場合、その他 は基立と出来形容理を実施する場合、その他 適用する。 2. 個本の計画値の、対象を開めませる場合 に適用する。 4. 血血が含ませている。 3. 計測は設計組長の内側を語とし、全での点 で構築自体と呼びませない。 4. 厚立は、直下の機高を実施する場合 との差で襲出する。 5. 厚之を構造の機高をと当ま隔の標高値と対象の が、変化が、変化が、変化が、変化が、変化が、 方。厚之を構造を発して評価する場合は、直 下層の目標高さく直下層の標高を発力値十 設計を集まる高さとの光とする。	中規模以上の工事とは、1層当たりの施工面 積が1,000m以上とする。 小規模工事とは、施工面積が1,000m未満	

編章	節 条	枝番	工 程	測定項目	個々の ()測定値 X)	各値 10個の測定値 の平均(X ₁₀) ※面管理の場合 は測定値の平均 中規模 小規模	測定基準	測 定 箇 所 捕 葵	福章	節条	枝番 工 種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定値	測定基準	測定簡所	摘 要
3 2 一般施工	一 般 舗		平たわみ性舗装工 表層工)	厚 さ 幅 平坦性	以上 -7 -25	-9 -25	以上 以下 -2 -3		工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、1個当たりの施工画 様が1,000ml/Lとしても。 かり機模工事とは、施工商権が1,000ml/素値 とする。最小の前距離が10個の間以上の 厚なに最高性能が10個の間以上の 原なに、10個の前距離の平均低が10円につい て満足しなければならない、ただし、展生の データ機が10個素膜の場合は1個定値の平 均値は適用しない。 低面離接等でコアー接限に上り床板等に損 機合をよる意味のある場合は、他の方法によ ることが11年で、大変には 変差が100ml/素値機能を発きています。 変差が100ml/素値機能をよるないのも3億倍に 素差が100ml/素値機能をよるないのは100ml/素値機能をよるなが100ml/素値機能をよるないのは100ml/素値機能をよるは100ml/素値機能をよるないのは100ml/素値機能を表されては、平型性の項目を各略することが11年では、平型性の項目を各略することが11年では、1年間位の項目を各略することが11年では、11年では11年では11年では11年では11年では11年では11年で	3 2 一般施工	一般舗	11 半たわみ性舗装工 (表層工)	厚さ幅	以上 以下 -7 -9 -25 -25	-2 -3	幅は、延長40m時に1ヶ所の新とし、厚さは、1,000mfに1個の新でコアーを採取して測定。 「3次元計劃技術を用いた出来形管理要領 (家)の規定による創点の管理方法を用いることができる。	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、1層当たりの施工 網が1,000mf以上とする。 小規模工事とは、施工面積が1,000mf末線 とする。最くの前で値が10個に関連したの 厚まは、現本面積が20mf2位にいたした。 に、10個の前で値が10個に対したつか。 で、10個の前で値が10個に対したつか。 で、10個の前で値が10個に対したつか。 で、10個の前に使い、ただし、厚なの 対域は、適用しない。 低面翻接等でコケー性限により床底等に指 極を与なる形式からがは、他の方法によ るこが加索な。 基を対していて 基を身とののから場合では、他の方法によ るこが加索な。 基本分10mm末線の離鉄、または維持工 単には、では、平域性の項目を名略するこ	
	8	(半たわみ性舗装工 表層工) 面管理の場合)	厚さあるいは 標高較差 平坦性	-17	-20	-2 -3 3mプロフィル メーター (g)2.4mm以下 直読式足付き) (g)1.75mm以下	に基づき出来形管理を実施する場合、その他 本基準に規定する計測精度・計測密度を満た す計測方法により出来形管理を実施する場合 に適用する。	中規線以上の工事とは、1層当たりの施工面 積が1,000m/以上とする。 小規模工事とは、施工面積が1,000m/未續 とする。 延長が100m未續の輸施、または維持工事 においては、平组性の項目を電影することが		8	12 半たわみ性舗装工 (表層工) (面管理の場合)	厚さかるいは 標高較差 平坦性	-17 -20	-2 -3 3mプロフルル メーター (a) 2.4mm以下 直談式(足付き) (b) 1.75mm以下	1. 3次元データによる出来形管理において「3 水元計解技術を用いた出来形管理機能、 は高く世界が整色を集めてる場合、その他 本基準は規定する計劃情度・計測態度を満た に適用する。 1800年後期には計測情度として 2. 前面がませいる。 3. 計劃は設計帳員の時格値と加と、全ての点 で構画値を当まする。 3. 計劃は設計帳員の時格値と出る。 4. 解説は設計帳員の時格値と当該層の標準 は、定くの表 ので書画性を出する。計劃を開きた。 で提高値を出する。 対力を対している。 1800年後期によれる。 1800年後年後期によ	中規模以上の工事とは、1層当たりの施工面 積が1,000m(以上とする。 小規模工事とは、施工面積が1,000m(未満 とする。 延長が100m未満の輸業、または維持工事 においては、平坦性の項目を省略することが	

編章	節	条 枝番	工種	測定項目	個々の(:	測定値 X)		測定値 切(X ₁₀) 里の場合 直の平均 小規模	測定基準	測定箇所頻要	編章	節多	条枝	番 工 種	測定項目	中規	の測定値 (X) 集 小規相	の平 ※面管 は測定 中規模	の測定値 均(X ₁₀) 理の場合 値の平均		測定簡所	摘 要
3 2 一般施工	論		排水性舗装工 (下屬路盤工)	基準高 ▽ 厚 さ	以上 ±40 -45 -50	0.1	以上 - -15 -		基準高は、延長40m師に1ヶ所の割とし、道路 中心機反り端節で前送。 東空は、春年線(40m前に右、中、左、を交互 足1ヶ所を御り起こし創定。 は1、近天40m 底に1ヶ所の割に測定。 (3次元計劃技術を用いた出来帯管理要領 (3)の規定による調点の管理が法を用いることができる。	中規模以上の工事とは、1層当たりの施工面 額が1,000㎡以上とする。 小規模工事とは、 加工面積が1,000㎡未満 とする。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の	土一般	一 般 舗	9 1	排水性肺袋工 (下層路盤工)	基準高 ▽ 序 さ			-15	-	基準高は、延長40m年に1ヶ所の割とし、道路 中心・線及び端部で削定。 球では、各年線(40m年14 右、中、丘、を交互 に1ヶ所を衝か能とし続定。 141は、延兵40mに1ヶ所の割に測定。 123た元計劃技術を用いた出来新管理要領 (数)1の規定による測点の管理方法を用いることができる。	中規模以上の工事とは、1層当た9の施工面 額が1,000㎡以上とする。 小規模工事とは、 施工面積が1,000㎡未満 とする。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の	
			排水性舗装工 (下層路盤工) (面管理の場合)	基準高 ▽ 厚さあるいは 標高較差	±90 ±90		+40 -15 +40 -15	-15	1. 3次元デー外にも出来形響側において13 次計制資料を用いて出来等等型機能で がよう計制技術と関係を関係を対象が に基づき出来形容理を実施する場合、その他 に関小する。 に創叶する。 1. 10mmが含まれている。 3. 計削は設計幅員の内側を値には計削精度と比て で構成を展出している。 3. 計削は設計幅員の内側を語とし、全での点 で構成を展出している。 4. 厚立は、直下の構造を対象が との変で裏出する。 5. 厚之を構造を対象が との変で裏出する。 下層の目標高とする。 下層の目標高とする。 5. 厚之を構造を変化が である。 2. 原本を構造を変化が を必定で裏出する。 2. 原本を構造を変化が を必定で裏出する。 2. 原本を構造を変化が を変化が を変化が を変化が を変化が を変化が を変化が を変化が	中規模以上の工事とは、 国 当とかの施工面 補が ,1000世 以上せす。 小規模工事とは、施工面積が 1,000世末時 とする。		•	9 2	: 排水性舗装工 (下層路盤工) (面管理の場合)	基準高 ▽ 厚さあるいは 標高較差	±90		-15	-15 +50 -15	1. 3次元データに占出法界管理において16 元計削減体を用いて出来等管理機能(2) に基づき出来形容形を水値する場合、その他 に基づきたが計削線を計削減を影響を ・注離円かにより出来形容理を米値する場合、との に適用する。 2. 個本の計劃艦の規格低には計削精度と比で 10mmが含まれている。 3. 計削は設計幅長の判側を置とし、全での点 で構高値を算れている。 4. 厚さは、直下層で構動とははよりによっ加(平 4. 厚さは、直下層で構動とはよりによっ加(平 4. 厚さは、直下層で構動とはよが に対している。 ・原と自動・一般で構造を対して評価する場合は、直 下層の目標高さー直下層の増高越を差平が値十 が開かりませた。この場 会が計算ならからあるとの差とする。この場 合、基準雨の評価に着軽する。	中規模以上の工事とは、1層当たりの施工面 積が1,000m以上とする。 小規模工事とは、施工面積が1,000m未満	

編章	節	条 枝番	工程	測定項目	個々の(:	測定値 X)	10個の の平 ※面管 は測定	値の測定値 の測定値 の別に値 の場合 がはの平均 が規模 以下		測				測定簡所	摘 要	編章節	. 条	枝番	: 工 種	測定項目	ф;	規 (X) 規模 小(上 し	定値	10個の の平均 ※面管理 は測定値 中規模 以上	測定値 り(X10) 星の場合 直の平均		定						简	所	摘 要
	_	9 3	排水性舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚さ	-25 -50	-30 -50	-8	-10	車線(40) を掘り起こ 「3次元計	☆ 毎に右、 こして測定 上して測定 上測技術を 見定による	中、左、 用いた出	を交互 未形質	Eに) に1ヶ月 管理要領	・工事規模の考え方 中規模以上の事とは、「層当たりの施工面 標が1,000m(以上とする。 中規模以上の上でする。 小規模工事とは、進工研模が1,000m(以上の 等され、個々の測定値が10個に9個以上の 割合で規格板を満足しなければならない。ただし、原名の では、「10個の測定の平均値(以)につい で満足しなければならない。ただし、原名の 方面は、近十分である。 第一次数では、10個の測定の平均値(以)につい で満足しなければならない。ただし、原名の 方面は、近十分である。 である。 第一次数でのである。 「一次数でのである。 「一次数でのである。」 「一次数でのである。 「一次でのである。 「一次でのでのである。 「一次でのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでの		3 2 一般施工 2 一般施工 土木工事共通編		3	排水性舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚さ		_	-30 -50	-8	-10	幅は、延尺40m 事は 車線(40m 毎に) を掘り起こして側 「3次元計測技術 (楽)」の規定によ とができる。	3、中、左 定。 を用いた	、を交 出来形	互に) に1ヶ 管理要領	ケ るこ 中積小と厚割もでデ均ゴ橋傷	規模以上の 1,000㎡ 規模以上の 規模な。 は、規模な。 は、規模のは、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	工事とけ、 加満値がは 一般には 一般には では では では でい でい でい でい でい でい でい でい でい でい	たる。 工面積が1 直が10個に しなければ の平均値() っない。たた の場合は 深取により	,000㎡未満	
			排水性舗装工 (上層路鑑工) 計改貨酬整路盤工 (面管理の場合)	厚さあるいは様高較差	-54	-63	-8	-10	次元 本すに 2 日 2 日 3 日 3 日 3 日 5 日 5 日 6 日 5 日 6 日 7 日 7 日 7 日 7 日 7 日 7 日 7 日 7 日 7	技術形すり 対出規定は、 の計算とは の計算を がは の計算を はいである。 では、 の計算を はいである。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	いた出来施度 計来形管 規格る。 規格る。 側が が が が が が が が が が が が が が	形管場測実 計 とは	里安領(案) (案) (案) (表) (表) (表) (表) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本	- z			9		排水性解製工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工 (画管理の場合)	厚さあるい。様高較差		54	-63	-8	-10	1. 3次元データー が元計を表示されている。 大元を表示されている。 大元を表示されている。 大元を表示されている。 大元を表示されている。 大元を表示されている。 大元を表示されている。 大元を表示されている。 大元を表示されている。 大元を表示されている。 大元を表示されている。 大元を、 大元を、 大元を、 大元を、 大元を、 大元を、 大元を、 大元を、 大元を、 大元を、 大元を、 大元	用いた出実精彩 の規格る。 ののでは、ののは標本ののでは、のののでは、のののでは、のののでは、ののでは、ののでは、ののでは、の	来施度許 紅 川州守値 平の ・ 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	理要領(案) 場合、その他 場合、度を満げる 場合である場合 にし、全ての。 は1点/m2(変層のは、対値 の数差平均 が表示し、	別他 に合 し 点 で 値 直	規模以上の が 1,000㎡ 規模工事と	工事とは 以上とす	- る。		

																								1															
					,	規 柞	8	値																	規	格	恒												
編章	節	条 枝番	工 種	測定項目	(2		の平 ※面管 は測定	の測定値 :均(X ₁₀) :理の場合 :値の平均		測	定	基	286		测定簡所	摘 要	編章	: 第 :	条枝	8	I	租	測定項目		の測定 (X)	直 @ ※ii はii	0個の測 の平均() 面管理の 測定値の	(10) (場合)平均	測	定	基	準		測	定	簡	所	抽	要
					中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	1 小規模 以下																	膜 小類 : 以		規模 小	規模 以下											
3 2	6	9 5	排水性舗装工	厚さ	-25	-30	-8	-10		に1個の			とし、厚さ R取もしくに	t掘り	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、1層当たりの施工面 積が1.000mg以上とする。		3 2	6	9 5	排水	性舗装工		厚さ	-2	-3	0 -	-8	-10	幅は、延長 40± 1,000㎡に1個の 起こして測定。				傷り 中	事規模の: 規模以上の が1.000m	の工事と		当たりの施工面	i	
土 一			(上層路盤工)	幅	-50	-50	-	-	「3次元	計測技術			形管理要	30	小規模工事とは、施工面積が1,000㎡未満 とする。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の		土 一 般 在	般			路盤工)		幅	-50	-5	0	-	- 1	3次元計測技 (案) の規定に				Į.	する。			1,000 ㎡未満		
工事共通編			セメハ(石灰) 安定処理エ					1	とができ		上 分詞 点。	グ官項	лиен		深らは、確保が過去型が対明に対明と対象と には、10年の新聞かの平均核ながりとかい で満足しなければからない。ただし、原なの データをが10単次。 が最近、10年の新聞からない。ただし、原なの 均値は適用しない。 横面横撃等でコアー採取により床板等に損 機を与える形式がある場合は、他の方法によ ることが出来る。		工事共通編				シト(石灰) E処理工)			•		1		楽月の規定に とができる。	10周点。	ア百姓力	the Hive	割もてデ均コ機像	合で規格 に、10個の 満足しなけ 一夕数が1 値は適用! アー採取に 面舗装等	値を満足 測定値 ればな 0個未 しないて でコアー れのあ	しなけれ の平均値 らない。 にの場合に 採取に。	に対象らないとと ((X10)につい ただし、厚さの は測定値の平 にり床版等に損、 、他の方法に」		
			排水性舗装工 (上層路盤工) セルル(石灰) 安定処理工 (面管理の場合)	厚さあるいは 標高較差	-54	-63	-8		次に本すに 2. 10mm 測高影さで面 4. と 5. 下層	測技出規法に方すのが含数では が出規法は、 かは がは がは がは がは がは がは がは がは がは が	と用いたと 管理理が にり出来形 直の規格る。 に同る。 に同る。 として に関る。 として に関る。 として に関る。 として に関る。 として に関る。 とした。 に関る。 に関る。 にした。	出来形する 実施度・理 は 金倉 側側する に 重度の に 重度の に 重度の に 重度の に 重度の に 重度の に 重度の に 重度の に できる。 に で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	管理要合、使用である。 は では	楽)」 の満場としの12 の12 の12 (本) 15 16 17 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18	工事組織の考え方。 中規模型上の工事とは、1層当たりの施工語 機が1,000m以上とする。 地域工事とは、施工面積が1,000m(余線 とする。				9 66	(上届セク安)	性舗装工 野路盤工) シント(石灰 定処理工 ・理の場合。		原さかるいは様高較差	-5.	-6	3 -	-8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	こ基づき出来用	と用いたまを と所では と所で という という はいたは を対する はいたは を対する はいたが にいる にいる にいる にいる にいる にいる にいる にいる	来形度・計画を ・ 単一を ・ 単一を ・ 単一を ・ 単一を ・ 単一を ・ 単一を ・ 単一を ・ 一、 ・ 一 、 ・ 一 一 、 ・ 一 、 一 、 ・ 一 、 一 、 ・ 一 、 ・ 一 、 ・ 一 、 一 、 ・ 一 、 ・ 一 、 一 、 一 、 一 、 一 、 一 、 一 ・ 一 、 一 、 一 、 一 、 一 、 一 、 一 、 一 ・ 一 、 一 、 一 、 一 、 一 、 一 、 一 ・ 一 、 一 、 一 、 一 、 一 、 一 、 一 、 一 ・ 一 、 一 、 一 、 一 、 一 、 一 、 一	理要合、実の情報を表現を のの のの のの のの のの のの のの のの のの の	**)」 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	規模以上の が1,000m 規模工事	の工事と	する。	当た9の施工证		

	74.	条 枝番		測定項目	以上以	※面管理の場合 は測定値の平均 で 中規模 小規模 下 以上 以下	標は、延長 40m 毎に1ヶ所の割とし、厚さは、	測 定 箇 所 摘 要	編章節			測定項目	個々の測定 (X) 中規模 小り 以上 り	注値 ※は 規模 中 し下 し	0個の測定値 の平均(X ₁₀) 面管理の場合 測定値の平均 規模 小規模 以上 以下	幅は、延長40m毎に1ヶ所の割とし、厚さは、	測 定 施 所	摘 要
3 土木工事共通編	一般舗		排水性舗装工 (加熱アスファルト 安定処理工)	原名		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	1,000㎡に繋の新でコアーを採取して割定。 「3次元計制技術を用いた出来形容理要額 (素)1の規定による拠点の管理力法を用いることができる。	中規模以上の工事には、1層当上のの施工面 構がよりのの間としたする。 か一規模工事とは、施工面積がよのの間水割 とする。他のの間底値がの間にの間水上の 等かでは極端を確認したければだったないとと 私に、10個の間底値がの事が値に対してつい て満足しなければならない、ただし、厚さの データ数が10個は前上ない。 が して、近に、10年の間により が は、10年の間により 、10年のにより 、10年の 、10年の 、10年の 、10年の 、10年の 、10年の 、10年の 、10年の 、10年の 、10年の 、10年の 、10年の 、10年の 、10年の 、10年の 、10年の 、10年の 、10年の 、10年の	2 6 一般輸装工 2 一般範工 工本工事共通編	k	7 排水性舗装工 (加熱アスファルト 安定処理工)	厚さ		-	-5 -7	1,000mfに14個の例でコアーを採取して測定。 「3次下計削技術を用いた出来形管理要額 (数)」の規定による創金の管理力法を用いたことができる。	中規模以上の工事には、指導とかり第正面 前が、1,000mLと上する。 小規模工事とは、第工面積と1,000mL未等 となる。最小の高速が10個に3回収上の 第合では移植を海足したければたらないと は、1,100mの第三の平均(2,101、円 で、一次で、1,100mの第三の平均(2,101、円 が、1,100mの第三の平均(2,101、円 が、1,100mの第三の平均(2,101、円 が、1,100mの第三の平均(2,101、円 が、1,100mの第三の平均(2,101、円 が、1,100mの第三の平均(2,101、円 が、1,100mの第三の平均(2,101、円 が、1,100mの第三の平均(2,101、円 、1,100mの第三の平均(2,101、円 、1,100mの第三の平均(2,101、円 、1,100mの第三の平均(2,101、円 、1,100mの第三の平均(2,101、円 、1,100 円 、1,100 円	
			排水性舗装工 (加熱アスファルト 安定処理工 (価管理の場合)	厚さめるいは 標高較差	-36 -	5 -5 -7	1. 3改元データにる出来報管理においては 次子計劃技格を用いた出来等等理を顕常等) に基づさ出来が管理を実施する場合、その他 基準に規定する計劃特度・計画都をと満た に適用する。 2. 個々の計劃値の規格値には計制特度として 10mmが含まれている。 3. 計画は設計幅員の内場を面とし、全でめ で概高値を基出する。計画は設計によりました。 4. 原之は、直の関係値には計量の概高値と 人。原之を指導の関係を当該場の構高値 との流で算出する。 5. 所を包集が表して評価する場合は、底 下端の自信標点・ボード端ので調点を を 2. 原文を指導の機能を 2. 原文を構造を 2. 原文を構造を 2. 原文を構造を 2. 原文を構造を 3. 計画に対して 2. 原文を構造を 3. 表記を 3. 表記を 3. 表記を 3. 表記を 4. 原文と 5. 原文を 4. 原文と 5. 原文を 5. 原文を 6. 原文	中規模以上の工事とは、1層当たりの施工面 積が1,000m以上とする。 小規模工事とは、施工面積が1,000m未満		9	8 排水性舗装工 (加熱アメファルト 安定処理工) (面管理の場合)	厚さかるいは 標高較差	-36 -	45	-5 -7	1. 3次末データに占出来将管理において「3 充工滑機体を用いた出来将管理を実施する場合、その他 な高が、大きな計構体を引き、対して は基づき出来が管理を実施する場合、その他 は適用する。 2. 個本の計構像の規格をはは計場特度として 10mmが含まれている。 2. 個本の計構像の規格をはは計場特度とて 10mmが含まれている。 3. 計削は設計幅員の特別を置け、企での点 で構高値を算れている。 4. 厚立は、直下の埋傷をは上計場の標高 になるが、対した。 原型が開始により、 原型がある。 原理がある。 原理がなる。 原理がなる。 原理がなる。 原理がなる。 原理がなる。 原理がなる。 原理がなる。 原理がなる。 原理がなる。 原理がなる。 原理がなる。 原理がなる。 原理がなる。 原理がなる。 原理がな。 原理がなる。 原理がなる。 原理がなる。 原理がなる。 原理がなる。 原理がなる。 原理がなる。 原理がな。 原理がなる。 原理がな。	中規模以上の工事とは、1層当たりの施工面 積が1,000m以上とする。 小規模工事とは、施工面積が1,000m未満	

		-																1				1											
						規	格(値															規	格	値								
編章	節:	条 枝番	工 種	測定項目	()測定値 X)	の平 ※面管 は測定	D測定値 均(X ₁₀) 理の場合 値の平均		測	定	基	2011	测定簡所	摘 要	編章章	節条	枝番	I	租	測定項目		○測定値 (X)	の平 ※面管 は測定	の測定値 -均(X ₁₀) - ・理の場合 -値の平均		定	医 準		測	定 箇	所	摘 要
					中規模以上		中規模以上	小規模 以下															小規模 以下	中規模 以上	水規模 以下								
3 2	6	9 9	排水性舗装工	厚さ	-9	-12	-3						とし、厚さに 取して測分			3 2	6 9	9	排水性舗装工		厚さ	-9	-12	-3	-4	幅は、延長 40元 年 1,000㎡に1個の				工事規模の考え 中規模以上の工 積が1.000㎡以	事とは、1層当	たりの施工面	
土 一			(基層工)	幅	-25	-25	-	-		規定によ			ド管理要領 が法を用い			土 一 未 般 新工 施	般		(基層工)		幅	-25	-25	-	-	「3次元計測技術 (案)」の規定によ とができる。				小規模工事とは、	施工面積が		
工事共通編									en ce	්ට _්				深され、繁化が加速がいが明らか強い。 「東京の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の		事共通編										- 23° CEO.				呼は、個々的語 制合で以外を値を もに、10個の測定 で満足しなければ 労・値は適用しな 対・値は適用しな コアー採取につい 橋面舗装等で式 傷を与える恐れ ることが出来る。	間足しなければ 値の平均値(ならない。た 表満の場合は 、。 、て 、一採取により	まならないとと X10) につい だし、厚さの 測定値の平	
			排水性舗装工 (基層工) (面管理の場合)	厚さめるいは 標高較差	-20	-25	-3		次に基準測に本すに 4.4mm 測高影響に 4.4mm 測高影響に 5.下層 4.5 下層 6.5	剛技術を がは現法と がはを がは を で がは を で がは を で がは で で が は で が は で が は に の が は に の が は に の が は に の が に に に に に に に に に に に に に	用いた出実情形 「の、現の、は、の、は、 の、は、の、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は	来施度計画 は 見りず値 平の標準を は 一のであると 価標の 一手である ままま ままま ままま まままま ままままままままままままままままままま	学理の (3の) 場別実 計 (3の) 表別 (4の) 表別 (40)	点 (平 値			9		排水性舗装工 (基層工) (面管理の場合		摩さかるいは 標高較差	-20	-25	-3	-4	次元計測技術を に基づき出来形象	用いた出演 新きる出来 格値 の規名。の内計とで のの内計とで ののの内 ののの内 ののの内 ののの内 ののの内 ののの内 ののの内 ののの内 ののの内 のののの のののの のののの のののの のののの のののの のののの のののの ののの のののの のの ののの のの ののの の	来形管理会 を重す。 を重す。 を重す。 を主ないる をできると をでをと をできると をでををををををををををををををををををををををををををををををををををを	要領(案)」 (案) (案) (案) (を) (を) (を) (を) (を) (を) (を) (を) (を) (を	z	事とは、1層当 :とする。		

	_	_																					-		_																			
							規	格	値																					Ħ,	1	各值												
縅	章 節	条	枝番	工 種	測定項目	(①測定値 (X)	() () () ()	個の測 の平均() 面管理の 則定値の	X ₁₀) D場合 D平均		測	定	基	排		測	定	箇所		摘要	編章	節	条材	番	I	種	i	測定項目	個々の (X)	10個の制 の平均 ※面管理 は測定値	(X ₁₀) の場合 の平均	ð	川 定	基	排			測 第	芒 箇	所		摘 要
						中規模以上	小規模以下			、規模 以下																				中規模以上	小規模 以下	中規模以上	小規模 以下											
3	2 6	9	11	排水性舗装工	厚さ	-7	-9	-	-2						し、厚さは、 仮して測定。	中規模	見模の考え 	事とは、	、1層当たりの	の施工面		3 2	6	9	11 排力	水性舗装	I	J	厚さ	-7	-9	-2	-3	幅は、延長 4 1,000㎡に1個				制定。	中規模以	莫の考え方 以上の工事 00㎡ 以上:	とは、1層	当たりの施工	iki	
	一 一 般 般 施 舗			(表層工)	P EE	-25	-25		-	-		見定による			管理要領 法を用いる	小規模に とする。	英工事とは、 。	、施工商	面積が 1,000 が10個に9個			土 一般工施	舗		(表	層工)			幅	-25	-25	-	-	「3次元計測! (案)」の規定 とができる。	支術を用 による測	いた出え点の管理	K 形管理要 里方法を用	翻	小規模コ	工事とは、別	包工面積2	が 1,000㎡未 間に9個以上の		
事共通編	五 装工				平坦性		-	メー (σ) 直部	プロフィ ター)2.4mml 売式(足付)1.75mm	ル 以下 付き)		**				割合で もに、1 て 満足 切値は	で規格値を 10個の測定 としなけれた 数が10個 は適用しない	満足した を値の平 ばならな 未満のな	なければなら 平均値(X10) ない。ただし、 場合は測定	らないとと)につい 、厚さの		事共通編	装工						平坦性	-		3mプロフ メーター (σ)2.4mr 直読式(反 (σ)1.75m	n以下 2付き)						割合で対 もに、10 て満足し データ製 均値は通	見格値を満 個の測定値 なければか 女が10個未 歯用しない。	足しなけれる 直の平均性ならない。 満の場合	ればならない。 直(X10)につい ただし、厚さい は測定値の	とと い の	
																橋面舗 傷を与 ることか 延長	i える恐れの が出来る。 が100m末 Sいては、3	アー採用 のある場 に前の値	取により床態 場合は、他の 機器、または の項目を省員	方法によ 維持工																			橋面舗を与えることがに 延長が	とる恐れのは 出来る。 3100m未 いては、平は	- 採取に ある場合に の創装、	より床版等に は、他の方法に ・または維持。 目を省略する	Z.L I	
		9	12	排水性舗装工	厚さあるいは 標高較差	-17	-20	-	-2	-3	次元計測	技術を用	いた出	来形管	里において「 理要領(案) 場合、その他)」 中規模		事とは、	、1層当たりの	の施工面				9	12 排力	水性舗装	I		厚さあるいは 標高較差	-17	-20	-2	-3	 3次元デー 次元計測技術 に基づき出来 	Fを用い	た出来用	管理要够	(案)」	中規模以		とは、1層	当たりの施工	iái	
				(表層工) (面管理の場合)	平坦性		-	メー (σ) 直部	プロフィ ター)2.4mml 売式(足付)1.75mm	以下 付き)	本基準にす計測方に適用する	規定する 法により る。 計測値	計測精 出来形 の規格値	度・計画を記	刺密度を満た 延施する場合 ト測精度とし	た 小規模 合 とする。 て 延長が	³ 100m未补	満の舗引	面積が1,000 装、または 項目を省略	推拧工事						層工) 管理の場	合)		平坦性	-		3mプロフ メーター (σ)2.4mr 直読式(反 (σ)1.75m	n以下 E付き)	本基準に規定 す計測方法に に適用する。 2. 個々の計 ±4mmが含	とする計 こより出す 則値の規	則精度・ ○形管理 格値に	計測密度を実施する	を満た る場合	とする。 延長が1	100元未満	の舗装、	が 1,000㎡未 または維持エ を省略すること	*	
											で標高値 面投影面 4. 厚さは との差で算 5. 厚さを	を算出す 積当たり 、直下屋 車出する 標高較き	る。計)以上と の標高 として記 直下層	削密度に する。 値と当 平価する	:し、全ての, は1点/m2(該層の標高) 5場合は、直 較差平均値 ける。	(平 値 E	5.																	3. 計測は設 で標高を 耐息値で 板。厚差で が が が が が が が が が が が が が	E出する。 当たり)以 下層のを する。 「較差とし 『さ+直"	計測密 上とする 悪高値と て評価 ド層の標	度は1点/ 。 当該層の する場合に 高較差平	'm2(平 原高値 は、直	出来る。					

					規	格	値								規	格 値			
編章	飾	条 枝番	工 種	測定項目	個々の測 (X)	定値	10個の測定値 の平均(X ₁₀) ※面管理の場合 は測定値の平均	測定基準	測定簡所摘	要稱	章 章 節	条 枝	番 工 種	測定項目	個々の測定値 (X)	※面管理の場合 は測定値の平均	測定基準	測定簡所	摘 要
					中規模 /		中規模 小規模 以上 以下								中規模 小規模 以上 以下	中規模 小規模 以上 以下			
3 2	6	10 1	透水性舗装工	基準高 ▽	±50	D	-	基準高は片側延長40m毎に1ヶ所の割で測 定。 厚さは、片側延長40m毎に1億所掘り起こして	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、1層当たりの施工面 積が1.000m。以上とする。	3	3 2 6	10 1	透水性舗装工	基準高 ▽	±50	-	基準高は片側延長40m毎に1ヶ所の割で測 定。 厚さは、片側延長40m毎に1箇所掘り起こして	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、1層当たりの施工面 精が1,000mg以上とする。	
土 一 般			(路盤工)		t < 15cm	-30	-10	序され、片側延長 40m 毎に1箇所編り起こして 測定。 幅は、片側延長 40m 毎に1箇所測定。	根が 1,000世 以上でする。 小規模工事とは、 着工面積が1,000世未満 とする。	土木	一般般		(路盤工)		t < -30	-10	学され、万側延長 40m 毎に1箇所備り起こして 測定。 幅は、片側延長 40m 毎に1箇所測定。	根が 1,000世 以上とする。 小規模工事とは、 施工面積が1,000世未満 とする。	
	舗装工			厚さ	t≧ 15cm	-45	-15		厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の 割合で規格値を満足しなければならないと	非	上 施 贈 芸			厚き	t≧ 15cm -45	-15		厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の 割合で規格値を満足しなければならないと	
福				福	-100	D	-	(案)」の規定による測点の管理方法を用いるこ	ともに、10個の別定値の平均値(X10)について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の	通	Ē			幅	-100	-	「3次元計測技術を用いた出来形管理要領 (業)」の規定による測点の管理方法を用いることができる。	ともに、10個の測定値の平均値(X10)について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の	
									平均値は適用しない。 コアー採取について 様面舗装等でコアー採取により床版等に損 傷を与える恐れのある場合は、他の方法によ ることが出来る。									平均値は適用しない。 コアー採取について 機面舗装等でコアー採取により床阪等に損 傷を与える恐れのある場合は、他の方法によ ることが出来る。	
	•	10 2	透水性舗装工		t < 15cm	+90 -70	+50 -10	1.3次元データによる出来形管理において「3 次元計測技術を用いた出来形管理要額(業)」 に基づき出来形管理を実施する場合、その他	中規模以上の工事とは、1層当たりの施工面			10 2	透水性舗装工		t < +90 15cm -70	+50 -10	1. 3次元データによる出来形管理において「3 次元計測技術を用いた出来形管理要額(案)」 に基づき出来形管理を実施する場合、その他	中規模以上の工事とは、1層当たりの施工面	
			(路盤工)	基準高▽	t≧ 15cm	±90		本基準に規定する計測精度・計測密度を満た す計測方法により出来形管理を実施する場合 に適用する。	小規模工事とは、施工面積が1,000四末槽				(路盤工)	基準高▽	t≥ 15cm ±90	+50 -15	本基準に規定する計測精度・計測密度を満た す計測方法により出来形管理を実施する場合 に適用する。	小規模工事とは、施工面積が1,000㎡未満	
			(面管理の場合)	厚さあるいは	t < 15cm	+90 -70	+50 -10	 個々の計測値の規格値には計測精度として ±10mmが含まれている。 					(面管理の場合)	厚さあるいは	t < +90 15cm -70	+50 -10	2. 個々の計測値の規格値には計測精度として ±10mmが含まれている。		
				標高較差	t≧ 15cm	±90	-15	 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m2(平面投影面積当たり)以上とする。 						標高較差	t≧ 15cm ±90	+50 -15	 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点 で標高値を算出する。計測密度は1点/m2(平 面投影面積当たり)以上とする。 		
								4. 厚さは、広下層の橋高能と当該層の標高能 しか差で算出する 5. 厚さを構高軟差として評価する場合は、直 下層の目標高さ、近下層の目標効差平均値+ 設計厚さから求まる高さとの差とする。 ※歩道舗装に適用する。									4. 厚さは、直下層の標高能と当該層の標高値 との意で第出ける。 5. 厚さを構画を発として評価する場合は、直 下層の目標高さ、由下層の標準必要を 設計厚さから求まる高さとの売とする。 容歩道舗装に適用する。		

															44.15																4-19
							規	格 値															規	格 値							
縅	酢 節	条材	支番	I	極	測定項目	個々の測定値 (X)	※面管理の場合 は測定値の平均	ill	則 定	基 準		測定	至 簡 所	摘 要	編	章 節	市 条:	枝番	I	稚	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定値 の平均(X ₁₀) ※面管理の場合 は測定値の平均	測	定	基 準		測定	簡所	摘 要
							中規模 小規模 以上 以下	0.00															中規模 小規模 以上 以下	中規模 小規模 以上 以下							
3	2 6	10	3 透	後水性舗装工		厚さ	-9		幅は、片側延 厚さは、片側 して測定。				工事規模の考え方 中規模以上の工事。 精が1,000㎡以上と	とは、1層当たりの施工	面	3	2 6	6 10	3 透水	、性舗装工		厚さ	-9	-3	幅は、片側延長 厚さは、片側延引 して測定。				工事規模の考え方 中規模以上の工事と 積が1,000mg以上と	は、1層当たりの施工面	ű
土木工	一 一般 解		(5	表層工)		幅	-25	=	※歩道舗装に	· ** III *				省工面積が1,000㎡未	*		一 一 般 般 施 舗		(表)	層工)		幅	-25	=	※歩道舗装に適	(m.1.4				工面積が1,000㎡未満	'
上事共通編	发 芸工								※歩道離装に 「3次元計測打 (案)」の規定 とができる。	支術を用いた		理要領 を用いるこ	割合で規格値を満 ともに、10個の測定 いて満足しなけれる のデータ数が10個 平均値は適用しな コアー採取について 橋面舗装等でコアー		とっ は の	上事共通 編	工装工	表工							※歩連締装に適 「3次元計測技術 (業)」の規定に。 とができる。	fを用いた		里要領 を用いるこ	割合で規格値を満 ともに、10個の測定 いて満足しなけれる のデータ数が10個 平均値は適用しない 紙面舗装等でコアー 橋面舗装等でコアー		5
		10	4 透	後水性舗装工		厚さあるいは 標高較差	-20	-3	次元計測技術	fを用いた出	来形管理理	要領(案)」	工事規模の考え方 中規模以上の工事。 積が1,000mg以上と	とは、1層当たりの施工	iři			10	4 透水	〈性舗装工		厚さあるいは 標高較差	-20	-3	次元計測技術を	用いた出:	来形管理理	要領(案)」	工事規模の考え方 中規模以上の工事と 積が1,000mg以上と	は、1層当たりの施工品	ű
				表層工) 新管理の場合)					本書館 (日本年本年本年本年本年本年本年本年本年本年本年本年本年本年本年本年本年本年本年	でする計測制では、 対値の規格の 提れている。 計幅員ない。 計を層のは、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 に	度・計測密度・計測密度・計測密度 はには計測 り 全面としい 別金面とは11 が するとの ままる は 場 で あいまる は ままる ままる	態度を満た 値する場合 特度として 、全ての点平 点/m2(平 晶の標高値 場合は、直 会平均値+	小規模工事とは、施とする。	重工面積が 1,000㎡来						層工)	हे				本基準的大学 (本語・ 本語・ 本語・ 本語・ 本語・ 本語・ 本語・ 本語・ 本語・ 本語・	る計測精形 り出来形質 でいるの、 でいるの、 でいるの、 でいるの、 でいるの、 でいるの、 でいるの、 でいるの、 の、 の、 の、 の、 の、 の、 の、 の、 の、	度・計測密 ド理を実 には計測 (には計測) (を度は1) する。 がある。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 で	度を満た 情度として 全ての点平 の標高値 会平均値 会平均値 会平均値 会平均値 会平均値 会平均 会平均 会下が 会下が 会下が 会下が 会下が 会下が 会下が 会下が	小規模工事とは、施	工面積が .1,000㎡樂貨	

							規	格	値																		規	格	値								
縋	fit 節	条本	枝番	工 種	測定項目	(:)測定値 X)	の平 ※面管 は測定	の測定値 均(X ₁₀) 理の場合 値の平均	i i	測定	基	star		測	定値	箇 所	Ħ	商 要	福 章	節	条 枝番	I	f	極	測定項目	個々の測定 (X)	(値) (10個の測: の平均() ※面管理の は測定値の	(10) (10) (10) (10) (10) (10) (10) (10)	測	定	基	\$t.	測定簡所		摘 要
						中規模以上	小規模 以下	中規模以上																			中規模 小規 以上 以			以下							
3	2 6	11		グースアスファルト 舗装工	厚さ	-15	-20	-5	-7				割とし、厚さは、 採取して測定。	中規模は	莫の考え: 以上のエ: 00㎡ 以」	事とは、1	1層当たりの施コ	ini		3 2	6	11 1	グースア 舗装工	スファルト		厚き	-15 -:	20	-5		は、延長 40m 000㎡に1個の				工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、1層当たりの 積が1,000m以上とする。	施工面	
	一 一般			(加熱アスファルト安定処	幅	-50	-50	-	-	(案)」に基	づき出来形	管理を	来形管理要領 実施する場合!	小規模: t、とする。	工事とは、	、施工面和	横が 1,000㎡未			土 一 般			(hoāb z	スファルト名	ta sár An	幅	-50 -	50	-	- (3	3次元計測技術 紫)」に基づき出	来形管	里を実施	する場合は	小規模工事とは、施工面積が 1,000 、とする。		
工事共通編	施 舗装工			(加熱) ペノアルド女に鬼理工)									計測密度を満 を実施すること	が 割合で、 ともに、 いて消し のデータ 平均値 コアー 橋面舗	規格値を 10個の決 としなける 対 を 適用し	満足しなり定値のない。 個未満のない。 いて アー採取	10個に9個以上 にければならない 中均値(X10)ド ない。ただし、 か の場合は測定値 により床版等に 合は、他の方法	とつ時の		工事 施工 地			理工)	~> } // \ / 3	火龙戏					+	要領に規定す 計測方法によ きる。				原され、個々の観光値が10個に6個 影響で根原を建プルとかけた。 とはに、10個の関定性の平均値に かで第日とかければたらない。 のデータ度が10個末海の場合は 平均値は適用しない コニー長形について 振面舗装等でコニー長形により未販 能を与える恐れのある場合は、他の ることが出来る。	ないと 0) につ に、厚さ 定値の	
		11	2	グースアスファルト 舗装工	厚さあるいは 標高較差	-36	-45	-5	-7	次元計測技	技術を用いた	上出来用)」中規模は	以上のエ	事とは、1	1層当たりの施コ	·商				11 2	グースア 舗装工	スファルト		厚さあるいは 標高較差	-36	45	-5	-7 次	元計測技術を	用いた出	来形管	里要領(案)」	3 工事規模の考え方 」中規模以上の工事とは、1層当たりの	施工面	
				(加熱アスファルト安定処理工) (面管理の場合)	White Party.					本すに対して、	規定によって はたる。 計画値のが、 により出 が含ま計画が、 が含まが が合まが のが、 のが、 のが、 のが、 のが、 のが、 のが、 のが	制精管 信 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	を実施する場 は計測精度とし、全ての 度は1点/m2 5。 当該層の標高 する場合は、計 質高較差平均値	た 小規模とする。 で 点(平 値	900㎡ 以山 工事とは、	上とする。、施工面和	養が 1,000㎡ 未							スファルト多	安定処	90.00				本すに 2.±3.で面 4. 5.下	基当準に現代を 基準に対して 基準に対して はでは、 はでは	5計測制 の規格を のたいの内 は し し し の に の の に の の に り の の の に り り の し の し り し る 。 し り し る し し し し し し し し し し し し し し し し	度・計画を実施である。 度・計画を実施では、 直には、面をできる。 は、面をはいますでは、 での標準である。 でのできる。 でのでのできる。 でのでのででのでのでのでで。 でのででのででのででででででででででででで	密度を満た 施する場合 測精度として し、全ての点 1点/m2(3 に層の標高値 場合は、直・ 場合は、直・	たける。 て 夏 平		

						規 柞	各値								規	格	値			
編	能節	条 枝番	工 穣	測定項目	(2	測定値 X)	10個の測定値 の平均(X ₁₀) ※面管理の場合 は測定値の平均	測定基準	測定簡所指	要編	東 節 名	条 枝番	工 穣	測定項目	個々の測定(X)	直 の3 ※面が は測り	の測定値 Z均(X ₁₀) 管理の場合 E値の平均	測定基準	測定簡所	摘 要
					中規模以上		中規模 小規模 以上 以下								中規模 小規以上 以	模 中規	英 小規模 以下			
3	2 6	11 3	グースアスファルト 舗装工	厚さ	-9	-12	-3 -4	幅は、延長 40m 毎に1ヶ所の割とし、厚さは、 1,000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、1層当たりの施工面 積が1,000mg以上とする。	3	2 6 1		グースアスファルト 舗装工	厚さ	-9 -1	2 -3	-4	幅は、延長 40m 毎に1ヶ所の割とし、厚さは、 1,000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、1層当たりの施工面 積が1,000m [®] 以上とする。	
	- 一 般		(基層工)	幅	-25	-25		「3次元計測技術を用いた出来形管理要額 (案)」に基づき出来形管理を実施する場合は、	小規模工事とは、施工面積が 1,000㎡未満 とする。	土木	一一般		(基層工)	幅	-25 -2	5 -	-	「3次元計測技術を用いた出来形管理要領 (案)」に基づき出来形管理を実施する場合は、	小規模工事とは、施工面積が1,000㎡未満 とする。	
	施 舗装工							す計測方法により出来形管理を実施することが できる。	原本は、傷々の需定値がの確に得収上の 動合で現場を重視しなければからないと ともに、10個の限定値の平均値(X10)について開ルとはがはならない。ただし、原省 ので開ルとはがはならない。ただし、原省 マ特値は適用しない。 で、一般形について 指面接接等でコアー長版におり床版等に損 係を与える形式のある場合は、他の方法によ ることが出来る。	工事共通編	施續装工							す計測方法により出来形管理を実施することが できる。	原さは、個々の類性値が10個に9個以上の 総合で規格を確構しなければならないと ともに、10個の別定値の平均値(以10)につ のデータ版が10個末摘の場合は測定値の 平均値は通用しない。 出面端接等でコードを限にわれて版を 他の方法のように 他の方法によった。	
		11 4	グースアスファルト 舗装工 (基層工) (店管理の場合)	摩さあるいは 標高較差	-20	-25	-3 -4	1. 3次元データによる出来形管理において「3 次元計制技術を用いた出来形質理要額(案)」 に基づき出来所管理を実施である。その他 本基準に規定する計画情度・計画研究を流た に適用する計画質の規格能は計測構度として に適用する計画質の規格能は計測構度として ともmmが含まれている。 3. 計画は設計帳筒の対格能は計測構度として の性需角能を開始である計画を加まれている。 4. 平等は、度下面で構高的性格とはよん。全での に可能角能を開始である計画を指しまん。一定 で標高能を単一では、計画では、企でのと 、である。 でで構画を実出した。 では、一定では、一定では、一定では、 できな、 できな、 できな、 できな、 できな、 できな、 のできな のできな、 のできな のできな のできな のできな のできな のできな のできな のできな	中規模以上の工事とは、1層部たりの施工面 補が 1,000㎡以 上やす。 小規模工事とは、施工面積が 1,000㎡未満 とする。		1	1 4	ツースアメファルト 舗装工 (基層工) (面管理の場合)	厚さかるいは標高較差	-20 -2	5 -3		1. 3次元データによる出来形管理において「3 次元計算技術を用いた出来形管理要額(常)」 に基づき出来所需要を実施する場合、その他 本基準に規定する計劃情度、計削額度を満た に適用する計劃館の規格報(は計測制度と協定 に適用する計画館の規格報(は計測制度と協定 に適用する計画館の規格報(は計測制度として よるmのだうまれている。 3. 計測は設計帳員のが側を面とし、全での点 生態の提高を提高した。 4. 厚さは、底下の傾高能では計測制度として に概念を厚め傾着とは、近極の傾高値 との差で裏出する。 原立を標準を表示して評価する場合は、底 下層の目標高をす。底下層の標高較差や筋能+ 設計 厚くかの表まる高ととの差とする。	中規模以上の工事とは、1層当たりの施工面 積が1,000m以上とする。 小規模工事とは、施工面積が1,000m未満	

							規	格	值																	規	格	値							
额	章	节条	枝番	工 種	測定項目	(2		の ※面 は測	の測定 平均(X ₁₀ 管理の場 定値の引		測	定	基	286		測定簡所		摘 要	編章	節	条枝	:番 工	稚	測定	E項目	個々の測) (X)		10個の測定値 の平均(X ₁₀) ※面管理の場合 は測定値の平均	測	定	基	準	測定簡所		摘 要
Ш						中規模 以上	小規模 以下	以上	膜 小排 ; 以	下																P規模 小 以上 1	規模 以下	中規模 小規模 以上 以下							
3	2 6	5 11		グースアスファルト 舗装工	厚さ	-7	-9	-2	-3		福は、延長40 1,000㎡に1個				定。	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、1層当たり 積が1.000m ² 以上とする。	の施工面		3 2	6	11	グースア: 舗装工	マファルト	厚	ż	-7	-9	-2 -3	幅は、延長 402 1,000㎡に1個の	毎に1ヶ り割でコア	所の割。 "ーを採	とし、厚さは、 取して測定。	 工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、1層当たり 積が1,000㎡以上とする。 	の施工面	
土木				(表層工)	幅	-25	-25	-	-	- (「3次元計測技 (案)」に基づき	さ出来形	管理を	実施する場	類 合は、	小規模工事とは、施工面積が1,000 とする。			土 一般			(表層工)			幅	-25	-25		「3次元計測技 (案)」に基づき	出来形管	理を実	施する場合に	小規模工事とは、施工面積が1,00		
上事共通編	施备工业工				平坦性		-	メータ (σ)2. 直読:	ロフィル - 4mm以 な(足付: 75mm以	下 (を)	司要領に規定 す計測方法に できる。				ことが	厚さは、個々の測定値が10個に分 割合で規格値を適足しなければな ともに、10個の測定値の平均値(ない いて調足しなければならない。たた のデータ敷が10個未満の場合は3 平均値は適用しない。 コアー採取について	らないと 10) につ し、厚さ	;	工事共通編					平	坦性	=	í	3mプロフィル メーター (a)2.4mm以下 直読式(足付き) (a)1.75mm以下	同要領に規定 す計測方法に、 できる。					らないと (10) につ どし、厚さ	
																コンー学駅はこか床 橋面舗装等でコアー採取により床 傷を与える恐れのある場合は、他の ることが出来る。 延長が100m未満の舗装、または においては、平坦性の項目を省略・ 出来る。	方法によ 独特工事																コンデ教派とりた 橋面舗装等でコアー採取により床 係を与える恐れのある場合は、他の ることが出来る。 延長が100m未満の健康、または においては、平地性の項目を省略 出来る。	方法によ 推持工事	
		11		グースアスファルト 舗装工	厚さあるいは 標高較差	-17	-20	-2	-:		1.3次元デー 欠元計測技術 こ基づき出来	を用いた	出来刑	/管理要領((案)」	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、1層当たりの	の施工面				11 (がースアン 舗装工	スファルト		oるいは 『較差	-17	-20	-2 -3	 3次元デー: 次元計測技術 に基づき出来升 	を用いたと	出来形智	理要領(案		の施工面	
				(表層工) (面管理の場合)	平坦性		_	メータ (σ)2. 直読:	ロフィル - 4mm以 式(足付) 75mm以	オ ド き) 2 は下 3 で 1 は下 3 で 1 を 2 と 1 に 1 と 1 と 1 と 1 と 1 と 1 と 1 と 1 と 1	本基準に規定 す計測方法に に適用する。	する計画 より出来 り値の切り けれている はたりのは はたりので はたりので はたりので はたりので はたりので はたりので はたりので はたりので はたりので はたした。 として として として として として として として として として として	精管 は 会 側 測 すると 日本 で 層 の 付 と 高 で 層 の 付 と 高 で 層 の 付 と 高 で 層 の 付 と 高 で 層 の 付 と 高 で 層 の 付 と る に 層 の 付 と る に 層 の 付 と る に 層 の 付 と る に 層 の 付 と る に 層 の 付 と る に 層 の 付 と る に 層 の 付 と る に 層 の 付 と る に 層 の 付 と る に 層 の 付 と る に 層 の 付 と る に 層 の 付 と る に 層 の 付 と る に 層 の に	計測密度を を実施する は計測精度 面度は1点/で ら。当該層の標 する報差平5	満場として の点で n2(平 直	頼が1,000m/以上とする。 小規模工事とは、施工品僧が1,000 とする。 総長が100m未満の僧塾、または。 においては、平単性の項目を省略・ 出来る。	±持工事	s				(表層工)		平	坦性	-	í	3mプロフィル メーター (a)2.4mm以下 直跳大(足付き) (a)1.75mm以下	に基本を連出しています。 本基準測用する計算とは、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	する計測末 にり出来形 値でいる。 に「質する。以上に にで にで にで にで にで にで にで にで にで に	有度・計を 値には 一側密を を が 値に で の で の の を が に に に に の に る ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら	測密度を満っ 実施する場合 計測精度とし、全ての。 は1点/m20 該層の標高 る報差平均	た 小規模工事とは、施工面積が1,00 とする。 無長移100m未積の値載、北北は においては、平単性の項目を省略 出来を。	推持工事	

編	能節	条件	枝番	工 種	測定項目	個々の	規 利定値 X)	10個の の平3 ※面管3	直)測定値 均(X ₁₀) 理の場合 値の平均		測定	基	鄉		测 :	定質	箇 所	抽	育 要	編章	節	条 枝書	į I	種		測定項目	規 個々の測 (X)	定値	値 10個の測 の平均(※面管理の は測定値の	X ₁₀) D場合	測	定	基	摊		測	定	笛	所	Ħ	í 要
土木	一般補			コンクリート舗装工	基準高 ▽ F さ 軽 長 L	以上 ±40	以下 ±50 45	以上 -	- 15	中心線及U 毎に右、中 側に、延長 「3次元計派 (案)」に基・ 同要領に規	端部で測 、左、を交 40m毎に 対待を用 づき出来形 定する計	主。厚さ を () 1 ケ所の ・ た田を 制精度・	は、各車線 ケ所を掘りi 割に測定。 来形管理要 実施する場 計測密度	では、たいだとが では、たいで、 では、たいで、 では、たいで、 では、たいで、 では、たいで、 では、たいで、 では、たいで、 では、たいで、 では、たいで、 では、たいで、 では、たいで、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 で	人上の工事 200m型以上 工事とは、 国格の別れ個 なが10個なが10個ない でを恐れている。 でも必要している。 は、 でも必要している。 でも必要している。 でものできる。 でものできる。 でものできる。 でものでものできる。 でものでものでものできる。 でものでものでものでものでものでものでものでものでものでものでものでものでもので	事とは、1 上とする。 着工面 別定値が10 満値の平均 直値ならなり。 まで ボボットで アー採取し アー採取し	1層当たりの施コ 横が1,000 d未 10個に9個以上 ければならない り値(X10) 厚さ か。ただし、厚さ 合仕測定値の はにより床版等に 合は、他の方法	かといの平		土 一般工 施工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工	一般舗		コンクリ・	一卜舗装工		基準高 ▽ 厚 さ 幅 延 長 L		以下 ±50	以上 - -15	UF	医甲高は、延觜 中心 右、中、左 明定は、延長 40 が 3次元計劃技 第3次元計劃技 第1 第3次元計劃方法に が 計量が が が で きる。	おで測定。 を交互に 毎に1ヶ月 新を用いた 出来形管す お計測精	厚さは、 近い 近い かい かい かい に出来 形の 割に に出来 がしま がしま には には には には には には には には には には	各車線(40z を掘り起こし ご測定。 ジ管理要領 包する場合は、 則密度を満た	ウェー は、とが で割もてデめコ橋傷	現模以上のコ 51,000㎡以 1,000㎡以 現模工事とは 3。 は、個々の 6合で現格値が 5、10個の別 5、10個の別 5、10個の別 6にしなが10個の 一編装を 8、10で 10で 10で 10で 10で 10で 10で 10で	事とはました。 別満値は素いて一様	る。 面積が1 , が10個に なければ 平均値(X ない。たた 場合は測 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	.000 近末初 9個以上の ならないとと (10) につい ごし、厚さの		
		12		コンクリート舗装工 (下層路盤工) (面管理の場合)	基準高 ▽ 厚之からいは 標高較差	±90 ±90	±90 ±90	+40 -15 +40 -15	+50 -15	次元計測技 に基づき出 本基準に規	将を用い理計列を表示をは、一個を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を	出来施度理解を含めています。	形管場測案 は 面度 は 1 に 面度 る。 当 す 高較 基 平 高 校 年 不 明 本 の 村 香 平 高 校 基 平 の 村 香 平 高 校 差 平 画 か る ・ 当 す 高 較 差 平)他 橋た1,00 小規模な と かまる。 こして D点 2(平 高値 直	で考え大 (上の工事 00㎡ 以上	事とは、1. 上とする。	□層当たりの施 ィ,000㎡未	_				12 2	コンクリ・		Pi Pi	基準高 ▽		±90	-15 +40	+50 -15	1. 3次元デー 次元計測技術 次元計測技術 次志書等に規定 に基づ良出来所 に適用する。 退こ適用する。 記の 計画的な設計 記の 記の 計画的な設計 記の のの で のの で のの で の のの の の の の の の の の の の の	:用いた出来 :用いた出来 神理理測制形 直の規格を にて員の記 にの にの にの にの にい にい にい にい にい にい にい にい にい にい	来形智な計算で 施育で理 を対 を対 を対 を対 を対 を対 を対 を対 を対 を対	理要領(案)(案)(素)(素)(素)(素)(素)(素)(素)(素)(素)(素)(素)(素)(素)	3 工事が対した で 点平 値	見模以上のコ 5 1,000㎡ 以 見模工事とは	事とは 上とす	5.			

編章	節条	技番	工程	測定項目	個々の測定値 (X)	※面管理の場合 は測定値の平均中規模 小規模	測定基準	測定簡所擴要	編 章 節	条材	番 工 種	測定項目	個々の測定値 (X)	格値 10個の測定値 の平均(X ₁₀) ※面管理の場合 は測定値の平均 ・ 中規模 ・ 小規模 ・ 以上 ・ 以下	測定基準	测定箇所	摘 要
3 2 一般施工	一般舗		コンクリート舗装工(粒度調整路盤工)	厚幅	-25 -30 -50			中規模以上の工事とは、1個書たりの施工面 検が、1,000㎡以上とする。 小規模工事とは、 建工面積が1,000㎡大費 とする。 厚さは、2個の測定値が10側に9個以上の 割合で規格値で展しなければならないとと もに、10個の測定値の平均値(X10)につい で満足しなければならない。ただ、原空の デーク要が10個未満の場合は測定値の平 均値は3個月とい コア一採取について 橋面離等等でコアー採取により束版等に損 係を与える恐れのある場合は、他の方法によ ることが出来る。	3 2 6 一般縮裝工 一般施工 工事共通編		3 コンクリート舗装工 (粒皮調整路盤工)	厚さ幅	-25 -30 -50	-8	朝は、接 長4の の無に1ヶ所の割とし、現さは、各 事務(4のm に 右、中、左、を交互に) 1箇所を 間り起こし剥定。	中規模以上の工事には、指導上かり施工面 物が、1000mlとしたする。 小規模工事とは、建工面積が1,000ml大額 とする。 厚さは、異々の需定性的に対似していたいでした。 16回の制定値の平均低(X10)について (環見しなければたらない。とたし、 第2して対しまたかない。たたし、 デーク数が10個未満の場合は制定値の平 均値は適用しない。 コア一様取について 福面額接等でコアー模取により床解等に損 橋を与える初よのも場合は、他の方法によ ることが出来る。	
	12	(コンクリート舗装工 (粒度調整路盤工) (面管理の場合)	厚さあるいは 標高較差	-55 -66	-8	1. 3次元データによる出来符音側において「3 広計前技術を用いた出来符音機のは、 に基づき出来符葉を実施する場合、その他 に基づき出来符葉を実施する場合、その他 は、まない。 は、まない。 は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	中規模以上の工事社は、開着たりの施工面 積が ,100㎡ 以上とする。 小規模工事とは、施工面積が 1,000㎡未満 とする。		12	4 コンクリート舗装工 (轮皮調整路盤工) (面管理の場合)	厚さあるいは振高較差	-55 -66		1. 3次元データに占出来将管理において「3 広元計機技体の門、公出来将管理を実施する場合、その地 に基づき出来将管理を実施する場合、その地 に基づき出来が管理を実施する場合、その地 に適用する。上り出来が専理を実施する場合、 主 10mmが含まれている。 3. 計削は設計機の投格低には影神改度として で標高版を算出する。計画密度は1点/m2(平 は、度下は、度下海の標高度と当該場一般が は、度下は、度下海の標高度と当該場一般が またり、以上せて。 に変化する。 に変化なななななななななななななななななななななななななななななななななななな	中規模以上の工事とは、1層当たりの施工面 積が1,000m以上とする。 小規模工事とは、施工面積が1,000m未満	

							規	恪 値												規	格 値						
福	附飾	条片	枝番	工 種	測定項目	()測定値 X)	※面管理の場合 は測定値の平均		則定	基 準		測定簡所	摘 要	編章	節	条 枝番 工 利	R	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定値 の平均(X ₁₀) ※面管理の場合 は測定値の平均	測	定 :	医 準		測定簡所	摘 要
						中規模 以上	小規模 以下	中規模 小規模 以上 以下												中規模 小規模 以上 以下	中規模 小規模 以上 以下						
3	2 6	12	5	コンクリート舗装工	厚さ	-25	-30	-8		固の割でコア	所の割とし、厚さた ーを採取もしくは	掘り中	□事規模の考え方 □規模以上の工事とは、1層当たりの施工面 責が1,000㎡以上とする。		3 2	6	12 5 コンクリート舗装工	,	単の	-25 -30	-8	幅は、延長 40加 1,000㎡に1個の 起こして測定。				工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、1層当たりの施工面 積が1.000mg以上とする。	
	- 一 段 飯			(セメント(石灰・瀝青)	445	-	-50	-	AGEO CHIAL			小: とす	、規模工事とは、施工面積が 1,000㎡未満 する。		土 一 般 エ 施		(セメント(石灰・腰骨	NE)	幅	-50	-	AGEO CHIALS				小規模工事とは、施工面積が1,000㎡未満 とする。	
	地数工工			安定処理工)								割もでデめコ橋傷	たは、量々の需定値から側に3個以上の 合や収積値を通見とが打はだめたいと に、10個の測定値の平均値(X10)につい 環境上なければならない。ただし、厚い "一夕散か10個米線の場合は測定値の平 同位は適用した。 デー「屋配とついて 高端接等でコアー採取により床版等に損 後それる後れのある場合は、他の方法によ ことが出来る。		上事共通編		安定処理工)									厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の 割合で現極能を適応しなければなかないと もに、10個の測定艦の平方値(X10)につい で調定しなければからない。たとし、厚なの マンは「個本来像の場合は固定艦の平 する他 第四十一年度について 構画機等等でコア・採取により床板等に損 能を与える恐れかある場合は、他の方法によ ることが出来る。	
		12	6	コンクリート舗装工	厚さあるいは 標高較差	-55	-66	-8	次元計測技術	析を用いた出	来形管理要領(案)」中非	□事規模の考え方 □規模以上の工事とは、1層当たりの施工面				12 6 コンクリート舗装工		厚さあるいは 標高較差	-55 -66	-8	次元計測技術を	用いた出?	K形管理	要領(案)」	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、1層当たりの施工面	
				(セルト(石灰・覆育) 安定処理工) (価管理の場合)					本基準に対法に に方法に 2.個々の計算 3.計画値を 4.原本で 4.原本で 4.原本で 4.の厚さで 標準 5.原本で を で 5.原本で を 5.原本で を 7. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1.	定する計測を では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	度・計測密度を計 管理を実施する 直には計測精度と 側密度は1点/m でする。 に値と当該層の標 に値と当該場合は、 がである。 にのでる。 にのである。 にのである。 にのである。 にので。 にので。 にのでる。 にのでる。 にのでる。 にのでる。 にのでる。 にのでる。	満た 小湯合 とさ として の点(平 高値	が 1,000㎡ 以上とする。 機 度 工事とは、魔工面積が 1,000㎡未練 する。				(セルント(石灰・護 安定処理工) (画管理の場合))					る計測精序 の用来形を値でいる。 に員のの対象を に員る。 はなる。 はなる。 はなる。 はなる。 はなる。 はなる。 はなる。 はな	度・計測密 理を実施 には計測 全度は1) 全度は1) する。 直と当る展 の標高較差	度を満た まする場合 精度として 。全ての点平 点/m2(平 過の標高値 ・ 会平均値 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・		

編	章 章	市 条	枝番	工 種	測定項目	個々の選 (X)	小規模	10個の測定値 の平均(X ₁₀) ※面管理の場合 は測定値の平均 中規模 小規模		甚 準	测定箇所	摘 要	編章	節	条 枝番 工	種	測定項目	個々の測定値 (X) 中規模 小規模	格 値 10個の測定値 の平均(X ₁₀) ※面管理の場合 は測定値の平均 中規模 小規模	測	定基	5 ##	測定簡所	摘 要
+	一般館	_ D		コンクリート舗装工(アスファルト中間層)	厚さ	-9 -28	以下 -12 5	-3 -	幅は、延長 40m 毎に1 1,000㎡に1個の割でコ		工事規模の考え方 中規模の考え方。 中規模の上の工まとは、1層当たりの加工施 様か1,000ml末接 が1,000ml末接 が一般数工事とは、施工順様が1,000ml末接 場合で規格値を確果したければならないと はに、10回か画を値が可数値(X10)につい て満足しなければならない、ただし、厚さの データ数が10単末波の場合は測定値の平 均値は適用しない。 コアー接取によりた変がで 橋面離接等でコアー採取により床販等に損 橋を与える音れのある場合は、他の方法によ ることが出来る。		3 土木工事共通編	一般舗	12 7 コンクリート		厚さ幅	以上 以下 -9 -12 -25	-3 -	福は、延長 40m 1 1,000㎡に1個の1			工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、1階当たりの施工開 額が1,000加大駅 前が1,000加大駅 下最級工事とは、施工開催が1,000加大駅 所名は、機の前準値が10個に9個以上の 新合で規格板を満足しなければからないとして に、10個の耐能値が10個に2010につい で満足しなければからかい、ただし、厚与の からは、20個の機能減少場合は測定値の平 が低は適用しない。 ファー度駅について 福間施装等でコアー板取により床板等に損 機を与える恐れのある場合は、他の分法によ ることが出来る。	
		12		コンクリート舗装工 (アスファルト中間層) (面管理の場合)	厚さめるいは標準高較差	-20	-27		に基づき出来形管理を	出来形容理要額(案) 東施士の場合、その様 東施士の場合を演示 影管理を実施する場合 修管理を実施する場合 修管理を実施する場合 「側金面とし、全てのが 計測密度は1点/m2(とさする。 高値 には当該層の標高値 で層の標高も数差平均値 に層の標高を変差平均値	」中級成人との工事とは、指電が500 施工面 様が1,000m1人と守る。 小規模工事とは、施工面積が1,000m1未続 と と で に に に に に に に に に に に に に に に に に				12 8 コンクリート (アスファル (面管理の基	ト中間層)	厚さあるいは 標高較差	-20 -27	-3	次元計測技術を終 がこれます。 大元計測技術を終 大力を出現定す。 は、連測力する。 担当の は、通用々の計画は に、通用のが含設計出 でで表 がである。 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	肝いた実精等 お出来施度を はなる内 はなるの のよう のよう のよう のは のよう のは のは のは のい のい のい のい のい のい のい のい のい のい	形管理要領(業) ける場合、皮を満合、皮を満合、皮を満合、皮を満合、皮を満合、 ・計測密度を場合 こは計測密度として 全面とし、全ての点 を密度は1点/m2(3 たと当該層の標高値 標高較差平均値-		

									単位:mm									単位:mm
						規 格 値								規	格値			
褔	章 節	条枝	支番	工 稚	測定項目	個々の測定値 の平均(((X) ※面管理のは測定値の 中規模 小規模 中規模 //	(w) 測 定 基 準 分場合 以平均	测定断所	摘 要	編:	章 節	条 枝番 工 種	測定項目	個々の測定値 (X) 中規模 小規模	10個の測定値 の平均(X ₁₀) ※面管理の場合 は測定値の平均 中規模 小規模	測定基準	測定簡所	摘 要
Н						以上以下以上	以下	丁事担権の考え方						以上以下	以上以下	厚さは各車線の中心付近型枠据付後各車線	丁事規模の考え方	
3 土木工事共通編	2 一般施工	12 9		コンクリート舗装工コンクリート舗装版工)	厚さ	-10 -3.5	40m 毎に水糸又はレベルにより1測線当たり横 断方向に3ヶ所以上測定。幅は、延長40m毎に 1ヶ所の割で測定。平担任はコンクリート輸接 事態による。	費 中規模以上の工事とは、1層当たりの施工面 2 積が1,000m/以上とする。 ・小規模工事とは、施工面積が1,000m/未満 とする。 型 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の	i	3	2 6 一般 触	12 9 コンクリート舗装工 (コンクリート舗装版工)	厚さ	-10	-3.5	40m 毎に水糸又はレベルにより1測線当たり横断方向に3ヶ所以上測定。幅は、延長40m毎に	中規模以上の工事とは、1層当たりの施工面 積が1,000mg以上とする。	
			(コン		幅	-25 -							幅	-25		1ヶ所の割で測定。 平坦性はコンクリート舗装	小規模工事とは、施工面積が1,000㎡未満 とする。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の	
					平坦性	コンクリート 化後3mプ ルメーター - 機械敷設の (σ)2.4mm 人力敷設の (σ)3mm以	の映 に関し、打設前に各車線の中心付近で各車線 42m 毎に水糸又はレベルにより1側線当たり 場合 以下 場合 実行以上除煙の差準高を測定し、消 定打設後に各車線40m 毎に両端の版端を測 定する。	割合で規格値を満足しなければならないとと		事共通編	工装工工		平坦性	-	コンクリートの硬 化後3mプロフィ ルメーターにより 機械敷設の場合 (σ)2.4mm以下 人力敷設の場合 (σ)3mm以下	なお、スツランステム上近の場合は、厚さ音質に関し、打弦師に各車線の中心行近で各車線 40mmに水糸又はレベルにより1個線当たり構 断方向に3分所以上路盤の基準高を測定し、満 定打設後に各車線40mmに両端の版場を測 定する。	割合で規格値を満足しなければならないとと もに、10個の測定値の平均値(X10)につい て満足しなければならない。ただし、厚さの	
					目地段差	±2	隣接する各目地に対して、道路中心線及び端 部で測定。	шж %					目地段差	=	±2	隣接する各目地に対して、道路中心線及び端 部で測定。	m.v.	
					延長 L	-200		•					延長 L	L -200			†	
		12 1	10 コン:	コンクリート舗装工	厚さあるいは	1. 3次元データによる出来形管理において「3 -22 -3.5 太元計測技術を用いた出来形管理要領(念)」		工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、1層当たりの施工面		-		12 10 コンクリート舗装工	厚さあるいは	7t -22 -3.5		1. 3次元データによる出来形管理において「3 次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」	工事規模の考え方	
		12 1	10	77 I MIGRET	標高較差	22 0.0	に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計劃情報と調査する場合、その他な工ンクリートの硬すが開放により出来形管理を実施する場合化後のmプロフィに適用する。	積が1,000㎡以上とする。					標高較差			に基づき出来形管理を実施する場合、その他 本基準に規定する計測精度・計測密度を満た	積が1,000mg以上とする。	
			(コン	(コンクリート舗装版工)	平坦性	化後3mプロフィ ルメーターにより 機械敷設の場合 (σ)2.4mm以下 人力敷設の場合		とする。 延長が100m未練の舗装、また社維持工事 においては、平坦性の項目を省略することが 出来る。 ・				(コンクリート舗装版工)	平坦性	-	コンクリートの硬 化後3mプロフィ ルメーターにより - 機械敷設の場合 (α)2.4mm以下 人力敷設の場合 (α)3mm以下	す計測方法により出来形管理を事施する場合	出来る。	
			(面管	管理の場合)			5. 早さを標面収定として評価する場合は、国 下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値 設計厚さから求まる高さとの差とする。	+				(面管理の場合)				5. 序さを標面収定として評価する場合は、国 下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+ 設計厚さから求まる高さとの差とする。	-	
					目地段差	±2	隣接する各目地に対して、道路中心線及び端 部で測定。						目地段差	:	±2	隣接する各目地に対して、道路中心線及び端 部で測定。	-	
																	-	
									斑(付·mm					•				185.607 · mm
						規 格 値			単位:mm					規	格値			単位:mm
編	章 節	条 枝	专番	工 種	測定項目	個々の測定値 (X) ※面管理の は測定値の 中規模 小規模 中規模 //	(ia) 場合 平均 現模	测定菌所	単位:mm 摘 要	編:	章 節	条 校番 工 種	測定項目	個々の測定値 (X) 中規模 小規模	10個の測定値 の平均(X ₁₀) ※面管理の場合 は測定値の平均 中規模 小規模	測定基準	测定额所	単位:mm 摘 要
編	章 節			エ 種	測定項目 基準高 ▽	個々の測定値 (X) 10個の測 の平均((※面管理の は測定値の 中規模 小規模 中規模 //	(An) 測定基準 平均 3.規模 以下 基準常は、延長40m毎に1ヶ所の割とし、道路	工事規模の考え方		編:	章 節	条 校舎 エ 種 12 11 コンクリート舗装工	測定項目 基準高 ▽	個々の測定値 (X)	10個の測定値 の平均(X ₁₀) ※面管理の場合 は測定値の平均	基準高は、延長40m毎に1ヶ所の割とし、道路	工事規模の考え方	
編出	2 6		11 コン:	ンクリート舗装工 ミエコンクリート版工)	基準高 ▽	個本の測定値 (X) 10個の測 の平均(※面管理 中規模 小規模 以上 以下 中規模 / 以上 以下 以上	(元) 場合 平均 規模 以下 単一 中心線及び帰路で測定、厚さは、各車線(40 館に右、中、左を交互に)1箇所を備り起こし 測定。	工事規模の考え方 ロ 中規模以上の工事とは、1層当たりの施工面 種が1,000m(以上とする。 が規模に当たけ、加工面が対1,000m(未満 の現域に当たけ、加工面が対1,000m(未満		3 ±	2 6	12 11 コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工)	基準高 ▽	個々の測定値 (X) 中規模 小規模 以上 以下 ±40 ±50	10個の測定値 の平均(X ₁₀) ※面管理の場合 は測定値の平均 中規模 以上 小規模 以下	基準高は、延長40m毎に1ヶ所の割とし、道路 中心線及び端部で削定。厚さは、各車線(40m 毎に右、中、左を交互化)1箇所を振り起こして 測定。	工事組織の考え方 中規模以上の工事とは、1層当たりの施工面 積が1,000ml以上とする。 小規模工事とは、進工 商費が1,000m未費	
編 3 土木工事	T AP		11 コン:	- クリート舗装工	基準高 ▽	個々の測定値 (X) 10個の測 の平均(X) (基面管理 (基面管理 以上 以下 以上 以下 以上 150 -45 -15	(4.0) 測定基準 現模 以下 電流に延長10m毎に1ヶ所の割とし、道路 中心線及び爆節で測定厚さは、各車線(40- 順に右、中、左を変互比)1箇所を帰り起こし。 第6年	工事規模の考え方 1 中規模以上の工事とは、1層当たりの施工面 増が1,000m(以上とする。 小規模工事とは、 施工面接が1,000m(未接 とする。		3 土 ,	章 節 6 一般施丁	12 11 コンクリート舗装工	基準高 ▽	個々の測定値 (X) 中規模 以上 小規模 以上 より -45	10個の測定値 の平均(X ₁₀) ※面管理の場合 は測定値の平均 中規模 小規模	基準高は、延長40m毎に1ヶ所の割とし、道路 中心線及び端部で測定。厚さは、各事線は 00 m	工事規模の考え方 中根模以上の工事とは、1層当たりの施工面 相が1,000m以上とする。 小規模工事とは、 建工原数が1,000m未 数 とする。	
編 3 土木工事共通	2 6		11 コン:	ンクリート舗装工 ミエコンクリート版工)	基準高 ▽	個本の測定値 (X) 10個の測 の平均(※面管理 中規模 小規模 以上 以下 中規模 / 以上 以下 以上	(元) 場合 平均 規模 以下 単一 中心線及び帰路で測定、厚さは、各車線(40 館に右、中、左を交互に)1箇所を備り起こし 測定。	工事規模の考え方 ロ 中規模以上の工事とは、1層当たりの施工面 種が1,000m(以上とする。 が規模に当たけ、加工面が対1,000m(未満 の現域に当たけ、加工面が対1,000m(未満		3 土 ,	2 6 一般縮	12 11 コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工)	基準高 ▽	個々の測定値 (X) 中規模 小規模 以上 以下 ±40 ±50	10個の測定値 の平均(X ₁₀) ※面管理の場合 は測定値の平均 中規模 以上 小規模 以下	基準高は、延長40m毎に1ヶ所の割とし、道路 中心線及び端部で削定。厚さは、各車線(40m 毎に右、中、左を交互化)1箇所を振り起こして 測定。	工事提携の考え方 中規模以上の工事とは、1層当たりの施工面 間が1,000㎡以上とする。 小規模工事とは、進工面接対1,000㎡余時 とする。 環立は、個々の勝名能が10個に9個以上の 動合で規格能を満足しなければからないとと には、10個の影響を後の平均値にいじていい	
編 3 土木工事共通編	2 6		11 コン:	ンクリート舗装工 ミエコンクリート版工)	基準高 ▽	個々の測定値 (X) 10個の測 の平均(X) (基面管理 (基面管理 以上 以下 以上 以下 以上 150 -45 -15	(sa) 測定基準平均 理构 以下 、現成 以下 、基準高は、延長40m毎に1ヶ所の割とし、道路 中心機及び部部で測定、厚なは、各車線(40 原に右、中、在を発置に1億所を側り起こし 網は、延長40m毎に1ヶ所の割に測定。	工事規模の考え方 ロ 世級模以上の工事とは、1層当たりの幅工面 積が1,000㎡以上とする。 本度工事とは、進工面積が1,000㎡以上と 子さ、第二面積が1,000㎡以上の 等さは、個々の測定値が10個に9個以上の 割合で規格能を満足しなければならないとと むに、10個の測定値の平均値(X10)につい、 で満足しばければならない、たとし、厚むの データ数分10個米橋の場合は測定値の平 匀能は適用しない。		3 土 ,	2 6 一般縮	12 11 コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工)	基準高 ▽	個々の測定値 (X) 中規模 以上 小規模 以上 より -45	10個の測定値 の平均(X ₁₀) ※面管理の場合 は測定値の平均 中規模 以上 小規模 以下	基準高は、延長40m毎に1ヶ所の割とし、道路中心線及び熔路で測定。厚さは、金本線(4 0m 毎に4 本を交互に 11箇所を棚り起こして 毎に 右、中、左を交互に 11箇所を棚り起こして 横は、延長 40m 毎に1ヶ所の割に測定。	工事提権の考え方 中規模以上の工事とは、1層当たりの施工面 網が1,000番以上とする。 小規模工事とは、進工 研算が1,000番次時 とする。 原えは、個々の測定値が10個に9個以上の 動合で現路能と満足しなければならないと もに、10個の側に置め平均値(X10)につい で満足しなければからない。たとし、厚めの データ板が10個米側の場合は測定値の平 均衡は通用しない。	
編 3 土木工事共通編	2 6	12 1	11 コン・ (転送 下層	ンクリート舗装工 ミエコンクリート版工)	基準高 ▽	10個の調文値 (X)	(sa) 期定基準 平均 開發 開發 開發 開發 開發 開發 用於 基準 中心線及 防縮に1ヶ所の割とし、道路 中心線及 防縮で高と、厚対よ 多車線 (40 解定 基本、中、左を変互に) 国所の割に制定。 編は、 経長 40m 解に1ヶ所の割に制定。 450 1.3次元データによる出来附着側において(7 次子計劃検索を用い。中代来称後理案類(金)	工事規模の考え方 1 中級模以上の工事とは、1層当たりの施工面 横が1,000m/い上とする。 大服核工事とは、 進工面接が1,000m/未押 とする。 厚さは、機々の測定値が10個に5個以上の 割合で規格能で満足したければならないとと もに、10個の測定値の平均値(X10)につい、 で満足しばければならない。ただ、厚さの データ数が10個未満の場合は測定値の平 均値は適用しない。		3 土 ,	2 6 一般縮	12 11 コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工)	基準高 ▽	個々の測定値 (X) 中規模 以上 小規模 以上 より -45	10個の測定値 の平均(X ₁₀) ※面管理の場合 は測定値の平均 中規模 以上 小規模 以下	基準高は、延長40m信に1ヶ所の割と、直路中心線及び熔路で削え、厚さは、各車線(4 0m 信に 4 中、在を交互に 11億所を棚を起こして 額定。 幅は、延長 40m 信に1ヶ所の割に割定。 様は、延長 40m 信に1ヶ所の割に割定。 たでは、延長40m信に1ヶ所の割に割定。	工事提携の考え方 中規建以上の工事とは、1層当たりの施工面 相形3.000 は以上とする。 小規模工事とは、 建工面接が1,000 は未接 とする。 原立は、個々の測定値が10個に9個以上の 割合で規格を企満足しなければならないとと もに、10個の測定値の平均値(X10)につい で満足しばければからない。ただ、原名の データ数が10個米濃の場合は測定値の平 均値は適用しない。 工事規模の考え方 中規模のきえ方 中規模のきる方 中規模のとり下事とは「陽当たりの施工画	
編 3 土木工事共通編	2 6	12 1	11 コン: (株式E 下層 12 コン: (株式E	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	基準高 ▽ 厚さ 報	### 10mm 10m	(5a) 選定基準 理均 環境 以下 基準高は、延長40m毎に1ヶ所の割とし、道路 中心線及び端部で測定、厚さは各車線40 能ご表・生産を変配に10mの割に割定。 欄は、延長40m毎に1ヶ所の割に割定。 欄は、延長40m毎に1ヶ所の割に割定。 「ころは上来時管理と対する な大正計割技術を用いた出来時管理とはいて5 な大正計割技術を用いた出来時管理を類似的 ころ。本業事に実施する計算制度を対象。	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、1層当たりの施工面 横が1,000m/い上とする。 東次1,000m/い上とする。 厚さは、 第工面接が1,000m/未辨 とする。 厚さは、 第本の測定値が10側に9個以上の 割合で規格値が開足したければならないとと もに、10個の測定値の平均値(X10)につい、 で満足しばければならない、ただし、厚さの データ数が10個未満の場合は測定値の平 均値は適用しない。 工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、1層当たりの施工面 様が1,000m/以上とする。 小規模工事とは、施工機が1,000m/未修		3 土 ,	2 6 一般縮	12 11 コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) 下層路盤工 12 12 コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工)	基準高 ▽ 厚さ 編	個々の測定値 (X) 中規権 小規模 以上 上サ 土40 ±50 -45 -50	10億の測定値 の平均(x)。	基準高は、延長40m毎に1ヶ所の割とし、道路 中心線及び端部で側定。原立は、含集線(40m 毎に右、中、左を交互に1億所を帰り起して 側は、延長40m毎に1ヶ所の割に割定。 幅は、延長40m毎に1ヶ所の割に割定。 次元計画技術を用いた出来形容用要領(第)) 本基準に繋ぎする計画制度・計画形容を確定	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、1層当たりの施工面 相が1,000㎡以上とする。 小規模工事とは、 建工面接が1,000㎡米接 とする。 原とは、個々の測定値が10個に9個以上の 新合で規格を企演足しなければからないとと もに、10個の測定値の平均値(X10)につい データ数が10個米歳の場合は測定値の平 均値は適用しない。 工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、1層当たりの施工面 様が1,000㎡以上とする。 中規模以上の工事とは、1層当たりの施工面 様が1,000㎡以上とする。	
編 3 土木工事共通編	2 6	12 1	111 コン (転店下層)	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	基準高 ▽ 厚さ 幅 基準高 ▽	### 10mm 10m	(sa) 測定基準 理均 過度 以下 高澤高は、接具40m前に1ヶ所の耐止、消消 中心最大が端がて前定。厚さは、各車線(40 前定本、中、在を交互に)地所を制り起し、 耐定 観さ、を見 40m 毎に1ヶ所の割に測定。 幅は、延長 40m 毎に1ヶ所の割に測定。 1-50 次元声形技術を用いた出来管理風において「 に基づき出来等で基準	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、1層当たりの範工通 標が1,000m以上とする。 東大は、機々の測定値が10側に9個以上の 別で10個の創産値を接足したければたらないとして 別で10個の創産値の平均値以りについて で1点、10個の創産値の平均値以りについて で1点、10個の創産値の平均値以りについて データ数が10個は満頭場合は測定値の平 助値は適用しない、ただし、厚さの データ数が10個は満頭場合は測定値の平 均値は適用しない。		3 土 ,	2 6 一般縮	12 11 コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) 下層路盤工 12 12 コンクリート舗装工 12 12 コンクリート舗装工	基準高 ▽ 厚さ 幅	個々の測定値 (X) 中規模 以上 以下 土40 土50 -45 -50	10億の測定値 の平均(xi) を高管理の単均 は消度値 の平均 以上 -15 -15	基準高は、延長40m信に1ヶ所の割と、直路中心線及び熔路で削え、厚さは、各車線(4 0m 信に 4 中、在を交互に 11億所を棚を起こして 額定。 幅は、延長 40m 信に1ヶ所の割に割定。 様は、延長 40m 信に1ヶ所の割に割定。 たでは、延長40m信に1ヶ所の割に割定。	工事提権の考え方 中規模以上の工事とは、1層当たりの施工面 網が1,000世以上とする。 小規模工事とは、進工 研算が1,000世末時 とする。 原之は、個々の測定値が10個に9個以上の 動合で現格能と満足しなければならないと もに、10個の側に置め平均値(X10)につい で満足しなければからない。たとし、原分の データ被が10個米側の場合は測定値の平 対値は適用しない。 工事提模の考え方 中規模以上の工事とは、1層当たりの施工面 網が1,000世以上とする。 小規模工事とは、施工面積が1,000世末費 とする。	

編章	節	乳 枝番	: 工 種	測定項目	個々の測定値 (X)	格 値 10個の測定値 の平均(X ₁₀) ※面管理の場合 は測定値の平均 ・中規模 小規模 以上 以下	測定基準	测定箇所	摘 要	編月	it ff	節条	校番 工 種	測定項目	個々の測定値 (X)	*** 値 ********************************		测定箇所	摘 要
3 土木工事共通編	一 般 舗		コングリート舗装工 (板圧コングリート版工) 松皮調整路盤工	厚さ	-25 -30 -50	-8		中機度以上の工事とは、1場当とのの施工商 がは、600年以上とする。 小規模工事とは、 建工商榜が1,000mは大時 とする。 学さは、個々の側定像が19間に9個以上の 割合で現格値で満足しなければならないとと は、10個の制度の平均値(欠10円 で、10個の制度の平均値(欠10円 で、10個の制度の平均値(欠10円 で、10円で、10円で、10円で、10円で、10円で が、10円で、10円で、10円で、10円で、10円で、10円で、10円で、10円で		3 土木工事共通編	一	般舗	13 コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) 粒度調整路盤工	厚さ	-25 -30 -50	-8		中規模以上の工事には、国電当かの施工面 がは、1,000mlとしたす。 ・小規模工事とは、 建工度値が1,000ml未 とする。 同学さは、個々の測定値が10間に9個以上の 割合で現格値を満足しなければならないと は、1,0個の測定の平均値(YLI)で、 で、1,0個の測定の平均値(YLI)で、 で、1,0個の測定の平均値(YLI)で、 で、1,0個の測定の平均値(YLI)で 、1,0個の測定の平均値(YLI)で 、1,0個の測定の平均位(YLI)で 、1,0個の測定の平均位(YLI)で 、1,0個の測定の平均位(YLI)で 、1,0個の測定の平均位(YLI)で 対値は適用しない。	
	1		コンクリート舗装工 (低圧コンクリート版工) 松皮両整形金工 (面管理の場合)	摩さあるいは 様高較差	-55 -66	-8	1. 3次元デー外による指来將管理において「3 広計前肢体的でいた出来將管理を実施する場合、その他 に基プタ出来称等理を実施する場合、その他 に基プタ出来が要達を実施する場合、その他 に適用する。より出来的管理を実施する場合、 主 10mmが含まれている。 3. 計劃は設計機の提修信に計算機度して、 本10mmが含まれている。 3. 計劃は設計機関の対象を施じ、点での点で は発表の機関がよりました。 4. 深され、就下端の標面を上前接回の標面 起発影機関はかりましたする。 よのでは、数で発の標面を自動等の標面を を関係している。 第2を指数を発出する。 第2を指数を発出する。 第2を指数を発出して経命と自動を を対象が表示が続き、 数計解さから求まる高さとの差とする。	中規模以上の工事とは、1層当たりの施工価 積が 1,000㎡ 以上とする。 小規模工事とは、施工価積が 1,000㎡未満 とする。				12	14 コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) 粒度調整路盤工 (価管理の場合)	厚さかるい。		-8	1. 3次元データによる出来將管理とおいて「3 広元計酸技術を開発を実施する場合、その地 に基プ会出来將管理を実施する場合、その地 に基プ会出来將管理を実施する場合、その地 に適用する。上の出来將管理を実施する場合、 主 10mmが含まれている。 3. 計測は設準機関の投稿低には直加で、 本 2. 個々の計画的収集係はには点/m2(平 本 4. 厚念に、近下第の標面を上域を一の地 現役影面機関かり以上とする。 4. 厚念に、近下第の標面を当城海の機構 近天、近下第の標面を当場があって が、関係を開始を対して経済を持つける。 原名を増加する。計画の機能を が、近下路の標面を が、対して経済を が、対して経済を が、対して経済を が、対して経済を が、対して経済を が、対して経済を が、対して経済を が、対して経済を が、対して経済を が、対して経済を が、対して経済を が、対して経済を が、対して経済を が、対しては が、対して経済を が、対して経済を が、対して経済を が、対して経済を が、対して経済を が、対して経済を が、対して経済を が、対して経済を が、対して経済を が、対して経済を が、対して経済を が、対して経済を が、対して、対して経済を が、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して	中規模以上の工事とは、1層当たりの施工面 横が1,000m以上とする。 小規模工事とは、施工面積が1,000m未満 とする。	

							規	格値													規	格 値						
褔	酢 節	条柱	技番	工 種	測定項目	())測定値 X)	10個の測定値 の平均(X ₁₀) ※面管理の場合 は測定値の平均	(H)	定	基 準		測定簡所	摘 要	編 水	節	条 枝番	I	種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定値 の平均(X ₁₀) ※面管理の場合 は測定値の平均	測	定	基	绑	測定簡所	摘 要
						中規模 以上	小規模 以下	中規模 小規模 以上 以下													中規模 小規模 以上 以下	中規模 小規模 以上 以下						
3	2 6	12	15	コンクリート舗装工	厚さ	-25	-30	-8	幅は、延長40 1,000㎡に1個 り起こして測定	の割でコア			工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、1層当たりの施工面 積が1,000m以上とする。		3 2	6	12 15	コンクリー	·舗装工	厚さ	-25 -30	-8	幅は、延長 40m 1,000㎡に1個の り起こして測定。	割でコア			工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、1層当たりの施工面 積が1,000mg以上とする。	
	一 一般 解			(転圧コンクリート版工)	幅	-	-50	-	「3次元計測技	 支術を用いた			小規模工事とは、 着工面積が1,000㎡未満 とする。		土 一 般 工 施				クリート版工)	幅	-50	-	「3次元計測技術	fを用いた			小規模工事とは、 着工面積が1,000㎡未満 とする。	
上事共通編				セメント(石灰・瀝青)安定 - 処理工					(業)」の規定(とができる。	こよる側点 グ	管理方法を		厚さは、個々の際定館が10個に30個以上 動合で規格を流足したければならないと もに、10個の測定館の平均値(X10)につい、 で満足したければたらない。ただし、厚さの データ数か10個未満の場合は測定値の平 均値は適用したい。 コアー解散について 備而舗装等でコアー採取により採販等に損 傷を与える多れのある場合は、他の方法によ ることが出来る。		工事共通編			セメント(<i>マ</i> 処理工	5灰·瀝青)安定				(業)」の規定に。とができる。	にる測点の	の管理力	法を用いるこ	厚さは、傷々の酸定値が10個に9個以上の 動合で規格を環境しなければたがないと もに、10個の態定値の平均値(X10)につい で満足しばればからない。ただし、厚なの デーー検点10個米側の場合は制定値の デーラを扱いのは米側の場合は制定値の ファー経版100米側の場合は制定値の サブー経版10ペントで 相面能与表であれのある場合は、他の方法によ ることが出来る。	
		12	16	コンクリート舗装工	厚さあるいは 標高較差	-55	-66	-8	次元計測技術	を用いた出	来形管理要	領(案)」	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、1層当たりの施工面			•	12 16	コンクリー	·舗装工	厚さあるいは 標高較差	-55 -66	-8	次元計測技術を	用いた出	出来形管	理要領(案)」	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、1層当たりの施工面	
			į	(衛延コンクリート版工) セメント(石沢・瀝青) 安定 処理工 (価管理の場合)					に基本を 本基準 開本の計 に表述 に現また。 2. 個 (日本の計 に 個 (日本の計 に の (日本の) に	でする計測精 により出来形 関値の規格値 まれている。 計幅する。計 は出たりの所 はたり以標 で下る。 が変差として層 が変差として層	度・計測密度 直には計測制 刺全面とし、1点 対配を改。 が配置である。 が配置である。 が関係である。 がし。 がしる。 がしる。 がし。 がしる。 がし。 がし。 がし。 がし。 がし。 がし。 がし。 がし	度を満た する場合 青度として 全ての点平 の標高値 さな、直							クリート版工) 万灰・瀝青)安定 場合)					る計測制 り出来形 直の規格 にの対している。 に関する。 に関する。 に関する。 に関する。 に関する。 に関する。 に関する。 に関する。 に関する。 に関する。 に関する。 に関する。 に関する。 に関する。 に関する。 に関する。 に関する。 に関する。 に対する。 にがし、 にがしい。 にがしがしい。 にがしい。 にがしい。	情度・計管 値(側型を) には面度 には面度 にも面と がある。当 には になる。 には になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。	制密度を満た 実施する場合 計測精度として に、全ての点 は1点/m2(平 変層の標高値 5場合は、直 較差平均値+		

						,	規 相	恪 値									規	格 値			
縅	能節	条本	枝番	工 種	測定項目	(2		※面管理の場合 は測定値の平均	測定:	医 準	測定簡所	摘 要	福车	節	条 枝番 工 種	測定項目	個々の測定値 (X)	※面管理の場合 は測定値の平均	測定基準	測定簡所	摘 要
						中規模 以上	小規模 以下	中規模 小規模 以上 以下									中規模 小規模 以上 以下	以上 以下			
3	2 6	12	17	コンクリート舗装工	厚さ	-9	-12	-3	幅は、延長 40m 毎に1ヶ月 1,000㎡に1個の割でコア		工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、1層当たりの施工面 積が1,000mg以上とする。		3 2	6	12 17 コンクリート舗装工	厚さ	-9 -12	-3	幅は、延長 40m 毎に1ヶ所の割とし、厚さは、 1,000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、1層当たりの施工面 積が1,000mg以上とする。	
	一 一般			(転圧コンクリート版工)	幅	-2	25	-			小規模工事とは、 着工面積が1,000㎡未満 とする。		土 一 弁		(転圧コンクリート版工)	幅	-25	-		小規模工事とは、 施工面積が1,000㎡未満 とする。	
	施 舗装工			(家在コンクリート版工) アスファルト中間層							厚さは、個々の測定館が10個に3個以上が 動合で規格を流展したければならないとし もに、10個の測定館の平均値(X10)につい で満足したければならない。ただし、厚さの データ数が10個未満の場合は測定値の平 が値は適用していて 値面舗装等でエアー保険により床版等に損 像を与える恐れのある場合は、他の方法によ ることが出来る。		工事共通編 施工		「東はエイングリー下放 上」 アスファルト中間層					厚さは、個々の測定値が10個以2個別以2 動合で規格値を満足しなければならないとと むに、10個の測定値の平均値(XIO)につい で満足しなければならない。ただし、厚さの データ数が10個米濃の場合は測定値の平 均値は適用した。 コアー接取について 橋面舗装等でエアー接取により未販等に損 傷を与える恐れのある場合は、他の方法によ ることが出来る。	
		12	18	コンクリート舗装工	厚さあるいは 標高較差	-20	-27	-3		F.形管理要領(案)」	中規模以上の工事とは、1層当たりの施工面		1	Ī	12 18 コンクリート舗装工	厚さあるいは 標高較差	-20 -27	-3	1.3次元データによる出来形管理において「3 次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」	中規模以上の工事とは、1層当たりの施工面	
			-	(転圧コンクリート級工) アスファルト中間層 (価管理の場合)	001100 001000				に基づき出来形容理を実 本基準に規定さお削削精 : ご適用する。 : 適用する。 2. 個本の計測値の規格値 - 土 土 土 土 土 土 土 土 土 土 土 土 土 土 土 土 土 土 土	ま・計測密度を満た 理を実施する場合 には計測精度として 全密度は1点/m2(平 する。 と当該層の標高値 標高較差平均値+	小規模工事とは、施工面積が 1,000㎡未録 とする。				(転圧コンクリート版工) アスファルト中間層 (画管理の場合)	6000			に基づ全出来形態理を実施する場合、その他 本基準に規定する計劃特度・計画液を実施 ・活調中する。 ・適期中する。 ・週間中の計画値の規格値には計画特度とて、 ・4 mmの合まれている。 3. 計画は設計幅員のが側を面とし、全での点 で構像値を単加である。計画密度は1点/2m2(平 価税を範囲機当たり)以上とする。 4. 厚は1、度下の標高値を当該層の標高値 との意で第出する。 ア単合の標高能と当該層の標高 を対している。 ア単合の標高を対象を との意で第出する。 ア単合の標高を というをで第出する。 アードのである。 アードのでする。 アードのでする。 アードのでする。 アードのでする。 アードのでする。 アードのでする。 アードのでする。 アードのでする。 アードのでする。 アードのでする。 アードのでは、 アードのでする。 アードのでする。 アードのでする。 アードのでする。 アードのでなる。 アードのでする。 アードのでを アードのでを アーを アーを アーを アーを アーを アーを アーを アーを アーを アー	小規模工事とは、施工面積が1,000㎡未満	

編章	節 条 枝	番 工 種	測定項目	個々の測定値 (X)	格値 10個の測定値 の平均(X ₁₀) ※面管理の場合 は測定値の平均 中規模 小規模 以上 以下	測定基準	测定箇所摘要	編章第条	: 校番 工 種	測定項目	個々の測定値 (X)	格値 10個の測定値 の平均(X ₁₀) ※面管理の場合 は測定値の平均 E 中規模 小規模 以上 以下	測定基準	测定箇所	摘 要
3 2	6 12 1	9 コンクリート舗装工	厚さ	-15	-4.5	厚さは、各車線の中心付近で型枠捆付後各車 線40m毎に水糸又はレベルにより1測線当たり 構断方向に3ヶ所以上測定。		3 2 6 12	! 19 コンクリート舗装工	厚さ	-15	-4.5	厚さは、各車線の中心付近で型枠掲付後各車 線40m毎に水糸又はレベルにより1測線当たり 横断方向に3ヶ所以上測定。		
土 一 般 下 施			幅	-35	-	機助方向に3ヶ所以上側足。 幅は、延長 40m 毎に1ヶ所の割で測定、平坦性 は各車線毎に版縁から1mの線上、全延長とす	小規模工事とは、施工面積が1,000㎡未満 とする。	土 一 一		幅	-35	-	機関が同じるが別以上例定。 幅は、延長 40m 毎に1ヶ所の割で測定、平坦性 は各事線毎に版縁から1mの線上、全延長とす	小規模工事とは、施工面積が 1,000㎡未満 とする。	
事共通編		(転圧コンクリート版工)	平坦性	-	転圧コンクリート の硬化後、3mプ ロフィルメーター により(σ)2.4mm 以下		厚さは、個々の測定値が10間に9個以上の 割合で規格値を確定しなければならないとと もに、10間の測定値の平均値(XiO)につい て満足しなければならない。ただし、厚さの データ数が10個来演の場合は測定値の平 均値は適用しない。	事共通編	(転圧コンクリート版工)	平坦性	-		◆。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要額 (業)」の規定による測点の管理方法を用いることができる。	厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の 割合で規格値を満足しなければならないと もに、10個の測定値の平均値(X10)につい て満足しなければならない。ただし、厚さの データ数が10個末満の場合は測定値の平 均値は適用しない。	
			目地段差	=	±2		コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損 傷を与える恐れのある場合は、他の方法によ			目地段差		±2	隣接する各目地に対して、道路中心線及び端部で測定。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損 傷を与える恐れのある場合は、他の方法によ	
							ることが出来る。 差長が100m未満の舗装、または 維持工事 においては、平坦性の項目を省略することが 出来る。							ることが出来る。 差長が100m未満の舗装、または 維持工事 においては、平坦性の項目を省略することが 出来る。	
	12 2	0 コンクリート舗装工	厚さあるいは 標高較差	-32	-4.5	1.3次元データによる出来形管理において「3 次元計測技術を用いた出来形管理要領(業)」 に基づき出来形管理を実施する場合、その他	中規模以上の工事とは、1層当たりの施工面	12	2 20 コンクリート舗装工	厚さあるいは 標高較差	-32	-4.5	1.3次元データによる出来形管理において「3 次元計測技術を用いた出来形管理要領(業)」 に基づき出来形管理を実施する場合、その他	中規模以上の工事とは、1層当たりの施工面	
		(転任コンクリート版工) (面管理の場合)	平坦性	-	の硬化後、3mプ ロフィルメーター	本基準に規定する計測精度・計測密度を満た す計測方法により出来形管理を実施する場合 に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には計測精度として ±4mmが含まれている。 3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点	小規模工事とは、施工面積が1,000㎡未満 とする。 延長が100m未満の舗装、または維持工事		(転圧コンクリート版工) (面管理の場合)	平坦性	-	の硬化後、3mプ	1.最高、11以内の方式である。当場は、12以上の方式では、 本書等に規定する計劃構造・計劃構造・計劃開設と協定 ・ 1、日本の計画を設定している。 ・ 1、日本の計画を関係している。 ・ 1、制制に設定性の対象を開始には、一の2(平 電視を施を算出する。計画を改注し点/m2(平 は、直下線の標高値と当該層の標高値 との変で顕出する。 ・ 1、原文を優高敏差としま解析す場合は、直 下層の目標高さに下層の情報を記ります。 ・ 1、原文を優高敏差としま解析す場合は、直 下層の目標高さに下層の情報を記すが最十 設計学さから来まる高さとの差とする。	小規模工事とは、施工面積が1,000㎡未満 とする。 延長が100m未満の舗装、または維持工事	
			目地段差	=	±2	隣接する各目地に対して、道路中心線及び端 部で測定。				目地段差		±2	隣接する各目地に対して、道路中心線及び端 部で測定。		

							規	格 値											規	格 値			
編	章 節	条本	枝番	工 種	測定項目	(※面管理の場合 は測定値の平均		定	基	準	測定簡所	摘 要	編章	節	条枝番 工 種	測定項目	個々の測定値 (X)	※面管理の場合 は測定値の平均	測定基準	測定簡所	摘 要
						中規模 以上		中規模 小規模 以上 以下											中規模 小規模 以上 以下	中規模 小規模 以上 以下			
3	2 6	13	1	薄層カラー舗装工	基準高 ▽	±40	±50	-	中心線及び端	#部で測定	。厚さ	ま、各車線(40	本 工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、1層当たりの施工面 で 積が1,000㎡以上とする。		3 2	6	13 1 薄層カラー舗装工	基準高 ▽	±40 ±50	-	基準高は、延長40m毎に1ヶ所の割とし、道路 中心線及び端部で測定。厚さは、各車線(40m 毎に右、中、左を交互に)1箇所を掘り起こして	中規模以上の工事とは、1層当たりの施工面 積が1,000mg以上とする。	
土木	一 般 解		((下層路盤工)	厚さ	-	-45	-15	測定。 幅は、延長 40	m 毎に1ヶ	所の書	に測定。	小規模工事とは、 着工面積が1,000㎡未満 とする。		土 一 般 工 施	般	(下層路盤工)	厚さ	-45	-15	測定。 幅は、延長 40m 毎に1ヶ所の割に測定。	小規模工事とは、 着工面積が1,000㎡未満 とする。	
事共通	工装工工				45	-	-50	-	「3次元計測技 (案)」の規定は とができる。				厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の 割合で規格値を満足しなければならないとと もに、10個の測定値の平均値(X10)につい	:	事工	装工		幅	-50	-	「3次元計測技術を用いた出来形管理要領 (案)」の規定による測点の管理方法を用いることができる。	厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の 割合で規格値を満足しなければならないとと もに、10個の測定値の平均値(X10)につい	
編									CD- CG-50.				で満足しなければならない。ただし、厚さの データ数が10個未満の場合は測定値の平 均値は適用しない。		緇							けて満足しなければならない。ただし、厚さの デーク数が10個未満の場合は測定値の平 均値は適用しない。	
		13	2	薄層カラー舗装工	厚さ	-25	-30	-8	幅は、延長40 車線(40m毎 掘り起こして派	に右、中、	所の書 左を交	とし、厚さは、 互に)1ヶ所を	各				13 2 薄層カラー舗装工	厚さ	-25 -30	-8	幅は、延長 40m 毎に1ヶ所の割とし、厚さは、各 車線(40m 毎に右、中、左を交互に)1ヶ所を 掘り起こして測定。		
				(上層路盤工) 粒度調整路盤工	幅	-	-50	-	「3次元計測打	支術を用い							(上層路盤工) 粒度調整路盤工	幅	-50	-	「3次元計測技術を用いた出来形管理要領		
				1-1-2					(案)」の規定し とができる。	による測点	の管理	方法を用いる	Ξ.				The second second				(案)」の規定による測点の管理方法を用いることができる。		
Ш																							

羅章	節	条 枝番	工 種	測定項目	個々の()	測定値 X)	*** 値 *** 10個の測定値 の平均(X ₁₀) **※ 面管理の場合 は測定値の平均 中規模 小規模 以上 以下		测定簡所	摘 要	編章自	節条	艾番 工 種	測定項目	個々の測定値 (X)	※面管理の場合 は測定値の平均 中規模 小規模	1	测定额所	摘 要
3 2	6	13 3	薄層カラー舗装工	厚さ	-25	-30	-8		工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、1層当たりの施工面 積が1,000世以上とする。 小規模工事とは、施工面積が1,000世末續		3 2 6	6 13	3 薄層カラー舗装工	厚さ	-25 -30	-8	幅は、延長 40m 毎に1ヶ所の割とし、厚さは、 1,000㎡に1個の割でコアーを採取もしくは掘り 起こして測定。	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、1層当たりの施工面 領が1,000㎡以上とする。 小規模工事とは、施工面領が1,000㎡未満	
木 般 エ 施 エ	舖		(上層路盤工) セメント(石灰)安定処理 T	幅	-1	50	-	「3次元計測技術を用いた出来形管理要額 (業)」の規定による測点の管理方法を用いるこ	とする。		木 般 船工 施 部	idi	(上層路盤工) セメント(石灰)安定処理 T	幅	-50	-	「3次元計測技術を用いた出来形管理要額 (業)」の規定による測点の管理方法を用いるこ	とする。	
共通編	I							とができる。	割合で規格値を満足しなければならないとと もに、10個の測定値の平均値(X10)につい て満足しなければならない。ただし、厚さの データ数が10個未満の場合は測定値の平		共通編	I.					とができる。	割合で規格値を満足しなければならないとと もに、10個の測定値の平均値(X10)につい て満足しなければならない。ただし、厚さの データ数が10個未満の場合は測定値の平	
		13 4	薄層カラー舗装工	厚さ	-15	-20	-5	幅は、延長 40m 毎に1ヶ所の割とし、厚さは、 1,000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。	均値は適用しない。 コアー採取について			13	4 薄層カラー舗装工	厚さ	-15 -20	-5	幅は、延長 40m 毎に1ヶ所の割とし、厚さは、 1,000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。	均値は適用しない。 コアー採取について	
			(加熱アスファルト安定処 理工)	幅	-!	50	-	「3次元計測技術を用いた出来形管理要領 (案)」の規定による測点の管理方法を用いることができる。	議面舗装等でコアー採取により床阪等に損 傷を与える恐れのある場合は、他の方法によ ることが出来る。				(加熱アスファルト安定処 理工)	幅	-50	-	「3次元計測技術を用いた出来形管理要領 (業)」の規定による測点の管理方法を用いることができる。	橋面舗装等でコアー採取により床版等に損 傷を与える恐れのある場合は、他の方法によ ることが出来る。	
	-	13 5	薄層カラー舗装工	厚さ	-9	-12	-3	幅は、延長 40m 毎に1ヶ所の刺とし、厚さは、 1,000㎡に1個の刺でコアーを採取して測定。				13	5 薄層カラー舗装工	厚さ	-9 -12	-3	幅は、延長 40m 毎に1ヶ所の刺とし、厚さは、 1,000㎡に1個の刺でコアーを採取して測定。		
			(基層工)	幅	-1	25	-	「3次元計測技術を用いた出来形管理要領 (案)」の規定による測点の管理方法を用いるこ					(基層工)	966	-25	-	「3次元計測技術を用いた出来形管理要領 (案)」の規定による測点の管理方法を用いるこ		
								とができる。									とができる。		

											44-197 - 111111												4-12.11111
					規		_										規	格 值					
福力	: 飾	条 枝番	工 種	測定項目	個々の測 (X)	則定値	10個の測定値 の平均(X ₁₀) ※面管理の場合 は測定値の平均	測定	基 準	測定簡所	摘 要	編章	節条	技番	. 稚	測定項目	個々の測定値 (X)	※面管理の場合 は測定値の平均		定基	2001	測定簡所	摘 要
					中規模以上	小規模 以下	中規模 小規模 以上 以下										中規模 小規模 以上 以下	中規模 小規模 以上 以下					
3 2	6	14 1	プロック舗装工	基準高 ▽	±40	±50	1.	中心線及び端部で測	E。厚さは、各車線(40	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、1層当たりの施工面 積が1.000mg以上とする。		3 2	6 14	1 プロック	舗装工	基準高 ▽	±40 ±50	-	中心線及び端部	で測定。厚さ	は、各車線(402	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、1層当たりの施工面 積が1,000m以上とする。	
土 一	一般		(下層路盤工)	厚さ	-45	5	-15	測定。 幅は、延長 40m 毎に		小規模工事とは、 着工面積が1,000㎡未満 とする。		土 一 般 工 施	般	(下層器	盤工)	厚さ	-45	-15	測定。 幅は、延長 40m 年			小規模工事とは、 着工面積が1,000㎡未満 とする。	
事工共	装工			46	-50	0	-			厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の 割合で規格値を満足しなければならないとと もに、10個の測定値の平均値(X10)につい		事工	····· 装 工			幅	-50	-				厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の 割合で規格値を満足しなければならないとと もに、10個の測定値の平均値(X10)につい	
編										もに、10個の間を匪の手の匪(XTO)につい て満足しなければならない。ただし、厚さの デーク数が10個未満の場合は測定値の平 均値は適用しない。		編										6は、10個の側を握の半ぶり値(X10)につい て満足しなければならない。ただし、厚さの データ数が10個未満の場合は測定値の平 均値は適用しない。	
										内限は適用しな√。												か月回(4.)照/州 むなく。	
		14 2	プロック舗装工	厚さ	-25	-30	-8	幅は、延長40m毎に 車線(40m毎に右、中 掘り起こして測定。	ヶ所の割とし、厚さは、 左を交互に)1ヶ所を	各			14	2 プロッケ音	接工	厚さ	-25 -30	-8	幅は、延長40m年 車線(40m毎に末 掘り起こして測定。	、中、左を打	別とし、厚さは、名 芝豆に)1ヶ所を	F	
			(上層路盤工) 粒度調整路盤工	幅	-50	0		M							8盤工) 整路盤工	幅	-50	-					
\perp	<u> </u>		l	l												1						1	

											単位:mm									単位:mm
						;	規 格	値								規 格	値			
844	能節	条	枝番	工 穣	測定項目	個々の(?	測定値 X) ½	10個の測定値 の平均(X ₁₀) ※面管理の場合 は測定値の平均 中規模 小規模		测定簡所	摘 要	福章:	節条	校番 工 種	測定項目	個々の測定値 グ (X) ※面 は測	個の測定値)平均(X ₁₀) i管理の場合 定値の平均	測定基準	測定簡所	摘要
						以上	以下	以上以下	幅は、延長 40m 毎に1ヶ所の割とし、厚さは、	工事規模の考え方						以上以下以	上以下	幅は、延長 40m 毎に1ヶ所の割とし、厚さは、	工事規模の考え方	
土		14		プロック舗装工	厚さ	-25	-30	-8	1,000㎡に1個の割でコアーを採取もしくは掘り 起こして測定。	中規模以上の工事とは、1層当たりの施工面 積が1,000ml以上とする。 小規模工事とは、施工面積が1,000ml未満		3 2 ± -	6 14	3 ブロック舗装工	厚さ	-25 -30	-8	1,000㎡に1個の割でコアーを採取もしくは掘り起こして測定。	中規模以上の工事とは、1層当たりの施工面 積が1,000㎡以上とする。 小規模工事とは、施工面積が1,000㎡未満	
木工事	シ 般 値 舗			(上層路盤工) セメント(石灰)安定処理 T	幅	-1	50	-		とする。		木 般 元 施 工 施 工	論	(上層路盤工) セメント(石灰)安定処理 T	幅	-50	-		とする。	
共通編	I									厚さは、個々の測定値が10個に3個以上の 割合で現格値を満足しなければならないとと もに、10個の測定値の平均値(X10)につい て満足しなければならない。ただし、厚さの データ数が10個大端の場合は測定値の平 均値は適用しない。		共通編	I.						厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の 割合で現格値を満足しなければならないと もに、10個の測定値の平均値(X10)につい て満足しなければならない。ただし、厚さの デーク数が10個米濃の場合は測定値の平 均値は適用しない。	
		14	4	ブロック舗装工	厚さ	-15	-20	-5	幅は、延長 4022 毎に1ヶ所の割とし、厚さは、 1,000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。	コアー採取について			14	4 ブロック舗装工	厚さ	-15 -20	-5	幅は、延長 40m 毎に1ヶ所の割とし、厚さは、 1,000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。	コアー採取について	
				(加熱アスファルト安定処 理工)	幅	-:	50	-		橋面舗装等でコアー採取により床阪等に損 傷を与える恐れのある場合は、他の方法によ ることが出来る。				(加熱アスファルト安定処 理工)	幅	-50	1		橋面舗装等でコアー採取により床版等に損 傷を与える恐れのある場合は、他の方法によ ることが出来る。	
		14	5	プロック舗装工	厚さ	-9	-12	-3	幅は、延長 40m 毎に1ヶ所の割とし、厚さは、 1,000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。	-			14	5 ブロック舗装工	厚さ	-9 -12	-3	幅は、延長 40m 毎に1ヶ所の割とし、厚さは、 1,000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。		
			1	(基層工)	幅	-0	25	-						(基層工)	幅	-25	-			
											単位:mm									単位:mm
	e es		14.07		The state of the	,	規 格	値	70 4 40 00		-	-			The state of the	規 格	値	70 40 40 40	74 44 44 77	
366	節節	条	枝番	工 種	測定項目	個々の ()		測定値の平均 (X)	測定基準	測定簡所	摘 要	編章	節条	枝番 工 種	測定項目	個々の測定値 測 (X)	定値の平均 (X)	測定基準	測定簡所	摘 要
3	2 6	15	1 5	路面切削工	厚さ t	-	-7	-2	厚さは40m毎に現舗装高切削後の基準高の差 で算出する。測定点(5測点) は車道中心線、車 道端及びその中心とする。延長40m未満の場	_		3 2	6 15	1 路面切削工	厚さ t	-7	-2	厚さは40m毎に現舗装高切削後の基準高の差 で算出する。測定点(5測点) は車道中心線、車 道端及びその中心とする。延長40m未満の場	_	
	一 分 般 新				₩ W	-1	25	-	合は、2ヶ所/施工箇所とする。断面状況で、 間隔、測点数を変えることが出来る。測定方法			土 一 般 工 施			₩ W	-25	.1	合は、2ヶ所/施工箇所とする。断面状況で、 間隔、測点数を変えることが出来る。測定方法	Ţ	
事共	施 舗 装工								は自動横断測定法によることが出来る。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要額			事工	酬 装 工					は自動横断測定法によることが出来る。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要額		
通編									(案)」の規定による測点の管理方法を用いることができる。	現績装 w		緬						(案)」の規定による測点の管理方法を用いることができる。	現績装 w	
		15	2 1		厚 さ t (標高較差)	-: (1 (面管3		-2 (2)	1.「3次元計測技術を用いた出来形管理要領 (案)」に基づき出来形管理を実施する場合に 適用する。				15	2 路面切削工	厚 さ t (標高較差)	-17 (17) (面管理として	-2 (2)	 「3次元計測技術を用いた出来形管理要額 (案)」に基づき出来形管理を実施する場合に 適用する。 		
						緩	和)		2. 計測は切削面の全面とし、すべての点で設 計面との厚さまたは標高較差を算出する。計 測密度は1点/㎡(平面投影面積当たり)以上と	E E				(面管理の場合)		緩和)		2. 計測は切削面の全面とし、すべての点で設 計面との厚さtまたは標高較差を算出する。計 測密度は1点/m²(平面投影面積当たり)以上と	€.	
			ŧ	(面官埋の場合) 原高較差または厚さtのみ	W W	-1	25	-	する。 3. 厚さtまたは標高較差は、現舗装高切削後	<u></u>				(面管理の場合) 標高較差または厚さtのみ	₩ W	-25	-	する。 3. 厚さtまたは標高較差は、現舗装高切削後		
									の基準高との差で算出する。 4. 幅は、延長40m毎に測定するものとし、延長 40m未満の場合は、2ヶ所/施工箇所とする。	現舗装 w								の基準高との差で算出する。 4. 幅は、延長40m毎に測定するものとし、延長 40m未満の場合は、2ヶ所/施工箇所とする。	現締装 w	
		16	ģ	铺装打換之工	₩ W		-50		各層毎1箇所/1施工箇所 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領			1	16	舗装打換え工	₩ W	-50		各層毎1箇所/1施工箇所 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領		
				£			-100	D	「3次元計制技術を用いた四米形管理要領 (業)」の規定による測点の管理方法を用いることができる。	TI					路 盤 延長 L	-100		(案)」の規定による測点の管理方法を用いることができる。	TI	
					厚さ t		該当工	: RM		w I I w					厚さ t	該当工種	1		w I I w	
					## W		-25			L.					₩ W	-25			L L	
				\$ 3			-100	0							舗装 延長 L	-100				
1 1	1				厚さ t		該当工	:種							上 厚さ t	該当工種				
												1 1 1								

								単位:mm									単位:mm
				Ħ	格 値								規	格 値			
編	章 自	節 条 柱	支番 工 種	測定項目 個々のi	制定値 測定値の平 (X)	均 測 定 基 準	測定箇所	摘 要	編章) 節 :	条 枝番 工 種	測定項目	個々の測定値 (X)	測定値の平均 (X)	測定基準	測定簡所	摘 要
3	2	6 17	1 オーバーレイエ	厚さ t	-9	厚さは40m毎に現舗装高とオーバーレイ後の 基準高の差で算出する。			3 2	2 6 1	7 1 オーバーレイエ	厚さ t		-9	厚さは40m毎に現舗装高とオーバーレイ後の 基準高の差で算出する。		
土木	一 -	- 19		幅 W	-25	測定点は車道中心線、車道端及びその中心と する。 幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、延長40m			土 一 般	9 49		## W	-	-25	副定点は車道中心線、車道端及びその中心と する。 幅は、延長40m年に1箇所の割とし、延長40m		
事	施加加	接		延長 L	-100	未満の場合は、2ヶ所/施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来	<u>e</u>		工 施事 工			延長 L		100	未満の場合は、2ヶ所/施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来	q.	
共通		E		延改 L	-100 3mプロフィル	్త రె.	· +		共通	I		延長 L		3mプロフィル	る。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要額	T 188	
-				平坦性 -	メーター (σ)2.4mm以	(案)」の規定による測点の管理方法を用いるこ ド トルアキス	現績装 w		196			平坦性	_	メーター (σ)2.4mm以下	(案)」の規定による測点の管理方法を用いることができる。	現績装 w	
					直読式(足付 (σ)1.75mml	§)								直読式(足付き) (σ)1.75mm以下			
		17	2 オーバーレイエ	厚さあるい は標高較差 -2	0 -3	1. 3次元データによる出来形管理において「3 次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」				1	7 2 オーバーレイエ	厚さあるい は標高較差	-20	-3	1.3次元データによる出来形管理において「3 次元計測技術を用いた出来形管理要額(案)」		
			(面管理の場合)	[#15][0]#X.EL	3mプロフィル	に基づき出来形管理を実施する場合、その他 本基準に規定する計測精度・計測密度を満た					(面管理の場合)	1415(10) 83.25		3mプロフィル	に基づき出来形管理を実施する場合、その他 本基準に規定する計測精度・計測密度を満た		
			(MI B SE-> W LI)	平坦性 -	メーター (σ)2.4mm以 直読式(足付						(181 8 25-7 181 7	平坦性	-	メーター (σ)2.4mm以下 直読式(足付き)	す計測方法により出来形管理を実施する場合 に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には計測精度として		
					(σ)1.75mml	(下 ±4mmかざまれている。3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点								(a)1.75mm以下	土4mmが含まれている。 3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点		
						で標高値を算出する。計測密度は1点/㎡(平 面投影面積当たり)以上とする。 4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値									で標高値を算出する。計測密度は1点/㎡(平 面投影面積当たり)以上とする。 4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値		
						との差で算出する。 5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直									との差で算出する。 5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直		
						下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+ 設計厚さから求まる高さとの差とする。									下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+ 設計厚さから求まる高さとの差とする。		
								単位:mm									単位:mm
編	雅育	市 条 村	支番 工 種	測定項目	1												
3	2			侧足坝日	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要	福章	* 節 :	条 枝番 工 種	測定項	[]	規格値	測定基準	測定簡所	摘 要
土木		7 2	路床安定処理工	基準高 ▽	規 格 値 ±50	測 定 基 準 延長40m毎に1ヶ所の割で測定。 基準高は、道路中心線及び端部で測定。 原文は中心線及び端部で測定。	測定箇所	摘 要	3 2	2 7	業 枝番 工 種 2 路床安定処理工	測 定 項基準高		規 格 値 ±50	延長40m毎に1ヶ所の割で測定。 基準高は、道路中心線及び端部で測定。	測定箇所	摘要
717	般者	7 2 他			+	延長40m毎に1ヶ所の割で測定。 基準高は、道路中心線及び端部で測定。 厚さは中心線及び端部で測定。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要額	測 定 簡 所 G_ 	摘要	3 2 土 一	2 7 :			∇		延長40m毎に1ヶ所の割で測定。 基準高は、道路中心線及び端部で測定。 厚さは中心線及び端部で測定。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要額	測 定 箇 所 C.	摘要
- 工事 共	般者	7 2 也		基準高 ▽	±50	延長40m年(1)ヶ所の刺で制定。 基準部は、道路中心線及び端部で測定。 厚さは中心線及び端部で測定。 「3次元計劃技術を用いた出来形管理要領 (策)による管理の場合は、全体改良範囲短を 用いて、施工厚む、天端艦所、天器を長むを解	ę. 	摘 要	3 2 ± -	2 7 :		基準高	t t	±50	延長40m毎に1ヶ所の割で測定。 基準商は、道路中心線及び端部で測定。 厚さは中心線及び端でで測定。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要額 (梁)による管理の場合は、全体改良範囲図を 用いて、施工厚さ、天端極い、天端延長1と確	ę.	摘要
二事共通編	般者	2		基準高 ▽ 施工厚さ t	±50 -50	延長40m毎に1ヶ所の割で測定。 基準高は、道路中心線及び端部で測定。 厚さは中心線及び端部で測定。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要額 (業)」による管理の場合は、全体改良範囲図を	制 定 簡 所 G.	摘要	3 2 土 一般 施	2 7 :		基準高施工厚さ	⊽ t	±50 -50	延長40m毎に1ヶ所の割で調定。 基準高は、道路中心線及び端部で測定。 厚さは中心線及び端部で測定。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要額 (紫)」による管理の場合は、全体改良範囲図を	ę. 	摘 要
二事共通編	般者	2		基準高 ▽ 施工厚さ t 幅 w	±50 -50 -100	延長40m年(1)ヶ所の刺で制定。 基準部は、道路中心線及び端部で測定。 厚さは中心線及び端部で測定。 「3次元計劃技術を用いた出来形管理要領 (策)による管理の場合は、全体改良範囲短を 用いて、施工厚む、天端艦所、天器を長むを解	ę. 	摘要	3 2 土 一般 施	2 7 :		基準高 施工厚さ 幅 w	⊽ t	±50 -50 -100	延長40m毎に1ヶ所の割で測定。 基準商は、道路中心線及び端部で測定。 厚さは中心線及び端でで測定。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要額 (梁)による管理の場合は、全体改良範囲図を 用いて、施工厚さ、天端極い、天端延長1と確	ę.	摘 要
工事共通編	般者	2		基準高 ▽ 施工厚さ t 幅 w	±50 -50 -100	延長40m年(1)ヶ所の刺で制定。 基準部は、道路中心線及び端部で測定。 厚さは中心線及び端部で測定。 「3次元計劃技術を用いた出来形管理要領 (策)による管理の場合は、全体改良範囲短を 用いて、施工厚む、天端艦所、天器を長むを解	ę. 	摘要	3 2 土 一般 施	2 7 :		基準高 施工厚さ 幅 w	⊽ t	±50 -50 -100	延長40m毎に1ヶ所の割で測定。 基準商は、道路中心線及び端部で測定。 厚さは中心線及び端でで測定。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要額 (梁)による管理の場合は、全体改良範囲図を 用いて、施工厚さ、天端極い、天端延長1と確	ę.	摘要
工事共通編	般者	2	路床安定処理工	基準高 ▽ 施工厚さ t 幅 w 延長 L	±50 -50 -100 -200	接長40m毎に1ヶ所の京で創定。 基準衛は直接から機及び場所で創定。 厚さは中心機及び場所で創定。 厚さは中心機及び場所で創定。 「3次元計削技術を用ぐ止出来形管理要領 (第)によら管理の場合は、全体改長範囲部を 用いて、施工場合、、交帰幅w、大衛施長Lを縮 型(実側は1年数)。	ę. 	摘要	3 2 土 一般 施	2 7 :	2 路床安定処理工	基準高 施工呼さ 幅 w 延長	t	±50 -50 -100 -200	延長40m毎に1ヶ所の第で画室。 起準約は道路中級及び場話で測定。 厚さ1年心線及び場話で測定。 「3次元計劃技術を用いた出来形管理要額 (3次元計劃技術を用いた出来形管理要額 (3次元計劃技術を用からは、全体改良範囲図を 用いて、施工場を4、天施幅w、天施延長1を確 級(矢側は1年象)。 施工延長40m(側点側隔25mの場合は50m)に 施工延長40m(側点側隔25mの場合は50m)に	ę.	摘要
工事共通編	般者	2		基準高 ▽ 施工厚さ t 幅 w	±50 -50 -100 -200 -50	接長40m毎に1ヶ所の京で南近 落準前は直接中心機及び場部で創定。 厚空1中心機及び場部で創定。 「3次元計削技術を用いた出来形容理要額 (第)による管理の場合は、全体改良範囲図を 用いて、施工原告、欠機幅w、天衛差負Lを確 数(実側は下要)。 施工延長40m(側点開展25mの場合は50m)に つき1ヶ所、延長40m(50m)以下の4つは1施 工施所につか40m(50m)以下の4つは1施 工施所につか40m(50m)以下の4つは1施 工施所につか40m(50m)以下の4つは1施	ę. 	摘要	3 2 土 一般 施	2 7 :		基準高 施工厚さ 幅 w	t	±50 -50 -100 -200 -550	延長40m(前に1ヶ所の前で画室、 振車衛は、道路中級及び場部で測定。 厚さ1年も線及び場部で測定。 「3次元計劃技術を用いた出来形管理要額 (3次元計劃技術を用いた出来形管理要額 (3次元計画技術を用いた出来形管理要額 別いて、施工度を、天端幅w、天端延長1と確 選(実施は不要)。 施工延長40m(前点間隔25mの場合は50m)に つき1ヶ所、延長40m(50m)以下の4のは1施 工能所につかと即	ę.	掮 葵
工事共通編	般者	2	路床安定処理工	基準高 ▽ 施工厚さ t 幅 w 延長 L	±50 -50 -100 -200	接長40m銀に1ヶ所の京で創定 議事高は、運転や40機及び場部で創定。 厚さは中心機及び場部で制定。 「3次元計制技術作用いく出来形容理要領 (第)による管理の場合は、全体改良範囲形を 用いて、施工厚さ、天帰幅w、天帰延長Lを確 説(実測は不要)。 原本の(側点原隔25mの場合は50m)が 位工延長40m(側点原隔25mの場合は50m)に 企工延長40m(側点原隔25mの場合は50m)に 企工延長40m(側点原隔25mの場合は50m)に	ę. 	侑 要	3 2 土 一般 施	2 7 :	2 路床安定処理工	基準高 施工呼さ 幅 w 延長	∇ t	±50 -50 -100 -200	延長40m銀に1ヶ所の前で画家 基準部は、道路で連載を「場話で開定。 厚さは中心線及び場話で開定。 厚さは中心線及び場話で開定。 「3次元計削技術を用いた出来形管理要類 (後)にはる管理場合は、全体改良範囲図を 用いて、施工厚与、天端幅w、天端延長Lを確 返(実満は不要)。 施工延長40m(測点開端25mの場合は250m)に つき1ヶ所、延長40m(50m)以下の6,07は1施	ę.	姷 葵
工事共通編	般者	2	路床安定処理工	基準高 ▽ 施工厚さ t 幅 w 延長 L	±50 -50 -100 -200 -50	接長40m毎に1ヶ所の京で南近 落準前は直接中心機及び場部で創定。 厚空1中心機及び場部で創定。 「3次元計削技術を用いた出来形容理要額 (第)による管理の場合は、全体改良範囲図を 用いて、施工原告、欠機幅w、天衛差負Lを確 数(実側は下要)。 施工延長40m(側点開展25mの場合は50m)に つき1ヶ所、延長40m(50m)以下の4つは1施 工施所につか40m(50m)以下の4つは1施 工施所につか40m(50m)以下の4つは1施 工施所につか40m(50m)以下の4つは1施	ę. 	侑 要	3 2 土 一般 施	2 7 :	2 路床安定処理工	基準高 施工厚之 幅 w 延長	v t L L v v v t t	±50 -50 -100 -200 -550	延長40m(前に1ヶ所の前で画室、 振車衛は、道路中級及び場部で測定。 厚さ1年も線及び場部で測定。 「3次元計劃技術を用いた出来形管理要額 (3次元計劃技術を用いた出来形管理要額 (3次元計画技術を用いた出来形管理要額 別いて、施工度を、天端幅w、天端延長1と確 選(実施は不要)。 施工延長40m(前点間隔25mの場合は50m)に つき1ヶ所、延長40m(50m)以下の4のは1施 工能所につかと即	ę.	侑 妥
工事共通編	般者	2	路床安定処理工	基準高 ▽ 施工厚さ t 幅 w 延長 L 基準高 ▽ 酸換厚さ t	±50 -50 -100 -200 -50 -50	接長40m毎に1ヶ所の京で南近 落準前は直接中心機及び場部で創定。 厚空1中心機及び場部で創定。 「3次元計削技術を用いた出来形容理要額 (第)による管理の場合は、全体改良範囲図を 用いて、施工原告、欠機幅w、天衛差負Lを確 数(実側は下要)。 施工延長40m(側点開展25mの場合は50m)に つき1ヶ所、延長40m(50m)以下の4つは1施 工施所につか40m(50m)以下の4つは1施 工施所につか40m(50m)以下の4つは1施 工施所につか40m(50m)以下の4つは1施	G.	捕 要	3 2 土 一般 施	2 7 :	2 路床安定処理工	基準高 施工厚さ 幅 W 延長 基準高 服換厚さ	v t t L v v v v t t v v v v v v v v v v	±50 -50 -100 -200 -50 -50	延長40m(前に1ヶ所の前で画室、 振車衛は、道路中級及び場部で測定。 厚さ1年も線及び場部で測定。 「3次元計劃技術を用いた出来形管理要額 (3次元計劃技術を用いた出来形管理要額 (3次元計画技術を用いた出来形管理要額 別いて、施工度を、天端幅w、天端延長1と確 選(実施は不要)。 施工延長40m(前点間隔25mの場合は50m)に つき1ヶ所、延長40m(50m)以下の4のは1施 工能所につかと即	€.	摘要
工事共通編	般者	2	路床安定処理工	 基準高 ▽ 施工厚さ t 幅 w 延長 L 基準高 ▽ 置換厚さ t 幅 w 	±50 -50 -100 -200 ±50 -50 -100	接長40m毎に1ヶ所の京で南近 落準前は直接中心機及び場部で創定。 厚空1中心機及び場部で創定。 「3次元計削技術を用いた出来形容理要額 (第)による管理の場合は、全体改良範囲図を 用いて、施工原告、欠機幅w、天衛差負Lを確 数(実側は下要)。 施工延長40m(側点開展25mの場合は50m)に つき1ヶ所、延長40m(50m)以下の4つは1施 工施所につか40m(50m)以下の4つは1施 工施所につか40m(50m)以下の4つは1施 工施所につか40m(50m)以下の4つは1施	G.	捕 麥	3 2 土 一般 施	2 7 :	2 路床安定処理工	基準高 施工序之 幅 w 延長 基準高 服換厚之	v t t L v v v v t t v v v v v v v v v v	±50 -50 -100 -200 ±50 -50 -100	延長40m(前に1ヶ所の前で画室、 振車衛は、道路中級及び場部で測定。 厚さ1年も線及び場部で測定。 「3次元計劃技術を用いた出来形管理要額 (3次元計劃技術を用いた出来形管理要額 (3次元計画技術を用いた出来形管理要額 別いて、施工度を、天端幅w、天端延長1と確 選(実施は不要)。 施工延長40m(前点間隔25mの場合は50m)に つき1ヶ所、延長40m(50m)以下の4のは1施 工能所につかと即	€.	侑 灭
- 工事共通編	般者	2	路床安定処理工	 基準高 ▽ 施工厚さ t 幅 w 延長 L 基準高 ▽ 置換厚さ t 幅 w 	±50 -50 -100 -200 ±50 -50 -100	接長40m毎に1ヶ所の京で南近 落準前は直接中心機及び場部で創定。 厚空1中心機及び場部で創定。 「3次元計削技術を用いた出来形容理要額 (第)による管理の場合は、全体改良範囲図を 用いて、施工原告、欠機幅w、天衛差負Lを確 数(実側は下要)。 施工延長40m(側点開展25mの場合は50m)に つき1ヶ所、延長40m(50m)以下の4つは1施 工施所につか40m(50m)以下の4つは1施 工施所につか40m(50m)以下の4つは1施 工施所につか40m(50m)以下の4つは1施	G.	姷 麥	3 2 土 一般 施	2 7 :	2 路床安定処理工	基準高 施工序之 幅 w 延長 基準高 服換厚之	v t t L v v v v t t v v v v v v v v v v	±50 -50 -100 -200 ±50 -50 -100	延長40m(前に1ヶ所の前で画室、 振車衛は、道路中級及び場部で測定。 厚さ1年も線及び場部で測定。 「3次元計劃技術を用いた出来形管理要額 (3次元計劃技術を用いた出来形管理要額 (3次元計画技術を用いた出来形管理要額 別いて、施工度を、天端幅w、天端延長1と確 選(実施は不要)。 施工延長40m(前点間隔25mの場合は50m)に つき1ヶ所、延長40m(50m)以下の4のは1施 工能所につかと即	€.	侑 灭
- 二事共通編	般者	2	路床安定処理工	 基準高 ▽ 施工厚さ t 幅 w 延長 L 基準高 ▽ 置換厚さ t 幅 w 	±50 -50 -100 -200 ±50 -50 -100	接長40m毎に1ヶ所の京で南近 落準前は直接から機及び場部で創定。 厚空1中も機及び場部で創定。 「3次元計削技術を用いた出来形容理要額 (第)による管理の場合は、全体改良範囲図を 用いて、施工原告、欠機幅w、天衛差負Lを確 数(実側は下要)。 施工延長40m(側点間隔25mの場合は50m)に つき1ヶ所、延長40m(50m)以下の4つは1施 工施所につか40m(50m)以下の4つは1施 工施所につか40m(50m)以下の4つは1施 工施所につか40m(50m)以下の4つは1施	G.	姷 麥	3 2 土 一般 施	2 7 :	2 路床安定処理工	基準高 施工序之 幅 w 延長 基準高 服換厚之	v t t L v v v v t t v v v v v v v v v v	±50 -50 -100 -200 ±50 -50 -100	延長40m(前に1ヶ所の前で画室、 振車衛は、道路中級及び場部で測定。 厚さ1年も線及び場部で測定。 「3次元計劃技術を用いた出来形管理要額 (3次元計劃技術を用いた出来形管理要額 (3次元計画技術を用いた出来形管理要額 別いて、施工度を1、天端幅w、天端延長1と確 級 (美間は不要)。 施工延長40m(側点間隔25mの場合は50m)に つき1ヶ所、延長40m(50m)以下の4のは1施 工能所につかと即	€.	侑 灭
二事共通編	般者	2	路床安定処理工	 基準高 ▽ 施工厚さ t 幅 w 延長 L 基準高 ▽ 置換厚さ t 幅 w 	±50 -50 -100 -200 ±50 -50 -100	接長40m毎に1ヶ所の京で南近 落準前は直接から機及び場部で創定。 厚空1中も機及び場部で創定。 「3次元計削技術を用いた出来形容理要額 (第)による管理の場合は、全体改良範囲図を 用いて、施工原告、欠機幅w、天衛差負Lを確 数(実側は下要)。 施工延長40m(側点間隔25mの場合は50m)に つき1ヶ所、延長40m(50m)以下の4つは1施 工施所につか40m(50m)以下の4つは1施 工施所につか40m(50m)以下の4つは1施 工施所につか40m(50m)以下の4つは1施	G.	病 麥	3 2 土 一般 施	2 7 :	2 路床安定処理工	基準高 施工序之 幅 w 延長 基準高 服換厚之	v t t L v v v v t t v v v v v v v v v v	±50 -50 -100 -200 ±50 -50 -100	延長40m(前に1ヶ所の前で画室、 振車衛は、道路中級及び場部で測定。 厚さ1年も線及び場部で測定。 「3次元計劃技術を用いた出来形管理要額 (3次元計劃技術を用いた出来形管理要額 (3次元計画技術を用いた出来形管理要額 別いて、施工度を1、天端幅w、天端延長1と確 級 (美間は不要)。 施工延長40m(側点間隔25mの場合は50m)に つき1ヶ所、延長40m(50m)以下の4のは1施 工能所につかと即	€.	侑 灭
1. 工事共通編	般者	2	路床安定処理工	 基準高 ▽ 施工厚さ t 幅 w 延長 L 基準高 ▽ 置換厚さ t 幅 w 	±50 -50 -100 -200 ±50 -50 -100	接長40m毎に1ヶ所の京で南近 落準前は直接から機及び場部で創定。 厚空1中も機及び場部で創定。 「3次元計削技術を用いた出来形容理要額 (第)による管理の場合は、全体改良範囲図を 用いて、施工原告、欠機幅w、天衛差負Lを確 数(実側は下要)。 施工延長40m(側点間隔25mの場合は50m)に つき1ヶ所、延長40m(50m)以下の4つは1施 工施所につか40m(50m)以下の4つは1施 工施所につか40m(50m)以下の4つは1施 工施所につか40m(50m)以下の4つは1施	G.	嫡 麥	3 2 土 一般 施	2 7 :	2 路床安定処理工	基準高 施工序之 幅 w 延長 基準高 服換厚之	v t t L v v v v t t v v v v v v v v v v	±50 -50 -100 -200 ±50 -50 -100	延長40m(前に1ヶ所の前で画室、 振車衛は、道路中級及び場部で測定。 厚さ1年も線及び場部で測定。 「3次元計劃技術を用いた出来形管理要額 (3次元計劃技術を用いた出来形管理要額 (3次元計画技術を用いた出来形管理要額 別いて、施工度を1、天端幅w、天端延長1と確 級 (美間は不要)。 施工延長40m(側点間隔25mの場合は50m)に つき1ヶ所、延長40m(50m)以下の4のは1施 工能所につかと即	€.	捕 麥
工事共通編	般者	2	路床安定処理工	 基準高 ▽ 施工厚さ t 幅 w 延長 L 基準高 ▽ 置換厚さ t 幅 w 	±50 -50 -100 -200 ±50 -50 -100	接長40m毎に1ヶ所の京で南近 落準前は直接から機及び場部で創定。 厚空1中も機及び場部で創定。 「3次元計削技術を用いた出来形容理要額 (第)による管理の場合は、全体改良範囲図を 用いて、施工原告、欠機幅w、天衛差負Lを確 数(実側は下要)。 施工延長40m(側点間隔25mの場合は50m)に つき1ヶ所、延長40m(50m)以下の4つは1施 工施所につか40m(50m)以下の4つは1施 工施所につか40m(50m)以下の4つは1施 工施所につか40m(50m)以下の4つは1施	G.	嫡 要	3 2 土 一般 施	2 7 :	2 路床安定処理工	基準高 施工序之 幅 w 延長 基準高 服換厚之	v t t L v v v v t t v v v v v v v v v v	±50 -50 -100 -200 ±50 -50 -100	延長40m(前に1ヶ所の前で画室、 振車衛は、道路中級及び場部で測定。 厚さ1年も線及び場部で測定。 「3次元計劃技術を用いた出来形管理要額 (3次元計劃技術を用いた出来形管理要額 (3次元計画技術を用いた出来形管理要額 別いて、施工度を1、天端幅w、天端延長1と確 級 (美間は不要)。 施工延長40m(側点間隔25mの場合は50m)に つき1ヶ所、延長40m(50m)以下の4のは1施 工能所につかと即	€.	摘要
工事共通欄	般者	2	路床安定処理工	 基準高 ▽ 施工厚さ t 幅 w 延長 L 基準高 ▽ 置換厚さ t 幅 w 	±50 -50 -100 -200 ±50 -50 -100	接長40m毎に1ヶ所の京で南近 落準前は直接から機及び場部で創定。 厚空1中も機及び場部で創定。 「3次元計削技術を用いた出来形容理要額 (第)による管理の場合は、全体改良範囲図を 用いて、施工原告、欠機幅w、天衛差負Lを確 数(実側は下要)。 施工延長40m(側点間隔25mの場合は50m)に つき1ヶ所、延長40m(50m)以下の4つは1施 工施所につか40m(50m)以下の4つは1施 工施所につか40m(50m)以下の4つは1施 工施所につか40m(50m)以下の4つは1施	G.	嫡 麥	3 2 土 一般 施	2 7 :	2 路床安定処理工	基準高 施工序之 幅 w 延長 基準高 服換厚之	v t t L v v v v t t v v v v v v v v v v	±50 -50 -100 -200 ±50 -50 -100	延長40m(前に1ヶ所の前で画室、 振車衛は、道路中級及び場部で測定。 厚さ1年も線及び場部で測定。 「3次元計劃技術を用いた出来形管理要額 (3次元計劃技術を用いた出来形管理要額 (3次元計画技術を用いた出来形管理要額 別いて、施工度を1、天端幅w、天端延長1と確 級 (美間は不要)。 施工延長40m(側点間隔25mの場合は50m)に つき1ヶ所、延長40m(50m)以下の4のは1施 工能所につかと即	€.	摘要

			The state of the s		単位:mm								単位:mm
編 革 節 条 枝番 工 種	測定項目	規 格 値	測定基準	測定箇所	摘 要	箱章	節条	枝番 工 種	測定項目	規 格 値	測定基準	測定箇所	摘 要
3 2 7 4 1 表層安定処理工 土 一 絶 武 茂 茂 茂 東 正 工 上	基準高 ▽	特配仕様書に明示 -500 -300 -500	第工延長10mにつき、1測点当たり5点以上測定。 定。 v. (1.)は第工総長10mにつき1ヶ所、 40m 以下のものは1第工館所につき2箇所。 (1.)はセンターライン及び表裏法屑で行う。	w. (L)		3 土木工事共通編2 土木工事共通編2 土木工事共通編2 土木工事共通編2 土 対線施工	7 地盤改良工	1 表帯安定処理工 (サンドマット海上)	基準高 ▽ 注長 @ 天端幅 w 天端経長 L	特配任练書に明示 -500 -300 -500	第工延長10mにつき、1測点当たり5点以上測定。 w. (1.)は第工延長10mにつき1ヶ門、 40m 以下の6のは1第工施所につき3箇所。 (1.)はセンターライン及び表裏法解で行う。	② ③ ④ ⑤ ⑤	
4 2 表層安定処理工 (GCT施工の場合)	基準高 ▽ 法長 0 天塔幅 w 天端延長 L	特配仕様書に明示 -500 -300 -500	施工延長10mにつき、1測点当たり5点以上測定。 定。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要額 (家)」に記載の全体改良号価図を用いて、天 場幅w、天階延長1と確認(実測は不要)。	② ③ ④ ⑤			4	2 表層安定処理工 (ICT施工の場合)	基準高 ▽ 法長 @ 天端幅 w 天端延長 L	特配仕様書に明示 -500 -300 -300	第工延長10mにつき、1測点当たり5点以上測定。 定。 「3次元計劃技術を用いた出来形管理要額 (実)に記載少全体改具半面図を用いて、天 場幅w、天帰延長1と構設(実例は不要)。	© 3 4 ©	
編章節条枝番工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	単位:mm 摘 要	編章	· /	枝番 工 種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測定簡所	単位:mm 摘 要
3 2 7 5 /////////////////////////////////	基準高 ▽	±50 -50 -100 -200	施工延長40m(商点開催25mの場合は50m)に のさい方元。 実とは中心機ので開始で個別起こして側定。 核については、当該杭の項目に準する。	Q. W. V.		3 土木工事共通編	7 5 地盤改良工	バイルネットエ	基準高 ▽ 厚さ t 幅 w 近長 L	±50 -50 -100 -200	施工延長40m(測点開開25mの場合は50m)に つきは5m(更大ではないでは、 呼ばは中心線及び両端で棚り起こして削定。 核については、当該杭の項目に準する。	q W V V V	
6 サンドマットエ	施工厚さ t 幅 w 延長 L	-50 -100 -200	第工後長40m(側点関係25mの場合は50m)に のわいが。 厚さは中心線及び両端で棚り起こして測定。	q. t			6	サンドマットエ	施工厚さt 幅 w 延長 L	-50 -100 -200	施工延長(40m、側点開開25mの場合は50m)に の食19所。 厚さは中心線及び両端で棚り起こして測定。	q. t	

縅	章 節	条 枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要	編:	能節	条 枝	番 工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
3	2 7	7	バーチカルドレーンエ	位置·間隔 w	±100	100本に1箇所。 100本以下は2箇所測定。1ヶ所に4本測定。 ただし、ペーパードレーンの杭径は対象外とす	· w ist		3	2 7	7	パーチカルドレーンエ	位置·間隔 w	±100	100本に1箇所。 100本以下は2箇所測定。1ヶ所に4本測定。 ただし、ペーパードレーンの杭径は対象外とす	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
	一 地 般 盤 施 改		(サンドドレーン工) (ペーパードレーン工) (袋詰式サンドドレーン	杭径 D	設計值以上	ప .	· @			一般遊		(サンドドレーン工) (ペーパードレーン工) (袋詰式サンドドレーン	杭径 D	設計值以上	వ .	· • • • •	
事共通	工 良工		工)	打込長さ h	設計值以上	全本数	tw:		事 :	工 良工		工)	打込長さ h	設計值以上	全本数	*	
編		8		サンドドレーン、 袋詰式サンドドレーン、 サンドコンパクションパイルの 砂投入量	-	全本数 計器管理にかえることができる。	- 		緇		8	締固め改良工 (サンドコンパクションパイ ル工)	サンドドレーン、 袋詰式サンドドレーン、 サンドコンパクションパイルの 砂投入量	-	全本数 計器管理にかえることができる。		
							※余長は適用除									※余長は適用除	
		9 1	固結工	基準高 ▽	-50	100本に1箇所。 100本以下は2箇所測定。 1ヶ所に4本測定。	- * · · · · ·				9	1 固結工	基準高 ▽	-50	100本に1箇所。 100本以下は2箇所測定。 1ヶ所に4本測定。	* * * * * * * * * * * * * * * * * * *	
			(粉体噴射撹拌工) (高圧噴射撹拌工) (スラリー撹拌工)	位置·間隔 w	D/4以内							(粉体噴射撹拌工) (高圧噴射撹拌工) (スラリー撹拌工)	位置·間隔 w	D/4以内			
			(生石灰パイル工)	杭径 D	設計值以上		*					(生石灰パイル工)	杭径 D	設計值以上		* "	
				深度 L	設計值以上	全本数 L=@1-@2	[. w]						深度 L	設計值以上	全本数 L=@1-@2	. w	
						01は改良体先端深度 02は改良端天端深度	674								01は改良体先端深度 02は改良端天端深度	n.t.	
							2.									2. 1	

編章	節多	技番	工 種	測定項目	規 格 値	測定基準	測定箇所	摘 要	編章節	条 枝番 工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
3 2	7 9	+	固結工	基準高 ▽	0以上	杭芯位置管理表により基準高を確認	100 221		3 2 7	9 2 固結工	基準高 ▽	0以上	杭芯位置管理表により基準高を確認	MM 221	
土土般	地盤	ا	(スラリー撹拌工)	位置	D/8以内	全本数 施工履歴データから作成した杭芯位置管理表	\$ true		土土地	(スラリー撹拌工)	位置	D/8674	全本数 施工履歴データから作成した杭芯位置管理表	- Marie	
工 施 工 共	改良工		「3次元計測技術を用いた			により設計杭芯位置を施工した杭芯位置との距離を確認 (掘起しによる実測確認は不要)	۰ <u>ب</u> هر ۰		工施改良工	「3次元計測技術を用いた			により設計杭芯位置を施工した杭芯位置との距 離を確認 (掘起しによる実測確認は不要)		
通編			出来形管理要領(業) 固 結工(スラリー撹拌工) 編」による管理の場合	杭径 D	設計値以上	工事毎に1回 施工前の接件翼の寸法実測により確認 (堀起しによる実測確認は不要)	O		通編	出来形管理要領(案)第 8編固結工(スラリー撹拌 工)編」による管理の場合	杭径 D	設計值以上	工事毎に1回 施工前の撹拌翼の寸法実測により確認 (掘起しによる実測確認は不要)	<u>ن</u>	
						全本勢	e,t.						全本数	e_i^+ .	
				改良長 L	設計值以上	至本数 施工履歴データから作成した杭打設結果表に より確認 (残尺計測による確認は不要)					改良長 L	設計值以上	王本級 施工履歴データから作成した杭打設結果表に より確認 (残尺計測による確認は不要)	T Total	
						(2米人自 例による無路は十分会)							(2文人目 例による機能には个妻)		
	9	3	固結工	基準高 ▽	設計值以上	1,000 m ~ 4,000 m につき1ヶ所、または施工延 長40m(測点開隔25mの場合は50m)につき1ヶ 元				9 3 固結工	基準高 ▽	設計值以上	1,000㎡~4,000㎡につき1ヶ所、または施工延 長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1ヶ 元		
			(中層混合処理)	施工厚さ t	設計值以上	70。 1,000m3以下、又は施工延長40m(50m) 以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 施工厚さは施工時の改良深度確認を出	ÇI.			(中層混合処理)	施工厚さ t	設計值以上	771。 1,000m3以下、又は施工延長40m(50m) 以下のものは1施工施所につき2ヶ所。 施工厚さは施工時の改良深度確認を出	CL	
				₩ w	設計值以上	題上呼ぐは題上呼り以及保及確認を出来形とする。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要額 - (案)」による管理の場合は、全体改良範囲図を					幅 w	設計值以上	- 旭上厚さは旭上呼の収長保度確認を出来形とする。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領 - (業)」による管理の場合は、全体改良範囲図を		
				延長 L	設計值以上	用いて、施工厚さt、幅w、延長Lを確認(実測は 不要)。					延長 L	設計值以上	用いて、施工厚さt、幅w、延長Lを確認(実測は不要)。		
							× * >							< * >	
														20 5410	
								単位:mm						l l	単位:mm
編章	節条	: 枝番	工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	単位:mm 摘 要	編章節	条 枝番 工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定簡所	単位:mm 摘 要
編 章 3 2	節 条 10 5	· 枝番	工 種土留・仮締切工	測 定 項 目	規 格 値 ±100	基準高は施工延長40m(測点開隔25mの場合 は50m)につき1ヶ所。延長40m(又は50m)以下 のものは、1施工箇所につき2ヶ所。	測定簡所		編章節		測 定 項 目 基準高 ▽	規 格 値 ±100	基準高は施工延長40m(測点開隔25mの場合 は50m)につき1ヶ所。延長40m(又は50m)以下 のものは、1施工箇所につき2ヶ所。	測定簡所	
\vdash	節 条 10 5 仮設工	1				基準高は施工延長40m(測点間隔25mの場合	: 						基準高は施工延長40m(測点間隔25mの場合	:\\]	
3 2 一般施工事共	節 条 10 5 仮設工	1	土留·仮締切工 (H鋼杭)	基準高 ▽	±100	基準高は施工延長40m(測点開隔25mの場合 は50m)につき1ヶ所。延長40m(又は50m)以下 のものは、1施工箇所につき2ヶ所。	nsusu-		3 2 10 土 一 仮	5 1 土留·仮締切工 (H鋼杭)	基準高 ▽	±100	基準高は施工延長40m(測点開隔25mの場合 は50m)につき1ヶ所。延長40m(又は50m)以下 のものは、1施工箇所につき2ヶ所。	nemenen	
3 2 土 一	節 条 10 5 仮設工	1	土留・仮締切工 (H鋼杭) (鋼矢板)	基準高 ▽	±100 設計値以上	基準値は推工総長40m(個点間隔25mの場合 1350m)につきしか、総長40m(又は50m)以下 いた、18工場所につき2ヶ所。 (任意の数は無く) 全数	: 		3 2 10 土 一 仮	5 1 土留・仮締切工 (H顕析) (開失板)	基準高 ▽ 根入長	±100 設計値以上	基準高は第三延手40m側点周陽(25mの場合 は50ml)につきり、新、委長40m(2(は50m)以下 のものは、1億工勝所につき2ヶ所。 (任金便収は除く) 企業	:\\]	
3 2 一般施工事共	節 条 10 5 仮設工 5	2	土留·仮締切工 (計鋼板) (鋼矢板) 土留·仮締切工	基準高 ▽ 根入長 削孔深さ a	±100	基準高は施工延長40m(測点開隔25mの場合 は50m)につき1ヶ所。延長40m(又は50m)以下 のものは、1施工箇所につき2ヶ所。	nsusu-		3 2 10 土 一 仮	5 1 土留・仮補切工 (H操化) (領失板) 5 2 土留・仮補切工	基準高 ▽ 根入長 削孔深さ @	±100 設計値以上 設計(以上	基準高は施工延長40m(測点開隔25mの場合 は50m)につき1ヶ所。延長40m(又は50m)以下 のものは、1施工箇所につき2ヶ所。	nemenen	
3 2 一般施工事共	節 条 10 5 仮設工 5	2	土留・仮締切工 (H鋼杭) (鋼矢板)	基準高 ▽	±100 設計値以上	基準値は推工総長40m(個点間隔25mの場合 1350m)につきしか、総長40m(又は50m)以下 いた、18工場所につき2ヶ所。 (任意の数は無く) 全数	nsusu-		3 2 10 土 一 仮	5 1 土留・仮締切工 (H顕析) (開失板)	基準高 ▽ 根入長	±100 設計値以上	基準高は第三延手40m側点周陽(25mの場合 は50ml)につきり、新、委長40m(2(は50m)以下 のものは、1億工勝所につき2ヶ所。 (任金便収は除く) 企業	nemenen	
3 2 一般施工事共	節 条 10 5 仮設工	2	土留·仮締切工 (計鋼板) (鋼矢板) 土留·仮締切工	基準高 ▽ 根入長 削孔深さ a	±100 設計値以上 設計深さ以上	基準値は推工総長40m(個点間隔25mの場合 1350m)につきしか、総長40m(又は50m)以下 いた、18工場所につき2ヶ所。 (任意の数は無く) 全数	A NORTH AND A STATE OF THE STAT		3 2 10 土 一 仮	5 1 土留・仮補切工 (H操化) (領失板) 5 2 土留・仮補切工	基準高 ▽ 根入長 削孔深さ @	±100 設計値以上 設計(以上	基準高は第三延手40m側点周陽(25mの場合 は50ml)につきり、新、委長40m(2(は50m)以下 のものは、1億工勝所につき2ヶ所。 (任金便収は除く) 企業	TRAINCHINA III	
3 2 一般施工事共	節 条 10 5 (仮設工)	2	土留・仮締切エ (計類核) (開矢板) 土留・仮締切エ (アンカーエ)	基準高 ▽ 様入長 様入長 削孔深さ ε 配置新差 d	±100 設計値以上 設計係さ以上 100	基準直は第三級長10m(商店開展25mの場合 150m)につき1.m。毎年4mでは150m)以下 がよのは、1場工選所 (任金保設は除く) を表 (任金保設は除く) 施工延長40m(商店開展25mの場合は50m)と	d d x d x d d d d		3 2 10 土 一 仮	5 1 上留・仮締切工 (H機化) (領失板) 5 2 土留・仮締切工 (アンカーエ)	基準高 ▽ 供入長 削孔深さ □ 配 鑑 娯 差 d	±100 設計値以上 設計係さ以上 100	集団系は東工統上の企画の高層を25mの場合 は50mlにつき)で形、統長40m(2155m)以下 のものは、1線工機所につき2ヶ所。 任金貨費材除く) 全数 (任金貨費材除く) 施工経長40m(側点開展25mの場合は50m)と	$\begin{array}{c c} & & & & \\ \hline \\ & & & \\ & & & \\ & &$	
3 2 一般施工事共	節 条 10 5 6 6 6 7 6 7 6 7 6 7 6 7 6 7 6 7 6 7 6	2 3	土留・仮締切エ (14類称) (例矢板) 土留・仮締切エ 土留・仮締切エ 土留・仮締切エ	基準高 ▽ 根入長 削孔深さ a	±100 設計値以上 設計深さ以上	基準点は第二級長30mの場合 1350m)につき、一方、 総長40m(ス(2350m)以下 250m)につき、工部がにつき25所。 (佐倉安教社論へ) 全数 (任倉安教社論へ)	$\begin{array}{c c} & & & & \\ \hline & & & & \\ & & & & \\ & & & \\ & & & \\ & &$		3 2 10 土 一 仮	5 1 上留・仮練切工 (H層位) (領矢板) 5 2 土留・仮練切工 (アンカーエ) 5 3 土留・仮練切工	基準高 ▽ 根入長 削孔深さ @	±100 設計値以上 設計(以上	基準高は第三延手40m側点用限25mの場合 (注50m)につき17m、延長40m(又は250m)以下 のものは、1億工施所につき2ヶ所。 (任金便数は除く) 企業 (任金便数は除く)	$\begin{array}{c c} & & & & \\ \hline & & & & \\ \hline & & & & \\ \hline & & & \\ & & & \\$	
3 2 一般施工事共	第 条 10 5 6 6 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7	2 3	土留・仮締切エ (計類核) (開矢板) 土留・仮締切エ (アンカーエ)	基準高 ▽ 様入長 様入長 削孔深さ ε 配置新差 d	±100 設計値以上 設計係さ以上 100	基準点は第三級長40m(商店開設5mの場合 は50m)につきし事が、最終40m(元代55m)以下 がよのは、1第工商所につき2ヶ所。 任金複数は除く) 単工級長40m(商店開設5mの場合は50m)に 単工級長40m(商店開設5mの場合は50m)に のとり手が、鉄40m(または50m)に できょう。	d $d = \sqrt{x^2 + y^2}$		3 2 10 土 一 仮	5 1 上留・仮締切工 (H機化) (領失板) 5 2 土留・仮締切工 (アンカーエ)	基準高 ▽ 供入長 削孔深さ □ 配 鑑 娯 差 d	±100 設計値以上 設計係さ以上 100	集選系は第工版子のの個点問題だかの場合 注意の制たのもとが、	$\begin{array}{c} & & & \\ & & & \\ & & & \\$	
3 2 一般施工事共	節 条 条 5 5	2 3	土留・仮締切エ (14類称) (例矢板) 土留・仮締切エ 土留・仮締切エ 土留・仮締切エ	基準高 ▽ 模入長 柳孔探さ ε 配 服 純 差 d	±100 設計値以上 設計径さ以上 100	基準点は第三級長10m(商品開展25mの場合 150m)につき1.m。 発生40m(文は50m)以下 かよのは、1版工商所につき2ヶ所。 任金保設は除く) 企業 (任金保設は除く) 施工延長40m(郷点開展25mの場合は50m)に っき1ヶ所、延長40m(または50m)以下のものは 1第工簡析につき2ヶ所。	d d x d x d d d d		3 2 10 土 一 仮	5 1 上留・仮練切工 (H層位) (領矢板) 5 2 土留・仮練切工 (アンカーエ) 5 3 土留・仮練切工	基準高 ▽ 根入長 根入長 根入長	±100 設計値以上 設計径さ以上 100	集団系は東工版上の配向点開展25mの場合 は50mlにつき)2所、毎長4m(2155ml)以下 のものは、1施工機所につき2ヶ所。 任金便費は除く) 企業 (任金便費は除く) 東工版長40m(削点開展25mの場合は50m)に つき1ヶ所 延長40m(または50m)以下のものは 1施工販所につき2ヶ所。	$\begin{array}{c c} & & & & \\ \hline & & & & \\ \hline & & & & \\ \hline & & & \\ & & & \\$	
3 2 一般施工事共	節 条 条 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	2 3	土留・仮締切エ (14類称) (例矢板) 土留・仮締切エ 土留・仮締切エ 土留・仮締切エ	基準高 ▽ 模入長 柳孔探さ ε 配 服 純 差 d	±100 設計値以上 設計径さ以上 100	基準点は第三級長10m(商品開展25mの場合 150m)につき1.m。 発生40m(文は50m)以下 かよのは、1版工商所につき2ヶ所。 任金保設は除く) 企業 (任金保設は除く) 施工延長40m(郷点開展25mの場合は50m)に っき1ヶ所、延長40m(または50m)以下のものは 1第工簡析につき2ヶ所。	$\begin{array}{c c} & & & & \\ & & & & \\ & & & \\ & & & \\ & &$		3 2 10 土 一 仮	5 1 上留・仮練切工 (H層位) (領矢板) 5 2 土留・仮練切工 (アンカーエ) 5 3 土留・仮練切工	基準高 ▽ 根入長 根入長 根入長	±100 設計値以上 設計径さ以上 100	集団系は東工版上の配向点開展25mの場合 は50mlにつき)2所、毎長4m(2155ml)以下 のものは、1施工機所につき2ヶ所。 任金便費は除く) 企業 (任金便費は除く) 東工版長40m(削点開展25mの場合は50m)に つき1ヶ所 延長40m(または50m)以下のものは 1施工販所につき2ヶ所。	$\begin{array}{c c} & & & & \\ \hline & & & & \\ & & & & \\ & & & \\ & & & \\ & & & \\ & & & \\$	
3 2 一般施工事共	節 条 条 5	2 3 4	土留・仮締切エ (14類核) (網矢板) 土留・仮締切エ (アンカーエ) 土留・仮締切エ (アンカーエ)	基準高 ▽ 根入長 相孔深さ a 配置高差 d 法長 a	±100 設計値以上 設計係さ以上 100 -100	基準直は第三級長10m(個点間隔25mの場合では50m)とでも150m)とでも17m。発生40m(女は50m)以下 がより、1%工商所につき2ヶ所。 任金保設は除く) 施工経長40m(側点間隔25mの場合は50m)と っき1ヶ所、経長40m(または50m)以下のものは 1第工箇所は 施工経長50mにつき2ヶ所。	$\begin{array}{c c} & & & & \\ & & & & \\ & & & \\ & & & \\ & &$		3 2 10 土 一 仮	5 1 上留・仮補切工 (H操忙) (領失板) 5 2 上留・仮補切工 (アンカーエ) 5 3 土留・仮補切工 (連節ブロック張り工)	基準高 ▽ 根入長 利孔深さ ε 配 産 編 差 d 法長 ε	±100 設計値以上 設計値以上 100 -100	集団系は東工統上の配向点間層(25mの場合 は50ml)につきしてが、続発(40m(2155ml)以下 のものは、1施工機所につき2ヶ所。 (任金便費は除く) 主張 (任金便費は除く) 東工経長40m(側点間層25mの場合は50m)に つき1ヶ所 経長40m(または50m)以下のものは 1施工施所布 第工経長50mにつき2ヶ所。	$\begin{array}{c c} & & & & \\ \hline & & & & \\ & & & & \\ & & & \\ & & & \\ & & & \\ & & & \\$	
3 2 一般施工事共	新 条 110 5 6 6 6 7 5 5	2 3 4	土留・仮締切エ (14類称) (例矢板) 土留・仮締切エ (アンカーエ) 土留・仮締切エ (連節プロック張りエ)	基準高 ▽ 様入長 様入長 削孔深さ a 配 優 高 差 d 注長 a 延長 L ₁ L ₂	±100 設計値以上 設計標さ以上 100 -100 -200	基準直は第三級長10m(個点間隔25mの場合では50m)につき上が、差44m(又は50m)以下のは50m)につき1.第三項を表すが、と2ヶ所。 (任金保設は除く) 施工経長40m(側点間隔25mの場合は50m)につき1ヶ所、延長40m(または50m)以下のものは1第工箇所につき2ヶ所。 施工経長50m(以下のものは1第工箇所につき2ヶ所。 延長50m(以下のものは1第工箇所につき2ヶ所。	$\begin{array}{c c} & & & & \\ & & & & \\ & & & \\ & & & \\ & &$		3 2 10 土 一 仮	5 1 上留・仮補切工 (H操位) (領矢板) 5 2 土留・仮補切工 (アンカーエ) 5 3 土留・仮補切工 (連節プロック張り工) 5 4 土留・仮補切工	基準高 ▽	±100 設計値以上 設計値以上 100 -100 -200	集団系は第工版子のの個点面開発25mの場合 は50mlにつき)2所、 委長4m(2155ml)以下 のものは、1施工施所につき2ヶ所。 (任金便費性除く) を重要性除く) を重要性除く) を重要性除く) を重要性除く) を重要性除く) を重要性除く) を重要性除く) を重要性除く) を重要性除く) を重要性能と) を重要性を) を要要性能と) を要要性を) を要性を) を を	$\begin{array}{c c} & & & & \\ \hline & & & & \\ & & & & \\ & & & \\ & & & \\ & & & \\ & & & \\$	
3 2 一般施工事共	第 条 10 5 6 6 6 7 6 7 6 7 6 7 6 7 6 7 6 7 6 7 6	2 3 4	土留・仮締切エ (14類称) (例矢板) 土留・仮締切エ (アンカーエ) 土留・仮締切エ (連節プロック張りエ)	基準高 ▽ (機入長 削孔探さ 0 配置 額 差 d 法長 0 延長 L ₁ L ₂ 基 準 高 ▽ 天端幅w	±100 設計値以上 設計値以上 100 -100 -200 -50 -100	基準直は第三級長10m(個点間隔25mの場合では50m)につき上が、差44m(又は50m)以下のは50m)につき1.第三項を表すが、と2ヶ所。 (任金保設は除く) 施工経長40m(側点間隔25mの場合は50m)につき1ヶ所、延長40m(または50m)以下のものは1第工箇所につき2ヶ所。 施工経長50m(以下のものは1第工箇所につき2ヶ所。 延長50m(以下のものは1第工箇所につき2ヶ所。	$\begin{array}{c c} & & & & \\ & & & & \\ & & & \\ & & & \\ & &$		3 2 10 土 一 仮	5 1 上留・仮補切工 (H操位) (領矢板) 5 2 土留・仮補切工 (アンカーエ) 5 3 土留・仮補切工 (連節プロック張り工) 5 4 土留・仮補切工	基準高 ▽	±100 設計値以上 設計値以上 100 -100 -200 -50	集団系は第工版子のの個点面開発25mの場合 は50mlにつき)2所、 委長4m(2155ml)以下 のものは、1施工施所につき2ヶ所。 (任金便費性除く) を重要性除く) を重要性除く) を重要性除く) を重要性除く) を重要性除く) を重要性除く) を重要性除く) を重要性除く) を重要性除く) を重要性能と) を重要性を) を要要性能と) を要要性を) を要性を) を を	$\begin{array}{c c} & & & & \\ \hline & & & & \\ & & & & \\ & & & \\ & & & \\ & & & \\ & & & \\$	
3 2 一般施工	新 条 10 5 10 ggg T 5	2 3 4	土留・仮締切エ (14類称) (例矢板) 土留・仮締切エ (アンカーエ) 土留・仮締切エ (連節プロック張りエ)	基準高 ▽ (機入長 削孔探さ 0 配置 額 差 d 法長 0 延長 L ₁ L ₂ 基 準 高 ▽ 天端幅w	±100 設計値以上 設計値以上 100 -100 -200 -50 -100	基準直は第三級長10m(個点間隔25mの場合では50m)につき上が、差44m(又は50m)以下のは50m)につき1.第三項を表すが、と2ヶ所。 (任金保設は除く) 施工経長40m(側点間隔25mの場合は50m)につき1ヶ所、延長40m(または50m)以下のものは1第工箇所につき2ヶ所。 施工経長50m(以下のものは1第工箇所につき2ヶ所。 延長50m(以下のものは1第工箇所につき2ヶ所。	$\begin{array}{c c} & & & & \\ & & & & \\ & & & \\ & & & \\ & &$		3 2 10 土 一 仮	5 1 上留・仮補切工 (H操位) (領矢板) 5 2 土留・仮補切工 (アンカーエ) 5 3 土留・仮補切工 (連節プロック張り工) 5 4 土留・仮補切工	基準高 ▽	±100 設計値以上 設計値以上 100 -100 -200 -50	集団系は第工版子のの個点面開発25mの場合 は50mlにつき)2所、 委長4m(2155ml)以下 のものは、1施工施所につき2ヶ所。 (任金便費性除く) を重要性除く) を重要性除く) を重要性除く) を重要性除く) を重要性除く) を重要性除く) を重要性除く) を重要性除く) を重要性除く) を重要性能と) を重要性を) を要要性能と) を要要性を) を要性を) を を	$\begin{array}{c c} & & & & \\ \hline & & & & \\ & & & & \\ & & & \\ & & & \\ & & & \\ & & & \\$	

編 草 節	条	枝番 工 種	測定	項目	規 格 値	測定基準	測定簡所	摘 要	編	章 節	条 枝	番 工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定簡所	痼 要
2 2 10	5	5 土留・仮締切工	基準高		-50	施工延長50mにつき1ヶ所。 延長50m以下のものは、1施工箇所につき2ヶ			2	2 10	-	5 土留・仮締切工	基準高 ▽		施工延長50mにつき1ヶ所。 延長50m以下のものは、1施工箇所につき2ヶ		
土 一 仮			G2 1 149			所。 (任意仮設は除く)			+	一 仮					所。 (任意仮設は除く)		
木 般 設		(中詰盛土)				(TEKKINGK()			木工	般設施工		(中詰盛土)			(ILEKKINEM()		
事工									事共	I.							
通編									通編								
						基準高は施工延長40m(測点間隔25mの場合									基準高は施工延長40m(測点間隔25mの場合		
	9	地中連続壁工(壁式)	基準高	∇	±50	監平向は施工延安40m(耐点间隔25mの場合は50m)につき1ヶ所。 延長40m(又は50m)以下のものについては1					9	地中連続壁工(壁式)	基準高 ▽	±50	塩平両は産工産及40m(両点両隔25mの場合 は50m)につき1ヶ所。 延長40m(又は50m)以下のものについては1		
			連壁の	長さe	-50	施工箇所につき2ヶ所。 変位は施工延長20m(測点間隔25mの場合は							連壁の長さ0	-50	施工箇所につき2ヶ所。 変位は施工延長20m(測点間隔25mの場合は		
						- 25m) につき1ヶ所。 延長20m(又は25m)以下のものは1施工箇所						-	ale es.		25m)につき1ヶ所。 延長20m(又は25m)以下のものは1施工箇所		
			変位	Ľ	300	につき2ヶ所。	▼						変位	300	につき2ヶ所。	V	
			壁体扭	ξL	-200								壁体長L	-200			
						基準高は施工延長40m(測点間隔25mの場合									基準高は施工延長40m(測点間隔25mの場合		
	10	地中連続壁工(柱列式)	基準高	∇	±50	基平商は肥工延安40m(側点间隔23mの場合 は50m)につき1ヶ所。 延長40m(又は50m)以下のものについては1	2				10	地中連続壁工(柱列式)	基準高 ▽	±50	基平商は施工延長40m(商点同隔25mの場合 は50m)につき1ヶ所。 延長40m(又は50m)以下のものについては1	. 🛮 .	
			連壁の	長さ0	-50	施工箇所につき2ヶ所。 変位は施工延長20m(測点間隔25mの場合は							連壁の長さ0	-50	施工箇所につき2ヶ所。 変位は施工延長20m(測点間隔25mの場合は	D	
			変位		D/4以内	25m) につき1ヶ所。 延長20m(又は25m)以下のものは1施工箇所	d						変位d	D/4以内	25m)につき1ヶ所。 延長20m(又は25m)以下のものは1施工箇所	D: 杭径	
			変型	.а	D/4MM	につき2ヶ所。	V						美压电	D/4k/M	につき2ヶ所。	V	
			壁体起	ΕL	-200								壁体長L	-200			
								単位:mm									単位:mm
編章節	条	枝番 工 種	測定	項目	規格値	測 定 基 準 製品全数を測定。	測定箇所	摘 要	編	章節	条枝	番 工 種	測定項目	規格値	測 定 基 準 製品全数を測定。	測定箇所	摘 要
3 2 12	1	1 鋳造費	E 314														
± - x			- TU	の直径差	+2 -0				3	2 12	1 1	鋳造費	上 孔の直径差	+2 -0			
木 般 場 製			下 部 網		-0	※1)ガス切断寸法を準用する。			3 土	2 12 - I	1 1		下部	-0	※1)ガス切断寸法を準用する。		
事 上 作		(金属支承工)	下部網構造			※1)ガス切断寸法を準用する。 ※2)片面のみの削り加工の場合も含む。			土 木工	2 12 工場製	1 1	(金属支承工)	下部銅網 ボスの突起を	+2 -0 基準とした孔の位置ずれ	※1)ガス切断寸法を準用する。 ※2)片面のみの削り加工の場合も含む。		
共工		(金属支承工)	下部網構造物と	ボスの突起を基準	-0 準とした孔の位置ずれ	※1)ガス切断寸法を準用する。 ※2)片面のみの削り加工の場合も含む。 ※3)ソールブレートの核粧面の橋軸及び橋軸 直角方向の長さ寸法に対してはCT13を適用す			3 土木工事共活	2 12 一般 施工 工場製作工	1 1		下部網構 ボスの突起を:	-0 基準とした孔の位置ずれ	※1)ガス切断寸法を準用する。 ※2)片面のみの削り加工の場合も含む。 ※3)ソールブレートの接触面の橋軸及び橋軸 直角方向及さ寸法に対してはてTI3を適用す		
通無共		(金属支承工)	下部網構造物との接中心		-0	※1)ガス切断寸法を準用する。 ※2)片面のみの削り加工の場合も含む。 ※3)ソールブレートの接触面の緩軸及び緩軸 底角方前の長さ寸法に対してはCTI3を適用す ものとする。 ※4)全移動量分の直側が確保されているのか			3 土木工事共通編	2 一般施工 共活	1 1		下部網構 ボスの突起を:	-0	※1)ガメ切断寸法を準用する。 ※2)片面のみの削り加工の場合も含む。 ※3)ソールプレートの接触面の振軸及び振軸 高角方前の長さ寸法に対してはCT13を適用するものとする。 ※4)全参數量分の差開が確保されているのか。		
通		(金属支承工)	下部網構造物との接合用	ボスの突起を基章 ≦1,000mm	-0 準とした孔の位置ずれ	※1)ガス切断寸法を準用する。 ※2)片面のみの削り加工の場合も含む。 ※3)ソールブレートの接触面の機能及び接触 底角方面の長さ寸法に対してはCT13を適用す ものとする。 ※4)全移動量分の遊問が確保されているのか をする。			3 土木工事共通編	2 12 工場製作工 共通	1 1		下	-0 基準とした孔の位置ずれ	※1)ガス切断寸法を準用する。 ※2)片面のみの削り加工の場合も含む。 ※3)ソールブレートの接触面の類軸及び隔軸 高角方面の長さ寸法に対してはCT13を適用するものとする。 ※4)全移動量分の差間が確保されているのかをする。		
通無共		(金属支承工)	下部網構造物との接合	ボスの突起を基3 ≦1,000mm ボスの突起を基3	-0 準とした孔の位置すれ 1以下 準とした孔の位置すれ	※1)ガス切断寸法を準用する。 ※2)片面のみの削り加工の場合も含む。 ※3)ソールブレートの接触面の傾軸及び傾軸 直角方面の長さ寸法に対してはCT13を適用す ものとする。 ※4)全移動量分の遊開が確保されているのか をする。 ※5)組立て後に測定			3 土木工事共通編	2 一般施工 共通	1 1		下部網構造物 ポスの突起を ・ はなりとの 中心 距離 ポスの突起を ポスの変起を ポスの変	-0 基準とした孔の位置すれ 1以下 基準とした孔の位置すれ	※1)ガス切断寸法を準用する。 ※2)片面のみの削り加工の場合も含む。 ※3)ソールプレートの接触面の類軸及び隔軸 高角方面の長さ寸法に対してはCT13を適用するものとする。 ※4)全移動量分の差間が確保されているのかをする。 ※5)組立て後に測定		
通無共		(金属支承工)	下部網構造物との接合用ボール正離	ボスの突起を基章 ≦1,000mm	-0 準とした孔の位置ずれ 1以下	※1)ガス切断寸法を準用する。 ※2)片面のみの削り加工の場合も含む。 ※3)ソールブレートの接触面の機能及び機能 低角方面の長さ寸法に対してはCT13を適用す ものとする。 ※4)全移動量分の遊問が確保されているのか をする。			3 土木工事共通編	2 一般施工 共通	1 1		下	-0 基準とした孔の位置ずれ 1以下	※1)ガス切断寸法を準用する。 ※2)片面のみの削り加工の場合も含む。 ※3)ソールブレートの接触面の類軸及び隔軸 高角方面の長さ寸法に対してはCT13を適用するものとする。 ※4)全移動量分の差間が確保されているのかをする。		
通無共		(金属支承工)	下部網構造物との接合用ボール正離	ボスの突起を基3 ≦1,000mm ボスの突起を基3	-0 準とした孔の位置すれ 1以下 準とした孔の位置すれ 1.5以下 +3	※1)ガス切断寸法を準用する。 ※2)片面のみの削り加工の場合も含む。 ※3)ソールブレートの接触面の傾軸及び傾軸 直角方面の長さ寸法に対してはCT13を適用す ものとする。 ※4)全移動量分の遊開が確保されているのか をする。 ※5)組立て後に測定			3 土木工事共通編	2 一般施工 共通	1 1		下	-0 基準とした孔の位置すれ 1以下 基準とした孔の位置すれ 1.5以下 +3	※1)ガス切断寸法を準用する。 ※2)片面のみの削り加工の場合も含む。 ※3)ソールプレートの接触面の類軸及び隔軸 高角方面の長さ寸法に対してはCT13を適用するものとする。 ※4)全移動量分の差間が確保されているのかをする。 ※5)組立て後に測定		
通無共		(金属安東工)	下部網構造物との接合用ボルト孔 アンカ	ボスの突起を基準 ≤1,000mm ボスの突起を基準 >1,000mm	-0 準とした孔の位置ずれ 1以下 準とした孔の位置ずれ 1.5以下	※1)ガス切断寸法を準用する。 ※2)片面のみの削り加工の場合も含む。 ※3)ソールブレートの接触面の傾軸及び傾軸 直角方面の長さ寸法に対してはCT13を適用す ものとする。 ※4)全移動量分の遊開が確保されているのか をする。 ※5)組立て後に測定			3 土木工事共通編	2 一般施工 共通	1 1		下	-0 基準とした孔の位置すれ 1以下 基準とした孔の位置ずれ 1.5以下	※1)ガス切断寸法を準用する。 ※2)片面のみの削り加工の場合も含む。 ※3)ソールプレートの接触面の類軸及び隔軸 高角方面の長さ寸法に対してはCT13を適用するものとする。 ※4)全移動量分の差間が確保されているのかをする。 ※5)組立て後に測定		
通無共		(金属支承工)	下部網構造物との接合用ボルト孔 アンカーバアンカーバ	ボスの突起を基準 ≤1,000mm ボスの突起を基準 >1,000mm	-0 準とした孔の位置すれ 1以下 準とした孔の位置すれ 1.5以下 +3	※1)ガス切断寸法を準用する。 ※2)片面のみの削り加工の場合も含む。 ※3)ソールブレートの接触面の傾軸及び傾軸 直角方面の長さ寸法に対してはCT13を適用す ものとする。 ※4)全移動量分の遊開が確保されているのか をする。 ※5)組立て後に測定			3 土木工事共通編	2 一般施工 共通	1 1		下部 網構 造物と と を 合合用 ボスの突起を を 合合用 ボルト トスの突起を ションの が ルトト スの突起を ションの が ルトト スの突起を ションの が カート カート カート カート カート カート カート カート	-0 基準とした孔の位置すれ 1以下 基準とした孔の位置すれ 1.5以下 +3	※1)ガス切断寸法を準用する。 ※2)片面のみの削り加工の場合も含む。 ※3)ソールプレートの接触面の類軸及び隔軸 高角方面の長さ寸法に対してはCT13を適用するものとする。 ※4)全移動量分の差間が確保されているのかをする。 ※5)組立て後に測定		
通無共		(金属支承工)	下部網構造物との接合用ポルト孔 アンカーバー用孔 アンカーバー用孔 アンカーバー用孔 アンカーボー用孔 アンカーボー用孔 アンカーボー用孔 アンカーボール アンカール アン	ボスの突起を基準 ≤ 1,000mm ボスの突起を基準 >1,000mm ≤ 100mm	-0 率とした孔の位置すれ 1以下 準とした孔の位置すれ 1.5以下 +3 -1 +4	※1)ガス切断寸法を準用する。 ※2)片面のみの削り加工の場合も含む。 ※3)ソールブレートの接触面の傾軸及び傾軸 直角方面の長さ寸法に対してはCT13を適用す ものとする。 ※4)全移動量分の遊開が確保されているのか をする。 ※5)組立て後に測定			3 土木工事共通編	2 一般施工 共通	1 1		下 の に の に に に に に に に に に に に に に	-0 1以下 1以下 1.5以下 +3 -1 +4	※1)ガス切断寸法を準用する。 ※2)片面のみの削り加工の場合も含む。 ※3)ソールプレートの接触面の類軸及び隔軸 高角方面の長さ寸法に対してはCT13を適用するものとする。 ※4)全移動量分の差間が確保されているのかをする。 ※5)組立て後に測定		
通無共		(金属支承工)	下部網構造物との接合用ボルト孔 アンカーボー用れ マンカーボー 用れ マンカーボー 用れ のアンカーボー 田本 の アンカーボー 田本 の アンカーボル	ボスの突起を基ま ≤1,000mm ボスの突起を基ま >1,000mm ≤100mm >100mm	-0 準とした孔の位置すれ 1以下 準とした孔の位置すれ 1.5以下 +3 -1 +4 -2 JIS B 0403-1995	※1)ガス切断寸法を準用する。 ※2)片面のみの削り加工の場合も含む。 ※3)ソールブレートの接触面の傾軸及び傾軸 直角方面の長さ寸法に対してはCT13を適用す ものとする。 ※4)全移動量分の遊開が確保されているのか をする。 ※5)組立て後に測定			3 土木工事共通編	 2 一般施工 2 一般施工 	1 1		下	-0 -1以下	※1)ガス切断寸法を準用する。 ※2)片面のみの削り加工の場合も含む。 ※3)ソールプレートの接触面の類軸及び隔軸 高角方面の長さ寸法に対してはCT13を適用するものとする。 ※4)全移動量分の差間が確保されているのかをする。 ※5)組立て後に測定		
通無共		(金属支承工)	下部網構造物との接合用ポルト孔 アンカーボル 用れい アンカーボル アンカーボル	ボスの突起を基も ≤1,000mm ボスの突起を基も >1,000mm ≤100mm	-0 型とした孔の位置すれ 1以下 単とした孔の位置すれ 1.5以下 +3 -1 +4 -2	※1)ガス切断寸法を準用する。 ※2)片面のみの削り加工の場合も含む。 ※3)ソールブレートの接触面の傾軸及び傾軸 直角方面の長さ寸法に対してはCT13を適用す ものとする。 ※4)全移動量分の遊開が確保されているのか をする。 ※5)組立て後に測定			3 土木工事共通編	 2 一般施工 2 一般施工 	1 1		下部網構造物ととの接接通知 ボスの突起を・	-0 基準とした孔の位置すれ 1以下 1.5以下 1.5以下 +3 -1 +4 -2	※1)ガス切断寸法を準用する。 ※2)片面のみの削り加工の場合も含む。 ※3)ソールプレートの接触面の類軸及び隔軸 高角方面の長さ寸法に対してはCT13を適用するものとする。 ※4)全移動量分の差間が確保されているのかをする。 ※5)組立て後に測定		
通無共		(金属支承工)	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	ボスの突起を基ま ≤1,000mm ボスの突起を基ま >1,000mm ≤100mm >100mm	-0 準とした孔の位置すれ 1以下 準とした孔の位置すれ 1.5以下 +3 -1 +4 -2 JIS B 0403-1995 CT13	※1)ガス切断寸法を準用する。 ※2)片面のみの削り加工の場合も含む。 ※3)ソールブレートの接触面の傾軸及び傾軸 直角方面の長さ寸法に対してはCT13を適用す ものとする。 ※4)全移動量分の遊開が確保されているのか をする。 ※5)組立て後に測定			3 土木工事共通編	 2 一般施工 2 一般施工 	1 1		下部網構造物をとの接合用ボルト 1.000mm ボスの突起をとの接合用ボルト 2.1,000mm ボスの突起を > 1,000mm ボスの突起を > 1,000mm ボスの突起を > 1,000mm ボスルト 1.1 ルート 数 1.1 ルート	-0 -1以下	※1)ガス切断寸法を準用する。 ※2)片面のみの削り加工の場合も含む。 ※3)ソールプレートの接触面の類軸及び隔軸 高角方面の長さ寸法に対してはCT13を適用するものとする。 ※4)全移動量分の差間が確保されているのかをする。 ※5)組立て後に測定		
通無共		(金属支承工)	T	ボスの突起を基ま ≤1,000mm ボスの突起を基ま >1,000mm ≤100mm >100mm	-0 準とした孔の位置すれ 1以下 準とした孔の位置すれ 1.5以下 +3 -1 +4 -2 JIS B 0403-1995	※1)ガス切断寸法を準用する。 ※2)片面のみの削り加工の場合も含む。 ※3)ソールブレートの接触面の傾軸及び傾軸 直角方面の長さ寸法に対してはCT13を適用す ものとする。 ※4)全移動量分の遊開が確保されているのか をする。 ※5)組立て後に測定			3 土木工事共通編	2 一般施工 2 一般施工 共通	1 1		下	-0 -1以下	※1)ガス切断寸法を準用する。 ※2)片面のみの削り加工の場合も含む。 ※3)ソールプレートの接触面の類軸及び隔軸 高角方面の長さ寸法に対してはCT13を適用するものとする。 ※4)全移動量分の差間が確保されているのかをする。 ※5)組立て後に測定		
通無共		(金属支承工)	TEMM構造的との接合用ポルト孔 アンカーボルト 孔 ボ アンカーボルト 孔 ボ ボ エー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ボスの突起を基準 ≤1,000mm ボスの突起を基準 >1,000mm >100mm >100mm >200mm	-0 型とした孔の位置すれ 1以下 型とした孔の位置すれ 1.5以下 +3 -1 +4 -2 JIS B 0403-1995 CT13	※1)ガス切断寸法を準用する。 ※2)片面のみの削り加工の場合も含む。 ※3)ソールブレートの接触面の傾軸及び傾軸 直角方面の長さ寸法に対してはCT13を適用す ものとする。 ※4)全移動量分の遊開が確保されているのか をする。 ※5)組立て後に測定			3	2 一般施工 共通			下部網構造物としの接合用用 ポスの突起を 31,000mm ポスの突起を 31,000mm ポスの突起を 31,000mm ポスの突起を 31,000mm ポルトれ 3100mm 11 ガルト	-0 -0	※1)ガス切断寸法を準用する。 ※2)片面のみの削り加工の場合も含む。 ※3)ソールプレートの接触面の類軸及び隔軸 高角方面の長さ寸法に対してはCT13を適用するものとする。 ※4)全移動量分の差間が確保されているのかをする。 ※5)組立て後に測定		
通無共		(金属支承工)	TEMM構造的との接合用ポルト孔 アンカーボルト 孔 ボ アンカーボルト 孔 ボ ボ エー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ボスの突起を基 ≤1,000mm ボスの突起を基 >1,000mm ≤100mm >100mm	-0 型とした孔の位置すれ 1以下 単とした孔の位置すれ 1.5以下 +3 -1 +4 -2 JIS B 0403-1995 CT13	※1)ガス切断寸法を準用する。 ※2)片面のみの削り加工の場合も含む。 ※3)ソールブレートの接触面の傾軸及び傾軸 直角方面の長さ寸法に対してはCT13を適用す ものとする。 ※4)全移動量分の遊開が確保されているのか をする。 ※5)組立て後に測定			3 土木工事共通編	 2 一般施工 2 一般施工 			下	-0 基準とした孔の位置すれ 1以下 1.5以下 +3 -1 +4 -2 JIS B 0403-1995 CT13	※1)ガス切断寸法を準用する。 ※2)片面のみの削り加工の場合も含む。 ※3)ソールプレートの接触面の類軸及び隔軸 高角方面の長さ寸法に対してはCT13を適用するものとする。 ※4)全移動量分の差間が確保されているのかをする。 ※5)組立て後に測定		
通無共		(金属支承工)	T	ボスの突起を基準 ≤1,000mm ボスの突起を基準 >1,000mm >100mm >100mm >200mm	-0 型とした孔の位置すれ 1以下 型とした孔の位置すれ 1.5以下 +3 -1 +4 -2 JIS B 0403-1995 CT13	※1)ガス切断寸法を準用する。 ※2)片面のみの削り加工の場合も含む。 ※3)ソールブレートの接触面の傾軸及び傾軸 直角方面の長さ寸法に対してはCT13を適用す ものとする。 ※4)全移動量分の遊開が確保されているのか をする。 ※5)組立て後に測定			3 土木工事共通編	2 一般施工 共通			下部網構造物としの検合用ポルトト孔	-0 基準とした孔の位置すれ 1以下 1.5以下 1.5以下 +3 -1 +4 -2 JIS B 0403-1995 CT13 +0 -1 +1 -0 +0	※1)ガス切断寸法を準用する。 ※2)片面のみの削り加工の場合も含む。 ※3)ソールプレートの接触面の類軸及び隔軸 高角方面の長さ寸法に対してはCT13を適用するものとする。 ※4)全移動量分の差間が確保されているのかをする。 ※5)組立て後に測定		
通無共		(金属支承工)	TEMM構造的との接合用ポルト孔 アンカーボルト 孔 ボ ボ ボ ボ ボ ボ ボ ボ ボ ボ ボ ボ ボ ボ ボ ボ ボ ボ	ボスの突起を基さ ≤1,000mm	-0 果とした孔の位置すれ 1以下 果とした孔の位置すれ 1.5以下 +3 -1 +4 -2 JIS B 0403-1995 CT13 +0 -1 +1 -0 +0 -1	※1)ガス切断寸法を準用する。 ※2)片面のみの削り加工の場合も含む。 ※3)ソールブレートの接触面の傾軸及び傾軸 直角方面の長さ寸法に対してはCT13を適用す ものとする。 ※4)全移動量分の遊開が確保されているのか をする。 ※5)組立て後に測定			3	2 一般施工 共通			下部網構造物との接合月別 ポスの突起を 31,000mm ポスの突起を 31,000mm ポスの突起を 31,000mm ポスの突起を 31,000mm ポルトれ 3100mm 11 ガルト 11 ガルト 11 ボルト 11 ボルト 20 ボスの 高さ ボスの 高さ ボスス ボスス 変	-0 -0	※1)ガス切断寸法を準用する。 ※2)片面のみの削り加工の場合も含む。 ※3)ソールプレートの接触面の類軸及び隔軸 高角方面の長さ寸法に対してはCT13を適用するものとする。 ※4)全移動量分の差間が確保されているのかをする。 ※5)組立て後に測定		
通無共		(金属支承工)	TEMM構造物との接合同ポルト孔 アンカーバー周孔 (特放し) センターボス ボスホース エスホース エス エスカース エスホース エス	ボスの突起を基さ ≤1,000mm	-0 型とした孔の位置すれ 1以下 型とした孔の位置すれ 1.5以下 +3 -1 +4 -2 JIS B 0403-1995 CT13	※1)ガス切断寸法を準用する。 ※2)片面のみの削り加工の場合も含む。 ※3)ソールブレートの接触面の傾軸及び傾軸 直角方面の長さ寸法に対してはCT13を適用す ものとする。 ※4)全移動量分の遊開が確保されているのか をする。 ※5)組立て後に測定			3 土木工工事共通編	2 一般施工 共通			下部網構造物との検合用ポルトトれ ポスの変起を シン1,000mm ボスの変起を シン1,000mm ルドルル カルドルル シ100mm ルドルル シ100mm ルドルル シ100mm ルドルル シ100mm ボスの変配を ボスの変配を ボスの変変を ボススの変変を ボスの変変を ボスの変変を ボスの変変を ボススの変変を ボススの変変を ボススの変変を ボスの変変を ボスの変変を ボススの変変を ボスの変変を ボススの変変を ボススの変変を ボスの変変を ボススの変変を ボススの変変を ボスの変変を ボス	-0 基準とした孔の位置すれ 1以下 1.5以下 1.5以下 +3 -1 +4 -2 JIS B 0403-1995 CT13 +0 -1 +1 -0 +0	※1)ガス切断寸法を準用する。 ※2)片面のみの削り加工の場合も含む。 ※3)ソールプレートの接触面の類軸及び隔軸 高角方面の長さ寸法に対してはCT13を適用するものとする。 ※4)全移動量分の差間が確保されているのかをする。 ※5)組立て後に測定		
通無共		(金属支承工)	TEMM構造物との接合同ポルト孔 アンカーバー周孔 (特放し) センターボス ボスホース エスホース エス エスカース エスホース エス	ボスの突起を基本 ≤1,000mm ボスの突起を基本 >1,000mm >100mm >100mm >20面径 スの直径 スの直径	-0 東とした孔の位置すれ 1以下 事とした孔の位置すれ 1.5以下 +3 -1 +4 -2 JIS B 0403-1995 CT13 +0 -1 +1 -0 +0 -1 +1	※1)ガス切断寸法を準用する。 ※2)片面のみの削り加工の場合も含む。 ※3)ソールブレートの接触面の傾軸及び傾軸 直角方面の長さ寸法に対してはCT13を適用す ものとする。 ※4)全移動量分の遊開が確保されているのか をする。 ※5)組立て後に測定			3 土木工事共通編	2 一般施工 共通 12 工場製作工 共通			下部網構造物との接合用ボルト 1、1、000mm ボスのの突起を 2、1、000mm ボスのの突起を 3、1、000mm ボスの突起を 3、1、000mm ボスの突起を 3、1、000mm ドリル アンカー 1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、	-0 I以下 I以下 I以下 I.S以下 1.5以下 +3 -1 +4 -2 JIS B 0400-1995 CT13 +0 -1 +1 -0 +0 -1 +1	※1)ガス切断寸法を準用する。 ※2)片面のみの削り加工の場合も含む。 ※3)ソールプレートの接触面の類軸及び隔軸 高角方面の長さ寸法に対してはCT13を適用するものとする。 ※4)全移動量分の差間が確保されているのかをする。 ※5)組立て後に測定		

				70 da ar -	10 No. 11	The size and one	701 str 461 777	100 TOT				-tT D	171 10 10	70	TO 10 MI TO	- No. 177
	章 節	条枝		測定項目	規格値	測 定 基 準 製品全数を測定。	測定箇所	摘 要	+++	節 条 枝番 工 種	測	定項目	規格値	測 定 基 準 製品全数を測定。	測定箇所	摘 要
3	2 12	1	1 鋳造費	全移 動量@	±2	※1)ガス切断寸法を準用する。			3 2	12 1 1 鋳造費	全移 動量0	ℓ≦300mm	±2	※1)ガス切断寸法を準用する。		
土木工	一 工般 場 製		(金属支承工)	₩4 @>300mm	±0/100	※2)片面のみの削り加工の場合も含む。			土 一般工 施	工 場 (金属支承工) 製	₩4	@>300mm	±0/100	※2)片面のみの削り加工の場合も含む。		
事共	工作工			上、下面加工仕上に	±3	※3)ソールプレートの接触面の橋軸及び橋軸 直角方向の長さ寸法に対してはCT13を適用す			事工	Mi T	組	上、下面加工仕上げ	±3	※3)ソールブレートの接触面の橋軸及び橋軸 直角方向の長さ寸法に対してはCT13を適用す		
通編	共通			立 高 トン さ 構ク	±3	るものとする。 ※4)全移動量分の遊問が確保されているのか			編	共通	当さ	F 7 H≦300mm	±3	るものとする。 ※4)全移動量分の遊間が確保されているのか		
				さ 構ク H 造リ H>300mm	(H/200+3)小数	をする。					H	構 ク 造 リ 用 ₁ H>300mm	(H/200+3)小数	をする。		
				鋳放し長さ寸法	点以下切り捨て JIS B 0403-1995	※5)組立て後に測定 詳細は道路橋支承便覧参照						鋳放し長さ寸法	点以下切り捨て JIS B 0403-1995	※5)組立て後に測定 詳細は道路橋支承便覧参照		
				※2)、※3) 普	CT14 JIS B 0403-1995						*	※2)、※3) 鋳放し肉厚寸法	CT14 JIS B 0403-1995	111111111111111111111111111111111111111		
				通 ※2)	CT15 JIS B 0405-1991	_					通寸	※ 2)	CT15 JIS B 0405-1991	-		
				法削り加工寸法	粗級	_					法	削り加工寸法	粗級	-		
				ガス切断寸法幅	JIS B 0417-1979 B級	製品全数を測定			4		幅	ガス切断寸法	JIS B 0417-1979 B級	製品全数を測定		
		1 :	2 鋳造費	W W,L,D≦500 Æ	0~+5	製品全数を測定。 平面度:1個のゴム支承の厚さ(t) の最大相対誤差				1 2 鋳造費	W 長	w,L,D≦500	0~+5	製品全数を測定。 平面度:1個のゴム支承の厚さ(t) の最大相対誤差		
			(大型ゴム支承工)	さ 500 < w,L,D L ≦1,500mm	0∼+1%	詳細は道路橋支承便覧参照	補強材			(大型ゴム支承工)	さ L 直	500 < w,L,D ≤1,500mm	0~+1%	詳細は道路橋支承便覧参照	補強材	
				径 D 1,500 <w,l,d< td=""><td>0~+15</td><td></td><td>t L</td><td></td><td></td><td></td><td>径 D</td><td>1,500 < w,L,D</td><td>0~+15</td><td></td><td>t L</td><td></td></w,l,d<>	0~+15		t L				径 D	1,500 < w,L,D	0~+15		t L	
				t≦20mm	±0.5		w					t≦20mm	±0.5		₩ →	
				厚 さ t 20 <t≦160< td=""><td>±2.5%</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>厚 さ t</td><td>20 < t ≦160</td><td>±2.5%</td><td></td><td></td><td></td></t≦160<>	±2.5%						厚 さ t	20 < t ≦160	±2.5%			
				160 < t	±4							160 < t	±4			
				相 w,L,D≦	1		D				相対	w,L,D≦ 1,000mm	1	=	D	
				対 誤 2,000mm 差 w.L.D	(w,L,D)/1,000	1					誤差	1,000mm< w.L.D	(w,L,D)/1,000	=		
				.,.,.				単位:mm				,,.				単位:mm
編	章 節	条 枝	番 工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要	福章	節 条 枝番 工 種	測	定項目	規格値	測定基準	測定簡所	摘 要
-	2 12	1 - 1 -	3 仮設材製作工	部		図面の寸法表示箇所で測定。			3 2	12 1 3 仮設材製作工	部			図面の寸法表示箇所で測定。		
土木	一 出場製作			部材長@(m)	$\pm 3 \cdots \ell \leq 10$ $\pm 4 \cdots \ell > 10$					場場		部材長@(m)	$\pm 3 \cdots \emptyset \leq 10$ $\pm 4 \cdots \emptyset > 10$			
事	工作工			材					事工	作工	材					
通編	共通	1 -	4 刃口金物製作工			図面の寸法表示箇所で測定。			福	共 1 4 刃口金物製作工				図面の寸法表示箇所で測定。		
	.00			刃口高さh(m)	±2··· h≤0.5					e			±2… h≦0.5			
				为口向en(m)	±3···0.5 <h≦1.0 ±4···1.0<h≦2.0< td=""><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>Electrical ()</td><td>12 11 20.3</td><td></td><td></td><td></td></h≦2.0<></h≦1.0 							Electrical ()	12 11 20.3			
											3	月口高さh(m)	±3···0.5 < h ≤ 1.0 ±4···1.0 < h ≤ 2.0			
											3	月口高さh(m)	±3…0.5 <h≦1.0< td=""><td></td><td></td><td></td></h≦1.0<>			
							h				3	り口高さh(m)	±3…0.5 <h≦1.0< td=""><td></td><td>h</td><td></td></h≦1.0<>		h	
				外周長L(m)	±(10+L/10)	_	h					月口高さh(m) 外周長L(m)	±3…0.5 <h≦1.0< td=""><td></td><td>h</td><td></td></h≦1.0<>		h	
				外周長L(m)			h						±3···0.5 <h≦1.0 ±4···1.0<h≦2.0< td=""><td></td><td>h</td><td></td></h≦2.0<></h≦1.0 		h	
				外周長L(m)			h						±3···0.5 <h≦1.0 ±4···1.0<h≦2.0< td=""><td></td><td>h</td><td></td></h≦2.0<></h≦1.0 		h	
				外周長L(m)		_	h						±3···0.5 <h≦1.0 ±4···1.0<h≦2.0< td=""><td></td><td>h</td><td></td></h≦2.0<></h≦1.0 		h	
				外周接L(m)			h						±3···0.5 <h≦1.0 ±4···1.0<h≦2.0< td=""><td></td><td>h</td><td></td></h≦2.0<></h≦1.0 		h	
				外周获L(m)			h						±3···0.5 <h≦1.0 ±4···1.0<h≦2.0< td=""><td></td><td>h</td><td></td></h≦2.0<></h≦1.0 		h	
				外周提1(m)			h						±3···0.5 <h≦1.0 ±4···1.0<h≦2.0< td=""><td></td><td>h</td><td></td></h≦2.0<></h≦1.0 		h	
				外周長L(m)			h						±3···0.5 <h≦1.0 ±4···1.0<h≦2.0< td=""><td></td><td>h</td><td></td></h≦2.0<></h≦1.0 		h	
				外周長L(m)			h						±3···0.5 <h≦1.0 ±4···1.0<h≦2.0< td=""><td></td><td>h</td><td></td></h≦2.0<></h≦1.0 		h	
				外周長L(m)			h						±3···0.5 <h≦1.0 ±4···1.0<h≦2.0< td=""><td></td><td>h</td><td></td></h≦2.0<></h≦1.0 		h	

				,	見行【R6.4】		単位:mm							改定【F	R7.4]			単位:mm
福章	節	条 枝番 工 種	測定項	規格 値	測 定 基 準 鋼桁等 トラス・アーチ等	測定簡所	摘 要	福章	t m	条 枝衫	新 工 種	測	定項目	規格値	測知	と 基 準トラス・アーチ等	測定簡所	摘 要
3 土木工事共通編	工場製	3 1 桁製作工 (仮組立による検査を 実施する場合) (シミュレーション仮 組立検査を行う場合)	フランジ幅 腹板高 腹板間隔む	(m) ±4···1.0 < w≤2. (m) ± (3+w/2)		1 55組化 ラス成社		± -	工場製	3 1	桁製作工 (仮組立による検査を 実施する場合) (シミュレーション仮 組立検査を行う場合)		フランジ幅w(m) 腹板高 h(m) 腹板開隔b' (m)	$\pm 3 \cdots 0.5 < w \le 1.0$ $\pm 4 \cdots 1.0 < w \le 2.0$ $\pm (3+w/2)$	中央付近を測定。 なお、JISマーク表示	中央付近を測定。 つき1個抜き取った部材の 品を使用する場合は、製造 に基づく試験成績表に替え	h 1 3 期限 フス歳計	
			調桁 板 ラスペ の 材の	の部 h/250	主桁 各支点及び各支間中央付近を測定。 h:腹板高(mn)	b b							鋼桁及びト ラス等の部 がの腹板	h/250	主桁 各支点及び各支間の h:腹板高(mm)		b b	
			部 面度 δ ラン: (mm) 版の プ1	のフ 関床 b/150	b: 腹板又はリブの間隔 (mm) w: フランジ幅 (mm)	δ						部材	布 箱桁及びト ラス等のフ δ ランジ鋼床 版のデッキ ブレート	b/150	b:腹板又はリブの間 w:フランジ幅(mm)	隔 (um)	δ	
			プランジの) 精 δ (mm	角度 w/200		δ						精	フランジの直角度 δ (mm)	w/200			δ	
			度部科長	±3··· ℓ≤10 ±4··· ℓ>10								度	部網桁材長	±3··· ℓ≤10 ±4··· ℓ>10	原則として仮組立を て、主要部材全数を	しない状態の部材につい 測定。		
			(m) 7-	±2… £≦10 など ±3… £>10									(m) トラス、 アーチなど	±2··· ℓ≤10 ±3··· ℓ>10		Ta was a sea a sea		
			圧縮材の (m	E/ 1,000	主要部材全數を測定。 2:部材長(mm)	δ k							圧縮材の曲がり δ (mm)	£/1,000	-	主要部材全数を測定。 @:部材長(mm)	δ	
			※規格値の ただし、「板の	に代入する数値はm単位の 平面度 δ , フランジの直角	の数値である。 度δ,圧縮材の曲りδ」の規格値のh, b, wに代入す	る数値はmm単位の数値とする。			Ш				※規格値のwに代入 ただし、「板の平面度	する数値はm単位の数 δ,フランジの直角度。	値である。 δ , 圧縮材の曲り δ] σ.	D規格値のh, b, wに代入す	る数値はmm単位の数値とする。	

84	章節	条木	女番 工	種	測	定項目	規 格 値	測 定 基 準 鋼桁等 トラス・アーチ等	— 測 定 箇 所	摘 要	編:	章	6 条 枝	番 工 種	測	定項目	規 格 値	測 定 基 準 鋼桁等 トラス・アーチ等	測定簡所	摘 要
3	2 12	3	1 桁製作工			全長 L (m) 支間長 Ln(m)	±(10+L/10) ±(10+Ln/10)	各桁毎に全数測定。 L:主げた・主義の支間長(m)	短電質の器合 多価質の器合 L L L1 L2 L3		3	2 12	2 3	1 桁製作工		全長 L (m) 支間長 Ln(m)	±(10+L/10) ±(10+Ln/10)	各桁毎に全数側定。 L:主げた・主機の支関長(m)	短程間の場合 多価間の場合 L L L L L L L L L L L L L L L L L L L	
工	一般施工 工場製作工		(仮組立によ 実施する場合			主桁、主構の中 心間距離B(m)	±4··· B≦2 ± (3+B/2)··· B>2		Internation Intern			一般施工工	1	(仮組立による検査を 実施する場合)		主桁、主構の中 心間距離B(m)	±4··· B≦2 ± (3+B/2)··· B>2	各支点及び各支間中央付近を測定。		
編	共通		(シミュレー:) 組立検査を行			主構の組立高さ h(m)	±5··· h≦5 ± (2.5+h/2)···h>5		hII		編	共通	i i	(シミュレーション仮 組立検査を行う場合)		主構の組立高さ h(m)	±5··· h≦5 ± (2.5+h/2)···h>5		hII	
					仮組	主桁、主構の通り δ (mm)	5+L/5···L≦100 25···L>100	最も外側の主桁又は主構について支点 及び支間中央の1点を測定。 L:測線上(m)	EEE3 :						仮組	主桁、主構の通り δ (mm)	5+L/5···L≦100 25···L>100	最も外側の主桁又は主構について支点 及び支間中央の1点を測定。 L:測線上(m)	EEEE #	
					立精	主桁、主構のそり δ (mm)	$\begin{array}{l} -5\!\sim\!+5\!\cdots\!L\!\leqq\!20\\ -5\!\sim\!+10\cdots\\ 20\!<\!L\!\leqq\!40\\ -5\!\sim\!+15\cdots\\ 40\!<\!L\!\leqq\!80\\ -5\!\sim\!+25\cdots\\ 80\!<\!L\!\leqq\!200 \end{array}$	各主桁について10 名主構の各格点を 一12m間隔を測定。 測定。 L:主桁の 支間長(m) に主構の支間長(n)) b						立	主桁、主構のそり δ (mm)	$\begin{array}{l} -5\!\sim\!+5\!\cdots\!L\!\leqq\!20\\ -5\!\sim\!+10\cdots\\ 20\!<\!L\!\leqq\!40\\ -5\!\sim\!+15\cdots\\ 40\!<\!L\!\leqq\!80\\ -5\!\sim\!+25\cdots\\ 80\!<\!L\!\leqq\!200 \end{array}$	容主新について10 合主構の各格点を ~12面関係を測定。 以下に 上:主桁の支間長 (m) 上:主構の支間長 (m)	b L	
					度	主桁、主構の橋端 における出入差 δ (mm)	±10	どちらか一方の主桁(主構)端を測定。							度	主桁、主構の橋端 における出入差 δ (mm)	±10	どちらか一方の主桁(主構)端を測定。		
						主桁、主構の 鉛直度 δ (mm)	3+h/1,000	各主桁の両端部を 測定。 h:主桁の高さ (mm) 支点及び支間中央 付近を測定。 h:主構の高さ (mm)	δ h							主桁、主構の 鉛直度 δ (mm)	3+h/1,000	各主桁の両端部を 支点及び支間中央 付近を測定。 h:主桁の高さ (mm) h:主橋の高さ (mm)	$\delta \longrightarrow h$	
						現場継手部の すき間 δ1,δ2(mm)		主桁、主構の全離手数の1/2を測定。 δ1、δ2のうち大きいもの なお、設計値が5mm未満の場合は、寸き間の 容範囲の下限値を0mmとする。(例:設計値か mmの場合、寸き間の許容範囲は0mm~8mm)	## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ##							現場継手部の すき間 δ1,δ2(mm)	±5	主桁、主構の全継手数の1/2を測定。 も1、62のうち大きいもの なお、設計値が5mm未満の場合は、すき間の許 容範囲の下限値を0mmとする。(例:設計値が3 mの場合、すき間の許容範囲は0mm~8mm)		
							に代入する数値はm単ℓ 構の鉛直度 δ Jの規格値	ロの数値である。 近の数値である。 近のhに代入する数値はmm単位の数値とする。									に代入する数値はm単f 構の鉛直度δ」の規格値	立の数値である。 のhに代入する数値はⅢ単位の数値とする。		

編章	節条	枝番	工 種	測	定項目	規 格 値	測定基準	測定簡所	単位:mm 摘 要	編章筋条	支番 工 種	測	定項目	規 格 値	測定基準	測定簡所	単位:mm 摘 要
3 2 一般施工事共通編	12 3 工場製作工 共通		桁製作工 (仮組立検査を実施しない場合)		フランジ幅w(m) 腹板高 h(m) 腹板関隔 b' (m)	$\begin{array}{c} \pm 2 \cdots \text{ w} \leq 0.5 \\ \pm 3 \cdots 0.5 < \text{w} \leq 1.0 \\ \pm 4 \cdots 1.0 < \text{w} \leq 2.0 \\ \pm (3 + \text{w} / 2) \cdots 2.0 < \text{w} \end{array}$	主桁、主牌 を支点及びき支間中央付近を制定。 球脳など 構造別に、5部材につき1個抜き取った 部材の中央付近を測定。	11		3 2 12 3 土 木工事共通編 共通	2 桁製作工 (仮組立検査を実施しない場合)	A	フランジ幅w(m) 腹板高 h(m) 腹板関隔 b'(m)	$\begin{array}{c} \pm 2 \cdots \text{ w} \leq 0.5 \\ \pm 3 \cdots 0.5 < \text{w} \leq 1.0 \\ \pm 4 \cdots 1.0 < \text{w} \leq 2.0 \\ \pm (3 + \text{w}/2) \cdots 2.0 < \text{w} \end{array}$	生析、主解 を支点及び含支間中央付近を測定。 球組など 機差別に、5部材につき1個抜き取った 部材の中央付近を測定。	11	
					鋼桁等の部 材の腹板 の	h/250	主桁 各支点及び各支間中央付近を測定。 h:腹板高(mm) b:腹板またはリプの間隔(mm) w:フランジ幅(mm)	h		-			鋼桁等の部 材の腹板 の	h/250	主桁 各支点及び各支間中央付近を側定。 h:腹板高(mm) b:腹板またはリプの間隔(mm) w:フランジ幅(mm)	h s	
				部材	平 面度 δ δ (mm) 成のデッキ ブレート	b/150						材 (平 面度 る る ランジ鋼床 版のデッキ ブレート	b/150			
				精度	フランジの直角度 δ (mm)	w/200		***. *****				精度	フランジの直角度 δ (um)	w/200		****. ********************************	
					部材長 鋼桁 (m)	±3··· ℓ≤10 ±4··· ℓ>10	主要部材全数を測定。	2 2					部 材 長 (m)	±3··· ℓ≤10 ±4··· ℓ>10	主要部材全数を測定。		
					※規格値のwに代入 ただし、「板の平面度	する数値はm単位の数 δ,フランジの直角度	- 値である。 δ 」の規格値のh, b, wに代入する数値はmm単位	の数値とする。				7.	※規格値のwに代え ただし、「板の平面!	くする数値はm単位の数 ξδ,フランジの直角度	- 値である。 δ 」の規格値のh, b, wに代入する数値はmm単位	ての数値とする。	
編章	筋条	枝番	工 種	201	定項目	規 格 値	測定基準	測定簡所	単位:mm 摘 要	編章節条	支番 工 種	i#1	定項目	規格値	測定基準	測定簡所	単位:mm 摘 要
3 2	12 3	+	桁製作工		部材の水平度	10	全数を測定。			3 2 12 3	3 桁製作工		材の水平度	10	全数を測定。		
土 一 般	出場		(鋼製堰堤製作工 (仮組立時))		堤長L	±30	-			土 一 根 場 版 框	(鋼製堰堤製作工 (仮組立時))		堤長L	±30	-		
事工	作工				堤長®	±10	-	∕ Ω##		事 工 作 工			堤長0	±10	-		
編	共通				堤幅W	±30	-			通 編 共 通			堤幅W	±30	-		
					堤幅w	±10	+ 31 (4 + 34	## 1					堤幅w	±10	+ 3108+03+	Section 1995 Section 2	
					高さH	±10							高さH	±10			
				~-	ースプレートの高さ	±10						ベーフ	スプレートの高さ	±10			
					本体の傾き	±H/500	The second	William Jan				*	本体の傾き	±H/500	The state of the s	The same of the sa	
							H B								H B		

									単位:mm									単位:mm
8E 1	節	条 枝	番 工 種	測	定項目	規 格 値	測定基準	測定箇所	摘 要	緇	章 節 条 枝	§ I. Ma	測	定項目	規 格 値	測定基準	測定箇所	摘 要
3 土木工事共通編	2 一改信工 共通	3 :	3 桁製作工 (鋼製爆堤製作工 (仮組立時))							土	2 12 3 3 3 2 一般施工 共通	折製作工 (鋼製羅地製作工 (仮組立時))						
		4	検査路製作工	部材	部材長@(m)	±3…ℓ≤10 ±4…ℓ>10	図面の寸法表示箇所で測定。				4	検査路製作工	部材	部材長@(m)	$\pm 3 \cdots \ell \leq 10$ $\pm 4 \cdots \ell > 10$	図面の寸法表示箇所で測定。		
													I			=		
		5	鋼製伸縮維手製作工	部材	部材長w(m)	0~+30	製品全数を測定。				5	鋼製伸縮維手製作工	部材	部材長w(m)	0~+30	製品全数を測定。	77	
				仮組立時	組合せる伸縮装 置との高さの差 δ ₁ (mm)	設計值 ±4	两端部及 び中央部付近を測定。	<u> </u>					仮組立	組合せる伸縮装 置との高さの差 δ ₁ (mm)	設計値 ±4	南端部及び中央部付近を測定。		
				時	フィンガーの食 い違い δ ₂ (mm)	±2		.whi:5 p⊏⊡ ⊂					立時	フィンガーの食 い違い δ ₂ (mm)	±2		.wmii:5> g⊑ ⊆ c	
									単位:mm									単位:mm
86 I	節	条 枝	备 工 種	測	定項目	規 格 値	測定基準	測定箇所	摘 要	編	章 節 条 枝	F 工 種	測	定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
3	2 12	6	落橋防止装置製作工	部材	部材長@(m)	±3…ℓ≤10 ±4…ℓ>10	図面の寸法表示箇所で測定。			3	2 12 6	落橋防止装置製作工	部材	部材長@(m)	±3…ℓ≦10 ±4…ℓ>10	図面の寸法表示箇所で測定。		
工工工	工場製作工									土木工事共通	一般施工工場製作工							
補	共通	7	橋梁用防護柵製作工	材材	部材長@(m)	±3…ℓ≤10 ±4…ℓ>10	図面の寸法表示箇所で測定。			編	共通 7	橋梁用防護柵製作工	部材	部材長@(m)	±3…0≦10 ±4…0>10	図面の寸法表示箇所で測定。		
		8	アンカーフレーム製作工		上面水平度	b/500	軸心上全数測定。				8	アンカーフレーム製作工		上面水平度	b/500	軸心上全数測定。		
				仮組立時	δ ₁ (mm) 鉛直度δ ₂ (mm)	h/500		h 4					仮組立	δ ₁ (mm) 鉛直度δ ₂ (mm)	h/500	-	b s	
				時	高さh(mm)	±5							立時	高さh (mm)	±5		*** ***	
																	h	

					1 -	-		The size of the size		単位:mm	1			-			900 also 110 110	W 4	単位:mm
福	章節	i 条			測	定項目	規格値	測 定 基 準 各支点及び各支間中央付近を測定。	測定箇所	摘 要	-	節条枝	+	測	定項目	規 格 値	測 定 基 準 各支点及び各支間中央付近を測定。	測定箇所	摘 要
3 土木工事共通		Ē	5	プレビーム用桁製作工		フランジ幅w(m) 腹板高 h(m)	$\begin{array}{l} \pm 2 \cdots \mathbf{w} \leq 0.5 \\ \pm 3 \cdots 0.5 < \mathbf{w} \leq 1.0 \\ \pm 4 \cdots 1.0 < \mathbf{w} \leq 2.0 \\ \pm (3 + \mathbf{w} / 2) \\ \cdots 2.0 < \mathbf{w} \end{array}$:		3 2 一般施工	12 9 工 場製 作 工	プレビーム用桁製作工		フランジ幅w(m) 腹板高 h(m)	$\begin{array}{l} \pm 2 \cdots \text{ w} \leq 0.5 \\ \pm 3 \cdots 0.5 < \text{ w} \leq 1.0 \\ \pm 4 \cdots 1.0 < \text{ w} \leq 2.0 \\ \pm (3 + \text{ w} / 2) \\ \cdots 2.0 < \text{ w} \end{array}$:	
編	共通				部材	フランジの直角度 δ (mm)	w/200	各支点及び各支間中央付近を測定。	a		\$46	共通		部材	フランジの直角度 δ (mm)	w/200	各支点及び各支間中央付近を測定。	- A - A - A - A - A - A - A - A - A - A	
						部材長&(m)	±3···ℓ≤10 ±4···ℓ>10	原則として仮観立をしない部材について主要 部材全数で測定。							部材長@(m)	±3···ℓ≤10 ±4···ℓ>10	原則として仮組立をしない部材について主要 部材全数で測定。	2	
					仮組立時	主桁のそりδ	-5~+5···L≦20 -5~+10 ···20 <l≦40< td=""><td>各主桁について10~12m間隔を測定。</td><td>·</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>仮組立時</td><td>主桁のそりδ</td><td>-5~+5···L≦20 -5~+10 ···20<l≦40< td=""><td>各主桁について10~12m間隔を測定。</td><td>, , , ,</td><td></td></l≦40<></td></l≦40<>	各主桁について10~12m間隔を測定。	·					仮組立時	主桁のそりδ	-5~+5···L≦20 -5~+10 ···20 <l≦40< td=""><td>各主桁について10~12m間隔を測定。</td><td>, , , ,</td><td></td></l≦40<>	各主桁について10~12m間隔を測定。	, , , ,	
		10	g.	鋼製排水管製作工	部材	部材長@(m)	±3…ℓ≤10 ±4…ℓ>10	図面の寸法表示箇所で測定。			1	10	鋼製排水管製作工	部材	部材長@(m)	±3···ℓ≤10 ±4···ℓ>10	図面の寸法表示箇所で測定。		
						1									1				
										単位:mm									単位:mm
福	章 節	í 条	枝番	工 種	測	定項目	規 格 値	測定基準	測定簡所	摘 要	福章	節条枝	番 工 種	測	定項目	規 格 値	測 定 基 準	測定簡所	摘 要
3 土木工事共通編	2 12 工場製作工 共通		=	工场金装工		金剛坪	値は、目標塗膜厚合計 値の90%以上。 b. 測定値の最小値 は、目標塗膜厚合計値 の70%以上。 c. 測定値の分布の標	外面重要では、無機シンツナゲベントの整体 後と上後の終す時に測定、一内面重要では内面 で表験で呼い過度。 1ロット当たの間で表した。 1ロット当たり間で数はその点の固定は 1ロット当たり間で数はその点の固定は であっただし、1ロットの面積が200㎡に満たない場 としている。			3 土木工事共通編 2 一般施工	12 工物製作工 共通	工場金装工		塗骸厚	値は、目標塗膜厚合計 値の90%以上。 b. 測定値の最小値 は、目標 返膜厚合計値 の70% 以上。 c. 測定値の分布の標	外面電鉄では、無機シングリッチ・ベントの飲む 使を上途が再ずいで満足し、内面塗装では内面 で表表すするに表記。 ロット当たり前を強は25点とし、各点の側を1 ロット当たり前を破け25点とし、各点の側を1 の話行し、その平断をその点の側で値だない場合 されてし、ロットの面積が200㎡に満たない場合は10㎡ごとに1点とする。		

編章	f 条 枝額	野 工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要	編 ギ	能節須	枝番 工	種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
3 2 1 土 一 桁 銀 女		架設工(網橋)	全 長 L(m) 支間長 Ln(m)	± (20+L/5) ± (20+Ln/5)	各桁毎に全数測定。 L:主げた・主構の支間長(m)	が担保の場合・多色質の場合・L. L. L		3 2 土 - 未 州	一橋梁	架設工(創	習橋)	全 長 L(m) 支間長 Ln(m)	± (20+L/5) ± (20+Ln/5)	各桁毎に全数測定。 L: 主げた・主線の支間長(m)	加佐田の日本	
事共通編		(クレーン架設) (ケーブルクレーン架設) (ケーブルエレクション架設) (突設析架設) (送出し架設)	通り δ (mm)	±(10+2L/5)	L: 主桁・主構の支間長(m)			事共通編	工設工	(クレーン: (ケーブル (ケーブル 設) (架設桁外 (送出し架	レクレーン架設) レエレクション架 架設)	通り δ(mm)	± (10+2L/5)	L:主桁・主構の支間長(m)		
		(トラベラークレーン架設)	そり δ (mm)	± (25+L/2)	主桁、主構を全数測定。 L:主桁・主構の支間長 (m)	, s				(トラベラ・	トロリ ークレーン架設)	そり δ(mm)	± (25+L/2)	主桁、主構を全数測定。 L:主桁・主構の支間長(m)	δ L	
			※主桁、主構の中心間 距離 B(m)	±4···B≦2 ±(3+B/2)···B>2	各支点及び各支間中央付近を測定。	E PARTITION IN THE PROPERTY OF						※主桁、主構の中心間 距離 B (m)	±4···B≦2 ±(3+B/2)···B>2	各支点及び各支間中央付近を測定。		
			※主桁の橋端における 出入差 δ (mm)	±10	どちらか一方の主桁(主構)端を測定。	<u> </u>						※主桁の橋端における 出入差 δ (m)	±10	どちらか一方の主桁(主構)端を測定。		
			※主桁、主構の鉛直度 δ (mm)	3+h/1,000	各主桁の両端部を測定。 H:主桁・主構の高さ(mm)	δ ——— h						※主桁、主構の鉛直度 δ (mm)	3+h/1,000	各主桁の両端部を側定。 H:主桁・主構の高さ(mm)	δ 1 h	
			※現場継手部のすき 間 δ ₁ , δ ₂ (mm)	±5	主桁、主構の全継手数の1/2を測定。 δ,δ,のうち大きいもの なお、設計値が5mx+満の場合は、ナき間の許 容範囲の下限値を0 m とする。(例: 設計値が3 mの場合、ナき間の許容範囲は0m~8m)	1						※現場継手部のすき 間 δ_1 , δ_2 (mm)	±5	主桁、主構の全継手数の1/2を測定。 δ」、δ。2のうち大きいもの なお、設計値が5mm未満の場合は、すき間の許 容範囲の下限値を0 mm とする。(例: 設計値が3 mmの場合、すき間の許容範囲は0mm~8 um)	1	
					※は仮組立検査を実施しない工事に適用。									※は仮組立検査を実施しない工事に適用。	·	
			※規格値のL, Bに代入する	数値はm単位の数値では	 5る。 ¢入する数値はmm単位の数値とする。			1				※規格値のL, Bに代入する数	女値はm単位の数値であ	る。 入する数値はmm単位の数値とする。		
			TOTAL THE SHE	ESC O Japaneria Reconstituti	V/ / 0 3A ES (August 17 ES - 7 3A ES C / 00		単位:mm					TOTAL THEOREM	or a least in Francisco	7		単位:mm
編章	T - T-															
986 Ar. 12	í 条 枝額	野工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定簡所	摘 要	編写	章 節 身	枝番 工	種	測定項目	規格値	測定基準	測定簡所	摘 要
3 2 1		新 工 種 架設工(コンクリート橋)	測定項目 全長·支間	規 格 値	測 定 基 準 各桁毎に全数測定。	測定箇所	摘要	編 3 2		++	種コンクリート橋)	測 定 項 目 全長·支間	規 格 値	測 定 基 準 各桁毎に全数測定。	測定簡所	摘要
3 2 1 土 一 株 般 第	3	架設工(コンクリート橋)				測定簡所	摘要		2 13	架設工(コ	コンクリート橋)		規 格 値 - -		測定簡所	摘要
3 2 1 ± - #	3	架設工(コンクリート橋) (クレーン架設) (架設桁架設)	全長・支間 桁の中心間距離	-	各桁毎に全数測定。 一連毎の両端及び支間中央について各	測定簡所	摘要	3 2 土 - 州	2 13 - 橋段 梁	架設工(コ (クレーン: (架設桁を	コンクリート橋) (架設) (架設)	全長・支間 桁の中心間距離	規格値	各桁毎に全数測定。 一連毎の両端及び支間中央について各	測定簡所	摘要
3 2 1 土 一 村	3	架設工(コンクリート橋) (クレーン架設) (架設桁架設) 架設工支保工 (固定)	全長・支間		各桁毎に全数測定。 一連毎の両端及び支間中央について各 上下間を測定。	测定箇所	摘要	3 2 土 - 未 州	2 13 - 橋段 架 施 架	架設工(コングリング) (タン・マング) (架設 桁を) (国定)	コンクリート橋) (架設) (架設)	全長・支間	規 格 値 - - -	各桁毎に全数測定。 一連毎の両端及び支間中央について各 上下間を測定。	測定箇所	摘要
3 2 1 土 一 村	3	架設工(コンクリート橋) (クレーン架設) (架設桁架設) 架設工支保工	全長・支間 桁の中心間距離	-	各桁毎に全数測定。 一連毎の両端及び支間中央について各 上下間を測定。	割 定 箇 所	摘要	3 2 土木工 斯 共	2 13 - 橋段 架 施 架	架設工(コ (クレーン) (架設桁等 架設工支	コンクリート橋) (架設) (架設)	全長・支間 桁の中心間距離	規格値 - - -	各桁毎に全数測定。 一連毎の両端及び支間中央について各 上下間を測定。	潮 定 箇 所	摘要
3 2 1 土 一 村	3	架設工(コンクリート橋) (クレーン架設) (架設桁架設) 架設工支保工 (固定) (移動) 架設桁架設	全長・支間 桁の中心間距離	-	各桁毎に全数測定。 一連毎の両端及び支間中央について各 上下間を測定。	測 定 簡 所	摘要	3 2 土木工 斯 共	2 13 - 橋段 架 施 架	架設工(ニ (クレーン (架設 作身 架設工支 (固定) (移動)	コンクリート橋) 架設) 架設) 保工	全長・支間 桁の中心間距離	規 格 値 - - -	各桁毎に全数測定。 一連毎の両端及び支間中央について各 上下間を測定。	測 定 箇 所	摘要
3 2 1 土 一 村	3	架設工(コンクリート橋) (クレーン架設) (架設桁架設) 架設工支保工 (固定) (移動)	全長・支間 桁の中心間距離	-	各桁毎に全数測定。 一連毎の両端及び支間中央について各 上下間を測定。	測 定 箇 所	摘 要	3 2 土木工 斯 共	2 13 - 橋段 架 施 架	架設工(= (クレーン (架設桁角 架設工支 (固定) (移動)	コンクリート橋) 架設) 架設) 保工	全長・支間 桁の中心間距離	規格値	各桁毎に全数測定。 一連毎の両端及び支間中央について各 上下間を測定。	測 定 簡 所	摘要
3 2 1 土 一 村	3	架設工(コンクリート橋) (クレーン架設) (実設析実設) 架設工支保工 (固定) (移動) 架設析架設 (片枠架設)	全長・支間 桁の中心間距離	-	各桁毎に全数測定。 一連毎の両端及び支間中央について各 上下間を測定。	測 定 簡 所	摘 要	3 2 土木工 斯 共	2 13 - 橋段 架 施 架	架設工(- (クレーン) (架設工支 (多動) (多動) (を動)	コンクリート橋) 架設) 架設) 保工	全長・支間 桁の中心間距離	規格値	各桁毎に全数測定。 一連毎の両端及び支間中央について各 上下間を測定。	測 定 簡 所	摘要
3 2 1 土 一 村	3	架設工(コンクリート橋) (クレーン架設) (実設析実設) 架設工支保工 (固定) (移動) 架設析架設 (片枠架設)	全長・支間 桁の中心間距離	-	各桁毎に全数測定。 一連毎の両端及び支間中央について各 上下間を測定。	測 定 箇 所	摘要	3 2 土木工 斯 共	2 13 - 橋段 架 施 架	架設工(- (クレーン) (架設工支 (多動) (多動) (を動)	コンクリート橋) 架設) 架設) 保工	全長・支間 桁の中心間距離	規格値	各桁毎に全数測定。 一連毎の両端及び支間中央について各 上下間を測定。	測 定 簡 所	摘要
3 2 1 土 一 村	3	架設工(コンクリート橋) (クレーン架設) (実設析実設) 架設工支保工 (固定) (移動) 架設析架設 (片枠架設)	全長・支間 桁の中心間距離	-	各桁毎に全数測定。 一連毎の両端及び支間中央について各 上下間を測定。	測 定 簡 所	病 要	3 2 土木工 斯 共	2 13 - 橋段 架 施 架	架設工(- (クレーン) (架設工支 (多動) (多動) (を動)	コンクリート橋) 架設) 架設) 保工	全長・支間 桁の中心間距離	規格値	各桁毎に全数測定。 一連毎の両端及び支間中央について各 上下間を測定。	測 定 簡 所	摘 妥
3 2 1 土 一 村	3	架設工(コンクリート橋) (クレーン架設) (実設析実設) 架設工支保工 (固定) (移動) 架設析架設 (片枠架設)	全長・支間 桁の中心間距離	-	各桁毎に全数測定。 一連毎の両端及び支間中央について各 上下間を測定。	測 定 簡 所	病 要	3 2 土木工 斯 共	2 13 - 橋段 架 施 架	架設工(- (クレーン) (架設工支 (多動) (多動) (を動)	コンクリート橋) 架設) 架設) 保工	全長・支間 桁の中心間距離	規格値	各桁毎に全数測定。 一連毎の両端及び支間中央について各 上下間を測定。	測 定 簡 所	姷 荚
3 2 1 土 一 村	3	架設工(コンクリート橋) (クレーン架設) (実設析実設) 架設工支保工 (固定) (移動) 架設析架設 (片枠架設)	全長・支間 桁の中心間距離	-	各桁毎に全数測定。 一連毎の両端及び支間中央について各 上下間を測定。	測 定 簡 所	捕 要	3 2 土木工 斯 共	2 13 - 橋段 架 施 架	架設工(- (クレーン) (架設工支 (多動) (多動) (を動)	コンクリート橋) 架設) 架設) 保工	全長・支間 桁の中心間距離	規格値	各桁毎に全数測定。 一連毎の両端及び支間中央について各 上下間を測定。	測 定 箇 所	侑 妥
3 2 1 土 一 村	3	架設工(コンクリート橋) (クレーン架設) (実設析実設) 架設工支保工 (固定) (移動) 架設析架設 (片枠架設)	全長・支間 桁の中心間距離	-	各桁毎に全数測定。 一連毎の両端及び支間中央について各 上下間を測定。	測 定 簡 所	捕 要	3 2 土木工 斯 共	2 13 - 橋段 架 施 架	架設工(- (クレーン) (架設工支 (多動) (多動) (を動)	コンクリート橋) 架設) 架設) 保工	全長・支間 桁の中心間距離	規格値	各桁毎に全数測定。 一連毎の両端及び支間中央について各 上下間を測定。	測 定 箇 所	侑 妥
3 2 1 土 一 村	3	架設工(コンクリート橋) (クレーン架設) (実設析実設) 架設工支保工 (固定) (移動) 架設析架設 (片枠架設)	全長・支間 桁の中心間距離	-	各桁毎に全数測定。 一連毎の両端及び支間中央について各 上下間を測定。	測 定 簡 所	捕 安	3 2 土木工 斯 共	2 13 - 橋段 架 施 架	架設工(- (クレーン) (架設工支 (多動) (多動) (を動)	コンクリート橋) 架設) 架設) 保工	全長・支間 桁の中心間距離	規格値	各桁毎に全数測定。 一連毎の両端及び支間中央について各 上下間を測定。	測 定 箇 所	侑 妥
3 2 1 土 一 村	3	架設工(コンクリート橋) (クレーン架設) (実設析実設) 架設工支保工 (固定) (移動) 架設析架設 (片枠架設)	全長・支間 桁の中心間距離	-	各桁毎に全数測定。 一連毎の両端及び支間中央について各 上下間を測定。	測 定 簡 所	補 変	3 2 土木工 斯 共	2 13 - 橋段 架 施 架	架設工(- (クレーン) (架設工支 (多動) (多動) (を動)	コンクリート橋) 架設) 架設) 保工	全長・支間 桁の中心間距離	規格値	各桁毎に全数測定。 一連毎の両端及び支間中央について各 上下間を測定。	潮 定 箇 所	頻 妥
3 2 1 土 一 村	3	架設工(コンクリート橋) (クレーン架設) (実設析実設) 架設工支保工 (固定) (移動) 架設析架設 (片枠架設)	全長・支間 桁の中心間距離	-	各桁毎に全数測定。 一連毎の両端及び支間中央について各 上下間を測定。	測 定 簡 所	補 安	3 2 土木工 斯 共	2 13 - 橋段 架 施 架	架設工(- (クレーン) (架設工支 (多動) (多動) (を動)	コンクリート橋) 架設) 架設) 保工	全長・支間 桁の中心間距離	規格値	各桁毎に全数測定。 一連毎の両端及び支間中央について各 上下間を測定。	潮 定 箇 所	Í
3 2 1 土 一 村	3	架設工(コンクリート橋) (クレーン架設) (実設析実設) 架設工支保工 (固定) (移動) 架設析架設 (片枠架設)	全長・支間 桁の中心間距離	-	各桁毎に全数測定。 一連毎の両端及び支間中央について各 上下間を測定。	測 定 簡 所	補 安	3 2 土木工 斯 共	2 13 - 橋段 架 施 架	架設工(- (クレーン) (架設工支 (多動) (多動) (を動)	コンクリート橋) 架設) 架設) 保工	全長・支間 桁の中心間距離	規格値	各桁毎に全数測定。 一連毎の両端及び支間中央について各 上下間を測定。	潮 定 箇 所	Í
3 2 1 土 一 村	3	架設工(コンクリート橋) (クレーン架設) (実設析実設) 架設工支保工 (固定) (移動) 架設析架設 (片枠架設)	全長・支間 桁の中心間距離	-	各桁毎に全数測定。 一連毎の両端及び支間中央について各 上下間を測定。	測 定 簡 所	補 安	3 2 土木工 斯 共	2 13 - 橋段 架 施 架	架設工(- (クレーン) (架設工支 (多動) (多動) (を動)	コンクリート橋) 架設) 架設) 保工	全長・支間 桁の中心間距離	規格値	各桁毎に全数測定。 一連毎の両端及び支間中央について各 上下間を測定。	潮 定 箇 所	Í
3 2 1 土 一 村	3	架設工(コンクリート橋) (クレーン架設) (実設析実設) 架設工支保工 (固定) (移動) 架設析架設 (片枠架設)	全長・支間 桁の中心間距離	-	各桁毎に全数測定。 一連毎の両端及び支間中央について各 上下間を測定。	測 定 簡 所	補 安	3 2 土木工 斯 共	2 13 - 橋段 架 施 架	架設工(- (クレーン) (架設工支 (多動) (多動) (を動)	コンクリート橋) 架設) 架設) 保工	全長・支間 桁の中心間距離	規格値	各桁毎に全数測定。 一連毎の両端及び支間中央について各 上下間を測定。	潮 定 箇 所	侑 妥
3 2 1 土 一 村 銀 左 舵 タ	3	架設工(コンクリート橋) (クレーン架設) (実設析実設) 架設工支保工 (固定) (移動) 架設析架設 (片枠架設)	全長・支間 桁の中心間距離	-	各桁毎に全数測定。 一連毎の両端及び支間中央について各 上下間を測定。	測 定 簡 所	補 安	3 2 土木工 斯 共	2 13 - 橋段 架 施 架	架設工(- (クレーン) (架設工支 (多動) (多動) (を動)	コンクリート橋) 架設) 架設) 保工	全長・支間 桁の中心間距離	規格値	各桁毎に全数測定。 一連毎の両端及び支間中央について各 上下間を測定。	潮 定 箇 所	損 要

		_		1						T 1	1	1			_
編章節条柱	枝番 工 種	測	定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要	福章	節豸	技番 工 種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘 要
3 2 14 2	1 植生工	切土法	0<5m	-200	施工延長40m(測点開隔25mの場合は50m)に つき1ヶ所、延長40m(または50m)以下のものは 1施工箇所につき2ヶ所。 ただし、計測手法については、従来管理のほか			3 2	14 2	1 植生工	切 土 法	-200	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m)に つき1ヶ所、延長40m (または50m)以下のものは 1.施工簡所につき2ヶ所。 ただし、計測手法については、従来管理のほか		
土木般施工事工	(種子散布工)	長	£≧5m	法長の-4%	に「3次元計測技術を用いた出来形管理要領 (業)」で規定する出来形計測性能を有する機 器を用いることができる。			土木工事	面工	(種子散布工)	Æ ℓ ℓ≥5m	法長の-4%	に「3次元計測技術を用いた出来形管理要領 (業)」で規定する出来形計測性能を有する機 器を用いることができる。		
共通編	(張芝工) (筋芝工) (市松芝工) (植生シートエ)	盛土法	Ø<5m	-100				共通編	共通	(張芝工) (筋芝工) (市松芝工) (植生シートエ)	盛 土 法	-100			
700	(植生マットエ) (植生ボットエ) (植生筋工) (人工張芝工)	長	0≥5m	法長の-2%						(植生マットエ) (植生ダットエ) (植生筋工) (人工張芝工)	Æ R R R≥5m	法長の-2%			
	(植生穴工)		延長 L	-200	1塩工箇所毎 ただし、計測手法については、従来管理のほか に「3次元計測技術を用いた出来形管理要領 (案)」で規定する出来形計測性能を有する機 器を用いることができる。					(植生穴工)	延長 L	-200	1施工施所毎 ただし、計解・注については、従来管理のほか に「3次元計測技術を用いた出来形管理要領 (業)」で規定する出来形計測性能を有する機 器を用いることができる。		
2	2 植生工	法	@<5m	-200	施工延長40mにつき1ヶ所、40m以下のものは1 施工箇所につき2ヶ所。 ただし、計測手法については、従来管理のほか に「3次元計測技術を用いた出来形管理要額				2	2 植生工	&<5m	-200	施工延長40mにつき1ヶ所、40m以下のものは1 施工箇所につき2ヶ所。 ただし、計測手法については、従来管理のほか に「3次元計測技術を用いた出来形管理要領		
	(植生基材吹付工) (客土吹付工)	長	£≥5m	法長の-4%	に「3次元計測技術を用いた出来形管理要領 (業)」で規定する出来形計測性能を有する機 器を用いることができる。					(植生基材吹付工) (客土吹付工)	Æ @ @≧5m	法長の-4%	に「3次元計測技術を用いた出来形管理要領 (業)」で規定する出来形計測性能を有する機器を用いることができる。		
			€<5cm	-10	施工面積200㎡につき1ヶ所、面積200㎡以下の ものは、1施工箇所につき2ヶ所。 検査孔に10測定。						@<5cm	-10	施工面積200㎡につき1ヶ所、面積200㎡以下の ものは、1施工箇所につき2ヶ所。 給査引に150測定。		
		厚さ	ê≧5cm	-20	■検査孔により測定。						厚 ☆ ℓ≧5cm	-20	検査孔により測定。		
		t	ただし、吹付面に凹 付厚は、設計厚の5 設計厚以上。	凸がある場合の最小吹 0%以上とし、平均厚は							ただし、吹付面に凹 付厚は、設計厚の8 設計厚以上。	 凸がある場合の最小吗 10%以上とし、平均厚に	k k		
			延長 L	-200	1施工簡所毎 ただし、計調手法については、従来管理のほか に「3次元計測技術を用いた出来形管理要領 (業)」で規定する出来形計測性能を有する機 器を用いることができる。						延長 L	-200	1施工箇所毎 ただし、計測手法については、従来管理のほか に「3次元計測技術を用いた出来形管理要領 (案)」で規定する出来形計測性能を有する機 器を用いることができる。		
		700		17 10 10	The size skill con-	70	単位:mm		11.	lu -l	70	17 16 16	70 de 40 00		単位:mm
編章節条材	枝番 工 種	測	定項目	規格値	測 定 基 準 施工延長40mにつき1ヶ所、40m以下のものは1	測定簡所	単位:mm 摘 要	編章	節 绵	: 枝番 工 種	測定項目	規格値	測 定 基 準 施工延長40mにつき1ヶ所、40m以下のものは1	測定箇所	単位:mm 摘 要
3 2 14 3 土 一 法	技器 工 種 吹付工 (仮教を含む)	測	定 項 目 @<3m	規 格 値 -50	施工延長40mにつき1ヶ所、40m以下のものは1 施工箇所につき2ヶ所。 測定断面に凹凸があり、曲線法長の測定が困 螺が基合け直線共長とする			3 2 ± -	節 第 14 3 法	技器 工 種 吹付工(仮設を含む)	測 定 項 目 g<3m	規格値 -50	施工延長40mにつき1ヶ所、40m以下のものは1 施工箇所につき2ヶ所。 測定断面に凹凸があり、曲線法長の測定が困 離か場合は直線注係レオス。	λ	
3 2 14 3 土 木	吹付工(仮収を含む) (コンクリート)				施工延長40mにつき1ヶ所、40m以下のものは1 施工箇所につき2ヶ所。 測定断面に凹凸があり、曲線法長の測定が困	測 定 箇 所		3 2 土木工事共	14 3 法面	吹付工 (仮設を含む) (コンクリート)	€<3m		施工延長40mにつき1ヶ所、40m以下のものは1 施工施所につき2ヶ所。 測定断面に凹凸があり、曲線法長の測定が困	λ	
3 2 14 3 土 一 法	吹付工 (仮設を含む)	法	€<3m	-50	施工延長40mにつき1ヶ所、40m以下のものは1 施工施所につき2ヶ所。 測定断面に凹めがあり、曲線法長の測定が困 環な場合は直線法長とする。 ただし、計測手法については、従来管理のほか に「30次元計測技術を用いた出来形管理要領 (第)で規定する出来影計場性能を有する機			3 2 土 一 敷	14 3 法面	吹付工 (仮設を含む)	&<3m 法 長	-50	施工延長40mにつき1ヶ所、40m以下のものは1 施工施房につき2ヶ所。 調定断面に凹凸があり、曲線法長の測定が困 確な場合は直線法長とする。 ただし、計画手法については、従来管理のほか にごねた記計測技術を用いた出来形管理要領 (数)に関セマオ出来彩料無性能を右する機	λ	
3 2 14 3 土 木	吹付工 (仮収を含む) (コンクリート) (モルタル)	法長。	0<3m 0≥3m	-50 -100	直正度長40mにつき1ヶ所、40m以下のものは1 重工箇所につき2ヶ所、 瀬定断高に凹凸かめり、曲線出手の測定が届 那定断高に凹凸かめり、曲線出手の測定が届 市に場合では直接比を1寸では、従来管理のはか に20次元計画技術を用いた出来が管理要領 (第)で規定する出来が計測性能を有する機 端を用いたことができる。 200mばごのき1ヶ所以上、200mば以下は2ヶ所を 200mばごのき1ヶ所以上、200mば以下は2ヶ所を			3 2 土木工事共	14 3 法面	吹付工 (仮設を含む) (コンクリート) (モルタル)	0<3m #: #: #: #: #: #: #: #: #: #: #: #: #:	-50 -100	第11年長40mにつき1ヶ所、40m以下の40のは1 第11条所につき20年、 瀬定節部に凹止がめり、歳株社長の南を7 郷定衛台は最終長分する。 ただし、計画手柱については、後来管理のはか につる大売計解を用いた出来形管理要額 (第)で現定する出来形計離性能を有する機 差別いることができる。		
3 2 14 3 土 木	吹付工 (仮収を含む) (コンクリート) (モルタル)	法	0<3m 0≥3m 0≥3m 8<5cm ただし、軟件面に関	-50 -100 -10 -10 -20 -5がある場合の最小吹	重工発表40mにつき1ヶ所、40m以下のものは1 転工箇所につき2ヶ所。 動定断面に即凸が50ヶ。曲線出長の測定が図 両な場合は直接が長十方。 ただし、計劃手法については、従来管理のほか に20水元計程が発作用いた出来が容別電質 (業)」で規定する出来部計測性能を有する機 窓を用いることができる。 200mにつき1ヶ所以上、200m以下に12ヶ所を せん礼により測定。			3 2 土木工事共	14 3 法面	吹付工 (仮設を含む) (コンクリート) (モルタル)	# # # # # # # # # # # # # # # # # # #	-50 -100 -10 -10 -20	第二年長40micつき1ヶ所、40m以下の40のは1 第二第所につめ20年。 潮定断部に凹点があり。適齢社長の削乏が開 薬学場合は競技長せする。 ただし、計画手柱については、後来管理のはか、 に3な大計画株を用いた出来影響理要類 (第)で規定する出来影計画性能を有する機 参加・なことができ とのがは、20mi以下は2ヶ所を せん礼により測定。	λ	
3 2 14 3 土 木	吹付工 (仮収を含む) (コンクリート) (モルタル)	法長。	0<3m 0≥3m 0≥3m 8<5cm ただし、軟件面に関	-50 -100 -10 -20	重工発表40mにつき1ヶ所、40m以下のものは1 転工箇所につき2ヶ所。 動定断面に即凸が50ヶ。曲線出長の測定が図 両な場合は直接が長十方。 ただし、計劃手法については、従来管理のほか に20水元計程が発作用いた出来が容別電質 (業)」で規定する出来部計測性能を有する機 窓を用いることができる。 200mにつき1ヶ所以上、200m以下に12ヶ所を せん礼により測定。			3 2 土木工事共	14 3 法面	吹付工 (仮設を含む) (コンクリート) (モルタル)	# # # # # # # # # # # # # # # # # # #	-50 -100 -10 -20	第二年長40micつき1ヶ所、40m以下の40のは1 第二第所につめ20年。 潮定断部に凹点があり。適齢社長の削乏が開 薬学場合は競技長せする。 ただし、計画手柱については、後来管理のはか、 に3な大計画株を用いた出来影響理要類 (第)で規定する出来影計画性能を有する機 参加・なことができ とのがは、20mi以下は2ヶ所を せん礼により測定。		
3 2 14 3 土 木	吹付工 (仮収を含む) (コンクリート) (モルタル)	法長。	0<3m 0≥3m 0<5cm 0≥5cm ただし、吹付面に口付厚は、設計厚の5	-50 -100 -10 -10 -20 -5がある場合の最小吹	重工発表の町につきわか、40m以下のものは1 重工施所につかが所、 瀬定断面に凹凸がめり、血線出井の測定が個 潮定断面に凹凸がめり、血線出井の測定が信 地に対して対しては、従来管費のはか、 ただし、計画手掛については、従来管費のはか、 に対して対応を用いた出来が背側性能を有する機 部分用いたことができる。 200mばこのきいが以上、200mば以下は2ヶ所を せん礼により測定。			3 2 土木工事共	14 3 法面	吹付工 (仮設を含む) (コンクリート) (モルタル)	 は 表 る m は 表 る e ≥ 3 m e ≥ 5 cm p e ≥ 5 cm t ただし、外付面に関する対象のものです。 	-50 -100 -10 -10 -20	第工版長40micつき1ヶ所、40m以下のものは1 鉱工商所につ20年所、 瀬定部前に凹点があり、歳韓社長・砂度が明 東定場合は建設社長・ける。 ただし、計画手柱については、従来管理のはか に3次元計解析を用いた出来が青辺繁宿 (第)で現皮する出来形計。耐性能を有する機 器を用いることができ 近して、10次元計解析を用いた出来が は、10次元計解析を用いた出来が 200micつき1ヶ所以上、200mi以下は2ヶ所を せんれにより削定。		
3 2 14 3 土 木	吹付工 (仮収を含む) (コンクリート) (モルタル)	法長。	8<3m 8<5cm 8<5cm ただし、吹付面に関付算は、設計厚の定設計厚以上。	-50 -100 -10 -10 -20	重工発表のロニッキリ・所・40m以下のものは1 証工第年につよう。 建立第年につよう。 建立第二に四点があり、血線出長の測定が図 電水場合は直線出長十名。 ただし、計劃手法については、従来管理のほか、 ただし、計劃手法については、従来管理のほか、 に包水元計報を作用いた出来が容別電質 (業)」で規定する出来部計測性能を有する機 器を用いることができる。 200㎡につき1ヶ所以上、200㎡以下に12ヶ所を せん礼により測定。			3 2 土木工事共	14 3 法面	吹付工 (仮設を含む) (コンクリート) (モルタル)	e<3m 接 e e e≥3m e<5cm 厚 e≥5cm さ t ただし、吹付面に関 付戻は、設計厚のを 設計序以上。	-50 -100 -10 -20 -20 -20%以上とし、平均摩に	施工を共和につき1ヶ所、40m以下のものは1 施工施所につき2ヶ所。 制定部間に関心があり、機能長の制定が国 機定場合は直接技形する。 ただ、計画手法については、後年管理の13か、 に13次元計制度を用いた出来が背型機能 (第)で規定する出来形計制性能を有する機 器を用いることができる。 200miにつき1ヶ所以上、200mi以下は2ヶ所を せん礼により制定。		
3 2 14 3 土 木	吹付工 (仮収を含む) (コンクリート) (モルタル)	法長。	 e<3m e≥3m e<5cm e<5cm ただし、吹付前に目 付写は、設計厚のE 設計厚以上。 延長 L	-50 -100 -10 -10 -20	正正美夫40mにつきわか、40m以下のものは1 重工施策につきか所、 瀬安斯高に関心があり、血線法井の瀬をが開 那送斯高に関心があり、血線法井の瀬をが開 取出場合は直接体を刊するは、従来管理のはか に20次元計電技術を用いたは来形管理要領 (第)で規定する出来が計測性能を有する機 総を用いた上ができる。 200miにつきょり所以上、200mi以下は2ヶ所を せん礼により測定。 200miにつきょり所以上、200mi以下は2ヶ所を せん礼により測定。 201miにつきょり所以上、200mi以下は2ヶ所を せん礼により測定。 201miにつきょうには来が計画性能を有する機 場を削いることができる。 後継馬雅修工			3 2 土木工事共	14 3 法面	吹付工 (仮設を含む) (コンクリート) (モルタル)	e<3m 注 長 e e≥3m e<5cm 厚 e≥5cm さ ただし、吹付面に同 付厚は、設計厚のた 設計厚以上。	-50 -100 -10 -10 -20 -20 -20 -200	施工を採40mにつき上所、40m以下の40のは1 施工額につき20年。 瀬定節部に凹点があり、歳株社長の側を7個 現実施工は競技長とする。 ただし、計画手はたついては、後来管理のはか、10名次元計解技を用いた出来形管理要額 (第)で現定する出来形計画性能を有する機 整件が会えができる。 200mにつき1ヶ所以上、200m以下は2ヶ所を せん礼により測定。 1施工施所を ただし、計能手法については、後来管理のはか、 に30次元計解技術を用いた出来形管理要額 (第)で表で力は来形計画性能を有する機 添くでは、20mmに対していては、後来管理のほか。 (20mmにつき1ヶ所)を は、10mmに対しまる。 (20mmにつき1ヶ所)を は、10mmに対しまる。 (20mmにつき20mmに対しまる)というには、20mmに対しまる。 (20mmに対しまる)というには、20mmに対しまる。 (20mmに対しまる)というによる。 (20mmに対しまる)といる。 (20mmに対しまる)というによる。 (20mmに対しまる)というによる。 (20mmに対しまる)というによる。 (20mmに対しまる)といる。 (20mmに対しまる)というによる。 (20mmに対しまる)というによる。 (20mmに対しまる)というによる。 (20mmに対しまる)というによる。 (20mmに対しまる)というによる。 (20mmに対しまる)というによる。 (20mmに対しまる)といる。 (20mmに対しな)といる。 (20mmに対しな)といる。 (20mmに対しな)といる。 (20mmに対しな)といる。 (20mmに対		
3 2 14 3 土 木	吹付工 (仮収を含む) (コンクリート) (モルタル)	法長 g 厚 to t	8<3m 6≥3m 8<5cm 8≥5cm ただし、吹付部に目 付算は、設計厚の定 設計厚以上。 延長 L	-50 -100 -10 -10 -20 -20 -20 -200 -30	正正集大のⅢ二・売り・所、4の回以下のものは1 底工施所につから外。 瀬定斯面に即凸があり。由線出長の測定が指 環と場合は直接を見する。 ただし、計劃手法については、後来管理のはか になたご前性が条件川、空出来が需要要領 (第)」で規定する出来が計劃性能を有する機 部を用いることができる。 地工進所有 ただし、計劃手法については、従来管理のほかに であったとができる。 地工進所有 ただし、計劃手法については、従来管理のほかに では、または、計劃手法については、従来管理のほかに では、計劃手法については、従来管理のほかに にない、計劃手法については、従来管理のほか にない、は対象が表現しては実施が管理要領 (第)」で規定する出来が計劃性能を有する機 部を用いることができる。			3 2 土木工事共	14 3 法面	吹付工 (仮設を含む) (コンクリート) (モルタル)	ま< 3m 注 長 章 章 ≥ 3m 章 < 5cm 章 < 5cm 章 < 5cm ただし、吹付前に関 校理、設計率のと 設計等以上。 延長 1.	-50 -100 -10 -20 -20 の%以上とし、平均率に -200	第15長44mにつき1ヶ所、40m以下のものは1 鉱工銀所につき20所、 瀬定断部に担めためり、歳齢法長の測定が国 瀬定地合は建設長長せ方。 ただし、計画手法については、後来管理の13か に13次元計画技術を用いた出来等管理整領 (第)で規定する出来が計画性能を有する機 器を加えことができ ただし、計画手法については、後来管理の13か に20mにつき1ヶ所以上、200㎡以下は2ヶ所を せんれにより開発。 に20mにつき1ヶ所以上、200㎡以下は2ヶ所を せんれにより開発。 (第)で設定する出来が計画性能を有する機 第を用いることができる。 (第)で設定する出来が計画性能を有する機 第を用いることができる。		
3 2 14 3 土 木	吹付工 (仮収を含む) (コンクリート) (モルタル)	法長 g 厚 to t	 e<3m e≥3m e<5cm e<5cm ただし、吹付前に目付塚は、設計厚の窓設計厚以上。 延長 L 	-50 -100 -10 -10 -20	正正美夫40mにつきわか、40m以下のものは1 重工施策につきか所、 瀬安斯高に関心があり、血線法井の瀬をが開 那送斯高に関心があり、血線法井の瀬をが開 取出場合は直接体を付するは、従来管理のはか に20次元計電技術を用いたは来形管理要領 (第)で規定する出来が計測性能を有する機 総を用いた上ができる。 200miにつきょり所以上、200mi以下は2ヶ所を せん礼により測定。 200miにつきょり所以上、200mi以下は2ヶ所を せん礼により測定。 201miにつきょり所以上、200mi以下は2ヶ所を せん礼により測定。 201miにつきょうには来が計画性能を有する機 場を削いることができる。 後継馬雅修工			3 2 土木工事共	14 3 法面	吹付工 (仮設を含む) (コンクリート) (モルタル)	e<3m 注 長 e e≥3m e<5cm 厚 e≥5cm さ ただし、吹付面に同 付厚は、設計厚のた 設計厚以上。	-50 -100 -10 -10 -20 -20 -20 -200	施工を採40mにつき上所、40m以下の40のは1 施工額につき20年。 瀬定節部に凹点があり、歳株社長の側を7個 現実施工は競技長とする。 ただし、計画手はたついては、後来管理のはか、10名次元計解技を用いた出来形管理要額 (第)で現定する出来形計画性能を有する機 整件が会えができる。 200mにつき1ヶ所以上、200m以下は2ヶ所を せん礼により測定。 1施工施所を ただし、計能手法については、後来管理のはか、 に30次元計解技術を用いた出来形管理要額 (第)で表で力は来形計画性能を有する機 添くでは、20mmに対していては、後来管理のほか。 (20mmにつき1ヶ所)を は、10mmに対しまる。 (20mmにつき1ヶ所)を は、10mmに対しまる。 (20mmにつき20mmに対しまる)というには、20mmに対しまる。 (20mmに対しまる)というには、20mmに対しまる。 (20mmに対しまる)というによる。 (20mmに対しまる)といる。 (20mmに対しまる)というによる。 (20mmに対しまる)というによる。 (20mmに対しまる)というによる。 (20mmに対しまる)といる。 (20mmに対しまる)というによる。 (20mmに対しまる)というによる。 (20mmに対しまる)というによる。 (20mmに対しまる)というによる。 (20mmに対しまる)というによる。 (20mmに対しまる)というによる。 (20mmに対しまる)といる。 (20mmに対しな)といる。 (20mmに対しな)といる。 (20mmに対しな)といる。 (20mmに対しな)といる。 (20mmに対		
3 2 14 3 土 木	吹付工 (仮収を含む) (コンクリート) (モルタル)	法長 g 厚 to t	8<3m 6≥3m 8<5cm 8≥5cm ただし、吹付部に目 付算は、設計厚の定 設計厚以上。 延長 L	-50 -100 -10 -10 -20 -20 -20 -200 -30	正正美夫40mにつきわか、40m以下のものは1 重工施策につきか所、 瀬安斯高に関心があり、血線法井の瀬をが開 那送斯高に関心があり、血線法井の瀬をが開 取出場合は直接体を付するは、従来管理のはか に20次元計電技術を用いたは来形管理要領 (第)で規定する出来が計測性能を有する機 総を用いた上ができる。 200miにつきょり所以上、200mi以下は2ヶ所を せん礼により測定。 200miにつきょり所以上、200mi以下は2ヶ所を せん礼により測定。 201miにつきょり所以上、200mi以下は2ヶ所を せん礼により測定。 201miにつきょうには来が計画性能を有する機 場を削いることができる。 後継馬雅修工			3 2 土木工事共	14 3 法面	吹付工 (仮設を含む) (コンクリート) (モルタル)	ま< 3m 注 長 章 章 ≥ 3m 章 < 5cm 章 < 5cm 章 < 5cm ただし、吹付前に関 校理、設計率のと 設計等以上。 延長 1.	-50 -100 -10 -20 -20 の%以上とし、平均率に -200	施工を採40mにつき上所、40m以下の40のは1 施工額につき20年。 瀬定節部に凹点があり、歳株社長の側を7個 現実施工は競技長とする。 ただし、計画手はたついては、後来管理のはか、10名次元計解技を用いた出来形管理要額 (第)で現定する出来形計画性能を有する機 整件が会えができる。 200mにつき1ヶ所以上、200m以下は2ヶ所を せん礼により測定。 1施工施所を ただし、計能手法については、後来管理のはか、 に30次元計解技術を用いた出来形管理要額 (第)で表で力は来形計画性能を有する機 添くでは、20mmに対していては、後来管理のほか。 (20mmにつき1ヶ所)を は、10mmに対しまる。 (20mmにつき1ヶ所)を は、10mmに対しまる。 (20mmにつき20mmに対しまる)というには、20mmに対しまる。 (20mmに対しまる)というには、20mmに対しまる。 (20mmに対しまる)というによる。 (20mmに対しまる)といる。 (20mmに対しまる)というによる。 (20mmに対しまる)というによる。 (20mmに対しまる)というによる。 (20mmに対しまる)といる。 (20mmに対しまる)というによる。 (20mmに対しまる)というによる。 (20mmに対しまる)というによる。 (20mmに対しまる)というによる。 (20mmに対しまる)というによる。 (20mmに対しまる)というによる。 (20mmに対しまる)といる。 (20mmに対しな)といる。 (20mmに対しな)といる。 (20mmに対しな)といる。 (20mmに対しな)といる。 (20mmに対		
3 2 14 3 土 木	吹付工 (仮収を含む) (コンクリート) (モルタル)	法長 g 厚 to t	8<3m 6≥3m 8<5cm 8≥5cm ただし、吹付部に目 付算は、設計厚の定 設計厚以上。 延長 L	-50 -100 -10 -10 -20 -20 -20 -200 -30	正正美夫40mにつきわか、40m以下のものは1 重工施策につきか所、 瀬安斯高に関心があり、血線法井の瀬をが開 那送斯高に関心があり、血線法井の瀬をが開 取出場合は直接体を付するは、従来管理のはか に20次元計電技術を用いたは来形管理要領 (第)で規定する出来が計測性能を有する機 総を用いた上ができる。 200miにつきょり所以上、200mi以下は2ヶ所を せん礼により測定。 200miにつきょり所以上、200mi以下は2ヶ所を せん礼により測定。 201miにつきょり所以上、200mi以下は2ヶ所を せん礼により測定。 201miにつきょうには来が計画性能を有する機 場を削いることができる。 後継馬雅修工			3 2 土木工事共	14 3 法面	吹付工 (仮設を含む) (コンクリート) (モルタル)	ま< 3m 注 長 章 章 ≥ 3m 章 < 5cm 章 < 5cm 章 < 5cm ただし、吹付前に関 校理、設計率のと 設計等以上。 延長 1.	-50 -100 -10 -20 -20 の%以上とし、平均率に -200	施工を採40mにつき上所、40m以下の40のは1 施工額につき20年。 瀬定節部に凹点があり、歳株社長の側を7個 現実施工は競技長とする。 ただし、計画手はたついては、後来管理のはか、10名次元計解技を用いた出来形管理要額 (第)で現定する出来形計画性能を有する機 整件が会えができる。 200mにつき1ヶ所以上、200m以下は2ヶ所を せん礼により測定。 1施工施所を ただし、計能手法については、後来管理のはか、 に30次元計解技術を用いた出来形管理要額 (第)で表で力は来形計画性能を有する機 添くでは、20mmに対していては、後来管理のほか。 (20mmにつき1ヶ所)を は、10mmに対しまる。 (20mmにつき1ヶ所)を は、10mmに対しまる。 (20mmにつき20mmに対しまる)というには、20mmに対しまる。 (20mmに対しまる)というには、20mmに対しまる。 (20mmに対しまる)というによる。 (20mmに対しまる)といる。 (20mmに対しまる)というによる。 (20mmに対しまる)というによる。 (20mmに対しまる)というによる。 (20mmに対しまる)といる。 (20mmに対しまる)というによる。 (20mmに対しまる)というによる。 (20mmに対しまる)というによる。 (20mmに対しまる)というによる。 (20mmに対しまる)というによる。 (20mmに対しまる)というによる。 (20mmに対しまる)といる。 (20mmに対しな)といる。 (20mmに対しな)といる。 (20mmに対しな)といる。 (20mmに対しな)といる。 (20mmに対		
3 2 14 3 土 木	吹付工 (仮収を含む) (コンクリート) (モルタル)	法長 g 厚 to t	8<3m 6≥3m 8<5cm 8≥5cm ただし、吹付部に目 付算は、設計厚の定 設計厚以上。 延長 L	-50 -100 -10 -10 -20 -20 -20 -200 -30	正正美夫40mにつきわか、40m以下のものは1 重工施策につきか所、 瀬安斯高に関心があり、血線法井の瀬をが開 那送斯高に関心があり、血線法井の瀬をが開 取出場合は直接体を付するは、従来管理のはか に20次元計電技術を用いたは来形管理要領 (第)で規定する出来が計測性能を有する機 総を用いた上ができる。 200miにつきょり所以上、200mi以下は2ヶ所を せん礼により測定。 200miにつきょり所以上、200mi以下は2ヶ所を せん礼により測定。 201miにつきょり所以上、200mi以下は2ヶ所を せん礼により測定。 201miにつきょうには来が計画性能を有する機 場を削いることができる。 後継馬雅修工			3 2 土木工事共	14 3 法面	吹付工 (仮設を含む) (コンクリート) (モルタル)	ま< 3m 注 長 章 章 ≥ 3m 章 < 5cm 章 < 5cm 章 < 5cm 下 だし、吹付前に関 で設計率のと 設計率以上。 延長 1.	-50 -100 -10 -20 -20 の%以上とし、平均率に -200	施工を採40mにつき上所、40m以下の40のは1 施工額につき20年。 瀬定節部に凹点があり、歳株社長の側を7個 現実施工は競技長とする。 ただし、計画手はたついては、後来管理のはか、10名次元計解技を用いた出来形管理要額 (第)で現定する出来形計画性能を有する機 整件が会えができる。 200mにつき1ヶ所以上、200m以下は2ヶ所を せん礼により測定。 1施工施所を ただし、計能手法については、後来管理のはか、 に30次元計解技術を用いた出来形管理要額 (第)で表で力は来形計画性能を有する機 添くでは、20mmに対していては、後来管理のほか。 (20mmにつき1ヶ所)を は、10mmに対しまる。 (20mmにつき1ヶ所)を は、10mmに対しまる。 (20mmにつき20mmに対しまる)というには、20mmに対しまる。 (20mmに対しまる)というには、20mmに対しまる。 (20mmに対しまる)というによる。 (20mmに対しまる)といる。 (20mmに対しまる)というによる。 (20mmに対しまる)というによる。 (20mmに対しまる)というによる。 (20mmに対しまる)といる。 (20mmに対しまる)というによる。 (20mmに対しまる)というによる。 (20mmに対しまる)というによる。 (20mmに対しまる)というによる。 (20mmに対しまる)というによる。 (20mmに対しまる)というによる。 (20mmに対しまる)といる。 (20mmに対しな)といる。 (20mmに対しな)といる。 (20mmに対しな)といる。 (20mmに対しな)といる。 (20mmに対		

								単位:mm									
福章	節 :	条 枝色	番 工 種	測定項目	規 格 値	測定基準	測定箇所	摘 要	編章筋条枝	(番 工 種	測	定項目	規 格 値	測定基準	測定簡	前所	摘 要
3 2	14	4 1	法枠工	@<10m	-100	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)に つき1ヶ所、延長40m(または50m)以下のものは			3 2 14 4	1 法枠工		ℓ<10m	-100	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)に つき1ヶ所、延長40m(または50m)以下のものは			
土 一 般	法		(現場打法枠工)	法長		■1施工箇所につき2ヶ所。 計測手法については、従来管理のほかに「3次 元計測技術を用いた出来形管理要額(案)」で			土 一 法	(現場打法枠工)	法長			1施工箇所につき2ヶ所。 計測手法については、従来管理のほかに「3次 元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」で			
工施事工	Ī		(現場吹付法枠工)	$\varrho \geq 10 \mathrm{m}$	-200	規定する出来形計測性能を有する機器を用いることが出来る。			工施工	(現場吹付法枠工)	e.	$\ell\! \geq\! 10m$	-200	規定する出来形計測性能を有する機器を用いることが出来る。			
共通	共通								共 共通								
補				₩ w	-30	棒延延長100mにつき1ヶ所、棒延延長100m以 下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 ※施工委長での測定が困難な場合は、200m			福			₩ w	-30	棒延延長100mにつき1ヶ所、棒延延長100m以 下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 ※施工延長での測定が困難な場合は、200m			
						2につき1ヶ所の割合で測定する。 計測手法については、従来管理のほかに「3次								2につき1ヶ所の割合で測定する。 計測手法については、従来管理のほかに「3次 元計測技術を用いた出来形管理要鎖(業)」で	 	-1.1	
				高さ h	-30	元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」で 規定する出来形計測性能を有する機器を用い						高さ h	-30	規定する出来形計測性能を有する機器を用い	į '	"	
				10,00	00	ることが出来る。						1000 11	50	ることが出来る。		لنطء	
				枠中心間隔a	±100							枠中心間隔a	±100				
				作中心间隔离	±100							作中心回開る	±100				
						1施工箇所毎 計測手法については、従来管理のほかに「3次								1施工箇所毎 計測手法については、従来管理のほかに「3次			
				延長 L	-200	元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」で 規定する出来形計測性能を有する機器を用い						延長 L	-200	元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」で 規定する出来形計測性能を有する機器を用い			
						ることが出来る。								ることが出来る。			
					l			进位·mm									単位:mm
927 ele	e des	久 社会	g- T 69	雅 定 頂 日	担 終 結	(ii) (ir) (ii) (iii)	和 京 等 正	1 120 1	毎 佐 久 社	· Ø T 68	illi	京 頂 目	胡 終 結	副 	御 定 篇	t 36	
福章	節 :	_		測定項目	規格値	測 定 基 準 施工延長40m(測点開隔25mの場合は50m)に	測定簡所	摘 要	編章節条枝		測	定項目	規格値	測 定 基 準 施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)に	測定簡	前所	海 要
3 2	+ +	_	番 工 種 2 法枠工	ℓ<10m	規 格 値 -100		測定簡所	1 120 1	編章節条枝		測	定項目 @<10m	規 格 値 -100	測 定 基 準 施工延長40m (測点開照25mの場合は50m) に できい方、延長40m (または50m) 以下のものは 1施工施所につき2ヶ所。	測定簡	i Pī	
3 2 土 一	14 法面	_		0<10m 法 長	-100	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)に つき1ヶ所、延長40m(または50m)以下のものは	測定簡所	1 120 1	3 2 14 4 : 土 一 法		法長。	0<10m	-100	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)に つき1ヶ所、延長40m(または50m)以下のものは	測定簡	i Pr	
3 2	14 法面工	_	2 法枠工	0<10m 法 長		施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)に つき1ヶ所、延長40m(または50m)以下のものは	测定循所	1 120 1	3 2 14 4 : 法面工 共 共	2 法枠工	法			施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)に つき1ヶ所、延長40m(または50m)以下のものは	測定簡	前 所	
3 2 土 一	14 法面工	_	2 法枠工	後 長 見 & & 2 ≥ 10m	-100 -200	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)に つき1ヶ所、延長40m(または50m)以下のものは	制定箇所	1 120 1	3 2 14 4 : 土 一 般 施工 工事工	2 法枠工	法	0<10m 0≥10m	-100 -200	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)に つき1ヶ所、延長40m(または50m)以下のものは	測定簡	ii βτ	
3 2 土 一	14 法面工	_	 法幹工 (プレキャスト法幹工) 	e<10m 法 長 e e≥10m 延長 L	-100 -200	施工延長40m (拠点開隔25mの場合は50m) に つき1ヶ所、延長40m (または50m) 以下のものは 1施工箇所につき2ヶ所。	制定箇所	摘 要	3 2 14 4 :	2 法枠工 (プレキャスト法枠工)	法	0<10m 0≥10m 延長 L	-100 -200	施工延長40m(徳点開陽25mの場合は50m)に つき1ヶ所、延長40m(または50m)以下のものは 1施工箇所につき2ヶ所。	測 定 被	षें <i>जि</i> र	摘 要
3 2 土 一	14 法面工	_	2 法枠工	後 長 見 & & 2 ≥ 10m	-100 -200	施工延長40m (商点開隔25mの場合は50m) に つき1ヶ所、延長40m (または50m) 以下のものは 1施工箇所につき2ヶ所。 1施工箇所毎	測定舊所	摘要	3 2 14 4 :	2 法枠工	法	0<10m 0≥10m	-100 -200	施工延長40m (勝点開保25mの場合は50m)に つき1ヶ所、延長40m (または50m) 以下のものは 1施工箇所につき2ヶ所。 1施工箇所に	測定簡	i	
3 2 土 一	14 法面工	_	 法幹工 (プレキャスト法幹工) 	e<10m 法 長 e e≥10m 延長 L	-100 -200	施工延長40m (商点開隔25mの場合は50m) に つき1ヶ所、延長40m (または50m) 以下のものは 1施工箇所につき2ヶ所。 1施工箇所毎	制定量 第	摘 要	3 2 14 4 :	2 法枠工 (プレキャスト法枠工)	法	0<10m 0≥10m 延長 L	-100 -200	施工延長40m (勝点開保25mの場合は50m)に つき1ヶ所、延長40m (または50m) 以下のものは 1施工箇所につき2ヶ所。 1施工箇所に	測 定 質	i	摘 要
3 2 土 一	14 法面工	_	 法幹工 (プレキャスト法幹工) 	能 長 e ≥10m 延長 L 解孔深さe	-100 -200 -200 設計値以上	施工延長40m (商点開隔25mの場合は50m) に つき1ヶ所、延長40m (または50m) 以下のものは 1施工箇所につき2ヶ所。 1施工箇所毎	湖 定 箇 所	摘 要	3 2 14 4 :	2 法枠工 (プレキャスト法枠工)	法長 @	<pre>0<10m</pre> <pre>0≥10m</pre> 延長 L 削孔深さる	-100 -200 -200 設計値以上	施工延長40m (勝点開保25mの場合は50m)に つき1ヶ所、延長40m (または50m) 以下のものは 1施工箇所につき2ヶ所。 1施工箇所に	■ 定 箇	B B7	摘 要
3 2 土 一	14 法面工	_	 法幹工 (プレキャスト法幹工) 	e<10m 法 e ≥10m 延長 L 附孔深达e 配置終始d	-100 -200 -200 設計値以上 100	施工延長40m (商点開隔25mの場合は50m) に つき1ヶ所、延長40m (または50m) 以下のものは 1施工箇所につき2ヶ所。 1施工箇所毎	用定量用	摘 要	3 2 14 4 :	2 法枠工 (プレキャスト法枠工)	法長 @	0<10m 0≥10m 延長 L 削孔深さ0 配置誤差d	-100 -200 -200 設計値以上 100	施工延長40m (勝点開保25mの場合は50m)に つき1ヶ所、延長40m (または50m) 以下のものは 1施工箇所につき2ヶ所。 1施工箇所に	調 定 簡	FF	摘 要
3 2 土 一	14 法面工	_	 法幹工 (プレキャスト法幹工) 	e<10m 法 e ≥10m 延長 L 附孔深达e 配置終始d	-100 -200 -200 設計値以上 100	施工延長40m (商点開隔25mの場合は50m) に つき1ヶ所、延長40m (または50m) 以下のものは 1施工箇所につき2ヶ所。 1施工箇所毎	* = - = - = - = - = - = - = - = - = - =	摘 要	3 2 14 4 :	2 法枠工 (プレキャスト法枠工)	法長 @	0<10m 0≥10m 延長 L 削孔深さ0 配置誤差d	-100 -200 -200 設計値以上 100	施工延長40m (勝点開保25mの場合は50m)に つき1ヶ所、延長40m (または50m) 以下のものは 1施工箇所につき2ヶ所。 1施工箇所に	期 定 簡	<u></u>	摘 要
3 2 土 一	14 法面工	_	 法幹工 (プレキャスト法幹工) 	e<10m 法 e ≥10m 延長 L 附孔深达e 配置終始d	-100 -200 -200 設計値以上 100	施工延長40m (商点開隔25mの場合は50m) に つき1ヶ所、延長40m (または50m) 以下のものは 1施工箇所につき2ヶ所。 1施工箇所毎	# 定 箇 所 J - √x v	摘 要	3 2 14 4 :	2 法枠工 (プレキャスト法枠工)	法長 @	0<10m 0≥10m 延長 L 削孔深さ0 配置誤差d	-100 -200 -200 設計値以上 100	施工延長40m (勝点開保25mの場合は50m)に つき1ヶ所、延長40m (または50m) 以下のものは 1施工箇所につき2ヶ所。 1施工箇所に	, ±,	₩ FF	摘 要
3 2 土 一	14 法面工	_	 法幹工 (プレキャスト法幹工) 	e<10m 法 e ≥10m 延長 L 附孔深达e 配置終始d	-100 -200 -200 設計値以上 100	施工延長40m (商点開隔25mの場合は50m) に つき1ヶ所、延長40m (または50m) 以下のものは 1施工箇所につき2ヶ所。 1施工箇所毎	* = - = - = - = - = - = - = - = - = - =	摘 要	3 2 14 4 :	2 法枠工 (プレキャスト法枠工)	法長 @	0<10m 0≥10m 延長 L 削孔深さ0 配置誤差d	-100 -200 -200 設計値以上 100	施工延長40m (勝点開保25mの場合は50m)に つき1ヶ所、延長40m (または50m) 以下のものは 1施工箇所につき2ヶ所。 1施工箇所に	, ±,	一	摘 要
3 2 土 一	14 法面工	_	 法幹工 (プレキャスト法幹工) 	e<10m 法 e ≥10m 延長 L 附孔深达e 配置終始d	-100 -200 -200 設計値以上 100	施工延長40m (商点開隔25mの場合は50m) に つき1ヶ所、延長40m (または50m) 以下のものは 1施工箇所につき2ヶ所。 1施工箇所毎	* = - = - = - = - = - = - = - = - = - =	摘 要	3 2 14 4 :	2 法枠工 (プレキャスト法枠工)	法長 @	0<10m 0≥10m 延長 L 削孔深さ0 配置誤差d	-100 -200 -200 設計値以上 100	施工延長40m (勝点開保25mの場合は50m)に つき1ヶ所、延長40m (または50m) 以下のものは 1施工箇所につき2ヶ所。 1施工箇所に	, ±,	一	摘 要
3 2 土 一	14 法面工	_	 法幹工 (プレキャスト法幹工) 	e<10m 法 e ≥10m 延長 L 附孔深达e 配置終始d	-100 -200 -200 設計値以上 100	施工延長40m (商点開隔25mの場合は50m) に つき1ヶ所、延長40m (または50m) 以下のものは 1施工箇所につき2ヶ所。 1施工箇所毎	* = - = - = - = - = - = - = - = - = - =	摘 要	3 2 14 4 :	2 法枠工 (プレキャスト法枠工)	法長 @	0<10m 0≥10m 延長 L 削孔深さ0 配置誤差d	-100 -200 -200 設計値以上 100	施工延長40m (勝点開保25mの場合は50m)に つき1ヶ所、延長40m (または50m) 以下のものは 1施工箇所につき2ヶ所。 1施工箇所に	, ±,	· 所	摘 要
3 2 土 一	14 法面工	_	 法幹工 (プレキャスト法幹工) 	e<10m 法 e ≥10m 延長 L 解孔深达e 配置誤発d	-100 -200 -200 設計値以上 100	施工延長40m (商点開隔25mの場合は50m) に つき1ヶ所、延長40m (または50m) 以下のものは 1施工箇所につき2ヶ所。 1施工箇所毎	* = - = - = - = - = - = - = - = - = - =	摘 要	3 2 14 4 :	2 法枠工 (プレキャスト法枠工)	法長 @	0<10m 0≥10m 延長 L 削孔深さ0 配置誤差d	-100 -200 -200 設計値以上 100	施工延長40m (勝点開保25mの場合は50m)に つき1ヶ所、延長40m (または50m) 以下のものは 1施工箇所につき2ヶ所。 1施工箇所に	, ±,	一	摘 要
3 2 土 一	14 法面工	_	 法幹工 (プレキャスト法幹工) 	e<10m 法 e ≥10m 延長 L 解孔深达e 配置誤発d	-100 -200 -200 設計値以上 100	施工延長40m (商点開隔25mの場合は50m) に つき1ヶ所、延長40m (または50m) 以下のものは 1施工箇所につき2ヶ所。 1施工箇所毎	* = - = - = - = - = - = - = - = - = - =	摘 要	3 2 14 4 :	2 法枠工 (プレキャスト法枠工)	法長 @	0<10m 0≥10m 延長 L 削孔深さ0 配置誤差d	-100 -200 -200 設計値以上 100	施工延長40m (勝点開保25mの場合は50m)に つき1ヶ所、延長40m (または50m) 以下のものは 1施工箇所につき2ヶ所。 1施工箇所に	, ±,	一	摘 要
3 2 土 一	14 法面工	_	 法幹工 (プレキャスト法幹工) 	e<10m 法 e ≥10m 延長 L 解孔深达e 配置誤発d	-100 -200 -200 設計値以上 100	施工延長40m (商点開隔25mの場合は50m) に つき1ヶ所、延長40m (または50m) 以下のものは 1施工箇所につき2ヶ所。 1施工箇所毎	* = - = - = - = - = - = - = - = - = - =	摘 要	3 2 14 4 :	2 法枠工 (プレキャスト法枠工)	法長 @	0<10m 0≥10m 延長 L 削孔深さ0 配置誤差d	-100 -200 -200 設計値以上 100	施工延長40m (勝点開保25mの場合は50m)に つき1ヶ所、延長40m (または50m) 以下のものは 1施工箇所につき2ヶ所。 1施工箇所に	, ±,	i Fr	摘 要
3 2 土 一	14 法面工	_	 法幹工 (プレキャスト法幹工) 	e<10m 法 e ≥10m 延長 L 解孔深达e 配置誤発d	-100 -200 -200 設計値以上 100	施工延長40m (商点開隔25mの場合は50m) に つき1ヶ所、延長40m (または50m) 以下のものは 1施工箇所につき2ヶ所。 1施工箇所毎	* = - = - = - = - = - = - = - = - = - =	摘 要	3 2 14 4 :	2 法枠工 (プレキャスト法枠工)	法長 @	0<10m 0≥10m 延長 L 削孔深さ0 配置誤差d	-100 -200 -200 設計値以上 100	施工延長40m (勝点開保25mの場合は50m)に つき1ヶ所、延長40m (または50m) 以下のものは 1施工箇所につき2ヶ所。 1施工箇所に	, ±,	F F	摘 要
3 2 土 一	14 法面工	_	 法幹工 (プレキャスト法幹工) 	e<10m 法 e ≥10m 延長 L 解孔深达e 配置誤発d	-100 -200 -200 設計値以上 100	施工延長40m (商点開隔25mの場合は50m) に つき1ヶ所、延長40m (または50m) 以下のものは 1施工箇所につき2ヶ所。 1施工箇所毎	* = - = - = - = - = - = - = - = - = - =	摘 要	3 2 14 4 :	2 法枠工 (プレキャスト法枠工)	法長 @	0<10m 0≥10m 延長 L 削孔深さ0 配置誤差d	-100 -200 -200 設計値以上 100	施工延長40m (勝点開保25mの場合は50m)に つき1ヶ所、延長40m (または50m) 以下のものは 1施工箇所につき2ヶ所。 1施工箇所に	, ±,	F F	摘 要
3 2 土 一	14 法面工	_	 法幹工 (プレキャスト法幹工) 	e<10m 法 e ≥10m 延長 L 解孔深达e 配置誤発d	-100 -200 -200 設計値以上 100	施工延長40m (商点開隔25mの場合は50m) に つき1ヶ所、延長40m (または50m) 以下のものは 1施工箇所につき2ヶ所。 1施工箇所毎	* = - = - = - = - = - = - = - = - = - =	摘 要	3 2 14 4 :	2 法枠工 (プレキャスト法枠工)	法長 @	0<10m 0≥10m 延長 L 削孔深さ0 配置誤差d	-100 -200 -200 設計値以上 100	施工延長40m (勝点開保25mの場合は50m)に つき1ヶ所、延長40m (または50m) 以下のものは 1施工箇所につき2ヶ所。 1施工箇所に	, ±,	F F	摘 要

福	章 節	条柱	技番 工 種	測定項目	規 格 値	測定基準	測定箇所	摘 要	編章節条杉	番 工 種	測定項目	規 格 値	測定基準	測定箇所	単位:mm 摘 要
3	2 15	1	一般事項	基準高 ▽	±50	施工延長40m (測点開隔25mの場合は50m) に つき1ヶ所、延長40m (または50m) 以下のものは 1施工箇所につき2ヶ所。	<u> </u>		3 2 15 1	一般事項	基準高 ▽	±50	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)に つき1ヶ所、延長40m(または50m)以下のものは 1施工箇所につき2ヶ所。		
土木工	一维		(場所打擁壁工)	厚さ t	-20	※舗装に接する場合の規準高は±30とする。	/ [,]		土一排水般壁工	(場所打擁壁工)	厚さ t	-20	1紀上面所につき2ヶ所。 ※舗装に接する場合の規準高は±30とする。	/ .	
事共活	工共活			裏込厚さ	-50	「3次元計測技術を用いた出来形管理要額 (業)」に基づき出来形管理を実施する場合は、 同要額に規定する計測精度・計測密度を満た	<u></u>		事 工 共 通		裏込厚さ	-50	「3次元計測技術を用いた出来形管理要領 (業)」に基づき出来形管理を実施する場合は、	<u>_</u>	
編	325			## w ₁ ,w ₂	-30	─回要領に規定する計測精度・計測密度を満た す計測方法により出来形管理を実施することが できる。			細細		₩ w ₁ ,w ₂	-30	同要領に規定する計測精度・計測密度を満た す計測方法により出来形管理を実施することが できる。	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
				高 計 計	-50		\				#5 h < 3m	-50			
				h h≧3m	-100						h h≥3m	-100			
				延長 L	-200	1施工箇所毎 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領	دسیا الا-سی-ا الاد الاد				延長 L	-200	1施工箇所毎 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領	i i	
						(案)に基づ参出来形管理を実施する場合は、 同要額に規定する計測精度・計測密度を満た す計測方法により出来形管理を実施することが できる。							(第)に基づき出来形管理を実施する場合は、 同要額に規定する計劃轉度・計測密度を満た す計劃方法により出来形管理を実施することが できる。		
		2	プレキャスト擁壁工	基準高 ▽	±50	施工延長40m(測点開隔25mの場合は50m)に つき1ヶ所、延長40m(または50m)以下のものは 1施工箇所につき2ヶ所。			2	プレキャスト擁壁工	基準高 ▽	±50	施工延長40m(測点開隔25mの場合は50m)に つき1ヶ所、延長40m(または50m)以下のものは 1施工箇所につき2ヶ所。		
						「3次元計測技術を用いた出来形管理要額 (象)に基づき出来形管理を実施する場合は、 同要額に規定する計測精度・計測密度を満た す計劃力法により出来形管理を実施することが できる。	Ĭ.						「3次元計劃技術を用いた出来形管理要額 (第)に基づ出来形管理を実施する場合は、 同要額に規定する計劃精度・計測密度を満た す計劃方法により出来形管理を実施することが できる。		
				延長 L	-200	1施工箇所毎 「3次元計測技術を用いた出来形管理要額 (象)に基づき出来形管理を実施する場合は、 回要領に規定さ計測特度・別商度を論た 申計割力法により出来形管理を実施することが できる。					延長 L	-200	1施工箇所毎 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領 (第)に基づ合出来形管理を実施する場合は、 同要領に規定する計劃特定・判制密度を流さ す計測方法により出来形管理を実施することが できる。		
								単位:mm		1		ı			単位:mm
編	章節	条柱			規格 値	測 定 基 準 施工延長40m(測点開隔25mの場合は50m)に	測定簡所	摘要	編章節条杉		測定項目	規格値	測 定 基 準 施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)に	測定簡所	摘 要
3 ±	2 15	3	補強土壁工	基準高 ▽ h < 3m	±50	つき1ヶ所、延長40m(または50m)以下のものは 1施工箇所につき2ヶ所。	·• #-		3 2 15 3 土 一 擁	補強土壁工	基準高 ▽ h<3m	±50	つき1ヶ所、延長40m(または50m)以下のものは 1施工箇所につき2ヶ所。	·	
木工事	般 壁 工工		(補強士(テールアル メ)壁工法) (多数アンカー式補強	高 さ h h h h 3 m	-100	「3次元計測技術を用いた出来形管理要領 (業)」に基づき出来形管理を実施する場合は、 同要領に規定する計測精度・計測密度を満た			木 般 壁 工 施 工	(補強土(テールアル メ)壁工法) (多数アンカー式補強	高 h h h≧3m	-100	「3次元計測技術を用いた出来形管理要領 (案)」に基づき出来形管理を実施する場合は、 同要領に規定する計測精度・計測密度を満た	-	
共通編	共通		土工法) (ジオテキスタイルを 用いた補強土工法)	entate the A ±	0.03hかつ	す計測方法により出来形管理を実施することが できる。			共 通 通	土工法) (ジオテキスタイルを 用いた補強土工法)	鉛直度 △	±0.03hかつ	す計測方法により出来形管理を実施することが できる。		
					上300以内 と計値以上		.i.				控え長さ (補強材の設計長)	±300以内 設計値以上	_	`	
				(補強材の放訂長) 延長 L	-200	1施工箇所毎	· //				(側短句の設計長) 延長 L	-200	1施工箇所毎	· //	
						「3次元計測技術を用いた出来形管理要額 (業)」に基づき出来形管理を実施する場合は、 同要額に規定する計測構度。計測商度を満た す計測方法により出来形管理を実施することが できる。							「3次元計測技術を用いた出来形管理要額 (案)」に基づき出来形管理を実施する場合は、 同要額に規定する計測特度・計測密度を満た す計測方法により出来形管理を実施することが できる。		
		4	井桁ブロックエ	基準高 ▽	±50	施工延長40m(測点開隔25mの場合は50m)に つき1ヶ所、延長40m(または50m)以下のものは 1施工箇所につき2ヶ所。	<u> </u>		4	井桁プロックエ	基準高 ▽	±50	施工延長40m(測点開隔25mの場合は50m)に つき1ヶ所、延長40m(または50m)以下のものは 1施工箇所につき2ヶ所。	<u> </u>	
				法 長	-50						法 長	-50			
				ê h ≥ 3m	-100		1.7				l h≥3m	-100		The state of the s	
				厚さ t ₁ , t ₂ , t ₃	-50	1施工箇所毎					厚さ t ₁ , t ₂ , t ₃	-50	1施工箇所毎	1/2 XXXXIII	
				延長 L ₁ . L ₂	-200		2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1				継長 L₁, L₂	-200		6 < 3 tr	

数 章 数	2 16 3 1 凌漢船運転工 200ps -800~+200 (研制方向は、配料を	3 2 16 3 1 漢漢語運転工	3 2 2 16 3 1 表現を選択している。	3 2 16 3 1 表示影響和工 2 00ps	3 2 16 3 1 凌漢船運転工 200ps	3 2 15 3 1 漫画報画	2 16 3 1 淡葉船運転工 2 2 2 2 2 2 2 2 2	3 2 16 3 1 凌廉船運転工 2 00ps	3 2 16 3 1 淡凍船運転工 土 一 淡 海	3 2 16 3 1 淡凍船運転工 2 00ps -800~+200 延長方向は、設計図書により指定された側点 機所方向は、5m6。 繋が、方向。 また。特面は妊死、左肩と必要に応じ中間点 5点のたことである。 ただし、各面定値の平均値の設計基準高以下 共 通 3 2 16 3 1 淡凍船運転工 2 00ps -800~+200 延長方向は、設計図書により指定された側点 (駅が方向は、5m6。 実た。特面は妊死、法肩と必要に応じ中間点 5点のたっただし、各面定値の平均値の設計基準高以下 であることである。 ただし、各面定値の平均値の設計基準高以下 であるこ 2 2 16 3 1 淡凍船運転工 2 00ps -800~+200 塩長方向は、設計図書により指定された側点 (駅が方向は、5m6。 実た。特面は妊死、法肩と必要に応じ中間点 5点のたっただし、各面定値の平均値の設計基準高以下 であることであることである。 2 2 16 3 1 次凍船運転工 2 00ps -800~+200 塩長方向は、設計図書により指定された側点 (ボンプ波藻船) 2 2 16 3 1 次凍船運転工 2 00ps -800~+200 塩長方向は、設計図書により指定された側点 (ボンプ波藻船) 2 2 16 3 1 次凍船運転工 2 2 16 3 1 次凍船運転工 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	3 2 16 3 1 凌廉船運転工	3 2 16 3 1 凌漢船運転工 200ps	編章							単位:mm						1	単位:mm
200ps -500~+200 横側が利向は、5m倍。 200ps -1,000~+200 20	200ps	3 2 16 3 1 凌雨新瀬建工	3 2 1 2の9s - 500-+200 情報が向は、5m倍。	3 2 16 3 1 液準能達転工 200ps -800-+200 6s. 横脈が向は、5m倍。 また、斜面は注死、法房と必要に応じ中間点 になる。 ただし、各部定値の平均値の設計基準高以下 であった。 大きし、各部に接死、法房とし必要に応じ中間点 になる。 大きし、各部定値の平均値の設計基準高以下 であった。 大きし、各部定値の平均値の設計基準高以下 が 1,350ps -1,200~+200 「あった。 大きし、各部定値の平均値の設計基準高以下 が 1,350ps -1,200~+200 「本語で値の対面を表現下 が 1,350ps -1,200~+200 「本語で値の対面を表現下 が 1,350ps -1,200~+200 「本語で値の対面を表現下 が 1,350ps -1,200~+200 「本語で値の対面を表現下 が 1,350ps -1,200~+200 「本語で 1,000~+200 「本	2 16 3 1 淡葉和速転工 200ps -800~+200 65 65 65 65 65 65 65	2 16 3 1 後標的 (ボンブ 凌漢船)	2 16 3 1 淡葉和運転工 200ps -800~+200 6 6 所が向は、5m毎 200ps -800~+200 6 所が向は、5m毎 200ps -800~+200 6 所が向は、5m毎 200ps -1,000~+200 5 所が 200ps -1,000~+200 5 所が 200ps -1,200~+200 5 所が 200ps	3 2 16 3 1 液素粉運転工 大 設 漢 エ 斯 エ 共 通 編	3 2 16 3 1 液素能運転工 土 一 液 液	3 2 16 3 1 液素粉運転工 200ps -800~+200 6 5 6 500ps -1,000~+200 6 5 6 5 6 5 6 5 6 5 6 5 6 6 5 6 6 6 6	3 2 16 3 1 液素粉運転工 200ps -800~+200 65 65 65 65 65 65 65 65 65 65 65 65 65	3 2 16 3 1 凌漢称運転工 200ps -800~+200 毎。	1 1 -	節	条 枝番	工 種	測定項目 規格値		測定箇所	摘 要	編 章 節 条 枝番	工 種	測定項目	規格値		測定箇所	摘 要
士 大 最	大大 工 手 大	大	大	大 表 表 表 表 表 表 表 表 表	大	大	大	士 一 漫 漢 大 般 漢 工 施 工 集 通 編 W 20ps 1,000ps 1,000ps 1,000ps 2,500ps 1,000ps 2,500ps 1,000ps 2,500ps 2,	立 一 液 未 放 液 水 放 液 が が が が が が が が が が が が が が が が か	土 一 液 木 衣 液 素	立 一 波 木 糸 炭 渚 エ 土 ー 一 波 木 糸 瀬 江 本 土 エ 土 土 土 土 土 土 土 土 土 土 土 土 土 土 土 土 土	土 液 ボー 液 ボー 液 ボー ボー ボー	3 2	16	3 1	浚渫船運転工	200ps −800~+200	毎。			3 2 16 3 1 浚渕	集船運転工	200ps	$-800 \sim +200$	毎。		
工 東 エ 東 ボ エ 東 ボ ボ ボ ボ ボ ボ ボ ボ ボ ボ ボ ボ ボ ボ		工 東 エ 東 エ 東 エ 東 エ 東 エ 東 エ 東 エ 東 エ 東 エ 東		上 上 上 上 上 上 上 上 上 上	工 施 工 共 通	数 工	工 版 工 表 工 共 通	工 施 工 共 工 共 注 通	工 施 工	工 施 工	T 施 工 版 T T 版 T T 版 T T 版 T T	工 塩 工 エ 塩 工 塩 工 エ 塩 工 エ 塩 工 エ 塩 工 エ 塩 工 エ 塩 工 エ エ エ エ エ エ エ エ エ	± -	浚			Æ	横断方向は、5m毎。 また、斜面は法尻、法肩とし必要に応じ中間点			土 一 浚				横断方向は、5m毎。 また、斜面は法尻、法肩とし必要に応じ中間点		
本 表 表 通 高 1,000ps -1,200~+200 であるこ 本 海 高 マ シ も ものps -1,000~+200 であるこ 本 海 高 マ ものps -1,000~+200 -1,000~+200 を り ものps -1,000~+200 -1,000~+200 を り ものps -1,000~+200 -1,000~+200 を り ものps -1,000~+200 -1,000~+200 を り ものps -1,000~+200 -1,000~+200 を り しのps -1,000~+200 -1,000~+200 を り しのps -1,000~+200 を しのps -1,000~+200 を り しのps -1,000~+200 を しのps -1,000~+200 を り しのps -1,000~+200 を しのps -1,000~+200 を り しのps -1,000~+200 を しのps -1,000~+200 を り しいっかする と りかえる。 したと、各側ではの平均値の設計 基準高以下 と しのよる。 したと、各側ではの平均値の設計 基準高以下	# 共 通報	事 大 通福 工 東通 福 1,000ps	# 大 大 共 通	事 工 通福 工 大 通 イ イ イ イ イ イ イ イ イ イ イ イ イ イ イ イ イ イ	# 大 大 大 通	業 上 共通 編	来 工 共 通 編	# 五 表 通	* T 共 通	** T	本 工 _±		木 般 工 施	漢工		(ボンブ浚渫船)	気 500ps −1,000~+200 船	も加える。			工 施 工	ンプ浚渫船)	気 500ps 船	-1,000~+200	も加える。	i 🗵 i	
通報	通	通 通	通報 通	通 通	通 様 デ 250ps -800~+200 1 420ps -1,000~+200 600ps -1,000~+200 様 -200 延長 -200 延長 -200 延長 -200 延長 -200 延長 -200 延長 -200 近日 -200	通	通 編 (デ (通 編 250ps -800~+200	通			**	事工	共					\		# #			$-1,200\sim+200$			
V	************************************	2008	1	1 1 250ps -500~+200 1 250ps -500~+200 1 250ps -1,000~+200 1 250ps -1	V デ 250ps	V 7 250ps -800 + 200 1 420ps -1,000 + 200 -1,000 + 200 420ps -1,000 + 200	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	V = 250ps -800×+200 1 420ps 1 420ps -1,000×+200 A 4 420ps -1,000×+200 A 600ps -1,000×+200					通編	通			高	=			通通		高				
世 600ps - 1,000~+200 超 - 200 延長 - 200 延長 - 200 延長 - 200 延長 - 200 近長 - 200 近日 - 200 </td <td>3 2 凌漢格運転工 基準高 マ +200以下 情態 (グラブ淡漠総) (バックオウ淡漠線) 4 -200 上たし、各額定住の実力値の設計基準高以下</td> <td> 2</td> <td> 1,000~+200</td> <td>セレル の (600ps - 1,000 + 2000 を</td> <td> 1,350ps</td> <td>$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$</td> <td>$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$</td> <td>せ 600ps -1,000~+200 ル</td> <td>1 420ps 1 100- 1000</td> <td></td> <td>$oxed{ egin{array}{c c c c c c c c c c c c c c c c c c c$</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>▽ → 250ps −800~+200</td> <td></td> <td>\\</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>▽ デ 250ps</td> <td>-800~+200</td> <td></td> <td>\</td> <td></td>	3 2 凌漢格運転工 基準高 マ +200以下 情態 (グラブ淡漠総) (バックオウ淡漠線) 4 -200 上たし、各額定住の実力値の設計基準高以下	2	1,000~+200	セレル の (600ps - 1,000 + 2000 を	1,350ps	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	せ 600ps -1,000~+200 ル	1 420ps 1 100- 1000		$oxed{ egin{array}{c c c c c c c c c c c c c c c c c c c $						▽ → 250ps −800~+200		\\				▽ デ 250ps	-800~+200		\	
1,350ps	ル	か	ル (1,350ps -1,200~+200 相 -200 相 -200 延長 -200	か	1,350ps	ル	$ \frac{\lambda}{\$0} \frac{\lambda}{1.350 \text{ps}} -1.200 \sim +200 $		+ 600c -1,000 ~ +200	1 420ps 1 100- 1000		12 12 13 14 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15												$-1,000\sim+200$			
1,500 1,	1.45のpx	1.50円	## -200	1,550ps -1,200~+200 福 -200 福 -200 福 -200 経長 -200以下 経長 -200以下 経長 -200以下 保護 -200以下 Rundrum Rund	1,380ps -1,200~+200	1,3sgps -1,200~+200	1,300s -1,200~+200			→ 600c = 1,000 ~ ±200		V = 230ps -800×+200 1 420ps -1000×+200 1 420ps -1000×+200					N						N				
延長 -200	延長 -200 延長方向は、設計図書により指定された例点 情。 4200以下 延長方向は、設計図書により指定された例点 情。 4800以下 4800が方向は、5m6。 4800が方向は、5m6。 4800が方向は、5m6。 4800が方向は、5m2心。 5m2心。 5m2心。	延長 -200		延長 -200 近長 -200 近長 方向は、設計図書により指定された側点 信。 (を) (を) (を) (を) (を) (を) (を) (を) (を) (を)	延長 -200 延停力向は 砂汁浸素に19指定5れた顔点 延停力向は 砂汁浸素に19指定5れた顔点		AF 200	1,300/8 -1,200~+200			$\frac{4}{\nu} = \frac{600 \text{ps}}{1000} = \frac{-1,000 \sim +200}{1000}$	V					71,350ps −1,200~+200						лн 1,350ps	-1,200~+200			
3 2 凌漢船運転工 基準高 ▽ +200以下 値長方向は、設計図書により相定された測点 値。 機断方向は、5m倍。 は無方向は、5m倍。 「標所方向は、5m倍。 「生た、斜面は法尻、法肩とし必要に応じ中間点 らかえる。 「たた、各側で値の平均値の設計基準高以下 「たた」、各側で値の平均値の設計基準高以下 「たた」、日間では 「たんり用でされた測点 「たんり用でされた』」「たんり用でされた測点 「たんり用でされた測点 「たんり用でされた』」「たんり用でされた測点 「たんり用でされた』」「たんり用でされた』」「たんり用では、「たんり用でされた』」「たんり用では、「た	3 2 凌漢船運転工 基準高 ▽ +200以下 毎. 横形が向は、5m 毎. (グラブ凌漢船) (バックホウ凌漢船) 毎. 一200 また. 斜面は此気、法肩とし必要に応じ中間点 5.加える。 たたし、各側を値の平均値の設計基準高以下	3 2 液凍船運転工 基準高 ▽ +200以下 毎. 検長方向は、設計図書により指定された側点 毎. 横断方向は、5mm 5mm 5mm 5mm 5mm 5mm 5mm 5mm 5mm 5mm	3 2 凌凍船運転工 基準高 ▽ +200以下 毎。	3 2 凌漢船運転工 基準高 ▽ +200以下 毎。	签 另方面注				1,3s0ps -1,200~+200		$\frac{4}{\nu} = \frac{600 \text{ps}}{1000} = \frac{-1,000 \sim +200}{1000}$	V					+55 −200						46	-200			
3 2 凌漢船運転工 基準高 ▽ +200以下 値長方向は、設計図書により相定された測点 値。 機断方向は、5m倍。 は無方向は、5m倍。 「標所方向は、5m倍。 「生た、斜面は法尻、法肩とし必要に応じ中間点 らかえる。 「たた、各側で値の平均値の設計基準高以下 「たた」、各側で値の平均値の設計基準高以下 「たた」、日間では 「たんり用でされた測点 「たんり用でされた』」「たんり用でされた測点 「たんり用でされた測点 「たんり用でされた』」「たんり用でされた測点 「たんり用でされた』」「たんり用でされた』」「たんり用では、「たんり用でされた』」「たんり用では、「た	3 2 凌漢船運転工 基準高 ▽ +200以下 毎. 横形が向は、5m 毎. (グラブ凌漢船) (バウタホウ凌漢船) 毎. 一200 本土・斜面は住民、注明と必要に応じ中間点・加える。 ただし、各側を値の平均値の設計基準高以下	3 2 液凍船運転工 基準高 ▽ +200以下 毎. 検長方向は、設計図書により指定された側点 毎. 横断方向は、5mm 5mm 5mm 5mm 5mm 5mm 5mm 5mm 5mm 5mm	3 2 凌凍船運転工 基準高 ▽ +200以下 毎.	3 2 凌漢船運転工 基準高 ▽ +200以下 毎。	签6分面注 剪补阅靠广约报客大约产额点				1,500s -1,200~+200	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$					27 15 200						26 15	200			
3 2 凌漢新運転工 基準高 ▽ +200以下 何。 横断方向は、5m毎。 主た、斜面は注尻、注肩としを要に応じ中間点 ら加える。 たたし、各側定値の平均値の設計基準高以下	3 2 凌漢船運転工 基準高 ▽ +200以下 毎. 横断方向は、5m毎. また、名面は註反、法肩としを要に応じ中間点 5加える。 たた、名面を値の平均値の設計基準高以下	4200以下 45. 420以下 45.	3 2 凌乘船運転工 基準高 ▽ +200以下 梅。 横斯方向は、5m6。 (グラブ凌楽館) 梅 -200 (加える。 (グラブ凌楽館) 梅 -200 (加える。 (グラブ凌楽館) 梅 -200 (加える。	3 2 淡漆粉運転工	世長方向は、設計図書により指定された測点				1,350 3	「	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	V F 250ps -800 + 200					延長 -200	VELLEY MAISTAN IN MAN IN THE					進世	-200			
(グラブ液薬船) 2た、斜面は注尿、法肩と心を変に応じ中間点 2 (グラブ液薬船) (グラブ液薬船) (グラブ液薬船) (グラブ液薬船) (グラブ液薬船) (グラブ液薬船) (グラブ液薬船) (グラブ液液溶射) (グラブ液水溶液溶射) (グラブ液液溶射) (グラブ液液溶射) (グラブ液液溶射) (グラブ液溶液溶射) (グラブ液水溶液溶液溶射) (グラブ液溶液溶液溶液溶液溶液溶液溶液溶液溶液溶液溶液溶液溶液溶液溶液溶液溶液溶液溶	(グラブ凌漢船) (バックホウ凌漢船) 福 -200 また、斜面は法尻、法肩としを要に応じ中間点 も加える。 ただし、各側左値の平均値の設計基準高以下	グラブ凌漢称) 4年	(グラア後連載) (グラア後連載) 4年 (グラア後連載) 4年 (グラア後連載) 4年 (グラア後連載) 4年 (フェンロ・明点 1 文 (グラア後連載) 4年 (フェンロ・明点 1 文 (グラア後連載) 4年 (フェンロ・アルフ・スロン (カルラス・スロン (カルラン (カルラン (カルラ (カル) (カル) (カルラン (カル) (カルラン (カル) (カル) (カル) (カルラン (カル) (カル) (カル) (カル) (カル) (カル) (カル) (カル)		3 2 凌渫船運転工	姓氏方向は、設計図書により指定された測点 姓氏方向は、設計図書により指定された測点		延兵 -200	1,350 3 -1,200~+200	「	世 $\frac{1}{40}$ $\frac{1}{1,350ps}$ $\frac{-1,000 + 200}{1,350ps}$ $\frac{1}{1,350ps}$ $\frac{1}{1,200 + 200}$ $\frac{1}{40}$ $\frac{1}{1,350ps}$ $\frac{1}{1,200 + 200}$ $\frac{1}{1,350ps}$ $\frac{1}{1,200 + 200}$ $\frac{1}{1,350ps}$ $\frac{1}{1,200 + 200}$ $\frac{1}{1,350ps}$ $\frac{1}{1,200 + 200}$ $\frac{1}{1,350ps}$ $\frac{1}{1,350ps}$ $\frac{1}{1,200 + 200}$ $\frac{1}{1,350ps}$ $\frac{1}{1,350ps}$ $\frac{1}{1,200 + 200}$ $\frac{1}{1,350ps}$ $\frac{1}{1,200 + 200}$ $\frac{1}{1,350ps}$ $\frac{1}{1,350ps}$ $\frac{1}{1,200 + 200}$ $\frac{1}{1,350ps}$ $\frac{1}{1,350ps}$ $\frac{1}{1,200 + 200}$ $\frac{1}{1,350ps}$ $$	1			3 2	浚渫船運転工	基準高 ▽ +200以下	毎.			3 2 凌冽	集船運転工	基準高 ▽	+200以下	毎。		
(パックホウ波藻絵) - ち加える。 ち加える。 ただし、希別を他の平均他の設計基準高以下 ただし、各別を他の平均他の設計基準高以下	クライン(政体制) ウルベン 表演を値の平均値の設計基準高以下 上たたし、各側定値の平均値の設計基準高以下	(パックホウ凌凍薬) *** - ち加える。	(パックホウを連載)	(グラブ浚渫船) また、斜面は法尻、法肩とし必要に応じ中間点 💆 (グラブ浚渫船) また、斜面は法尻、法肩とし必要に応じ中間点 🥞	・ はない はまた 公産にない 中間 と 「	3 2 凌渫船運転工 基準高 ▽ +200以下 毎。 3 2 凌渫船運転工 基準高 ▽ +200以下 毎。	3 2 凌凍船運転工 基準高 ▽ +200以下 毎.		1,300 -1,200 - 2,00	1,350ps	せ 600ps -1,000~+200 せ 600ps -1,000~+200 せ 600ps -1,000~+200 単 600ps -1,000~+200 単 1,350ps -1,200~+200 種 -200 単長 -200 -200 単長 -200 -200 単語 -200	V デ 250ps -800×+200				(グラブ浚渫船)	411 Jan	また、斜面は法尻、法肩とし必要に応じ中間点	1 3		(9)	ラブ浚渫船)	AUT	200	また、斜面は法尻、法肩とし必要に応じ中間点) ¥	
延 長 -200 ^{であるこ}	選 長 -200 であるこ	延 長 -200 ^{であるこ}	ただし、各側定領の半均領の設計基準高以下		10 (277 夜米和) 福 200 (37.5 新園 本 200 (37.5 新園 200 (37.5 新園 本 200 (37.5 新園 200 (3 2 凌漢称運転工 基準高 マ +200以下 毎。 横筋が向は、5m 毎。 横筋が向は、5m 毎。 横筋が向は、5m 毎。 横筋が向は、5m 毎。 横筋が向は、5m 毎。 様筋が向は、5m 毎。 また、斜面は接尿、法肩とし必要に応じ中間点 ▼ ・	3 2 淡凍船運転工 基準高 ▽ +200以下 接長方向は、設計図書により指定された側点 毎。 毎。 「		1,300 -1,200 - 2,00	1,350ps	1,350ps	1				(パックホウ浚渫船)	Tes -200	ただし、各測定値の平均値の設計基準高以下	$H(\cdot) = H$		(25)	ックホウ浚渫船)	766	-200	ただし、各測定値の平均値の設計基準高以下	$I \setminus I$	
				ただし、各側を匿の平列圏の数計番単衡以下	(バックホウ波藻能) *** -200 も加える。	3 2 凌漢称運転工 基準高 マ +200以下 毎。 420以下 毎。 横断が向は、5m 毎。 横断が向は、5m 毎。 横断が向は、5m 毎。 様断が向は、5m 毎。 様断が向は、5m 毎。 様形が向は、5m 毎。 様形が向は、5m 毎。 また、斜面は注尿、注肩とし必要に応じ中間点 上た、斜面は注尿、注肩とし必要に応じ中間点 上た、斜面は注尿、注肩とし必要に応じ中間点 上た、斜面は注尿、注肩とし必要に応じ中間点 しかえる。 ただし、各部を値の平均値の設計 英準条以下 420以下 毎。 420以下 毎。 株断が向は、5m 毎。 また、斜面は注尿、注肩とし必要に応じ中間点 上た、斜面は注尿、注肩とし必要に応じ中間点 しかえる。 もかえる。 もかんる。 もかんる	3 2 凌廉船運転工 基準高 ▽ *200以下 延長方向は、設計図書により指定された測点 1.		1,350 3	1,350ps	せ 600ps -1,000~+200	1					延 長 -200	であるこ					延 長	-200	であるこ		
					(バックホウ凌運船) ***	5 2 淡葉船運転工 基準高 ▽ +200以下 6 横折 向は、5m 6 東新 方向は、5m 6 東京 方面は法尺、法肩としを要に応じ中間点 ▼ (グラブ淡葉船) (バックホウ淡葉船) 4 -200 上た、各側定値の平均値の設計基準高以下 1 2 2 淡葉船運転工 基準高 ▽ +200以下 6 横折 方向は、5m 6 生た、各側に法尺、法肩としを要に応じ中間点 ▼ 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2	3 2 凌漢船運転工 基準高 マ	延長 -200	1,300 -1,200 - 200 様長 方向は、設計図書により指定された側点 (表達高) マ + 200以下 (根所方向は、設計図書により指定された側点 (根所方向は、5.00年 (根所方向は、5.00年 (根所方向は、5.00年 (根所方向は、5.00年 (根所方向は、5.00年 (根所方向は、5.00年 (根所方向は、5.00年 (ルフナウ浸漆剤) (バックオウ浸漆剤) 様程 - 200 大田は世界、法甲氏し心寒に応じ中間点 (加える。 たいし、名声と他の平均値の設計基準系以下 「グラブ浸漆剤」 「グラブ浸漆剤」 「グラブ浸漆剤」 「グラブ浸漆剤」 「・200 10以える。 たいし、名声と他の平均値の設計基準系以下 「・200 10以える。 たいし、名声と他の平均値の設計基準系以下 「・200 10以上、名声と他の平均値の設計基準系以下 「・200 10以上、名声と他の平均値の表計 10以上、名声と他の平均値の表計 10以上 1	1,350ps	2 2 600ps (00ps - 1,000~+200)	1							Ly							` <i>i</i>	
					(バックホウ凌運船) ***	5 2 淡葉船運転工 基準高 ▽ +200以下 6 横折 向は、5m 6 東新 方向は、5m 6 東京 方面は法尺、法肩としを要に応じ中間点 ▼ (グラブ淡葉船) (バックホウ淡葉船) 4 -200 上た、各側定値の平均値の設計基準高以下 1 2 2 淡葉船運転工 基準高 ▽ +200以下 6 横折 方向は、5m 6 生た、各側に法尺、法肩としを要に応じ中間点 ▼ 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2	3 2 凌漢船運転工 基準高 マ	延長 -200	1,300 -1,200 - 200 様長 方向は、設計図書により指定された側点 (表達高) マ + 200以下 (根所方向は、設計図書により指定された側点 (根所方向は、5.00年 (根所方向は、5.00年 (根所方向は、5.00年 (根所方向は、5.00年 (根所方向は、5.00年 (根所方向は、5.00年 (根所方向は、5.00年 (ルフナウ浸漆剤) (バックオウ浸漆剤) 様程 - 200 大田は世界、法甲氏し心寒に応じ中間点 (加える。 たいし、名声と他の平均値の設計基準系以下 「グラブ浸漆剤」 「グラブ浸漆剤」 「グラブ浸漆剤」 「グラブ浸漆剤」 「・200 10以える。 たいし、名声と他の平均値の設計基準系以下 「・200 10以える。 たいし、名声と他の平均値の設計基準系以下 「・200 10以上、名声と他の平均値の設計基準系以下 「・200 10以上、名声と他の平均値の表計 10以上、名声と他の平均値の表計 10以上 1	1,350ps	2 2 600ps (00ps - 1,000~+200)	1															
					(バックホウ凌運船) ***	5 2 淡葉船運転工 基準高 ▽ +200以下 6 横折 向は、5m 6 東新 方向は、5m 6 東京 方面は法尺、法肩としを要に応じ中間点 ▼ (グラブ淡葉船) (バックホウ淡葉船) 4 -200 上た、各側定値の平均値の設計基準高以下 1 2 2 淡葉船運転工 基準高 ▽ +200以下 6 横折 方向は、5m 6 生た、各側に法尺、法肩としを要に応じ中間点 ▼ 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2	3 2 凌漢船運転工 基準高 マ	延長 -200	1,300 -1,200 - 200 様長 方向は、設計図書により指定された側点 (表達高) マ + 200以下 (根所方向は、設計図書により指定された側点 (根所方向は、5.00年 (根所方向は、5.00年 (根所方向は、5.00年 (根所方向は、5.00年 (根所方向は、5.00年 (根所方向は、5.00年 (根所方向は、5.00年 (ルフナウ浸漆剤) (バックオウ浸漆剤) 様程 - 200 大田は世界、法甲氏し心寒に応じ中間点 (加える。 たいし、名声と他の平均値の設計基準系以下 「グラブ浸漆剤」 「グラブ浸漆剤」 「グラブ浸漆剤」 「グラブ浸漆剤」 「・200 10以える。 たいし、名声と他の平均値の設計基準系以下 「・200 10以える。 たいし、名声と他の平均値の設計基準系以下 「・200 10以上、名声と他の平均値の設計基準系以下 「・200 10以上、名声と他の平均値の表計 10以上、名声と他の平均値の表計 10以上 1	1,350ps	2 2 600ps (00ps - 1,000~+200)	1															
					(バックホウ凌運船) ***	5 2 淡葉船運転工 基準高 ▽ +200以下 6 横折 向は、5m 6 東新 方向は、5m 6 東京 方面は法尺、法肩としを要に応じ中間点 ▼ (グラブ淡葉船) (バックホウ淡葉船) 4 -200 上た、各側定値の平均値の設計基準高以下 1 2 2 淡葉船運転工 基準高 ▽ +200以下 6 横折 方向は、5m 6 生た、各側に法尺、法肩としを要に応じ中間点 ▼ 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2	3 2 凌漢船運転工 基準高 マ	延長 -200	1,300 -1,200 - 200 様長 方向は、設計図書により指定された側点 (表達高) マ + 200以下 (根所方向は、設計図書により指定された側点 (根所方向は、5.00年 (根所方向は、5.00年 (根所方向は、5.00年 (根所方向は、5.00年 (根所方向は、5.00年 (根所方向は、5.00年 (根所方向は、5.00年 (ルフナウ浸漆剤) (バックオウ浸漆剤) 様程 - 200 大田は世界、法甲氏し心寒に応じ中間点 (加える。 たいし、名声と他の平均値の設計基準系以下 「グラブ浸漆剤」 「グラブ浸漆剤」 「グラブ浸漆剤」 「グラブ浸漆剤」 「・200 10以える。 たいし、名声と他の平均値の設計基準系以下 「・200 10以える。 たいし、名声と他の平均値の設計基準系以下 「・200 10以上、名声と他の平均値の設計基準系以下 「・200 10以上、名声と他の平均値の表計 10以上、名声と他の平均値の表計 10以上 1	1,350ps	2 2 600ps (00ps - 1,000~+200)	1															
					(バックホウ凌運船) ***	5 2 淡葉船運転工 基準高 ▽ +200以下 6 横折 向は、5m 6 東新 方向は、5m 6 東京 方面は法尺、法肩としを要に応じ中間点 ▼ (グラブ淡葉船) (バックホウ淡葉船) 4 -200 上た、各側定値の平均値の設計基準高以下 1 2 2 淡葉船運転工 基準高 ▽ +200以下 6 横折 方向は、5m 6 生た、各側に法尺、法肩としを要に応じ中間点 ▼ 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2	3 2 凌漢船運転工 基準高 マ	延長 -200	1,300 -1,200 - 200 様長 方向は、設計図書により指定された側点 (表達高) マ + 200以下 (根所方向は、設計図書により指定された側点 (根所方向は、5.00年 (根所方向は、5.00年 (根所方向は、5.00年 (根所方向は、5.00年 (根所方向は、5.00年 (根所方向は、5.00年 (根所方向は、5.00年 (ルフナウ浸漆剤) (バックオウ浸漆剤) 様程 - 200 大田は世界、法甲氏し心寒に応じ中間点 (加える。 たいし、名声と他の平均値の設計基準系以下 「グラブ浸漆剤」 「グラブ浸漆剤」 「グラブ浸漆剤」 「グラブ浸漆剤」 「・200 10以える。 たいし、名声と他の平均値の設計基準系以下 「・200 10以える。 たいし、名声と他の平均値の設計基準系以下 「・200 10以上、名声と他の平均値の設計基準系以下 「・200 10以上、名声と他の平均値の表計 10以上、名声と他の平均値の表計 10以上 1	1,350ps	2 2 600ps (00ps - 1,000~+200)	1															
					(バックホウ凌運船) ***	5 2 淡葉船運転工 基準高 ▽ +200以下 6 横折/向は、5m 5 横折/向は、5m 5	3 2 凌漢船運転工 基準高 マ	延長 -200	1,300 -1,200 - 200 様長 方向は、設計図書により指定された側点 (表達高) マ + 200以下 (根所方向は、設計図書により指定された側点 (根所方向は、5.00年 (根所方向は、5.00年 (根所方向は、5.00年 (根所方向は、5.00年 (根所方向は、5.00年 (根所方向は、5.00年 (根所方向は、5.00年 (ルフナウ浸漆剤) (バックオウ浸漆剤) 様程 - 200 大田は世界、法甲氏し心寒に応じ中間点 (加える。 たいし、名声と他の平均値の設計基準系以下 「グラブ浸漆剤」 「グラブ浸漆剤」 「グラブ浸漆剤」 「グラブ浸漆剤」 「・200 10以える。 たいし、名声と他の平均値の設計基準系以下 「・200 10以える。 たいし、名声と他の平均値の設計基準系以下 「・200 10以上、名声と他の平均値の設計基準系以下 「・200 10以上、名声と他の平均値の表計 10以上、名声と他の平均値の表計 10以上 1	1,350ps	2 2 600ps (00ps - 1,000~+200)	1															
					(バックホウ凌運船) ***	5 2 淡葉船運転工 基準高 ▽ +200以下 6 横折/向は、5m 5 横折/向は、5m 5	3 2 凌漢船運転工 基準高 マ	延長 -200	1,300 -1,200 - 200 様長 方向は、設計図書により指定された側点 (表達高) マ + 200以下 (根所方向は、設計図書により指定された側点 (根所方向は、5.00年 (根所方向は、5.00年 (根所方向は、5.00年 (根所方向は、5.00年 (根所方向は、5.00年 (根所方向は、5.00年 (根所方向は、5.00年 (ルフナウ浸漆剤) (バックオウ浸漆剤) 様程 - 200 大田は世界、法甲氏し心寒に応じ中間点 (加える。 たいし、名声と他の平均値の設計基準系以下 「グラブ浸漆剤」 「グラブ浸漆剤」 「グラブ浸漆剤」 「グラブ浸漆剤」 「・200 10以える。 たいし、名声と他の平均値の設計基準系以下 「・200 10以える。 たいし、名声と他の平均値の設計基準系以下 「・200 10以上、名声と他の平均値の設計基準系以下 「・200 10以上、名声と他の平均値の表計 10以上、名声と他の平均値の表計 10以上 1	1,350ps	2 2 600ps (00ps - 1,000~+200)	1															
					(バックホウ凌運船) ***	5 2 淡葉船運転工 基準高 ▽ +200以下 6 横折/向は、5m 5 横折/向は、5m 5	3 2 凌漢船運転工 基準高 マ	延長 -200	1,300 -1,200 - 200 様長 方向は、設計図書により指定された側点 (表達高) マ + 200以下 (根所方向は、設計図書により指定された側点 (根所方向は、5.00年 (根所方向は、5.00年 (根所方向は、5.00年 (根所方向は、5.00年 (根所方向は、5.00年 (根所方向は、5.00年 (根所方向は、5.00年 (ルフナウ浸漆剤) (バックオウ浸漆剤) 様程 - 200 大田は世界、法甲氏し心寒に応じ中間点 (加える。 たいし、名声と他の平均値の設計基準系以下 「グラブ浸漆剤」 「グラブ浸漆剤」 「グラブ浸漆剤」 「グラブ浸漆剤」 「・200 10以える。 たいし、名声と他の平均値の設計基準系以下 「・200 10以える。 たいし、名声と他の平均値の設計基準系以下 「・200 10以上、名声と他の平均値の設計基準系以下 「・200 10以上、名声と他の平均値の表計 10以上、名声と他の平均値の表計 10以上 1	1,350ps	2 2 600ps (00ps - 1,000~+200)	1															
					(バックホウ凌運船) ***	5 2 淡葉船運転工 基準高 ▽ +200以下 6 横折/向は、5m 5 横折/向は、5m 5	3 2 凌漢船運転工 基準高 マ	延長 -200	1,300 -1,200 - 200 様長 方向は、設計図書により指定された側点 (表達高) マ + 200以下 (根所方向は、設計図書により指定された側点 (根所方向は、5.00年 (根所方向は、5.00年 (根所方向は、5.00年 (根所方向は、5.00年 (根所方向は、5.00年 (根所方向は、5.00年 (根所方向は、5.00年 (ルフナウ浸漆剤) (バックオウ浸漆剤) 様程 - 200 大田は世界、法甲氏し心寒に応じ中間点 (加える。 たいし、名声と他の平均値の設計基準系以下 「グラブ浸漆剤」 「グラブ浸漆剤」 「グラブ浸漆剤」 「グラブ浸漆剤」 「・200 10以える。 たいし、名声と他の平均値の設計基準系以下 「・200 10以える。 たいし、名声と他の平均値の設計基準系以下 「・200 10以上、名声と他の平均値の設計基準系以下 「・200 10以上、名声と他の平均値の表計 10以上、名声と他の平均値の表計 10以上 1	1,350ps	2 2 600ps (00ps - 1,000~+200)	1															
Wife run					(バックホウ凌運船) ***	5 2 淡葉船運転工 基準高 ▽ +200以下 6 横折/向は、5m 5 横折/向は、5m 5	3 2 凌漢船運転工 基準高 マ	延長 -200	1,300 -1,200 - 200 様長 方向は、設計図書により指定された側点 (表達高) マ + 200以下 (根所方向は、設計図書により指定された側点 (根所方向は、5.00年 (根所方向は、5.00年 (根所方向は、5.00年 (根所方向は、5.00年 (根所方向は、5.00年 (根所方向は、5.00年 (根所方向は、5.00年 (ルフナウ浸漆剤) (バックオウ浸漆剤) 様程 - 200 大田は世界、法甲氏し心寒に応じ中間点 (加える。 たいし、名声と他の平均値の設計基準系以下 「グラブ浸漆剤」 「グラブ浸漆剤」 「グラブ浸漆剤」 「グラブ浸漆剤」 「・200 10以える。 たいし、名声と他の平均値の設計基準系以下 「・200 10以える。 たいし、名声と他の平均値の設計基準系以下 「・200 10以上、名声と他の平均値の設計基準系以下 「・200 10以上、名声と他の平均値の表計 10以上、名声と他の平均値の表計 10以上 1	1,350ps	2 2 600ps (00ps - 1,000~+200)	1								₩.67 - mm							##.#V - mm
	単が **ppp.			接 長 -200 ^{であるこ} 接 長 -200 ^{であるこ}	(バックホウ液準値) 1 5加える。 大たし、各側で値の平均値の設計基準高以下 であるこ 1 5加える。 大たし、各側で値の平均値の設計基準高以下 であるこ 1 5加える。 大たし、各側で値の平均値の設計基準高以下 であるこ 1 5加える。 大たし、各側で値の平均値の設計基準高以下 であるこ 1 5加える。 2 5 大とし、各側で値の平均値の設計基準高以下 であるこ 1 5加える。	3 2 液準高 受	3 2 漫画を記工 基準高 マ *200以下 差長方向は、設計後書にお用定された側点 (グラブを連絡) (グラグを連絡) (グラグを通路) (グラ	延長 -200	1.509 -1.500-2-20 福	1,320 -1,200 - +200 経長 -200 (ソラブを変配) (ソラグを変配) (1.350px - 1.000 + 2.00	1 200	45 de	- estr	久 社会	- T 59	測 空 頂 目 - 組 終 結	BH ST 16 20	測 穿 鏇 配		每 卷 体 名 社会	т 69	御 京 頂 日	胡紋結	测定证例	90 or 66 as	
	平位:mm 存 第 所				(バックホウ液藻酸) 10m2人。	3 2 淡凍筋溶転工	3 2 淡水和液和工 基準高 マ	接長 -200 接長 -200 接長 7向は、設計機器におり指定された拠点	1.50%	1,100m -1,200 + 200 様様 -200 株様	日本 1,350	1.500	red Al-	Libt -				1.3次元データによる出来形管理において「3	1943 AL IEI 171				101 AL 74 FI	m	1.3次元データによる出来形管理において「3	PG AL III //I	JM 35
個々の 1.3次元データによる出来形管理において「3	定 箇 所 摘 要 編 章 節 条按書 工 種 測 定 項 目 規格値 測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要	編章節条技器工種測定項目規格值測定基準測定箇所摘要編章節条技器工種測定項目規格值測定基準測定箇所摘要編章節条技器工種測定項目規格值測定基準測定箇所摘要	福章節条枝器工程 測定項目 規格値 測定基準 測定箇所 摘要福章節条枝器工程 測定項目 規格値 測定基準 測定箇所 摘要	接 長 -200	(バックホウ波達動) 1 (バックホウ波速動) 1 (バックホウズはバッドの変更があります。	3 2 淡海筋運転工	3 2 炭素能源転工	選択	1.500	1.30gs	日本 1,000 = 200 1,000 =	1	3 2	16	3 3	浚渫船運転工						業船運転工		平均値 計測値	次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」 に基づき出来形管理を面管理で実施する場		
3 2 16 3 3 液準筋運転工 平均値	定 箇 所 摘 要 編 章 節 条 校番 エ 種 測 定 項 目 規 格 値 測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要 3 2 16 3 3 凌漢船運転エ 平均値 報々の ホ元計戦技術を用いた出来形容理を調(案) 計測値 に基本に対する場合に対しては、単位により、対しては、対し、対しては、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、	編 章 節 条 枝番 工 種 測 定 項 目 規格 値 測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要 編 章 節 条 枝番 工 種 測 定 項 目 規格 値 測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要 編 章 節 条 枝番 工 種 測 定 項 目 規格 値 測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要 3 2 16 3 3 液液粘液転工	編 章 節 条 枝器 エ 種 測 定 項 目 規 格 値 測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要 編 章 節 条 枝器 エ 種 測 定 項 目 規 格 値 測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要 編 章 節 条 枝器 エ 種 測 定 項 目 規 格 値 測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要 編 本 の 3 2 16 3 3 凌楽船運転エ 平均値 関本の よか計測域的を用いた出来形管理を類(案)」計測値 大計測域的を用いた出来形管理を類(案)」におよる対象が対象は対象に対して3 大計測域的を用いた出来形管理を類(案)」におよる対象を対象を対象	接 長 -200	(パックホウ皮薬剤) 1.00	3 2 液素が減化工	3 2 次素を選転工 基準素 ▽ ・200以下 接方向は、皮肝溶巻に上原皮 横方向は、500以下 500以下 5	接長 -200 接長 -200 接長 -200 接長 -200 接長 -200 接長 -200 接長 -200 接長 -200 接長 -200 接長 -200 接長 -200 接長 -200 接長 -200 接長 -200 接長 -200 接長 -200 表表 -	1.35% - 1.25% - 200	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本	1	土 一 般	浚渫		(バックホウ浚渫船)	標高較差 0以下 +400	合、その他本基準に規定する計測精度・計測			土一浚木般溝	ックホウ浚渫船)	標高較差	0以下 +400	合、その他本基準に規定する計測精度・計測		
3 2 16 3 3 淡葉粉運転工 平均値 計測値 次元計測技術を用いた出来形容預要報(第) 大元計測技術を用いた出来形容預要報(第) に基うさ出来形容理を確定と論言理で実施する場	定 箇 所 捕 要 繭 章 枝参 工 種 測 定 項 目 規 格 値	編 章 節 条 核書 工 種 測 定 項 目 規格 値 測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要 編 章 節 条 核書 工 種 測 定 項 目 規格 値 測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要 編 章 節 条 核書 工 種 測 定 項 目 規格 値 測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要 編 章 節 条 核書 工 種 測 定 項 目 規格 値 測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要 は また は カード・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	編 章 節 条 校書 工 種 測 定 項 目 規格 値 測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要 編 章 節 条 校書 工 種 測 定 項 目 規格 値 測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要 3 2 16 3 3 凌電船運転工 平均値 割 2 16 3 3 凌電船運転工 平均値 割 2 16 3 3 3 凌電船運転工 平均値 割 2 16 3 3 3 凌電船運転工 2 16 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3	単位:mm	(シッカの淡海館) 100 10	第一次 第一次 第二次 第二元 第二	第2 2 次素影響和工	接長 -200 接長 -200 接長 -200 接長 -200 -200 -200 -200 -200 -200 -200 -200	1.50% - 1.50% - 2.00	1 1/2009 - 1/200 + 200	1.300	1	工施工	I		-	N.F.	他及を調にする制力伝により山木ルを埋を失 施する場合に適用する。			工施工工			以下	並及を調だす計画力伝により山木ル号柱を失 施する場合に適用する。		
3 2 16 3 3 淡海船運転工 平均値 計測値 次元計測技術を用いた出来形管理要領(第) に基づ出来形管理要領(第) に基づ出来形管理を実施する場 400 以下 標高較差 の以下 400 以下 400	定 箇 所	編 求 節 条 校書 工 種 測 定 項 目 規 格 値 測 定 萬 準 測 定 箇 所 摘 要 節 条 校書 工 種 測 定 項 目 規 格 値 測 定 箇 所 摘 要 3 2 16 3 3 支達輸運転工 工 支 漢本 工 小 凌 漢 工 小 次 漢本 工 小 次 漢本 工 小 次 法申請契係性所以出来形容理を実施する場合 (シェンカールの企業事に設定する場合所制度は計画を設定する場合を設定する場合を設定する場合を設定する場合を設定する場合を設定する場合を設定する場合を設定する場合を設定する場合を設定する場合を設定する場合を設定する場合を設定する。 工 本 設 漢本 工 本 設 工 本 設 工 本 設 工 工 工 工 工 工 工 工 工 工	編 章 節 条 枝書 工 種 測 定 項 目 規 格 値 測 定 選 準 測 定 箇 所 摘 要 編 章 節 条 枝書 工 種 測 定 項 目 規 格 値 別 定 選 準 測 定 箇 所 摘 要 3 2 16 3 3 3 凌漢船運転工 デカ館 計画値 (メックオック皮藻船) 1.3次 データに出来形容理を当まいて(3 大き)出来形容理を当 大き) 計画値 (メックオック皮藻船) 1.3次 データに出来形容理を当 大き) 計画値 (メックオック皮藻船) 1.3次 データに出来形容理を当 大き) は 1.3次 データに出来形容理を実施する場合 うちりによることによることによることによることによることによることによることによること	単位:mm 単位	(シッカウ皮薬化) 10	3 2 液極高速に 水準点 ・200L下 株 がけは、50倍。 株 がけは、50倍。 株 がけは、50倍。 株 がけは、50倍。 株 がけは、50倍。 株 がけは、50倍。 株 がけば、50倍。 は がけば、50倍。 株 がけば、50倍。 は がけば、50倍。 は	3 2 元素を発生工	接手	1.000 1.000 - 2.00	1.3500 1.2500 + 2500	1	1	共	共通		(面管理の場合)		2. 個々の計測値の規格値には計測精度として	:		共 共 (面	管理の場合)			2. 個々の計測値の規格値には計測精度として		
3 2 16 3 3 液準船運転工	定 箇 所 摘 要 編 章 節 条 技術 工 種 測 定 項 目 規格 値 測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要 3 2 16 3 3 淡凍船運転工 平均値 間の以下 サウ値 計測値 エ 単均値 はいてついた 本 投 漢 エ 本 投 漢 エ 東 エ 共 (パンクオウ液液船) 標系較差 の以下 以下 は 一 放	編 東 節 条 枝書 工 種 測 定 項 目 規格 値 測 定 基 車 測 定 箇 所 摘 要 編 東 節 条 枝書 工 種 測 定 項 目 規格 値 測 定 基 車 測 定 箇 所 摘 要	編 章 節 条 枝書 工 種 測 定 項 目 規格 値 測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要 編 章 節 条 枝書 工 種 測 定 項 目 規格 値 測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要 編 章 節 条 枝書 工 種 測 定 項 目 規格 値 測 定 基 準 測 定 箇 所 頻 要 2 16 3 3 2 2 16 3 3 2 2 2 16 3 3 3 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	選佐・max 「「「「「「「「」」」」」 「「」」 「」」 「」」 「「」」 「」」 「「」」 「「」」 「」」 「」」 「」」 「」」 「」」 「「」」 「」」 「」」 「」」 「「」」 「」 「」」 「」」 「」」 「」」 「」」 「」」 「」」 「」」 「」」 「」」 「」」 「」 「」」 「」」 「」」 「」」 「」 「」」 「」」 「」」 「」」 「	(シッカの波藻色) 100.2.5。 高彩後の平均後の設計基準高以下	第一次 1 1 1 1 1 1 1 1 1	□ 2 次表を選集に	接長 1-200 接身向は、直接の 1-200以下 接身向は、直接の 1-200以下 接身のは、直接の 1-200以下 接身のは、直接の 1-200以下 1-2	1.550	1.130g	1	1	編	地							編						
3 2 16 3 3 液準船運転工	定 箇 所 摘 要 編 章 節 条 技術 工 種 測 定 項 目 規格 値 測 定 基 準 測 定 箇 所 擁 要 3 2 16 3 3 淡凍粉運転工 平均値 間の以下 中均値 計画値 によっては出来形容理を研究(第)計画に エ ・ 投 漢 エ 本 投 漢 エ 東 五 共 进 通 通 (価管理の場合) (価管理の場合) (価管理の場合)	編 章 節 条 核書 工 種 測 定 項 目 規格 値 測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要 編 章 節 条 核書 工 種 測 定 項 目 規格 値 測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要 編 章 節 条 核書 工 種 測 定 項 目 規格 値 測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要	編 章 節 条 枝番 工 種 測 定 項 目 規格 値 測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要 編 章 節 条 枝番 工 種 測 定 項 目 規格 値 測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要 編 章 節 条 枝番 工 種 測 定 項 目 規格 値 測 定 基 準 測 定 箇 所 頻 要 2 16 3 3 2 2 16 3 3 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	基	(パックボウ皮薬化) 10.00	1	3 2 2 表現後報工 基準点 ▽ -200以下 長月前は、設計後半込物産された拠点 日月前は、10分割に 10分割を 日月前は、10分割を 日月前は、10分割	超長	1	1	「	1						で設計面との標高較差を算出する。計測密度							で設計面との標高較差を算出する。計測密度		
3 2 16 3 3 淡海船運転工	定 箇 所 摘 要 福 章 故 章 技術 工 種 測 定 項 目 規格 値 測 定 基 準 測 定 箇 所 擁 要 3 2 16 3 3 淡凍粉運転工 平均値 間の 計	編 章 節 条 核書 工 種 測 定 項 目 規格 値 測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要 編 章 節 条 核書 工 種 測 定 項 目 規格 値 測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要 編 章 節 条 核書 工 種 測 定 項 目 規格 値 測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要	編 章 節 条 枝番 工 種 測 定 項 目 規格 値 測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要 編 章 節 条 枝番 工 種 測 定 項 目 規格 値 測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要 編 章 節 条 枝番 工 種 測 定 項 目 規格 値 測 定 基 準 測 定 箇 所 頻 要 2 16 3 3 2 2 16 3 3 3 凌潔能運転工 (パックホウ液薬剤) (パックホウ液薬剤) (パックホウ液薬剤) (パックホウ液薬剤) (原管理の場合) (原理の場合) (類型 1	(インタカウ液液的)	□ 2	3 2 度級を確立	対兵	1.00%	日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本	日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本	1						は1点/㎡(平面投影面積当たり)以上とする。							は1点/㎡(平面投影面積当たり)以上とする。		
3 2 16 3 3 淡葉梅が運転工 平均値 計測値 次元計測技術を用いた出来形管理要類(第2) 上表	定 箇 所 摘 要 福 章 技術 工 種 測 定 項 目 規 格 値 測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要 技術 工 種 測 定 項 目 規 格 値 測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要 世	編 章 節 条 核書 工 種 測 定 項 目 規格 値 測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要 編 章 節 条 核書 工 種 測 定 項 目 規格 値 測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要 編 章 節 条 核書 工 種 測 定 項 目 規格 値 測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要	編 章 節 条 校書 工 種 測 定 項 目 規格 値 測 定 基 準 測 定 箇 所 頻 要 報 章 節 条 校書 工 種 測 定 項 目 規格 値 測 定 基 準 測 定 箇 所 頻 要 3 2 16 3 3 凌柔範運転工 平均値 間々の 計画値 (パックホウ液薬剤) 標系較差 の以下 1 2 1 1 2 2 1 2 2 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2	類点 1	(イックオの漫画的)	3 2 漫画像形式	3 2 度級を確立	対兵	1.00%	日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本	日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本	1															
3 2 16 3 3 淡海船運転工	定 箇 所 摘 要 福 章 故 章 技術 工 種 測 定 項 目 規格 値 測 定 基 準 測 定 箇 所 擁 要 3 2 16 3 3 淡凍粉運転工 平均値 間の 計	編 章 節 条 核書 工 種 測 定 項 目 規格 値 測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要 編 章 節 条 核書 工 種 測 定 項 目 規格 値 測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要 編 章 節 条 核書 工 種 測 定 項 目 規格 値 測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要	編 章 節 条 枝番 工 種 測 定 項 目 規格 値 測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要 編 章 節 条 枝番 工 種 測 定 項 目 規格 値 測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要 編 章 節 条 枝番 工 種 測 定 項 目 規格 値 測 定 基 準 測 定 箇 所 頻 要 2 16 3 3 2 2 16 3 3 3 凌潔能運転工 (パックホウ液薬剤) (パックホウ液薬剤) (パックホウ液薬剤) (パックホウ液薬剤) (原管理の場合) (原理の場合) (類型 1	(インタカウ液液的)	□ 2	3 2 度級を確立	対兵	1.00%	日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本	日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本	1		\square	+			非泄水け 1経間当たh2ヶ所(支占仕ぶ)で 1							非徳家け 1名間当たり2ヶ所(支占付ぶ)つ 1		関形の追加
3 2 16 3 3 液素粉運転工 平均値 計測値 次元計測技術を用いた出来形管理要類(第2) に基づき出来形容理要類(第2) に基づき出来形容理を実施する場合、その他本基準に設定する計画検索・計画 新変 工 共 表 正 本 工 共 通 通	定 箇 所 構 要 編 章 節 章 技事 工 種 測 定 項 目 規 格 値	編 東 節 条 枝書 工 種 測 定 項 目 規格 値 測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要 編 東 節 条 枝書 工 種 測 定 項 目 規格 値 測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要 編 東 節 条 枝書 工 種 測 定 項 目 規格 値 測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要 本 2 16 3 3 2 16 3 3 2 2 16 3 3 3 2 2 16 3 2 2 16 3 2 16 2 16	編 章 節 条 校書 工 種 測 定 項 目 規格 値 測 定 選 準 測 定 箇 所 摘 要 編 章 節 条 校書 工 種 測 定 項 目 規格 値 測 定 基 準 測 定 箇 所 頻 要	20	(シッケカウ液体的) 10.00 (1.00.00	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	3 2 点形が終末 2 表表を マ	展現 10 10 10 10 10 10 10 1	1	1	1 日本 1995	1		18	2	床版工	基準高 ▽ ±20	箇所当たり両端と中央部の3点、幅は1径間当 たり3ヶ所 原名け形枠の場合にないたい10-	2		18 2 床型	版工	基準高 ▽	±20	箇所当たり両端と中央部の3点、幅は1径間当 たり3ヶ所 面なけ刑格診園時になわれたい。	正統維	Ma/ID VALUE
3 2 16 3 3 液素粉運転工 平均値 計削値 次元計解技術を用いた出来形管理要類(第) 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	定 箇 所 構 要 編 章 節 章 技事 工 種 測 定 項 目 規 格 値	編 章 節 条 枝書 工 種 測 定 項 目 規格 値 測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要 編 章 節 条 枝書 工 種 測 定 項 目 規格 値 測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要 編 章 節 条 枝書 工 種 測 定 項 目 規格 値 1.3次元デースに公出業等要理において3 2 16 3 3 浅凍船運転工 デサム	編 章 節 条 校書 工 種 測 定 項 目 規格 値 測 定 基 準 測 定 箇 所 頻 要 成書 工 種 測 定 項 目 規格 値 測 定 基 準 測 定 箇 所 頻 要	「	(シッタかの液素化) 塩 氏 -200 (シッタかの液素化) 塩 氏 -200 (シッタの液素化) 塩 氏 -200 (シッタの液素化) 塩 氏 -200 (シッタの液素化) 塩 氏 -200 (シッタの液素化) 塩 氏 -200 (田田本の水の水の液の液形を重視に下 -200 (田田本の水の水の液の液形を重視に下 -200 (田田本の水の水の液の液形を重視に下 -200 (田田本の水の水の液の液形を重視に下 -200 -200 -200 -200 -200	3 2 影影を記し、	3 2 点機能報に	技元 つの 上表が正常に	1	1.00	1	1		床版				に1ヶ所測定。	•		床版		幅 w	0~+30	に1ヶ所測定。	1	
3 2 16 3 3 液素が運転工 平均値 計削値 次元計機技術を用いた出来形管理要類(第) 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	定 箇 所	編 章 節 条 枝書 工 種 測 定 項 目 規格 値 測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要 編 章 節 条 枝書 工 種 測 定 項 目 規格 値 1.3次デースに公出来等管理において3 3 2 16 3 3 浅電船運転工	編 章 節 条 枝書 工 種 測 定 項 目 規格 値 1 3 次元デールに公出来管理において3 次元が出来管理において3 次元が出来管理において3 次元が出来管理において3 次元が出来管理において3 次元が出来管理において3 次元が出来管理において3 次元が出来管理において3 次元が出来管理を第二次に2 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元	2	(シッケの大変報) 1.00	3 2 原数を単型に	本の	選手	1	1	1	1					## W 0 ~±30		1		1 7				いっぱークテビは、土田田正生もつ (1(人の。)	391	
3 2 16 3 3 液素能速転工 平均値 計測値 次元計測技術を用いた出来形容理要類(第) 1 1 2 2 次版工 基準高 ▽ ±20	定 箇 所 摘 要 編 章 故 本 技事 工 種 測 定 項 目 規 格 値 別 元 項 目 規 格 値 別 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要 日 2 また	■ 京 節 章 校舎 工 種 測 定 項 目 規 格 値 測 定 高 序 摘 要 顧 京 節 方 換 受 放 工 種 測 定 項 目 規 格 値 別 定 高 序 摘 要	編 東 僚 章 快参 工 種 満 定 項 目 規 格 僚	選手 200 C552 200 C55	(イックかの皮質型) 注 点 200 注意	1	第三	本語	1	日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日	日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本	日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本		I				(休飯の序さは、至仲侯直をもつててんる。)		J						_ =	
3 2 16 3 3 液素筋速転工 平均値 計測値 次元計機技術を用いた出来形容理要類(第) 1 1 2 2 次数 工 支 工 支 工 支 工 支 工 支 工 支 工 支 工 支 工 支 工	定 箇 所	展 章 海 条 枝部 工 様 海 定 項 目 現 係 値 工 様 海 定 項 目 現 係 値 工 様 海 定 項 目 現 係 値 工 様 海 定 項 目 現 係 値 工 様 海 定 項 目 現 係 値 工 様 海 定 項 目 現 係 値 工 様 海 定 項 目 現 係 値 工 様 海 定 項 目 現 係 値 工 様 海 定 項 目 現 係 値 工 様 海 定 項 目 現 係 値 工 様 海 定 項 目 現 係 値 工 様 海 定 項 目 現 係 値 工 様 海 定 項 目 現 係 値 工 様 海 定 項 目 規 係 値 工 様 海 定 項 目 規 係 値 工 様 海 定 項 目 規 係 値 工 様 海 定 項 目 規 係 値 工 様 海 定 項 目 規 係 値 工 様 海 定 項 目 規 係 値 工 様 海 定 項 目 規 係 値 工 様 海 定 項 目 規 係 値 工 様 海 定 項 目 規 係 値 工 様 海 定 項 目 規 係 値 工 様 海 定 項 目 規 係 値 工 中 版 音 度 で は に は に は に は に は に は に は に は に は に は	 編 章 散 章 牧野 工 種	株 兵	(トラカの皮養型) 10	2 1 1 1 1 1 1 1 1 1	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	株式 1-20	日本の	日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本	1	1		Ĩ									厚さ t	-10 ~+20		-0-0-0-0	
3 2 16 3 3 液素溶液を工 平均値 計割値 (大計・部分管理を製造(金)) (大力・中央・砂点 計割値 (大力・中央・砂点 計割値 (大力・計画技術を用いた出来形容理を製造(金)) (大力・中央・砂点 本語に現ますら消費のように関する。	定 箇 所	展 東 海 条 枝部 工 様 測 定 項 目 規格 値 測 定 基 準 測 定 函 所 頻 要 編 東 海 条 枝部 工 様 測 定 項 目 規格 値 測 定 基 準 測 定 函 所 頻 要 編 東 海 条 枝部 工 様 測 定 項 目 規格 値 1.38元デーが12.50出来管理は12.37で3 大き計解状態が12.37で3 大き計解状態が12.37で3 大き計解状態が12.37で3 大き計解状態が12.37で3 大き計解状態が12.37で3 大き計解状態が12.37で3 大き計解状態が12.37で3 大きが成 計解	編 章 声 章 技書 工 種	第 日	(シェランの発酵型 1.00	1	2 2 (成形を打工 上海内 マ -2000 1 1 1 1 1 1 1 1 1	対象	1	19	1	1		Ĩ			厚さ t -10~+20	1径間当たり3断面(両端及び中央)測定。	_						1径間当たり3断面(両端及び中央)測定。 1断面の測定箇所は断面変化毎1ヶ所レする.	00000	
3 2 16 2 16 2 16 2 16 2 16 2 17 2 17	定 箇 所	東京 東京 東京 東京 東京 東京 東京 東京	編 章 2 章 表 技術 工 様 第 定 項 目 現 格 慎	「日本 10 10 10 10 10 10 10 1	10	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日	型点	日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本	1	日本	1		Ĭ			厚さ t -10 ~+20 鉄筋のかぶり 設計値以上	1径間当たり3断面(両端及び中央)測定。	_				鉄筋のかぶり	設計值以上	1径間当たり3断面(両端及び中央)測定。 1断面の測定箇所は断面変化毎1ヶ所とする。	0-0-0-0	
3 2 16 3 3 表際報源報工	定 箇 所	編 東 前 美 技術 工 種 前 定 項 目 規格 館 前 定 第 年 前 定 前 所		東京 1 1 1 1 1 1 1 1 1	(シッチの連接的 第 日		2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	日本の	日本の	日本の日本 1.00mm	日本 1.00	1 1 2 2 2 2 2 2 2 2		Ĭ			厚さ t -10 ~+20 鉄筋のかぶり 設計値以上	1径間当たり3所面(両端及び中央)測定。 1断面の測定箇所は断面変化毎1ヶ所とする。					鉄筋のかぶり	設計值以上	1断面の測定箇所は断面変化毎1ヶ所とする。	• • • • • • • •	
3 2 16 3 3 表際無限年	定 箇 所	編	■ 報 型 型 を 性態 工 様 別 定 項 日 別 長 版 第 工 様 別 定 項 日 別 長 版 第 工 様 別 定 項 日 別 長 版 第 工 様 別 定 項 日 別 長 版 第 工 様 別 定 項 日 別 長 版 第 工 様 別 定 項 日 別 長 版 第 工 様 別 定 項 日 別 長 版 第 工 様 別 定 項 日 別 長 版 第 工 様 別 定 項 日 別 長 版 第 工 様 別 定 項 日 別 長 版 第 工 様 別 定 項 日 別 長 版 第 工 様 別 定 項 日 別 長 版 第 工 様 別 定 項 日 別 に 30天元一学に26は服務を指摘が1ついます。 1 2 1 2 1 2 2 2 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	現 日 10 10 10 10 10 10 10	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	日本の	日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本	1	1	Part		Ĩ			厚さ t -10~+20 鉄筋のかぶり 設計値以上 鉄筋の有効高さ ±10	1径開当たり3附亩(両端及び中央) 測定。 1所亩の測定箇所は断亩変化布1ヶ所とする。 1径開当たり3ヶ所(両端及び中央) 測定。 1を開当たり3ヶ所(両端及び中央) 測定。 1ヶ所の測定は、接触力抑の段結は全数、機					鉄筋のかぶり 鉄筋の有効高さ	設計値以上 ±10	1断面の測定箇所は断面変化毎1ヶ所とする。 1径間当たり3ヶ所(両端及び中央)測定。 1ヶ所の測定は、揺輪方向の鉄筋は全数、揺輪	ě	
3 2 16 3 3 表演系画像医工	定 箇 所	編 東 南 中	 編 章 知 巻 快書 工 稿 別 定 項 日	第一章	「	1	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	日本 19	1	日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本	1	日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本		Ĩ			厚さ t -10 ~+20 鉄筋のかぶり 設計値以上 鉄筋の有効高さ ±10 鉄筋関隔 ±20 上記 鉄筋関係	1径間当たり3所面(両端及び中央)割定。 1所面の制定箇所に新面変化毎1ヶ所とする。 1径間当たり3ヶ所(両端及び中央)割定。 場合力の制定は、橋軸力側の鉄筋は全盤、橋 高角力削の鉄筋は加下板外底に四の範囲を					鉄筋のかぶり 鉄筋の有効高さ 鉄筋間隔	設計値以上 ±10 ±20	1断面の測定箇所は断面変化毎1ヶ所とする。 1径間当たり3ヶ所(両端及び中央)測定。 1ヶ所の測定は、橋軸方向の鉄筋は全数、橋軸 流角方向の鉄筋は加工形状毎に2mの範囲を	ě	
3 2 16 3 3 淡熱の運転工	定 箇 所	編 東 南 中	 編 章 知 巻 快書 工 稿 別 定 項 日	第一章	「	1	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	日本 19	1	日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本	1	日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本		Ĩ			厚さ t -10 ~+20 鉄筋のかぶり 設計値以上 鉄筋の有効高さ ±10 鉄筋関隔 ±20 上記 鉄筋関係	1径間当たり3所面(両端及び中央)割定。 1所面の制定箇所に新面変化毎1ヶ所とする。 1径間当たり3ヶ所(両端及び中央)割定。 場合力の制定は、橋軸力側の鉄筋は全盤、橋 高角力削の鉄筋は加下板外底に四の範囲を					鉄筋のかぶり 鉄筋の有効高さ 鉄筋関隔 [上記、鉄筋の有効	設計値以上 ±10 ±20	1断面の測定箇所は断面変化毎1ヶ所とする。 1径間当たり3ヶ所(両端及び中央)測定。 1ヶ所の測定は、橋軸方向の鉄筋は全数、橋軸 流角方向の鉄筋は加工形状毎に2mの範囲を	ě	
3 2 16 3 3 表演系画像医工	定 箇 所	編 東 南 中	 編 章 知 巻 快書 工 稿 別 定 項 日	第一章	「	1	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	日本 19	1	日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本	1	日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本		Ī			厚さ t -10 ~+20 鉄筋のかぶり 設計値以上 鉄筋の有効高さ ±10 鉄筋関隔 ±20 上記 鉄筋関係	1径間当たり3所面(両端及び中央)割定。 1所面の制定箇所に新面変化毎1ヶ所とする。 1径間当たり3ヶ所(両端及び中央)割定。 場合力の制定は、橋軸力側の鉄筋は全盤、橋 高角力削の鉄筋は加下板外底に四の範囲を					鉄筋のかぶり 鉄筋の有効高さ 鉄筋関隔 [上記、鉄筋の有効	設計値以上 ±10 ±20	1断面の測定箇所は断面変化毎1ヶ所とする。 1径間当たり3ヶ所(両端及び中央)測定。 1ヶ所の測定は、橋軸方向の鉄筋は全数、橋軸 流角方向の鉄筋は加工形状毎に2mの範囲を	ě	
3 2 16 3 3 表象系統を主	定 箇 所 構 要	編 東 南 中	編 章 知 章 技術 工 稿 別 定 項 日	展 章 30	10	1	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	日本 19	1	日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本	1	1 日本 1 日本		Ï			厚さ t -10 ~+20 鉄筋のかぶり 設計値以上 鉄筋の有効高さ ±10 鉄筋関隔 ±20 上記 鉄筋関係	1径間当たり3所面(両端及び中央)割定。 1所面の制定箇所に新面変化毎1ヶ所とする。 1径間当たり3ヶ所(両端及び中央)割定。 場合力の制定は、橋軸力側の鉄筋は全盤、橋 高角力削の鉄筋は加下板外底に四の範囲を					鉄筋のかぶり 鉄筋の有効高さ 鉄筋関隔 [上記、鉄筋の有効	設計値以上 ±10 ±20	1断面の測定箇所は断面変化毎1ヶ所とする。 1径間当たり3ヶ所(両端及び中央)測定。 1ヶ所の測定は、橋軸方向の鉄筋は全数、橋軸 流角方向の鉄筋は加工形状毎に2mの範囲を	ě	
3 2 16 3 3 表象系統を主	定 箇 所 構 要	編 東 南 中	編 章 知 章 技術 工 稿 別 定 項 日	展 章 30	10	1	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	日本 19	1	日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本	1	1 日本 1 日本		Î			厚さ t -10 ~+20 鉄筋のかぶり 設計値以上 鉄筋の有効高さ ±10 鉄筋関隔 ±20 上記 鉄筋関係	1径間当たり3所面(両端及び中央)割定。 1所面の制定箇所に新面変化毎1ヶ所とする。 1径間当たり3ヶ所(両端及び中央)割定。 場合力の制定は、橋軸力側の鉄筋は全盤、橋 高角力削の鉄筋は加下板外底に四の範囲を					鉄筋のかぶり 鉄筋の有効高さ 鉄筋関隔 [上記、鉄筋の有効	設計値以上 ±10 ±20	1断面の測定箇所は断面変化毎1ヶ所とする。 1径間当たり3ヶ所(両端及び中央)測定。 1ヶ所の測定は、橋軸方向の鉄筋は全数、橋軸 流角方向の鉄筋は加工形状毎に2mの範囲を	ě	
3 2 16 3 3 表象部級を工	定 箇 所	編 東 南 中	 編 章 知 巻 快書 工 稿 別 定 項 日	第一章	「	1	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	日本 19	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本	1	日本の		Î			厚さ t -10 ~+20 鉄筋のかぶり 設計値以上 鉄筋の有効高さ ±10 鉄筋関隔 ±20 上記 鉄筋関係	1径間当たり3所面(両端及び中央)割定。 1所面の制定箇所に新面変化毎1ヶ所とする。 1径間当たり3ヶ所(両端及び中央)割定。 場合力の制定は、橋軸力側の鉄筋は全盤、橋 高角力削の鉄筋は加下板外底に四の範囲を					鉄筋のかぶり 鉄筋の有効高さ 鉄筋関隔 [上記、鉄筋の有効	設計値以上 ±10 ±20	1断面の測定箇所は断面変化毎1ヶ所とする。 1径間当たり3ヶ所(両端及び中央)測定。 1ヶ所の測定は、橋軸方向の鉄筋は全数、橋軸 流角方向の鉄筋は加工形状毎に2mの範囲を	ě	
大き 大き 大き 大き 大き 大き 大き 大き	本	大き 大き 大き 大き 大き 大き 大き 大き		大	# 1,000ps -1,200~+200 であるこ 本	大	大 連 画 画 1,000ps	# 注	英土 共 通 基準 1,000ps -1,200~+200 であるこ 事業 工 通 ボ デ 250ps -800~+200 マランスのの・200 マランスのの・200 マランスのの・200 マランスのの・200 スペートのの・200 マランスのの・200 マランスのの・200 マランスのの・200 スペートのの・200 マランスのの・200 マランスのの・200 マランスのの・200 マランスのの・200 マランスのの・200 マランスのの・200 マランスのの・200 マランスのの・200 マランスのの・200 マランスのの・200 マランスのの・200 マランスのののできることのできることのできることのできることのできることのであることのできることの	# 世	**		木般工施	漢工		(ボンブ浚渫船)	気 500ps −1,000~+200 船	も加える。 ただし、各測定値の平均値の設計基準高以下			工 施 工	ンプ液藻船)	気 500ps 船	-1,000~+200	も加える。 ただし、各測定値の平均値の設計基準高以下) ¥	
工 東 井 正 東 井 瀬 本 1,000ps -1,200~+200 であるこ	ボー 大元 (、各商定領の平均領の設計基準高以下 大元 (、名商定領の平均領の設計基準高以下 であるこ ボー 共通 通報 ボー 大元 (、各商定領の平均領の設計基準高以下 であるこ ボー マカム	工 第 工 共 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元		工	工 施 工 共 通	工 施 工 東	工 施 工 共 法	工 施 工 共 元だし、各側定値の平均値の設計基準系以下 マカムニ	工 施 工 共 工 共 通	工 施 工 海 工 施 工 東 工 集	工 施 工	工 節 上たに、各側を値の平均値の設計基準高以下 マ 「 工 節 上たに、各側を値の平均値の設計基準高以下 マ	± -	浚			電	横断方向は、5m毎。 また、斜面は法尻、法肩とし必要に応じ中間点							ルー 横断方向は、5m毎。 また、斜面は法尻、法肩とし必要に応じ中間点		
大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大	上 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元	土 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元	土 大 表 第 工 工 共 表 第 工 工 共 表 第	士	大大 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元	本表	大 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元	土	本	土 一 凌 横断方向は、5m/6。 横断方向は、5m/6。 横断方向は、5m/6。 大 俊 濱	大会 大会 大会 大会 大会 大会 大会 大会	世	3 2	16	3 1	滂渫铅運転干	200ns -800~+200	延長方向は、設計図書により指定された測点			3 2 16 3 1 凌漢	事船運転工	200ns	-800~+200	延長方向は、設計図書により指定された測点		
3 2 16 3 1 表表形運転工	2 16 3 1 凌漢船運転工 200ps -800~+200 4 4 4 4 5 4 4 4 5 4 4	3 2 16 3 1 液液溶液配工	3 1 表現的運転工	3 2 16 3 1 表示能運転工	3 2 16 3 1 液液物液転工 (ボンブ液液剤) 200ps -800~+200 (最近方向は、設計設書にお用定された商点 (無方向は、五面に ない (ボンブ液液剤) (ボンブ液液液剤) (ボンブ液液液剤) (ボンブ液液液剤) (ボンブ液液液剤) (ボンブ液液液剤) (ボンブ液液液剤) (ボンブ液液剤) (ボンブ液液液剤) (ボンブ液液剤) (ボンブ液液液剤) (ボンブ液液剤) (ボンブ液液剤) (ボンブ液液剤) (ボンブ液液剤) (ボンブ液液剤) (ボンブ液液剤) (ボンブ液液液剤) (ボンブ液液液剤) (ボンブ液液液剤) (ボンブ液液液剤) (ボンブ液液液剤) (ボンブ液液液剤) (ボンブ液液液液液液液液液液液液液液液液液液液液液液液液液液液液液液液液液液液液	3 2 16 3 1 浸漉粉運転工 200ps -800~+200 転分削は、設計図書により指定された測点 機断が向は、500年 土 一 決 洗 加 差 工	3 2 16 3 1 淡漢新運転工	3 2 16 3 1 液液粉運転工 200ps -800~+200 接長方向は、設計図書により指定された側点 機断が向は、5mG。 大部に上の指定とれた側点 機断が向は、5mG。 大部に上の器ではむしや瞬にもに中間点 も加える。 たたし、各部定値の平均値の設計基準高以下 であるこ 3 2 16 3 1 液液粉運転工 200ps -800~+200 接長方向は、設計図書により指定された側点 機断が向は、5mG。 ただし、各部定値の平均値の設計基準高以下 であるこ 3 2 16 3 1 液液粉運転工 1 次次 表 表 で も の の の の の の の の と の と の と の と の と の と	3 2 16 3 1 浸漉粉運転工 200ps -800~+200 振子方向は、設計図書により指定された側点 機断方向は、50mに ・無所方向は、50mに ・大型 洗 ・上 一 浸 ・板 が が であるこ 1 2 16 3 1 浸漉粉運転工 200ps -800~+200 振子方向は、設計図書により指定された側点 ・機断方向は、50mに ・土 一 浸漉粉が方は、50mに ・土 一 浸漉粉が方は、50mに ・たた、各側定値の平均値の設計基準高以下 であるこ 2 200ps -800~+200 近天力のに、設計図書により指定された側点 ・機断方向は、50mに ・土 一 浸漉粉がらは、50mに ・土 一 浸漉粉がらは、50mに ・土 一 浸漉粉がらは、50mに ・たた、各側定値の平均値の設計基準高以下 であるこ 3 2 16 3 1 浸漉粉運転工 ・ 上 一 浸漉粉がらは、50mに ・土 一 浸漉粉がらは、50mに ・土 一 浸漉粉がらは、50mに ・土 一 浸漉粉がらは、50mに ・たた、各側定値の平均値の設計基準高以下 であるこ 2 200ps -800~+200 500ps -1,000~+200 3 2 1 2 液形がらは、50mに ・ 上 一 浸漉粉がらは、50mに ・ 本 脱漉 ・ 本 脱漉 ・ 本 脱漉 ・ た た 人 各側定値の平均値の設計基準高以下 であるこ 本 別 ・ であるこ 本 別 ・ であるこ 1,000ps -1,200~+200 であるこ	3 2 16 3 1 没漢称運転工 200ps -800~+200 経長方向は、設計図書により指定された測点 (ボンブ浚連称) - 200ps -800~+200 経氏方向は、設計図書により指定された測点 (ボンブ浚連称) - 200ps -800~+200 経氏方向は (ボンブ浚連称) - 200ps -800~+200 経氏方向は (ボンブネーム方向は (ボンブ浚連称) - 200ps -800~+200 経氏方向は (ボンブネーム方向は (ボンブネーム方向は (ボンブネーム方向は (ボンブネーム方向は (ボンブネーム方向は (ボンブネーム方向は (ボンブネーム方向は (3 2 16 3 1 没種船運転工 200ps -800~+200 経長方向は、設計陽響により指定された商品 検筋方向は、5m6 土 一 浸 木 穀 濱 T 工 塩 (ボンブ液薄紙) 3 2 16 3 1 没種船運転工 200ps -800~+200 経長方向は、設計陽響により指定された商品 検筋方向は、5m6 土 一 浸 木 穀 濱 T エ 塩 土 一 浸 木 穀 濱 T エ 韭 土 一 浸 木 穀 濱 T 工 塩 土 一 浸 木 穀 濱 T 工 塩 土 一 浸 木 穀 濱 T 工 塩 大 穀 濱 T 工 塩 (ボンブ淡薄紙) 大 穀 濱 下 工 塩 大 之 人 木 穀 濱 下 工 塩 大 之 人 木 シ 園 下 工 塩 大 之 人 木 之 人 木 会 副定値の平均値の設計基準高以下 下 る と こ エ 上 一 え 上 た 人 ・ 本 之 工 上 土 里 土 里 土 里 土 里 土 里 土 里 土 里 土 里 土 里 土	3 2 16 3 1 液液能運転工 200ps -800~+200 毎長方向は、設計優審により指定された測点 機断方向は、50mp 土 一 凌 木 穀 漆 工 垣 工 (ボンブ淡凍船) 3 2 16 3 1 淡凍船運転工 200ps -800~+200 毎長方向は、設計優審により指定された測点 機断方向は、50mp 土 一 淡 水 穀 漆 工 垣 工 (ボンブ淡凍船) 500ps -1,000~+200 点が表の もかえる。 ただし、各部定値の平均値の設計基準高以下 2 16 3 1 淡凍船運転工 200ps -800~+200 毎日かけに、50mp 土 一 淡 水 松 漆 大 大 松 漆 大 大 人 各部定値の平均値の設計基準高以下 工 塩 工 工 塩 工 工 塩 工 塩 工 塩 工 工 塩 工 2 500ps -1,000~+200 もかえる。 もかえる。 ただし、各部定値の平均値の設計基準高以下 2 1		筋	条 枝番	: 工 種	測定項目規格值	測定基準	測定簡所	摘 要	編章筋条枝番	工 種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測定箇所	摘 要